

ひがし は ざ ま
東狭間遺跡

— 緊急避難塔整備に伴う試掘調査報告書 —

2021.3

香南市教育委員会

序

高知県香南市は豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古くから先人たちが歴史を創ってきた地域です。

東狭間遺跡のある吉川町は物部川河口東岸に位置しています。太平洋に面して田園地帯が広がり、鰻やラッキョウなどの特産品が知られています。吉川から東の赤岡、岸本、夜須へ続く砂丘上には街道が延び、集落を営んできました。

この美しい海岸線には、南海地震のたびに繰り返される津波被害の記憶が刻まれています。野市町上岡、香我美町岸本、夜須町坪井には、江戸時代安政南海地震の津波の記録が刻まれた石碑が遺されており、土佐湾に面した自治体にとって南海地震対策、とりわけ津波に対する備えは喫緊の課題となっています。

平成23年3月11日の東日本大震災を機に、香南市では近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えて津波避難タワーの建設に取り組んできました。また市が実施する避難施設以外にも、農村地域の防災・減災対策として早急に避難場所を確保する必要があり、今回の調査のきっかけとなった吉川町大八幡宮東側の津波避難タワー建設は、高知県の整備計画によるものです。

東狭間遺跡は、津波避難タワー建設に伴う事前の試掘調査で新たに確認された遺跡です。建設予定地には弥生時代終り頃の集落跡や奈良時代の建物跡などが発見され、吉川町吉原地区の歴史に新しく貴重な成果を得ることができました。本書は香南市の歴史を広く知って頂くとともに、埋蔵文化財に対する一層のご理解を願って刊行するものです。地域の歴史を考える資料として活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力頂きました吉川町吉原地区の地元の皆様、高知県中央東農業振興センター、高知県教育委員会をはじめとする関係諸機関および関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

香南市教育委員会
教育長 入野 博

例 言

1. 本書は、高知県が平成 28・29 年度に実施した香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔建設工事に伴う、試掘調査報告書である。
2. 調査対象地は、高知県香南市吉川町吉原字東挟^(※)間 1984 番地 1、1985 番地に所在する。
3. 試掘調査は、香南市教育委員会 生涯学習課 文化振興保護係(香南市文化財センター)が主体となって平成 29 年 3 月 17 日～5 月 2 日に実施し、一部は本発掘調査時に精査した。
4. 調査対象面積 約 1,540 m² 試掘調査面積 約 170 m²
5. 試掘調査時(平成 28・29 年度)の調査体制は以下の通りである。

事務担当	寺内 より子	香南市教育委員会 生涯学習課 文化振興保護係 係長
〃	松村 信博	〃 〃 〃 主監調査員
調査担当	宮地 啓介	〃 〃 〃 埋蔵文化財調査員
6. 報告書刊行時(令和 2 年度)の香南市教育委員会 生涯学習課 文化振興保護係の体制は以下の通りである。

課 長	猪原 加江	埋蔵文化財調査員	松井 喬行	宮地 啓介	
係 長	竹中 ちか	整理作業員	齋藤 美幸	高橋 由香	高橋 加奈
再任用主査	澤田 秀幸		藤原 ゆみ	山崎 佐世	依光 美佐子
主査調査員	横山 藍	補助員	松田 克純	神澤 朱里	/ 会計年度職員
7. 本書の編集・執筆は宮地が行った。
8. 本報告書中で使用する方位は真北(方眼北)を基準とし、公共座標は世界測地形第Ⅳ系に拠った。掲載した地形図等は、特に表示のない場合は上方が北である。
9. 試掘箇所の調査に際しては下記の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略)
[現場作業員] 川村正廣 植田秀夫 大野久雄
(宗圓良一 溝渕進一郎 金田 稔 依光 諒 宮本幸子)
10. [重機オペレーター] 清藤勝秀
[機械・器具] (株) 東部レントオール 香南営業所 (株) ジツタ 高知支店

遺物整理・報告書作成等に際しては下記の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略)

藤原ゆみ 齋藤美幸 高橋由香 高橋加奈 土居初子 宮本幸子 松木富子 山崎佐世
吉本由佳 依光美佐子

11. 遺構の略号は、S T (竪穴住居状遺構)・S B (掘立柱建物跡)・S K (土坑状遺構)・S X (性格不明遺構)・P (ピット状遺構)等と表記し、本報告書において包括的な総称として用いている。
12. 掲載した遺物実測図は便宜上既刊の本発掘調査報告書からの通し番号で表示し、挿図・写真図版とも同一番号を使用している。出土遺物は「16 - 15 H G」(平成 28 年度)、「17 - 1 H G」(平成 29 年度)及び「17 - 4 H G」(本発掘調査)と注記し、仮番号を付して関連図面・写真と共に香南市文化財センターで保管している。
13. 調査に当たっては高知県中央東農業振興センター(基盤整備課)の協力を得た。また地元住民の方々には埋蔵文化財保護に対する御理解と御協力を頂き、厚く感謝の意を表したい。
14. 本報告書作成に際して、吉成承三氏、池澤俊幸氏、久家隆芳氏(公益財団法人 高知県文化財団 高知県立埋蔵文化財センター)、宮里 修氏(高知大学人文社会科学部准教授)、松村信博氏、藤方正治氏ら諸氏に貴重な御教示・御助言を頂いた。記して謝意を表する次第である。

※ 登記簿に記載(登録)されている本地番における表記である。通常の当該字名は「狭」の文字を使用しており、本遺跡の名称もこれに倣っている。

本文目次

第Ⅰ章	調査の経緯	
第1節	調査の経緯	1
第2節	調査対象地の概要	3
第Ⅱ章	香南市域の地理・歴史的環境	
第1節	地理的環境	5
第2節	歴史的環境	6
第Ⅲ章	調査の成果	
第1節	調査の方法	11
第2節	試掘坑検出の遺構と遺物	14
第3節	小括	79

挿図目次

第1図	香南市及び東狭間遺跡位置図	1
第2図	香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔整備工事図面	2
第3図	東狭間遺跡包蔵地範囲及び調査対象地位置図 (S=1/5,000)	3
第4図	東狭間遺跡周辺の主な遺跡及び地形分類図 (S=1/45,000)	7
第5図	調査区位置及び公共座標 (S=1/500)	11
第6図	遺構配置図 (S=1/180)	13
第7図	調査対象地 表採遺物実測図 (S=1/3)	14
第8図	TR 1 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)	15
第9図	TR 2 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)	16
第10図	TR 3 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)	16
第11図	TR 4 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)	17
第12図	TR 5 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)	18
第13図	TR 6 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)	20
第14図	SD 1 出土遺物実測図 (S=1/3)	21
第15図	P 211 遺構平面図・断面図 (S=1/40) 出土遺物実測図 (S=1/3)	21

第16図	TR 7	遺構平面図・土層断面図 (S=1/80)	出土遺物実測図 (S=1/3)	22
第17図	ST 1	上面遺構平面図・断面図 (S=1/50)	出土遺物実測図 (S=1/3)	23
第18図	ST 1	遺構平面図・土層断面図 (S=1/50)		25
第19図	ST 1	礫群検出状態図・断面図 (S=1/60)		26
第20図	ST 1	出土遺物分布図 (S=1/40)		27
第21図	ST 1	出土遺物分布図：南半 (S=1/10・20)		29
第22図	ST 1	出土遺物分布図：北半 (S=1/10・20)		31
第23図	ST 1	出土遺物分布図：東半 (S=1/10・20)		33
第24図	ST 1	出土遺物分布図：西半 (S=1/10・20)		35
第25図	ST 1	出土遺物実測図 1 (S=1/3)		37
第26図	ST 1	出土遺物実測図 2 (S=1/3)		38
第27図	ST 1	出土遺物実測図 3 (S=1/3)		39
第28図	ST 1	出土遺物実測図 4 (S=1/3)		40
第29図	ST 1	出土遺物実測図 5 (S=1/3)		41
第30図	ST 1	出土遺物実測図 6 (S=1/3)		42
第31図	ST 1	出土遺物実測図 7 (S=1/3)		43
第32図	ST 1	出土遺物実測図 8 (S=1/3)		44
第33図	ST 1	出土遺物実測図 9 (S=1/3)		45
第34図	ST 1	出土遺物実測図 10 (S=1/3)		46
第35図	ST 1	出土遺物実測図 11 (S=1/3)		47
第36図	ST 1	出土遺物実測図 12 (S=1/3)		48
第37図	ST 1	出土遺物実測図 13 (S=1/3)		49
第38図	ST 1	出土遺物実測図 14 (S=1/3)		50
第39図	ST 1	出土遺物実測図 15 (S=1/3)		51
第40図	ST 1	出土遺物実測図 16 (S=1/3)		52
第41図	ST 1	出土遺物実測図 17 (S=1/3)		53
第42図	ST 1	出土遺物実測図 18 (S=1/3)		54
第43図	ST 1	出土遺物実測図 19 (S=1/3)		55
第44図	ST 1	出土遺物実測図 20 (S=1/3)		56
第45図	ST 1	出土遺物実測図 21 (S=1/3)		57
第46図	ST 1	出土遺物実測図 22 (S=1/3)		58
第47図	ST 1	出土遺物実測図 23 (S=1/3)		59
第48図	ST 1	出土遺物実測図 24 (S=1/3)		60

第49図	ST 1	出土遺物実測図 25 (S=1/3)	61
第50図	ST 1	出土遺物実測図 26 (S=1/3)	62
第51図	ST 1	出土遺物実測図 27 (S=1/3)	63
第52図	ST 1	出土遺物実測図 28 (S=1/3・1/4)	64
第53図	ST 1	出土遺物実測図 29 (S=1/3)	65
第54図	ST 1	出土遺物実測図 30 (S=1/3)	66
第55図	ST 1	出土遺物実測図 31 (S=1/3)	67
第56図	ST 1	出土遺物実測図 32 (S=1/3)	68
第57図	ST 1	出土遺物実測図 33 (S=1/3)	69
第58図	ST 1	出土遺物実測図 34 (S=1/3)	70
第59図	ST 1	出土遺物実測図 35 (S=1/3)	71
第60図	ST 1	出土遺物実測図 36 (S=1/3)	72
第61図	ST 1	出土遺物実測図 37 (S=1/3)	73
第62図	ST 1	出土遺物実測図 38 (S=1/3)	74
第63図	ST 1	中央土坑 遺構平面図・他 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	75
第64図	ST 1	P 2 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	76
第65図	ST 1	P 4 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	77
第66図	ST 1	P 9 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)	78
第67図	ST 1	Pit 状遺構 出土遺物実測図 (S=1/3)	78
第68図	ST 1	土坑状遺構 出土遺物実測図 (S=1/3)	78
第69図	ST 1	出土遺物一括資料 (S=1/6)	79
第70図	ST 1	出土遺物資料 (S=1/6・1/9) 組成比率 (壺・甕・鉢・高坏・支脚形土器)	80

表目次

第 1 表	TR 3	ピット状遺構 計測表	17
第 2 表	TR 5	土坑・ピット状遺構 計測表	19
第 3 表	TR 6	ピット状遺構 計測表	21
第 4 表	ST 1	上面ピット状遺構 計測表	23
第 5 表	ST 1	主要ピット状遺構 計測表	25
第 6 表	ST 1	ピット状遺構 計測表	78
第 7 表	ST 1	土坑状遺構 計測表	78

第 8 表	遺物觀察表 1	83
第 9 表	遺物觀察表 2	84
第10表	遺物觀察表 3	85
第11表	遺物觀察表 4	86
第12表	遺物觀察表 5	87
第13表	遺物觀察表 6	88
第14表	遺物觀察表 7	89
第15表	遺物觀察表 8	90
第16表	遺物觀察表 9	91
第17表	遺物觀察表 10	92
第18表	遺物觀察表 11	93
第19表	遺物觀察表 12	94
第20表	遺物觀察表 13	95
第21表	遺物觀察表 14	96
第22表	遺物觀察表 15	97
第23表	遺物觀察表 16	98
第24表	遺物觀察表 17	99
第25表	遺物觀察表 18	100
第26表	遺物觀察表 19	101
第27表	遺物觀察表 20	102
第28表	遺物觀察表 21	103
第29表	遺物觀察表 22	104
第30表	遺物觀察表 23	105
第31表	遺物觀察表 24	106
第32表	遺物觀察表 25	107
第33表	遺物觀察表 26	108

写真図版目次

- 図版 1 調査対象地
- 図版 2 TR 1 / TR 2 / TR 3
- 図版 3 TR 4
- 図版 4 TR 5
- 図版 5 TR 6
- 図版 6 TR 6 / TR 7
- 図版 7 TR 7
- 図版 8 TR 7
- 図版 9 TR 7
- 図版 10 ST 1 遺物出土状態 (壺形土器)
- 図版 11 ST 1 遺物出土状態 (甕形土器)
- 図版 12 ST 1 遺物出土状態 (甕形土器)
- 図版 13 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 14 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 15 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 16 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 17 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 18 ST 1 遺物出土状態 (鉢形土器)
- 図版 19 ST 1 遺物出土状態 (高坏形土器)
- 図版 20 ST 1 遺物出土状態 (支脚形土器)
- 図版 21 ST 1 遺物出土状態 (礫石器) / 津波避難タワー
- 図版 22 調査日誌抄 3月17日～3月24日
- 図版 23 調査日誌抄 3月27日～3月30日
- 図版 24 調査日誌抄 4月3日～4月13日
- 図版 25 調査日誌抄 4月14日～4月21日
- 図版 26 調査日誌抄 4月24日～4月28日
- 図版 27 調査日誌抄 5月1日～5月2日 / 現場写真1
- 図版 28 現場写真2

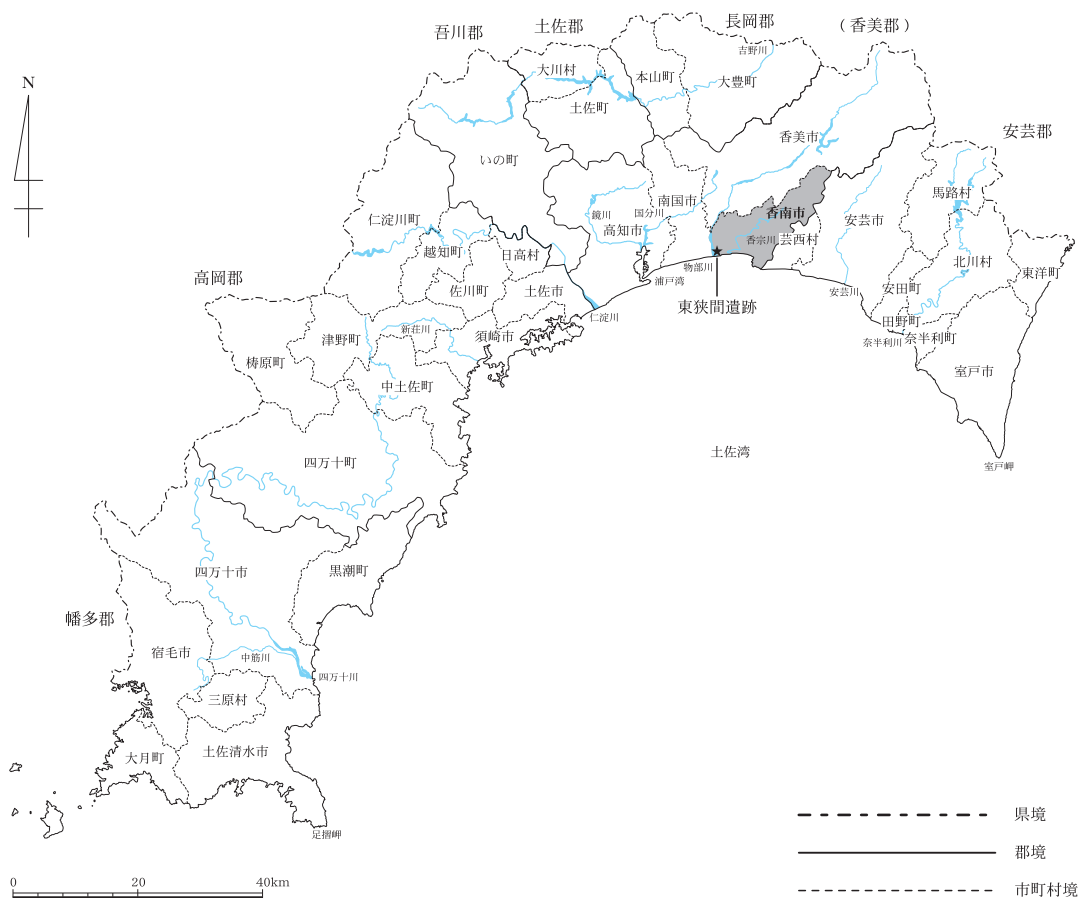
第 I 章 調査の経緯

第 1 節 調査の経緯

本調査は、高知県香南市吉川町吉原字東狭間に計画されている緊急避難塔建設工事に伴う、記録保存を視野に入れた試掘調査である。

香南市吉川町吉原字東狭間において、平成 29 年度に「香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔建設工事」が計画されている。本事業は県の防災対策事業の重点施策として、住民避難の安全性を図り、地域の防災・減災対策に資するものとした県営による農村防災施設整備事業である。事業対象地周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかったが、地理的・歴史的環境を鑑み、埋蔵文化財が遺存している可能性が考えられた。これに伴い、事前に事業計画区内の埋蔵文化財の有無を確認し、埋蔵文化財の保護と事業の円滑な調整を図ることを目的として、平成 28 年度に高知県中央東農業振興センター（基盤整備課）と協議を行い、市教育委員会（生涯学習課 文化振興保護係 / 香南市文化財センター）が主体となって試掘調査を実施した。

試掘調査は平成 29 年 3 月 17 日から同月 30 日（平成 28 年度）及び平成 29 年 4 月 3 日から 5 月 2 日（平成 29 年度）にかけて、調査対象面積約 1,540 m² の内約 170 m² を調査した。



第 1 図 香南市及び東狭間遺跡位置図

農村地域防災減災事業計画概要書(抜粋)

- 事業実施主体 高知県
- 事業の種類 農村防災施設整備事業
- 事業内容 農村防災施設整備事業(農村防災施設整備)
- 施設の種類 緊急避難路整備、緊急避難施設整備事業内容
- 主要工事 避難誘導標識、避難誘導灯、緊急避難塔(タワー)

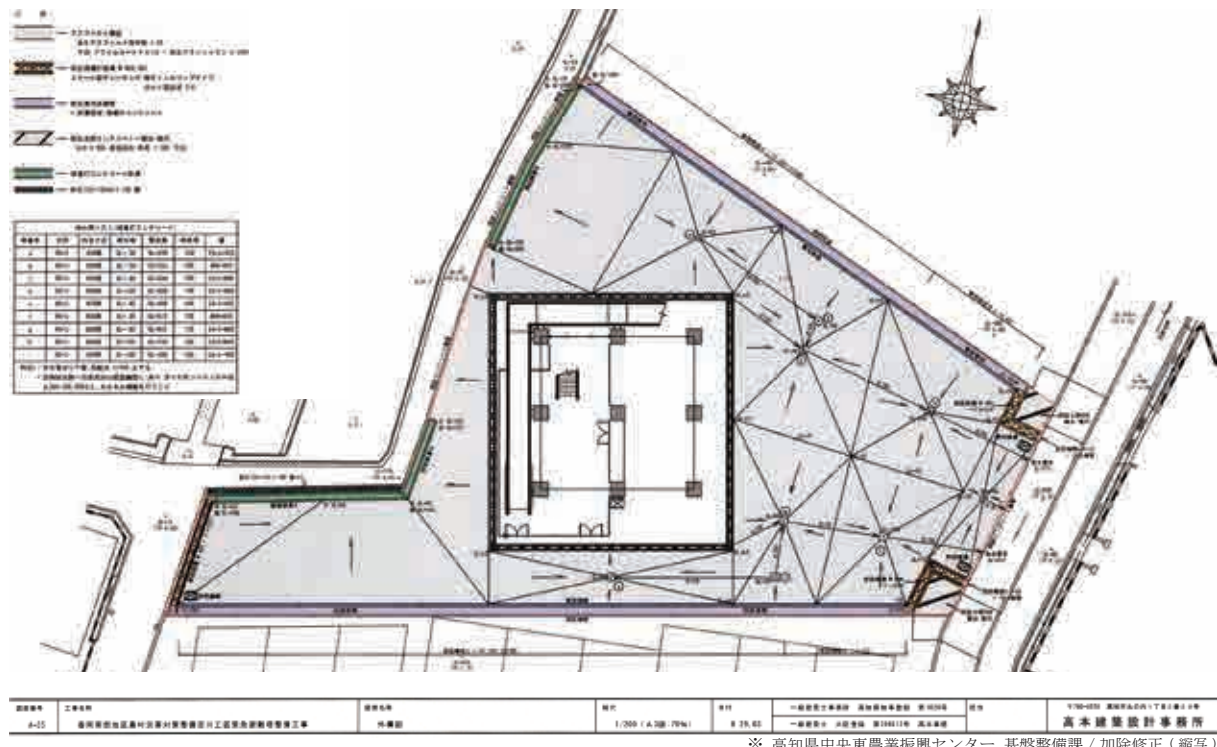
当該地域及び当該施設の特徴並びに事業の必要性

本地区は香南市南部、土佐湾に面した海岸線が12kmに広がる、東は手結山から西は物部川左岸域に開けた海拔5m程度と非常に低い場所に位置する農村地帯である。また、本地区の北側の内陸部には広大な水田地帯が広がっている。

本地区においては、近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震発生時には、避難場所として周辺に高台や避難場所がないため直接津波の被害を受けてしまう地域であるため住民の速やかな避難が重要課題となっている。

本地区では、平成24年12月10日に公表された「高知県版第2弾の津波浸水予測」により、津波浸水並びに津波浸水エリアが大幅に見直され、現行の指定避難場所である高台や津波避難ビルでは対応できない地域があり、そこで平成24年5月10日に公表された高知県版第1弾の津波浸水予想地域を対象にした地域ワークショップを開催し、住民自ら新たな避難場所や避難路、また要援護者対策等についての協議検討を行った結果、市が実施する避難施設以外にも、農村地域の防災・減災対策として早急に実施する必要があると思われる。

よって、地震発生後の津波から人命を守るためには、津波浸水区域からの安全で速やかな避難を可能とする必要があることから、本事業により早急な対策を講じる必要がある。



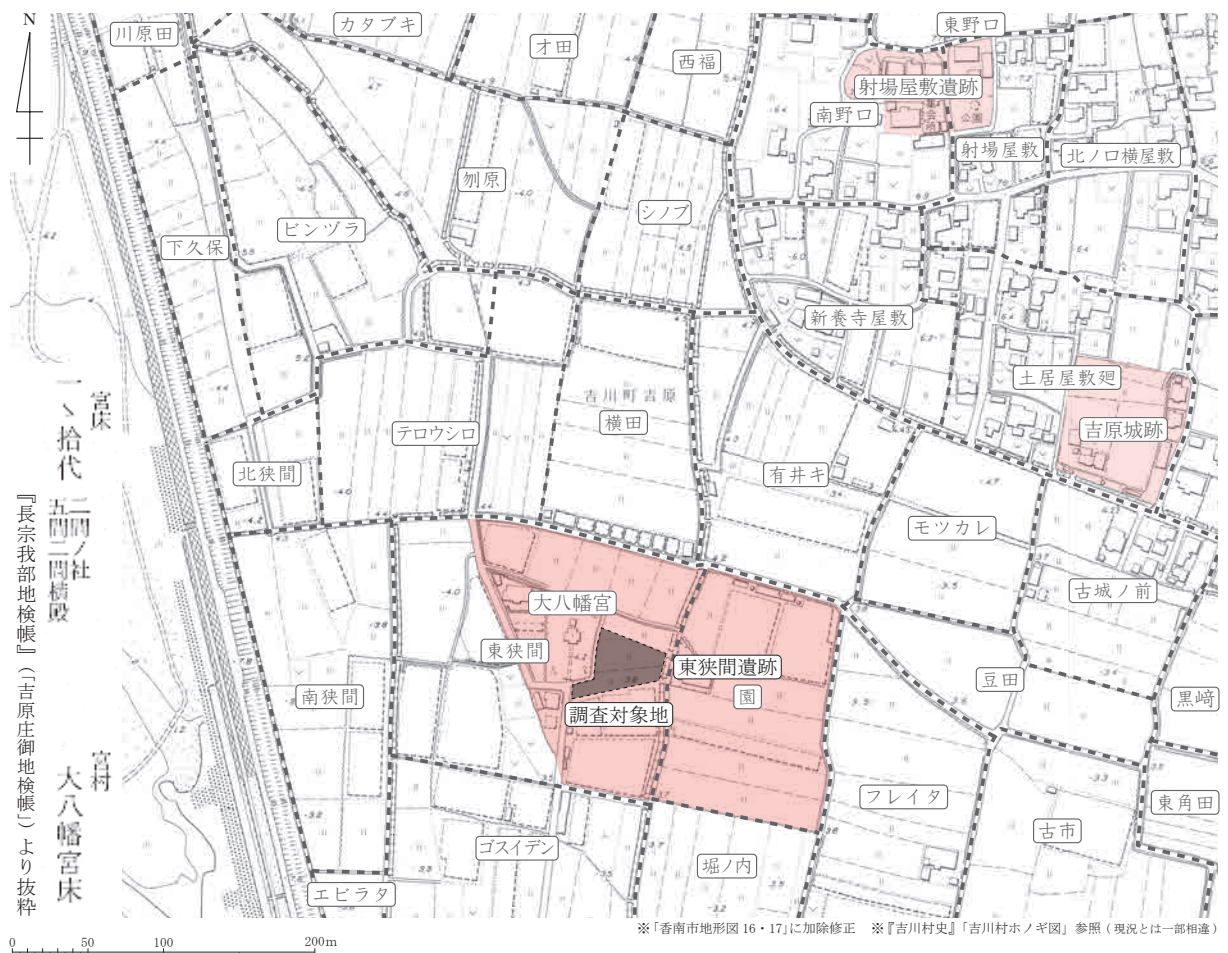
第2図 香南南部地区農村災害対策整備吉川工区緊急避難塔整備工事図面

第2節 調査対象地の概要

調査対象地の所在する香南市吉川町吉原は、西に流域の基幹を成す物部川が貫流し、瀬戸川(吉原溝)の小流を境として東に同町古川、北に沃野の広がる同市野市町下井と接する低平な田園地帯で、米作や施設園芸農業などの第一次産業が盛行している。南に土佐湾を臨んで複数列の浜堤(砂堆)が旧汀線を示し、海成複式堆積低地による堤間湿地(堤列低地)の発達により、背後に潟湖性の低湿地が認められる。対象地は物部川旧河道による河成堆積扇状地(古期)を開析する沖積扇状地(新期)の自然堤防に位置しており、標高4m前後を測る沖積低地から三角州(低湿地)へと漸次的に移行する地形的特性に立地している。

当該地には鎌倉初期に立荘したとされる吉原庄(「壬生家文書」)の歴史が伝えられている。同庄は高倉院法華堂に寄進後、室町期には細川氏の守護領国となり、長宗我部氏の抬頭に及びその支配領域となる。段丘上には中世屋敷群・寺堂等を示唆する小字や吉原城跡が所在し、周辺には「堀ノ内」「古市」等の中世(前期)に遡る遺称地が散見される。『長宗我部地検帳』に記されたホノギの多くが現地比定されるなど、当庄に由来する中世村落の景観の様相を地籍図等により傍証ながら復原し得る環境が遺されている。

対象地近傍に「大(田井)八幡宮」が鎮座しており、『地検帳』には「宮床」として馬場を附帯した社殿が造営され、4町4反余の社領(神田)が記されている。社は周辺集落の産土神であり、城八幡宮等を合祀している。地内の社寺は宝永地震(1707)の津波被害で古記録を流失しており、縁起(創建年代)や権力構造等については不明であるが、関連する埋蔵文化財が遺存している可能性が予察される区域である。



第3図 東狭間遺跡包蔵地範囲及び調査対象地位置図 (S=1/5,000)



※ 野市町航空写真に加筆。

東狭間遺跡周辺の地理・歴史的環境

第Ⅱ章 香南市域の地理・歴史的環境

第1節 地理的環境

東狭間遺跡は高知県香南市吉川町吉原に所在し、県中央部に広がる高知平野の東半に位置している。

平成18年(2006)3月に旧香美郡の香南5町村(赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村)が合併し、面積126.5 km²、人口約3万3,000人(令和2年12月現在)の香南市が発足した。市域の西端には剣山山系白髪山(香美市物部町)に源を発して香南市吉川町吉原で土佐湾に注ぐ物部川(流路延長71 km)が縦貫し、同市香我美町別役峠を源流とする香宗川(流路延長20.2 km)と共に流域の基盤を成している。これらの河川により形成された扇状地や沖積平野(河成堆積低地)には沃野が広がり、最下流域の低湿な海岸平野は圃場整備が成され、米作や施設園芸農業などの第一次産業が盛行している。平野部には標高100 m未満の小起伏丘陵(残丘)が点在し、山裾及び現・旧河道周辺に断続的に分布する自然堤防沿いに集落が発展している。

調査対象地の所在する香南市吉川町は物部川河口東岸に位置し、明治期の市町村合併で近世の吉原村と吉川村の頭尾を採って村名とした面積4.25 km²の旧吉川村域を承継している。東は迂曲する香宗川を中分して同市赤岡町と町域を区画し、西は物部川を隔てた西岸に字「西大境」などの飛地を有して南国市との境界を成す。南に土佐湾を臨んでドロメ(シラス)漁や嘗ては養鰻業などが活況を呈し、北は香宗川支流烏川や古川山(九六山・下田山・大石山・八幡山・篠部山の総称)、瀬戸川の小流を境に同市野市町と接している。近世には高知城下から下田(南国市)を経て東進する旧下街道(県道春野赤岡線)が村域を横断し、隣接する町には県都高知市と県東部を結ぶ主要国道55号線が東西に開通するなど、県中心部からの交通・輸送の便も申し分無く、高知龍馬空港(南国市)と目睫の間であって他地域への利便性にも優れている。

香南市は野市町域を中心に開発・都市化が進行し、高規格道路である南国・安芸道路の建設や、平成14年(2002)には第3セクターによる鉄道「ごめん・なはり線」が開通するなど、社会基盤の整備も進みつつある。一方、市内では山北をはじめとする「棒踊り」や「手結盆踊り」(県保護無形民俗文化財)などの伝統的な祭礼が継承されている地区も多く、民俗文化を次世代に伝える地域社会が残っている。

南部は太平洋(土佐湾)に面する海岸地帯(急深海浜)である。外洋性の高い波浪や沿岸流が海岸に作用して形成された複数列の浜堤(砂堆)が弓状に延びて旧汀線を示し、海成複式堆積低地による堤間湿地の発達により、背後に潟湖性の低地が認められる。この浜堤上に連檐する赤岡と岸本は在郷町として商圏を確立し、旧観の町並みに昔日の盛業を追懐する。また一帯の海岸は嘗て製塩業が盛行し、赤岡から物部川上流の大柘(香美市物部町)へ続く峠越えの往還路が、現在「塩の道」として整備されている。

東部には夜須川が南流し、河口付近に位置する手結内港は往時の景観を今に伝える藩政期の掘り込み港である。手結港の東には地質区分による四万十帯の露頭(横浪―手結住吉メランジュ:県指定天然記念物)が観察できる住吉海岸(香南市夜須町～安芸郡芸西村)が所在する。海洋底移動により遠隔地の枕状溶岩や層状チャート・多色凝灰岩などが混在する岩石群が分布し、また同帯の走行に対して上・下盤の剪断方向が異なり、その規模から地殻変動によるものと考えられるなど、プレート理論を実証している。

地理的にみた当遺跡の立地は、浜堤や砂州を形成する現海岸線から約0.9 kmの扇状地性低地に所在し、周辺は平均傾斜区分3°未満の低暖地帯が広がっている。沖積低地から三角州へと移行する当該地は標高4 m未満の低平な地形であり、象徴的景観を帯びた山容を遠景に眺望できる自然環境に在る。

秋葉山(標高490 m)を主峰とする秋葉山山系は香我美町の北に位する聞楽山(標高368 m)より南西方向

に標高を減じ、三宝山(金剛山 標高 265m)の南西方向で野市台地(扇状地性中位段丘)に埋没する。その秋葉山山系の北方に平行して烏ヶ森の山列があり、同じく南西に向かって標高を逡減して物部川にその山裾を侵蝕されている。三宝山の尾根上には仏像構造線が北東—南西の方向性を示して走向しており、尾根中腹に連なる急斜面(断層崖:傾斜角 30~40°)は、同地質構造線の衝上断層によるものである。

西南日本外帯に属する高知県地域の基盤は、四国脊梁山地をほぼ東西方向に走る御荷鉾構造線及び仏像構造線によって、北から三波川変成帯(御荷鉾緑色岩帯)・秩父累帯及び四万十帯に分類され、大観的には南ほど新しい地層が層状に累重して分布する覆瓦状構造を成している。当該地周辺は地帯構造的には四万十帯北帯に属しており、安芸構造線によって南帯と分けられる。北帯北部は断層帯が狭間隔で併走する白亜紀前期の地層(付加体)から成り、当地域は新莊川層群に属する須崎層に該当する。主に暗灰色の泥岩から形成され、珪質岩を含む海底堆積物(混濁流)によるタービダイト層(砂泥互層)を主体に構成されており、半山層(葉山層)の分布地域で南側に整合・漸移関係で上位に重なる地層である。当遺跡の北約 4.0 kmにある山嶺が三宝山で、中生代の地質構造帯「三宝山帯」の名前の由来となった峰であり、尾根上より北部が秩父帯南帯(三宝山帯)である。構造線の北側に沿って石灰岩(トリアス期)が散在しており、北東約 8.3 kmには我が国有数の石灰鍾乳洞穴として奇勝に富む龍河洞(香美市土佐山田町)が存在する。

裾野に広がる野市台地は物部川下流域に発達した開析扇状地(古期扇状地)であり、海拔約 40~10mと北から南へ緩傾斜し、香長平野(香美・長岡郡南部の河成堆積低地)の東半を形成している。この台地は、秋葉山山系西端の三宝山山麓部で遮られた物部川旧河道が東南東へ流下したためできた扇状地性堆積物(砂礫層)によって形成されたものである。また物部川に面した台地の西端部は 5mほどの段丘崖と成り、下段に沖積扇状地(新时期扇状地)が広がっている。野市台地は長岡台地(南国市・香美市土佐山田町)を含む段丘中位面と地形的に連続性がみられることから、ほぼ同時期に離水したと推測されている。降灰時期が約 7,300 年前とされる K-A h 火山灰(鬼界アカホヤ)の堆積(濃集層準)が段丘上に認められ、AT(始良-Tn)火山灰(約 25,000 年前)の降灰層準が不明瞭なことから、氷河性海面移動に基づく世界規模の海水準変動(海退)がみられた最終氷期(ヴェルム氷期)極相期(約 20,000 年前)以前に形成されたと考えられている⁽¹⁾。

野市台地(扇央部)は粗粒砂岩礫層を呈して透水性が高く、伏流による低地下水位の乏水地であり、原野の広がる非条里地域と考えられていた。物部川は下刻作用により河床が低下し、台地への灌漑は容易ではなかったが、近世初期以降の大規模な水利事業の展開により、今日にその遺産を見ることができる。

第 2 節 歴史的環境

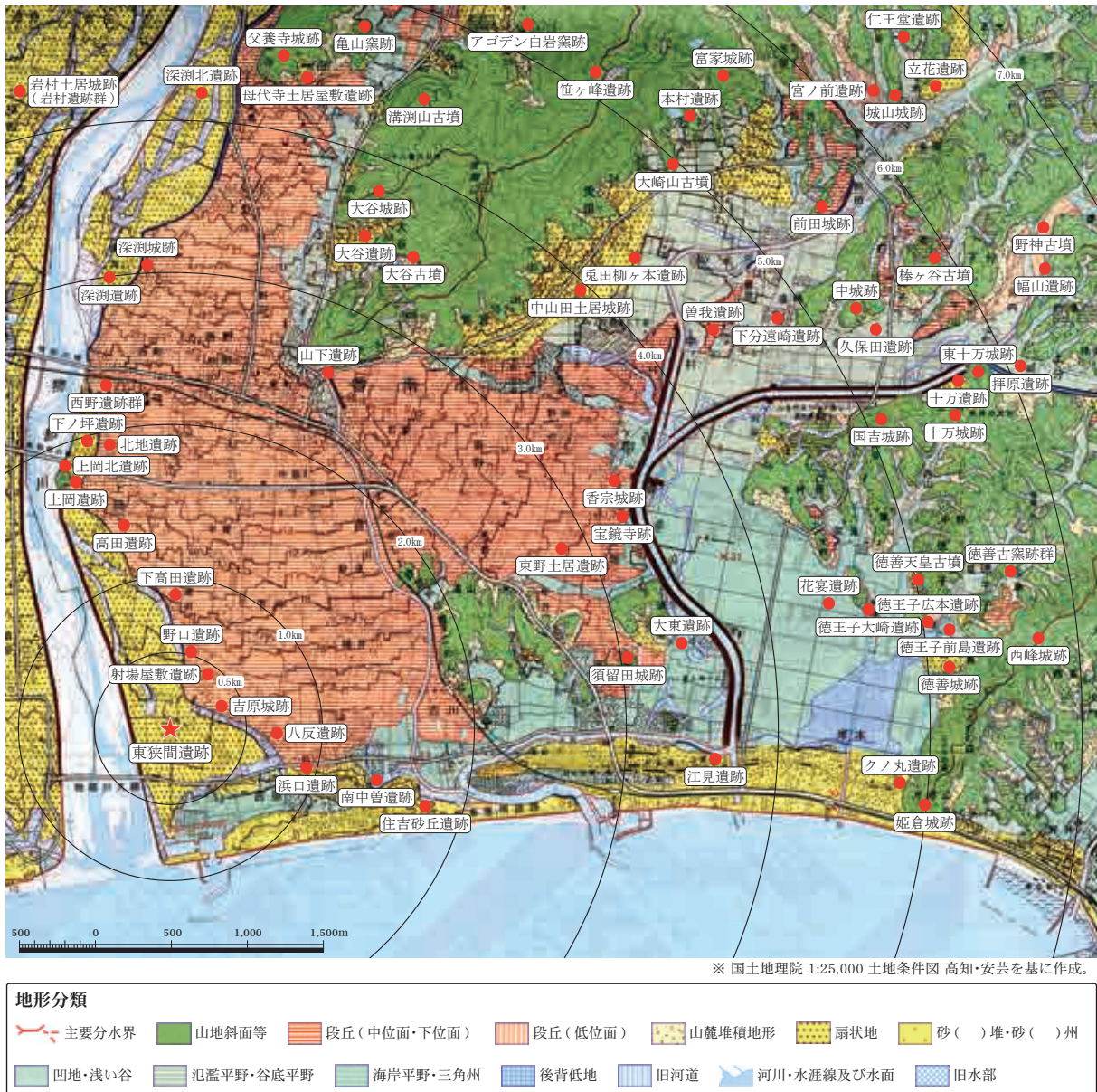
東狭間遺跡の所在する香南市は、北部に聞楽山山系の山塊を背負い南に平野部と土佐湾が開けている。中央附近を香宗川(二級河川)が流下して恵みを齎し、西は一級水系物部川が市域を分轄している。

物部川は野市町をはじめ高知平野東部(香長平野)に灌漑の余慶を与えているが、現在の流路を形成したのは近世初頭に堤防が築堤されて以降のことであり、それ以前に西偏していた複数の旧河道や凹地列の派流が緩勾配の扇状地上に微地形として遺されている。下流域は旧河道地形に沿って断続的に自然堤防が形成され、遺跡の分布を把握する。その中でも当遺跡から約 3.0 km 西に位置する田村遺跡群⁽²⁾(南国市)は地勢的な優位性もあり、弥生時代における南四国最大級の拠点的(母村)集落として知られている。

香南市域における縄文時代以前の遺跡は、有舌尖頭器(草創期)が採集された手結遺跡、後期(宿毛・片粕・松ノ木式)の土器片を出土した拝原遺跡⁽³⁾、晩期の貯蔵穴が確認された十万遺跡⁽⁴⁾、晩期末の突帯土器が

採集された深淵遺跡⁽⁶⁾の例が知られていたが、何れも断片的な出土状況でしかなかった。これまでは縄文・旧石器の空白地帯と謂われるほど縄文時代以前の遺跡の例は僅少であったが、平成23年(2011)に確認された庭ヶ淵遺跡⁽⁶⁾において、香長平野では初の事例となる縄文晩期の集落遺跡が発見された。近來の調査により旧石器時代ナイフ形石器文化期から細石器文化期・縄文早期にかけての岩陰遺跡である奥谷南遺跡⁽⁷⁾(南国市)、小型のナイフ形石器が確認された新改西谷遺跡⁽⁸⁾(香美市土佐山田町)、西日本有数の縄文早期の定住跡を検出した刈谷我野遺跡⁽⁹⁾(同香北町)、無文厚手土器・押型文土器(縄文早期)を出土した開キ丸遺跡⁽¹⁰⁾(同土佐山田町)など、香長平野周辺に縄文後期を遡る遺跡の存在が明らかになりつつあり、香南市域から該期の遺跡が更に確認される可能性は高いと期待されている。

平成20年(2008)、高規格道路建設に伴う発掘調査で、物部川以東において確認例の無かった弥生前期前半の遺構(土坑跡)が、香宗川下流域の海岸平野微高地(丘陵部)に立地する徳王子大崎遺跡⁽¹¹⁾で発見された。出土した土器は前期前半の西見当I式(畿内I様式古段階併行)であり、前期の早い段階でも物部川左



第4図 東狭間遺跡周辺の主な遺跡及び地形分類図 (S=1/45,000)

岸に集落が展開していたことを示す遺跡として注目されている。庭ヶ淵遺跡でも弥生前期前葉から中葉の土器片(遠賀川式)の出土がみられ、移行期の遺跡として田村遺跡群の影響(伝播)が考察されている⁽¹²⁾。

弥生前期末になると上岡遺跡⁽¹³⁾・北地遺跡⁽¹⁴⁾・下分遠崎遺跡⁽¹⁵⁾・拝原遺跡・十万遺跡など集落数が急増してくる。物部川右岸に所在する田村遺跡群からの分村による集落数の増加だと考えられている。下分遠崎遺跡ではカツオの脊椎骨(腹椎骨)をはじめツキノワグマ・シカ・イノシシ・イヌなど様々な魚骨・獣骨類や、農工具を含む多様な木製品、また遺構出土の炭化米から熱帯ジャポニカのDNAが検出されるなど、自然科学分析により多くの知見が齎された。

下分遠崎遺跡や北地遺跡など幾つかの遺跡では、集落が弥生前期末から中期前葉・中葉にかけて継続して営まれるが、前期末のみの一時的な遺跡もみられる。香南市域において中期中葉から後葉(Ⅲ様式中段階～Ⅳ様式古段階)にかけての遺跡は殆ど確認されていない。

中期末から後期の初めにかけては、当遺跡の北東約5.3 kmの地点に高地(丘陵)性集落的な要素を持つ本村遺跡⁽¹⁶⁾が所在している。この遺跡からは竪穴住居(建物)跡や段状遺構など当該期の高地性集落の典型的な遺構群と共にガラス製の勾玉も出土している。同遺跡は標高約30 m前後を測る低丘陵斜面部に立地しており、土器は凹線文土器が主体である。遺跡の北東に連なる山稜上に所在する笹ヶ峰遺跡や、日本屈指の鍾乳洞である龍河洞内で発見された龍河洞遺跡(香美市土佐山田町)などがほぼ同時期に営為されるなど周辺一帯の土器の分布状況から、当該期には標高の高い地点を利用していたと考えられており、成立の背景として中部瀬戸内地方の影響を受けた可能性が指摘されている。

物部川と香宗川に挟まれた野市町域は、青銅器についても注目される地域である。当遺跡の北方約4.3 kmの地点には絵画銅剣(国指定重要文化財)で知られる兎田八幡宮が鎮座し、物部川段丘崖上段には銅鏡(破鏡)の出土した北地遺跡と、銅矛の再加工品が出土した西野ルノ丸南A遺跡⁽¹⁷⁾(西野遺跡群)が所在している。この段丘崖の下段面からも後期前半の竪穴住居跡(下ノ坪遺跡⁽¹⁸⁾・上岡遺跡)が確認されており、下ノ坪遺跡では高知平野最大級の竪穴住居跡1棟から多数のガラス小玉が出土している。段丘崖の上下段に分布するこれらの遺跡は、弥生後期前半に一連の集落を形成していたものと考えられている。

弥生後期後半から古墳時代初頭にかけては、深淵遺跡・西野ルノ丸遺跡・東野土居遺跡⁽¹⁹⁾・幅山遺跡⁽²⁰⁾・射場屋敷遺跡⁽²¹⁾・東狭間遺跡⁽²²⁾など集落数も更に増加する。深淵遺跡・東野土居遺跡・幅山遺跡では竪穴住居跡と土器棺墓が確認され、兎田柳ヶ本遺跡⁽²³⁾では「方形周溝墓」の可能性を残す遺構を検出しているなど、当地域において当該期の墓制や祭祀空間などの様相を把握する資料の蓄積は漸増しており、今後の調査結果に期待したい。これらの集落は物部・香宗両河川流域に展開しており、他地域からの搬入土器(庄内式土器・東阿波型土器)の存在からも、河川が当時の交通に果たしていた役割を推察することができる。

古墳時代前期の古式土師器Ⅱ期以降、高知平野では遺跡の確認例がほぼ無くなるなど遺跡数急減の可能性が指摘されている。その中で拝原遺跡では古式土師器Ⅲ期(4世紀)の竪穴住居跡を2棟検出しており、県内でも数少ない調査事例として注目されるが、県央での前期古墳は殆ど確認できていない。丘陵先端部に立地していた徳善天皇(花散里)古墳は5世紀代の古墳とされているが、それ以外は6世紀後半以降に築造された後期古墳が大半であり、存在が伝えられるが旧態を存していないものも少なくない。大谷古墳⁽²⁴⁾・大崎山古墳⁽²⁵⁾など発掘調査の実施された古墳もあるが、詳細な時期特定のできないものも多く、古墳時代については4～5世紀前後の様相は殆ど解明されていないのが実情である。6世紀後半～7世紀初めにかけての古墳時代後期の竪穴住居跡が、深淵遺跡・下ノ坪遺跡・西野ルノ丸遺跡・東野土居遺跡などで確認されているが、古墳被葬者の帰属集落との関連性については検討を要すると思われる。

古代(律令期)の遺跡としては、下ノ坪遺跡が白眉である。8世紀前半～9世紀中葉頃に盛行し、該期の出土遺物は硯や丸轆、全国的にも例の少ない四仙騎獣八稜鏡などが出土している。コの字状に配置された南四国最大級の規模を持つ総柱建物跡を検出しており、物部川に面した立地から奈良時代及び平安時代にかけて川津として機能していた遺跡だと考えられている。深淵遺跡も同様に官衙としての役割を果たしていたと考えられており、二彩陶器・緑釉陶器・墨書土器・陶硯・蛇尾などが出土している。対岸に位置する岩村遺跡群⁽²⁶⁾(南国市)からも畿内・近江・東海産の緑釉陶器が出土しており、9世紀後半～10世紀中葉頃に盛期を迎えている。中世には城館(岩村土居城跡)の出現がみられ、長期に亘る拠点として存続した要因として、物部川(旧河道)に臨む川津としての水運掌握が背景に有ると考えられる。

香宗川流域にも曾我遺跡⁽²⁷⁾や十万遺跡など官衙関連と考えられる遺跡が点在している。また条里地割(「香長条里」)の可能性を持つホノギ(一ノ坪・四ノ坪・中ノ坪・大坪など)が随所にみられる。

古代の窯跡として野市町佐古地区周辺に亀山窯跡・アゴデン / 白岩窯跡、香我美町徳王子に徳善古窯跡群(7世紀後半～8世紀初頭頃)が確認されている。亀山窯跡で生産された瓦は平安京大極殿や藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていた記録が遺っており、古代における土佐と中央との関係を窺知する上で重要な遺跡と考えられている。物部川に面して深淵北遺跡⁽²⁸⁾が9世紀末～12世紀代にかけて成立していたとみられ、周辺には亀山窯跡関連集落の可能性を有する母代寺土居屋敷遺跡⁽²⁹⁾が所在している。

古代末から中世初頭にかけて各地で荘園の成立がみられ、香美郡内に立荘された大忍庄(荘)は、土佐湾に面した岸本(クノ丸遺跡⁽³⁰⁾)から山間部の奥物部に跨る広大な荘域を有していた。『和(倭)名類聚抄』(10世紀前半頃成立)にみえる大忍郷が荘園化したものと考えられ、鎌倉時代の後期には鎌倉の律宗寺院極楽寺が、次いで南北朝期には紀州の熊野新宮が荘領主となり、15世紀には室町幕府管領で土佐守護でもあった細川氏の所領となるなど、権門による支配の動向が当該地域に影響を与えてきた。

中世には香美郡南部において香宗我部氏の抬頭をみる。香宗我部氏は鎌倉時代初頭に西遷した中原秋通が香美郡宗我部・深淵両郷の地頭職に補任したのに始まるとされている。地名を姓氏として宗我部氏を名乗ったが、長岡郡の宗我部(秦)氏と截然するため、郡名を冠して香宗我部氏を称したとする。香宗城を居館とし、室町時代(戦国期)には土佐守護細川氏の権力を背景に大忍庄へ進出するが、安芸氏との抗争で衰退する。長宗我部国親の三男親泰を後嗣として迎え局面を打開し、以後長宗我部氏の勢力拡大に貢献する。慶長5年(1600)主家の改易に伴い、地域権力としての香宗我部氏は終焉するが、本流は中山田氏として土佐に家名を遺している。現在香宗城跡は市史跡に指定され、八幡社と土塁の一部を存しており、香宗我部氏菩提寺の宝鏡寺跡(県指定史跡)には観音堂や五輪塔などが造立している。周辺の遺跡(東野土居遺跡)からは中世の土師質土器や瓦質土器の他に貿易陶磁器などの広域流通品の出土がみられ、字「野々土居」からは堀跡と考えられる2条の溝状遺構を検出するなど、同氏との関連が指摘されている。

また香宗川左岸の標高13m前後を測る丘陵縁辺部の微高地に立地している十万遺跡でも、環濠屋敷跡と考えられる二重の溝跡を検出している。大忍庄内において名主層などの在地勢力が構造的変質を遂げる時期の遺構として注目されており、当該地域が緊張状況下にあった可能性を示唆している。

近世前期になると、物部川(上井・下井)からの分水(引水)により高燥な野市台地の開墾が進み、豊かな穀倉地帯へと景観を変えた。上岡北遺跡⁽³¹⁾からは、物部川の治水を手がけた野中兼山(土佐山内家執政家老)による築堤と推測される17世紀頃の石積み遺構が確認されている。東狭間遺跡の所在する吉川町は臨海平野地帯に位置しており、地形的な観点から津波の常襲地帯としての側面も有している。宝永4年(1707)に発生した地震の被害として西徳善八幡宮や大八幡宮の古記物等が流失した記録(「亥の大変」)が

残り、住吉神社には民話として伝承されている。段丘中位面に位置する野市は物部川西岸の後免(南国市)に対する東岸の開発拠点として西野(東町)周辺に街村集落が形成され、民家・商家が発展する。明治以降の近代化に伴う町村制度施行による合併を経て、香南地域の行政・経済・文化の中心地となり今日に至る。

【註】

- (1) 研川英征 「河岸段丘の形成と、地形学見地からみる物部川および高知平野」『土佐山田史談』 2004年
- (2) 前田光雄・吉成承三 他 『田村遺跡群Ⅱ 第1～9分冊』 (財)高知県埋蔵文化財センター 2004・2006年
- (3) 出原恵三 『拝原遺跡』 香我美町教育委員会 1993年
- (4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生 『十万遺跡発掘調査報告書』 香我美町教育委員会 1988年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生 『深淵遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (6) 宮地啓介 『庭ヶ淵遺跡』 香南市教育委員会 2012年
- (7) 松村信博・山本純代 『奥谷南遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 (財)高知県埋蔵文化財センター 1999・2000・2001年
- (8) 中山泰弘 『新改西谷遺跡・勝楽寺跡』 土佐山田町教育委員会 2002年
- (9) 松本安紀彦 『刈谷我野遺跡Ⅰ・Ⅱ』 香北町・香美市教育委員会 2005・2007年
- (10) 小林麻由・藁科哲夫 『開キ丸遺跡』 土佐山田町教育委員会 2002年
- (11) 下村 裕・島内洋二 他 『徳王子大崎遺跡』 (財)高知県埋蔵文化財センター 2009年
- (12) 出原恵三 『南国土佐から問う弥生時代像 田村遺跡』 新泉社 2009年
- (13) 更谷大介・溝淵真紀 『上岡遺跡』 野市町教育委員会 2005年
- (14) 松村信博・宮地啓介 『北地遺跡』 香南市教育委員会 2011年
- (15) 高橋啓明・出原恵三 他 『下分遠崎遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ』 香我美町・香南市教育委員会 1989・1993・2010年
- (16) 坂本憲昭 『本村遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1993年
- (17) 更谷大介 「西野遺跡群ルノ丸地区南・ルノ丸地区南A」『埋文こうち 第21号』 高知県教育委員会 2008年
- (18) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋 他 『下ノ坪遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 野市町教育委員会 1997・1998・2000年
- (19) 久家隆芳・筒井三菜・矢野雅子 他 『東野土居遺跡Ⅱ～Ⅳ』 (財)高知県埋蔵文化財センター 2015・2016・2018年
- (20) 岡本 修 『幅山遺跡』 香我美町教育委員会 1999年
- (21) 宮地啓介 『射場屋敷遺跡』 香南市教育委員会 2016年
- (22) 宮地啓介 『東狭間遺跡』 香南市教育委員会 2019年
- (23) 松村信博・宮地啓介 『兎田柳ヶ本遺跡』 香南市教育委員会 2010年
- (24) 山本哲也 『大谷古墳』 (財)高知県文化財団 1991年
- (25) 山本哲也 『大崎山古墳』 香南市教育委員会 2013年
- (26) 三谷民雄 『岩村遺跡群Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 南国市教育委員会 1997・1998・1999年
- (27) 高橋啓明・吉原達生 『曾我遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (28) 吉成承三・佐竹 寛 『深淵北遺跡』 野市町教育委員会 1996年
- (29) 松村信博・宮地啓介 『母代寺土居屋敷遺跡』 香南市教育委員会 2010年
- (30) 松本安紀彦・舛田龍也 他 『クノ丸遺跡』 (財)高知県埋蔵文化財センター 2010年
- (31) 更谷大介・溝淵真紀 『上岡北遺跡』 香南市教育委員会 2009年

【参考文献】

『高知県の地名 日本歴史地名体系 40』 山本 大(監修) 平凡社 1983年

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査の方法

水田作地の経歴を有する調査対象地において、既存のコンクリート畦畔等の保全を期した調査地の選定を行い、トレンチ(試掘坑：TR 1～7)を耕地内の任意の適地に設定して試掘調査を実施した。調査の手順としては、重機(バックホウ)を用いて表土(耕作土)を剥除した後、手作業で精査して土層の堆積状況や遺物・遺構の有無について確認した。

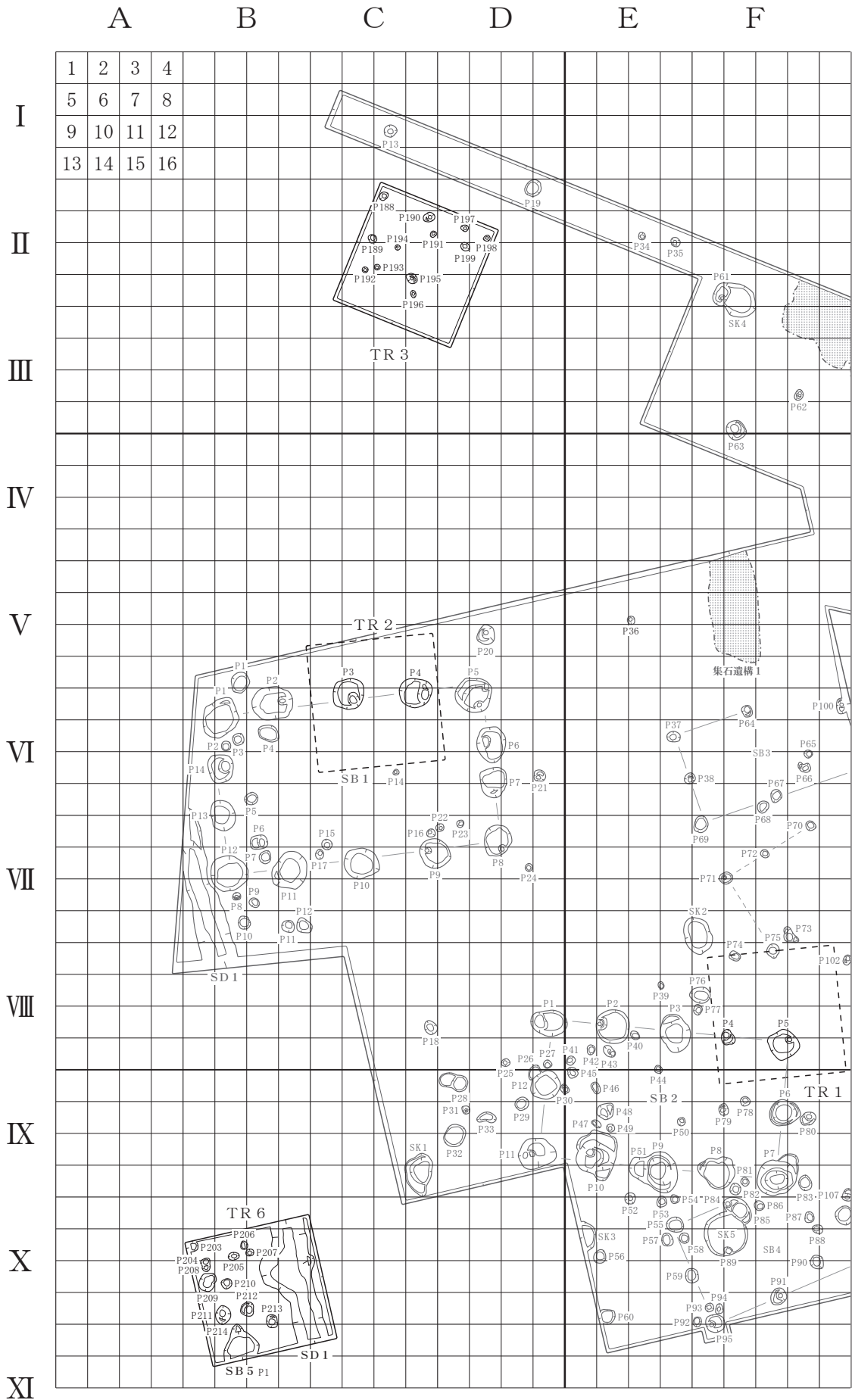
検出遺構の調査については、対象遺構の形状に即して任意の基線(実測基準点)を設定し、平面実測・レベル測量及び写真撮影等によって調査結果を記録した。水平・垂直位置の測量は、仮BM(標高4.0m※：誤差±10cm未満)を基準とした新設のBMと共用した既存の金属標を用いて任意の方向角を設定し、光波測距儀と水準儀を併用して視準・計測を行った。層相については目視による土色観察と層理面による分層を試みた。試掘坑位置については平板測量及び光波測距儀による測図を行い、図示している(第5図)。

本報告書では、世界測地系に則した公共座標に基づいて1mの方眼を展開し、グリッド番号を付して遺構配置図として使用している。調査時における任意の方向軸は、方眼北(国土座標第Ⅳ系)を基準としたものに修正して本書図版に掲載している。

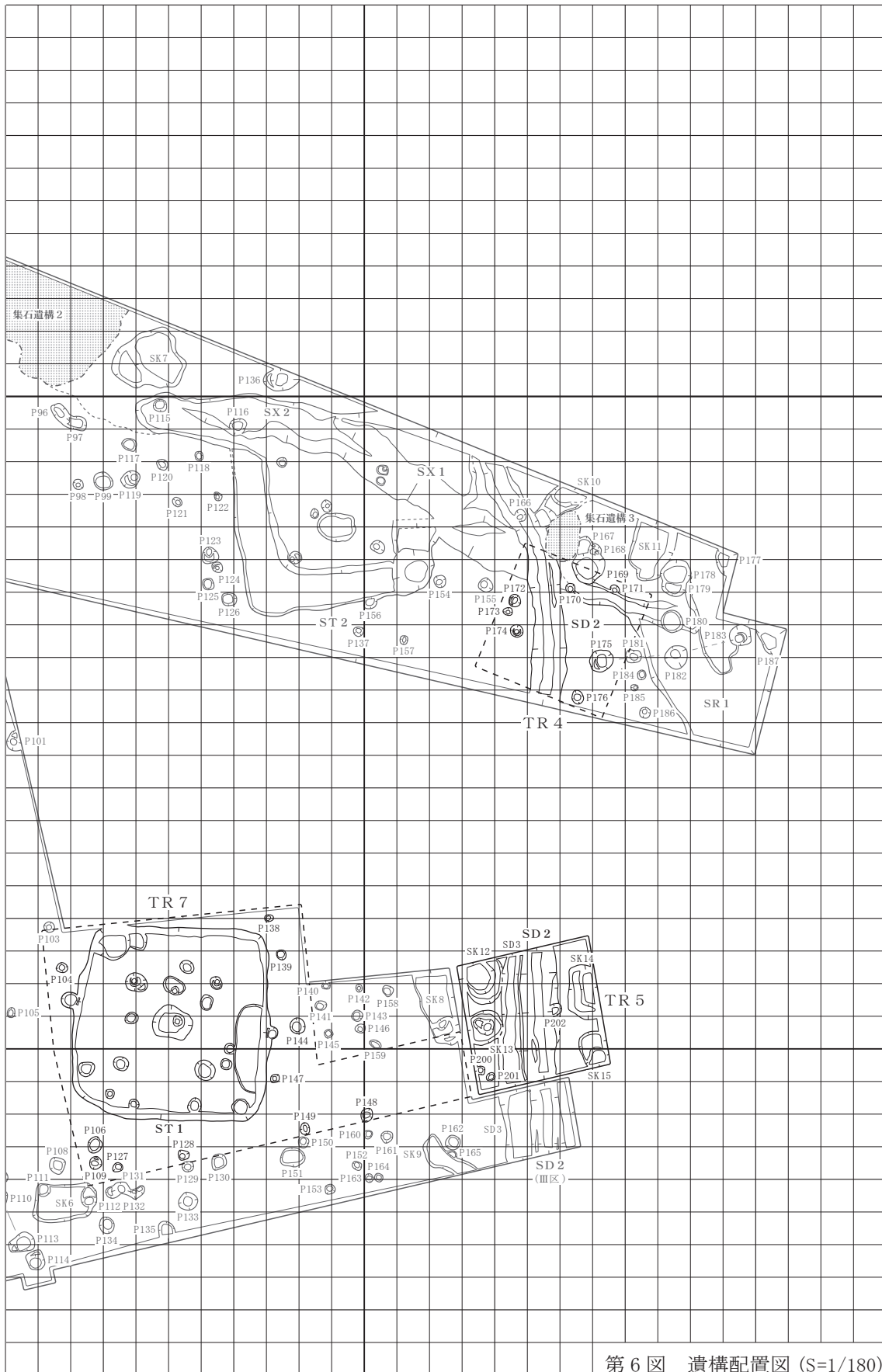
※「(香南市)地図システム」参照



第5図 調査区位置及び公共座標 (S=1/500)



G H I J K L M



第6図 遺構配置図 (S=1/180)

第2節 試掘坑検出の遺構と遺物

弥生後期後葉の遺構と遺物

本試掘調査で検出した弥生後期後葉を示唆する主な遺構は、竪穴住居状(建物)遺構1棟(軒)と土坑状遺構4基、ピット状遺構約30個を抽出できるが、可能性を有する遺構も含まれている。検出したピット状遺構の平面形状は概形で円形状を基本とし、平面観察の後に半截して柱痕跡等の有無を確認するなどの精査を行ったが、殆どの遺構は黒褐色又は褐灰色シルトを基調とする単層埋土であった。検出面からの遺存が浅い遺構は、地目に由来する人為的要因により主体部を削失した残部の可能性も考えられる。

尚、本報告書で記載する「弥生土器」とは主に叩き技法による成形が顕在化してくる時期(ヒビノキ式)の土器型式を示し、本書においてヒビノキⅠ・Ⅱ式を古相、ヒビノキⅢ式(古式土師器Ⅰ期併行)を新相とする。当該期の土器様相の概要については後文に略載している。

古代～中世期の遺構と遺物

本試掘調査において古代～中世期に成立するとされる主な遺構は、集石遺構を含む性格不明遺構2基と溝状遺構3条及び推定を含む掘立柱建物跡3棟などを検出しているが、何れも当該期の出土遺物が僅少で帰属時期を示唆する断定資料に欠き、また属性や同時性にも留意する必要を有している。

当地には吉原庄の歴史が伝えられており、対象地周辺には中世に遡る小字(遺称地)が散見されるなど該期の埋蔵文化財が遺存している可能性が予期されたが、調査で得られた出土遺物の分類は型式に基づく相互の共伴関係や層位による相対的な出土状況を把握できる資料に乏しく、質・量共に該期の土器研究に有用な資料を提供しているとは言い難い状況であった。

尚、本報告書で記載する「土師質土器」とは轆轤(回転台)を用いて成形し、施釉せず低火度で酸化焰焼成された中世土器の一つと捉えているが、一瞥だけでは先行期と弁別が困難な遺物も含まれている。

調査所見

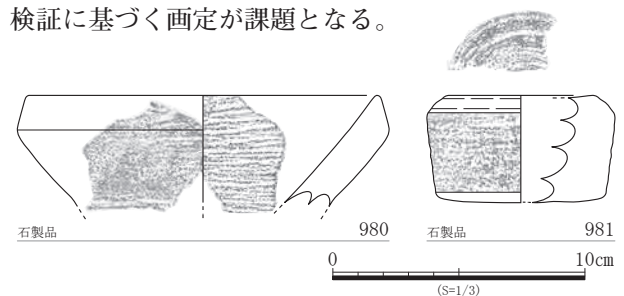
試掘調査の結果、地表下約20cm前後の扇状地性礫層から弥生後期後葉を示唆する住居状遺構や溝状遺構などを検出し、対象地に当該期の集落跡が遺存することが把握された。また同一遺構面から古代～中世にかけての遺構・遺物も散布しているなど計画区内全域に遺構の分布を確認しており、対象地周辺を含めた当地内において、弥生～中世に関連する集落が断続的に形成されていた可能性が推測される。

遺跡所在の把握により埋蔵文化財包蔵地として新設すると共に、工事により改変を受ける範囲について

の本発掘調査に向けての基礎資料を得ることができた。今後は微地形の起伏などに留意した旧地形の検証に基づく画定が課題となる。



調査対象地 概況 (2013. 5. 7)



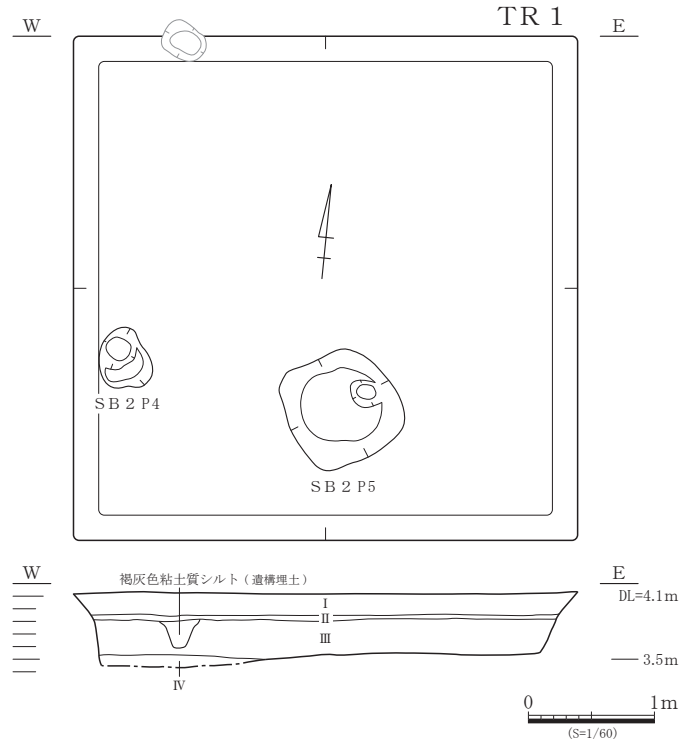
第7図 調査対象地 表採遺物実測図 (S=1/3)

TR 1

FⅦ・Ⅸ / GⅦグリッドに設定した4.0×4.0 mの試掘坑である。緊急避難塔本体工事部分(調査Ⅰ区)の南東に位置し、地表下約20cm前後から遺構の所在を把握した。検出した遺構は本発掘調査において確認した掘立柱建物跡(SB2)を構成する柱穴群であり、既刊の報告書に概要を記載している。図示したのはP5から出土した礫石器(188)である。

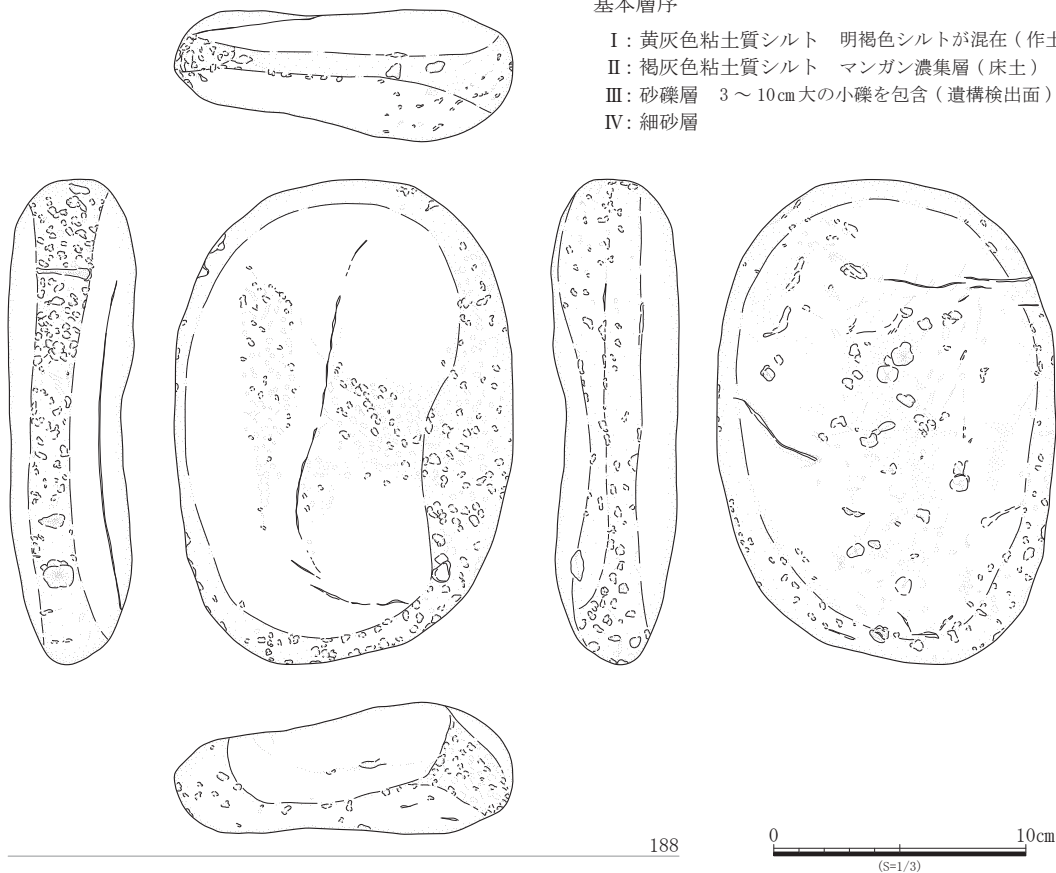
試掘坑北壁で堆積状況を観察し、図示している。表層(Ⅰ層)は還元状態の黄灰色～黄褐色粘土質シルトを主成分とする灌漑水田土壌である。下部には強還元状態の耕土層から溶出した鉄・マンガンが酸化・濃集して斑紋帯を集積することがあり、Ⅱ層においてマンガン斑紋が部分的に確認できる。下層(Ⅲ層)から沖積扇状地(新期)を形成する主として粗細粒砂岩の円礫～垂円礫で構成される河成砂礫堆積層を検出し、扇状地性礫層の産状を把握した。

対象地における基本層序は以下の通りであり、爾後は概ねこれに準拠している。



基本層序

- I : 黄灰色粘土質シルト 明褐色シルトが混在 (作土層)
- II : 褐灰色粘土質シルト マンガン濃集層 (床土)
- III : 砂礫層 3～10cm大の小礫を包含 (遺構検出面)
- IV : 細砂層



第8図 TR 1 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)

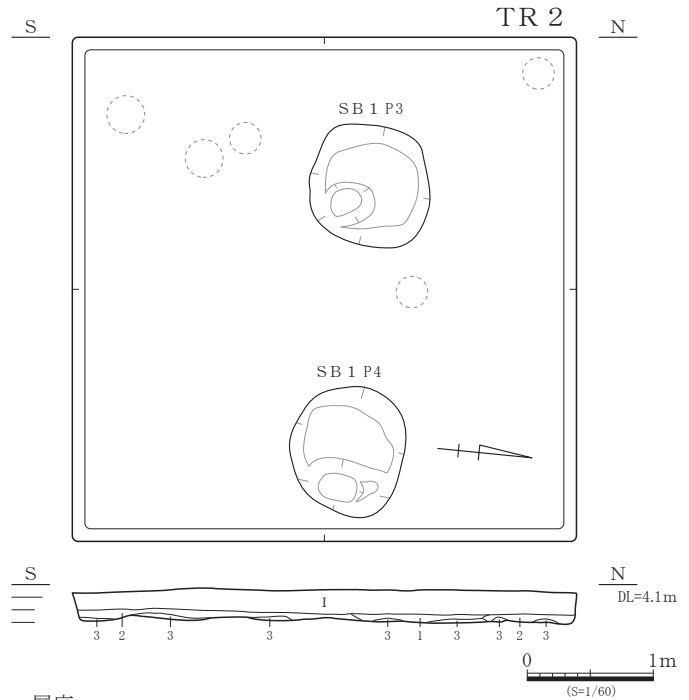
TR 2

C V・Ⅵグリッドに設置した4.0×4.0mの試掘坑である。緊急避難塔本体工事部分(調査Ⅰ区)の北西に位置し、地表下約20cm前後から遺構の所在を把握した。検出した遺構は本発掘調査において確認した掘立柱建物跡(SB 1)を構成する柱穴群であり、既刊の報告書に概要を記載している。

試掘坑西壁で堆積状況を観察し、図示している。表層(Ⅰ層)は基本層序に準拠する灌漑水田土壌であり、黄灰色粘土質シルトを基調としている。1～3は調査地における局所的な層相と捉えている。



TR 2 遺構検出状態 (2017. 3. 22)



層序

1: 灰黄褐色粘土質シルト 2: 褐灰色シルト 3: 暗褐色砂質シルト

第9図 TR 2 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)

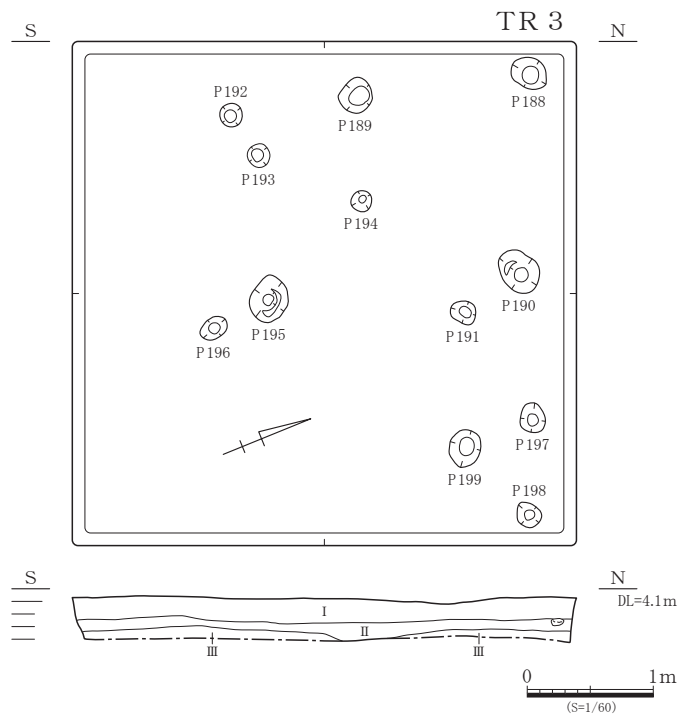
TR 3

C Ⅱ・Ⅲ / D Ⅱ・Ⅲグリッドに設定した4.0×4.0mの試掘坑である。調査対象地の北西に位置し、地表下約20cm前後から小穴群(第1表)の所在を把握したが、考古学的事象に由来する遺存とは積極的に評価し難い検出状況を呈している。

試掘坑西壁で堆積状況を観察し、図示している。層相は基本層序に準拠しているが、Ⅱ層からマンガン斑紋帯は確認されなかった。



TR 3 完掘状態 (2017. 3. 22)



第10図 TR 3 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)

TR 4

K V・Ⅵグリッドに設定した4.1×4.1mの試掘坑である。調査対象地の北東に位置しており、外溝等周辺付帯工事部分(調査Ⅱ区)の東側に該当する。地表下約20cm前後から溝状遺構(SD 2)やピット状遺構(P 169・175・他)などの所在を把握し、既刊の報告書に概要を記載している。

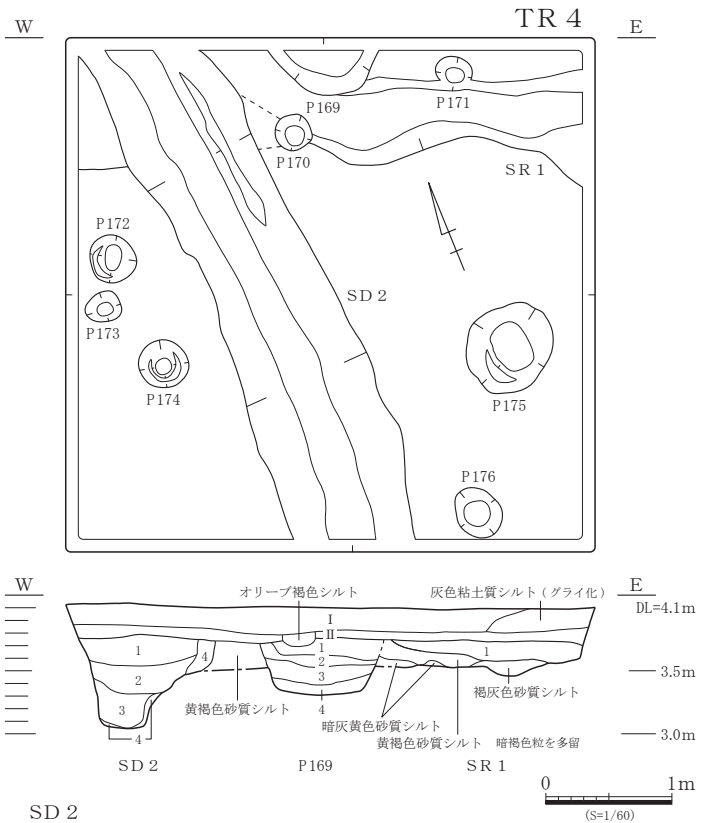
試掘坑北壁で堆積状況を観察し、図示している。Ⅱ層(基本層序)は黄灰色シルトを基調とし、マンガ斑紋帯は確認されなかった。



TR 4 遺構検出状態 (2017. 3. 23)



TR 4 試掘坑北壁 土層断面状況 (2017. 3. 29)



SD 2

- 1: 暗灰黄色シルト
- 2: 灰黄褐色シルト
暗褐色粘土質シルトを包含
- 3: 灰褐色粘土質シルト
- 4: 暗褐色粘土質シルト

SR 1

- 1: 暗褐色粘土質シルト
2cm大の小礫を包含

P 169

- 1: 暗褐色粘土質シルト
遺物・2cm大の小礫を包含
- 2: 暗褐色粘土質シルト
黄褐色シルトが混在
- 3: 黒褐色粘土質シルト
- 4: 暗オリーブ褐色粘土質シルト
炭化物を包含

第 11 図 TR 4 遺構平面図・土層断面図 (S=1/60)

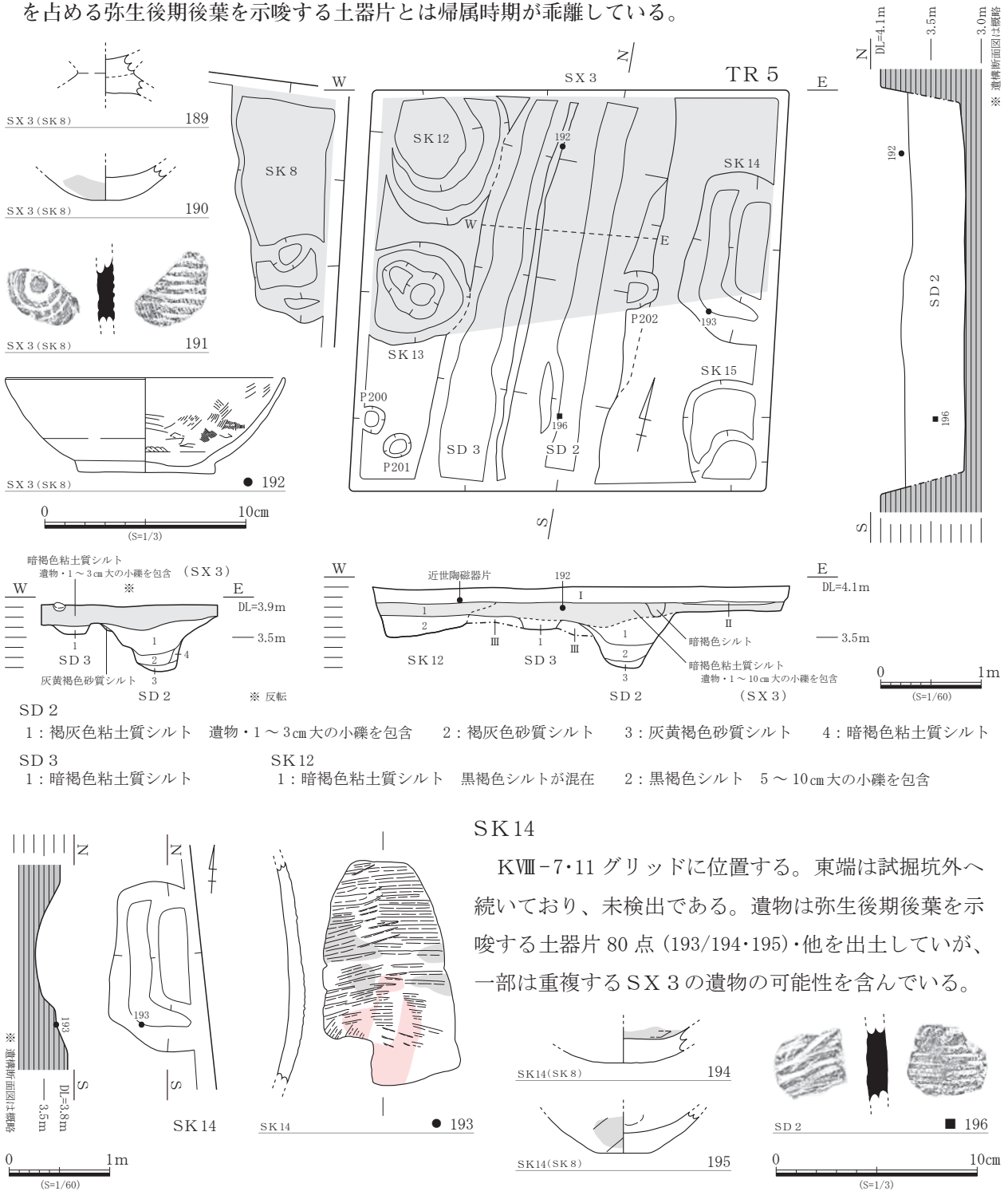
遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	備考
		長径	短径	深さ						
P 188	楕円形状	31	24	17	3.701	褐灰色粘土質シルト	—	C II-3	—	
P 189	円形状	27	25	17	3.683	褐灰色粘土質シルト	—	C II-6・7	—	
P 190	亜円形状	36	29	28	3.725	褐灰色粘土質シルト	Pit 状遺構	C II-8	—	
P 191	亜円形状	20	18	13	3.706	褐灰色粘土質シルト	—	C II-8	—	
P 192	円形状	19	18	10	3.711	褐灰色粘土質シルト	—	C II-10	—	
P 193	円形状	18	18	13	3.699	褐灰色粘土質シルト	—	C II-11	—	
P 194	円形状	17	17	8	3.724	褐灰色粘土質シルト	—	C II-11	—	
P 195	亜円形状	35	29	25	3.710	褐灰色粘土質シルト	—	C II-16	—	
P 196	楕円形状	23	16	9	3.736	褐灰色粘土質シルト	—	C II-16	—	
P 197	亜円形状	23	20	15	3.751	褐灰色粘土質シルト	—	D II-5	—	
P 198	亜円形状	21	18	8	3.711	褐灰色粘土質シルト	—	D II-6	—	
P 199	亜円形状	30	25	20	3.719	褐灰色粘土質シルト	—	D II-9	弥生土器(摩耗) 1点	

第 1 表 TR 3 ピット状遺構 計測表

TR 5

J VIII・IX / K VIII・IX グリッドに設定した 4.1×4.0m の試掘坑である。調査対象地の南東に位置し、地表下約 20 cm 前後から溝状遺構 (SD 2・3) や土坑状遺構などの所在を把握した。

試掘坑北壁で堆積状況を観察し、図示している。表層 (I 層) 下位から暗褐色粘土質シルトを基調とする遺物包含層の埋積を確認している。本発掘調査で検出した SK 8 と関連する埋土の可能性が考えられるが、便宜上 SX 3 として報告している。遺物は摩耗した土師質土器の塊 (192) を出土しているが、多数を占める弥生後期後葉を示唆する土器片とは帰属時期が乖離している。



第 12 図 TR 5 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)

SD 2

KⅧ・Ⅸグリッドに位置する。南端は本発掘調査時における調査Ⅲ区に所在する検出遺構(第6図)と接続し、北端は調査Ⅱ区に所在する溝状遺構(SD 2)に続く可能性が考えられる。検出高は3.77mを測り、西側でSD 3と先後関係を有している。現状での検出規模は約3.9×1.0m前後を測り、検出状態での長軸方向はN-3°-Wを指向している。底面高は南・北端共に3.17m前後を測る。断面形態は挿鉢形状の掘方を呈しつつ下層において箱形状を形成し、深さは60cm前後を遺存している。埋土は褐灰色粘土質シルト～灰黄褐色砂質シルトに分層される。

遺物は須恵器片3点(196)と土師質土器片約20点の他に、周辺遺構に由来すると考えられる弥生土器片約570点余を出土している。多くは細片であり、摩耗がみられる。

SD 3

KⅧ・Ⅸグリッドに位置し、南端は本発掘調査時における調査Ⅲ区の検出遺構(第6図)と接続する。検出高は3.69mを測り、東側でSD 2と先後関係を有している。現状での検出規模は約3.9×0.4～0.7m前後を測り、検出状態での長軸方向はN-1°-Wを指向している。断面形態は箱形状を呈し、深さ14cm前後を遺存するが、上端は遺構検出時に若干削失した可能性を残している。埋土は暗褐色粘土質シルトを基調とする。

遺物の出土は確認できなかった。

SX 3(SK 8)

JⅧ・KⅧグリッドに位置する。北及び東端は試掘坑外へ続いており、未検出である。西端は本発掘調査時における調査Ⅲ区に所在するSK 8に接続すると考えられ、同一遺構の可能性を含んでいる。検出高は3.80～3.85mを測り、SD 2・3の上位に被覆し、SK 14と重複関係を有している。またSK 12・13は検出状況などから同一遺構の可能性が考えられる。埋土は暗褐色粘土質シルトを基調とするが、検出規模を捉え難い平面形状を呈しており、当初遺構としての把握は困難であった。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片約230点(SK 12・13出土遺物を含む)を主体とするが、検出状況や僅少ながら須恵器片1点(191)及び土師質土器片40点(192)を出土しているなど遺物構成的に中世前期を主要な帰属時期とする遺構の可能性を有している。

遺構番号	平面形状 (概形)	規模(m/cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版 番号
		長軸	短軸	深さ						
SK 12	壺円形状	(1.27)	(1.14)	33	3.827	黒褐色シルト	SD 3 / (SK 8)	JⅧ-8・12 他	弥生土器(摩耗) 64点	
SK 13	円形状	(1.00)	0.92	35	3.810	黒褐色シルト	SD 3 / (SK 8)	JⅧ-12・16 他	弥生土器(摩耗) 33点	
SK 14	長方形	1.70	(0.83)	21	3.723	黒褐色シルト	(SK 8)	KⅧ-7・11 他	弥生土器(摩耗) 80点 土師質土器(摩耗) 7点	193 194 195
SK 15	長方形	(1.01)	(0.70)	11	3.762	灰黄褐色シルト	—	KⅧ-15・16 他	—	
P 200	円形状	29	27	7	3.746	灰黄褐色シルト	—	JⅨ-4	弥生土器(摩耗) 8点 土師質土器(摩耗) 2点	
P 201	壺円形状	28	23	7	3.736	灰黄褐色シルト	—	JⅨ-4	弥生土器(摩耗) 14点	
P 202	壺円形状	36	(33)	23	3.775	黒褐色シルト	SD 3 / (SK 8)	KⅧ-10	弥生土器(摩耗) 13点	

第2表 TR 5 土坑・ピット状遺構 計測表

TR 6

B X・XIグリッドに設定した4.0×4.0mの試掘坑である。調査対象地の南西に位置し、地表下約20cm前後から溝状遺構(SD 1)やピット状遺構などの所在を把握した。

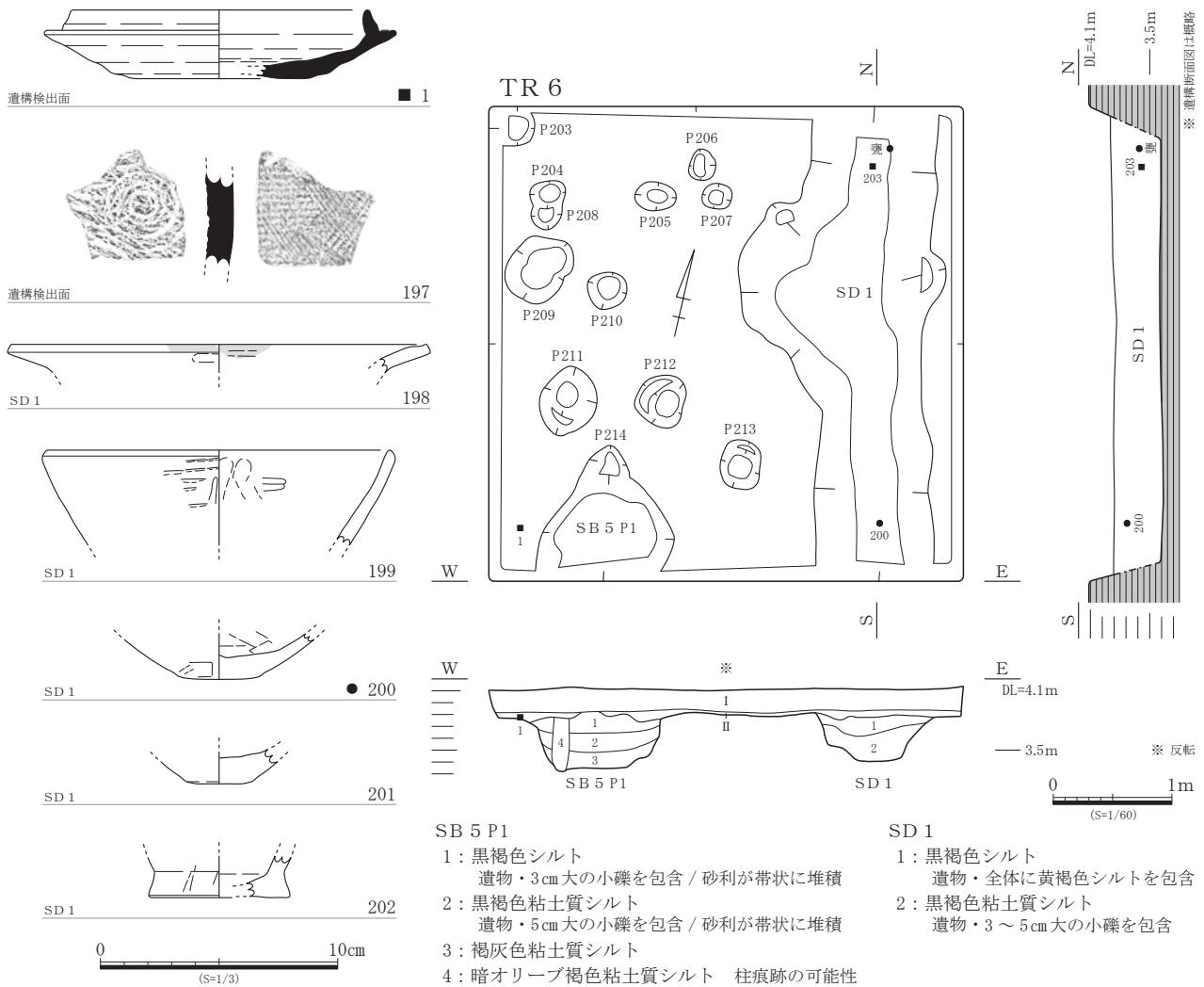
試掘坑南壁で堆積状況を観察し、図示している。層相は基本層序に準拠しているが、II層は黄褐色シルトを基調とし、マンガン斑紋帯を確認できた。

遺物は遺構検出面から弥生土器片24点と須恵器片2点(1・197)を出土している。197は全くといってよほど摩耗しておらず、既刊の報告書に掲載されている112と個体的にも相似している。

SB 5 P 1

B XI-2・3グリッドに位置する。南端は調査区外へ続いており、未検出である。検出高は3.79mを測り、P 214と重複関係を有している。平面形状は歪な矩形状を呈しており、現状での検出規模は長軸1.11m、短軸0.90mを測る。断面形態は箱型状を呈し、深さは43cm前後を遺存している。柱掘方埋土は黒褐色粘土質シルト～褐灰色粘土質シルトを基調とし、柱痕跡が観察できた。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片約110点を主体としているが、本発掘調査で検出した掘立柱建物跡群(SB 1・2)の帰属時期に当該する遺構の可能性を有している。

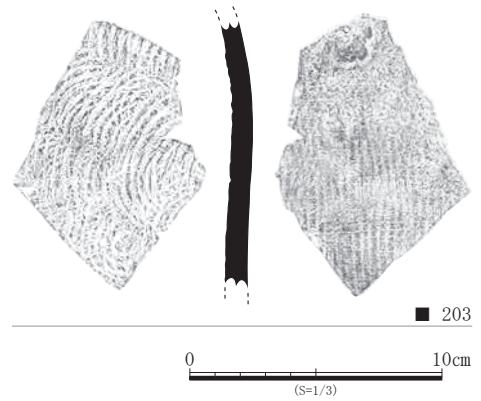


第13図 TR 6 遺構平面図・土層断面図・他 (S=1/60) 出土遺物実測図 (S=1/3)

SD 1

B X・XI / C X・XIグリッドに位置する。両端は試掘坑外に延伸して未検出であるが、北端は本発掘調査時における調査I区に所在する検出遺構(SD 1)に続く可能性が考えられる。検出高は3.80mを測り、土坑状遺構と重複関係を有している。現状での検出規模は約4.0×1.0m前後を測り、検出状態での長軸方向はN-13°-Wを指向している。底面高は南・北端共に3.41m前後を測る。断面形態は逆梯形状を呈し、深さは39cm前後を遺存している。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

遺物は須恵器片1点(203)と土師質土器片36点(202)の他に、周辺遺構に由来すると考えられる弥生土器片約280点(198～201)を出土している。多くは細片であり摩耗がみられるが、203は全くといってよいほど摩耗しておらず、既刊の報告書掲載の153と個体的にも相似している。

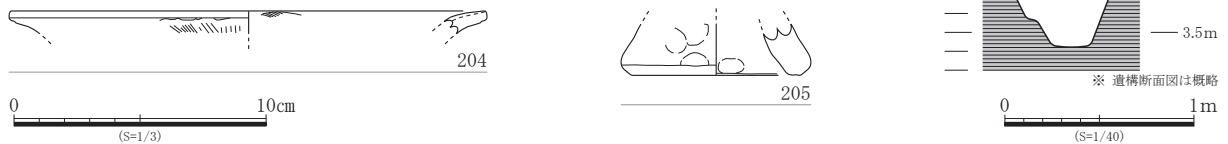


第14図 SD 1 出土遺物実測図 (S=1/3)

P 211

B X-14グリッドに位置する。検出高は3.79mを測る。平面形状は垂円形状を呈し、長径59cm、短径48cm、深さ37cmを遺存している。断面形態は立柱を意図した形状を成しているが、相関する可能性を有するピット状遺構の抽出は能わなかった。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片46点(204・205)を出土している。



第15図 P 211 遺構平面図・断面図 (S=1/40) 出土遺物実測図 (S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版 番号
		長径	短径	深さ						
P 203	垂円形状	(39)	(33)	13	3.821	黒褐色砂質シルト	—	B X-5	—	
P 204	楕円形状	30	24	8	3.799	灰黄褐色シルト	P 208	B X-5・9	—	
P 205	楕円形状	35	24	15	3.801	黒褐色粘土質シルト	—	B X-6	弥生土器(摩耗) 7点	
P 206	垂円形状	26	22	6	3.817	灰黄褐色シルト	—	B X-6	—	
P 207	垂円形状	25	21	11	3.811	黒褐色粘土質シルト	—	B X-7	—	
P 208	垂円形状	26	(18)	7	3.791	灰黄褐色シルト	P 204	B X-9	—	
P 209	楕円形状	60	47	32	3.797	黒褐色粘土質シルト	Pit 状遺構	B X-9	弥生土器(摩耗) 40点	
P 210	円形状	34	32	11	3.790	褐灰色シルト	—	B X-10	—	
P 211	垂円形状	59	48	37	3.793	黒褐色粘土質シルト	—	B X-14	弥生土器(摩耗) 46点	204 205
P 212	円形状	43	41	18	3.787	黒褐色粘土質シルト	—	B X-14・15	—	
P 213	垂円形状	41	35	15	3.796	黒褐色粘土質シルト	—	B X-15 B XI-3	—	
P 214	楕円形状	32	(25)	13	3.797	黒褐色粘土質シルト	SB5 P 1	B XI-2	弥生土器(摩耗) 1点	

第3表 TR 6 ピット状遺構 計測表

TR 7

G IX・H IX・I IX・J IX・他グリッドに位置する試掘坑である。TR 4・5 及びTR 6 で検出した溝状遺構の対象地内における条数を確認するため、TR 5 の西側に当初 12.0×2.0m の範囲で設定した。溝状遺構の遺存は確認できなかったが、地表下約 20 cm 前後からピット状遺構などを確認し、既刊の報告書に概要を記載している。尚、本試掘坑において土坑状の掘方の一端を検出し、遺構の規模・性格等を確認するため調査範囲を拡張した結果、竪穴住居状遺構(ST 1)の所在を把握するなどの成果を得た。

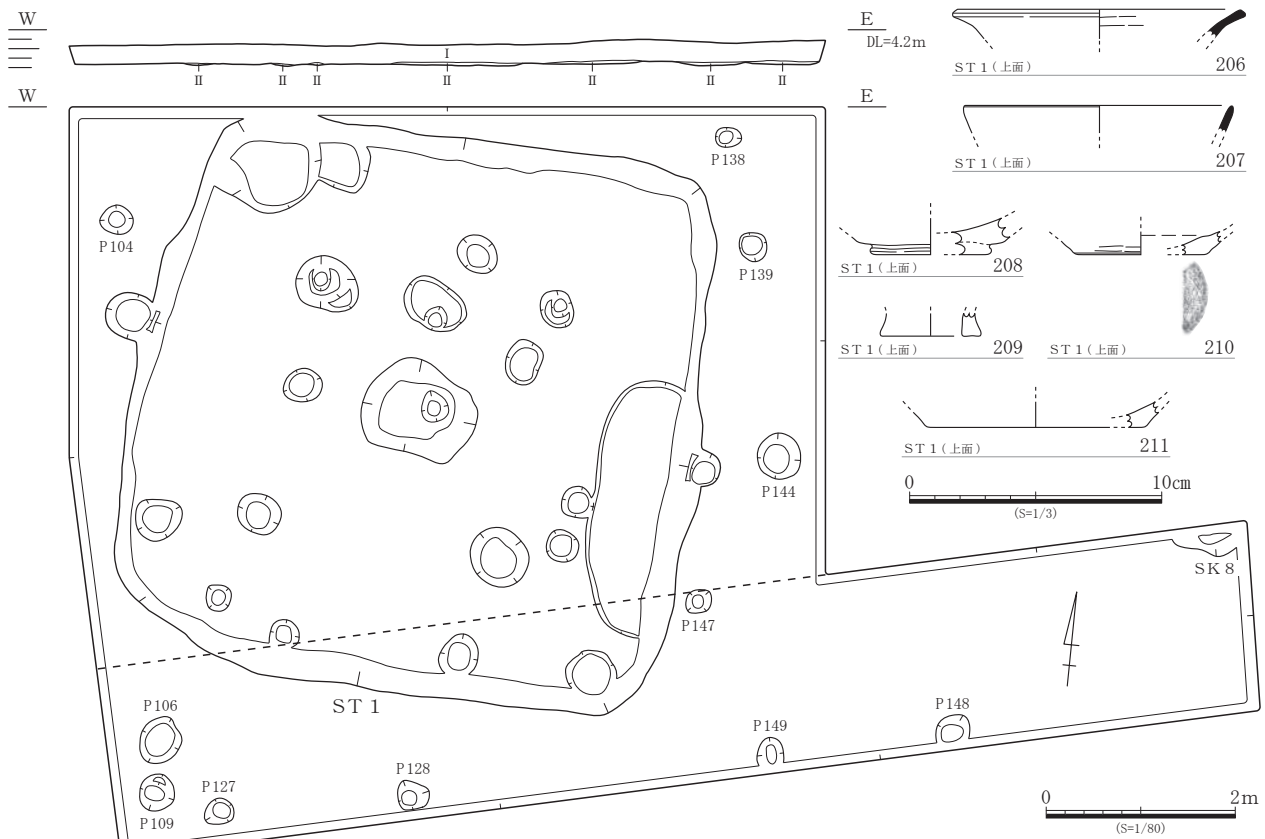
遺物は竪穴住居状遺構の上面を中心に須恵器片 10 点(206・207)、土師質土器片約 210 点(208～211)を出土している。土師質土器の底部には形骸化した円盤状高台を有したのものや、回転糸切り痕が看取できる。

集石遺構 4

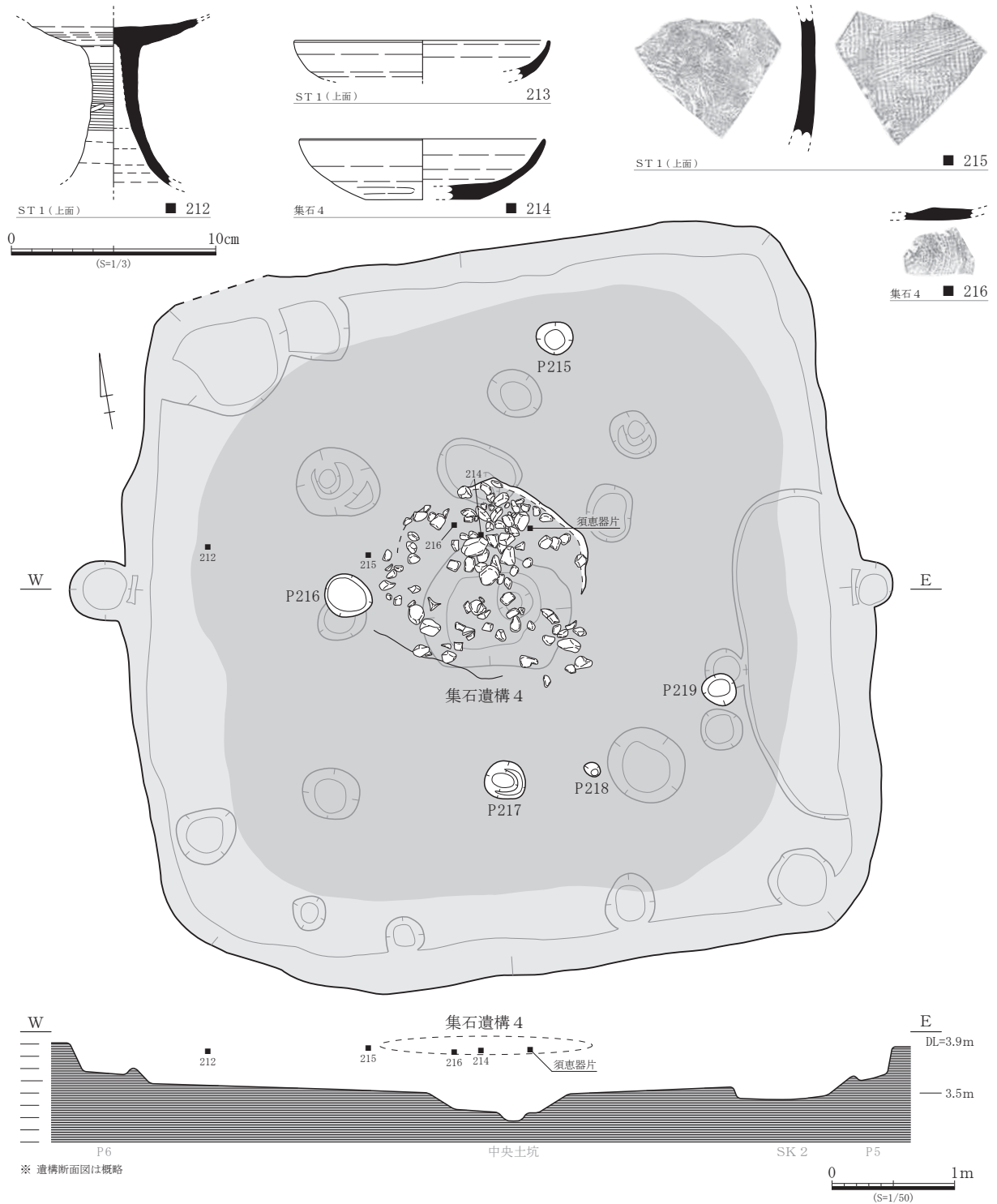
竪穴住居状遺構のほぼ中央附近(H Ⅷ-10・11・14・15 グリッド)の上面(検出高 3.75m 前後)から礫群(集石遺構 4)の遺存を把握した。検出規模は長軸約 1.9～2.0m、短軸約 1.6m の歪な円形状を呈しており、主軸方向を捉え難い平面形態を有している。遺構は粒径 5～25 cm 大の円礫～垂角礫を含む約 100 個の粗細粒砂岩を主体として構成されており、集石を充填する埋土は暗褐色シルトを基調とする。

遺物は須恵器片 4 点(214～216)と土師質土器片 10 点を出土(沈着)している。また ST 1 上面から高坏(212)を出土しているが、集石遺構との関連については不明である。

本遺構の帰属時期は出土遺物等から古代に形成された可能性を有しているが、性格・機能(意図)等については判然としていない。また相関関係は不明ながら周辺から竪穴住居状遺構に重複するピット状遺構(P215～219)を検出している。



第 16 図 TR 7 遺構平面図・土層断面図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/3)



第17図 ST 1 上面遺構平面図・断面図 (S=1/50) 出土遺物実測図 (S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	備考
		長径	短径	深さ						
P 215	亜円形状	19	17	12	3.771	黄灰色粘土質シルト	ST 1	HVIII-7・8	—	
P 216	亜円形状	25	22	11	3.751	黄灰色粘土質シルト	ST 1	HVIII-9・10・13	—	
P 217	円形状	21	20	21	3.749	灰黄色粘土質シルト	ST 1	HIX-2・3	—	
P 218	楕円形状	9	6	31	3.756	黄灰色粘土質シルト	ST 1	HIX-3	—	
P 219	亜円形状	17	17	15	3.708	灰黄色粘土質シルト	ST 1	HIX-4	—	

第4表 ST 1 上面ピット状遺構 計測表

竪穴住居状遺構(ST)

「竪穴住居」とは掘立柱等による上部構造を有する半地下式の家屋形態を意図した遺構を従来表現していたが、近年この名称に対して工房など住居施設以外の可能性を指摘して「竪穴建物」という用語が普及しつつある。本調査区における竪穴遺構の営為の証跡は不明であるが、構造的属性として支柱穴とみられるピット状遺構と中央土坑等を検出しており、形態的に本報告書では慣例を考慮して旧称を用いて報告している。



竪穴住居状遺構 作業状況 (2017. 5. 2)

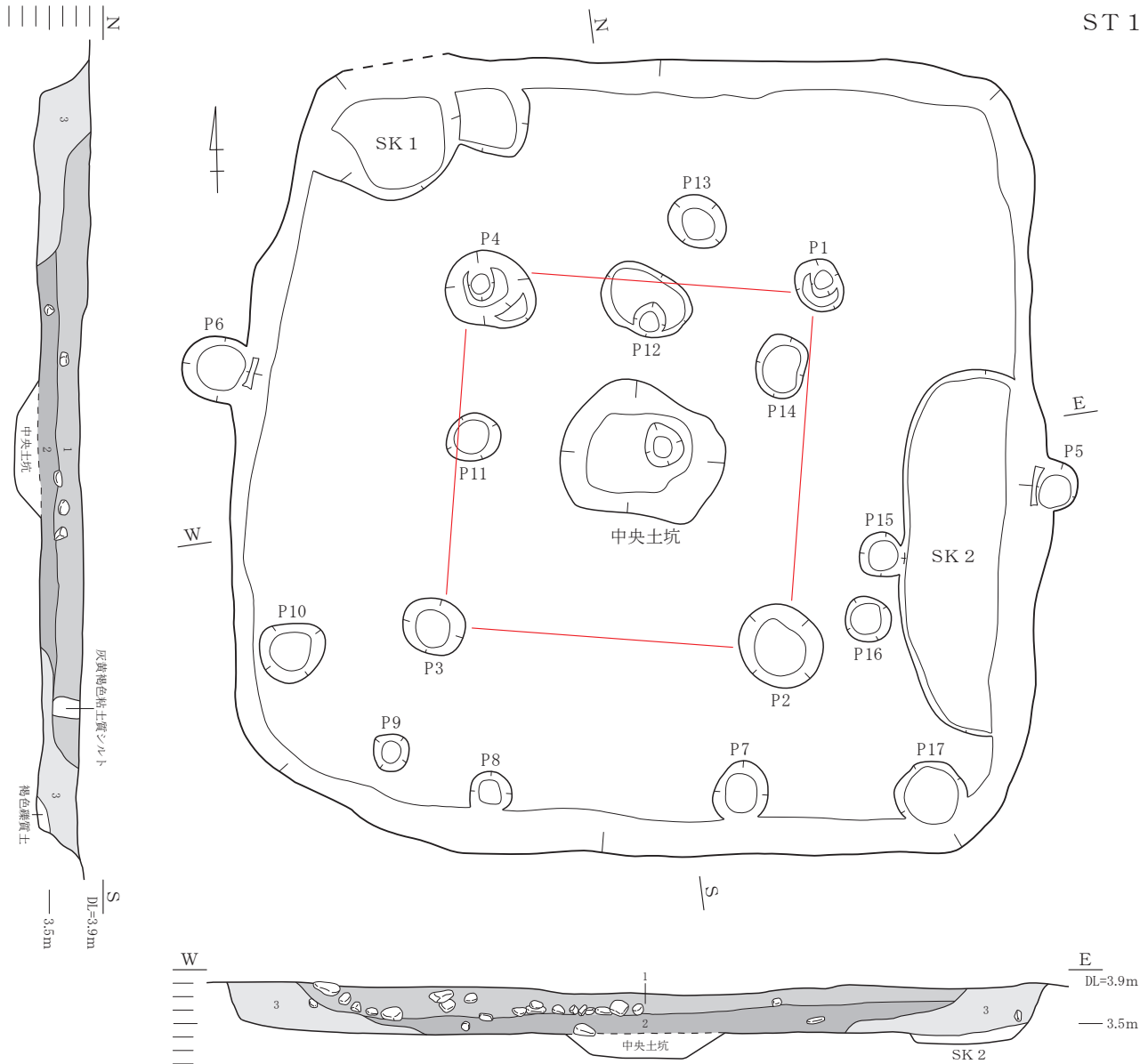
調査の手順として土層(埋土)観察用に十字形畦(バンク)を設定し、サブトレンチを加工面まで掘削して埋積過程や床面状態の把握を行い、精査して覆土を除去した。遺構埋土中の遺物は状況に応じて水平・垂直位置を計測し、個体が確認できる遺物は写真撮影等で記録した。

ST 1

調査区GⅧ・Ⅸ / HⅧ・Ⅸ / IⅧ・Ⅸグリッドに位置し、検出高は3.76mを測る。平面形態は(隅丸)方形状を呈しており、長辺(東西)約6.1m、短辺(南北)約5.9m前後を測る。上部は作土層により削平された可能性を有しており、本来の竪穴部の遺構深度は把握できないが現状で約30～40cm前後を遺存している。埋土は褐色～黒褐色シルトを基調とする。各層位は埋積に差異を看取でき、検出状況から1・2層を新層、3層を古層と位置付けている。竪穴部の掘削底面(加工面)からは扇状地性礫層を産出しており、最下層に貼床(機能面)を伴っていた可能性が考慮されるが、確認には至っていない。

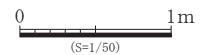
遺構の主な平面構成要素としては、柱穴及び中央土坑等を検出している。支柱穴と考えられるのはP1～4である。径約35～65cm前後、深さは20～40cm前後で多くは立柱に適合した形態を有しており、柱間寸法は径間で約2.6～2.8mを測る。埋土は黒褐色シルトを基調とし、半截による断面調査では柱痕跡等は確認できなかった。4本支柱構造であり、南北軸方向はN-5.5°-Eを指向している。対置するP2・4の埋土中からは意図的な埋置の可能性が考えられる遺物を出土している。同遺構近傍から比較的大形の扁平な礫(S1・2)を検出しているが、有意の所産に因るかは判然としない。またST1の長辺両端中央附近に位置するP5・6の底面は内傾しており、不明瞭ながら竪穴建物に附帯する構造的属性として棟持柱的な役割を果たしていた柱穴跡の可能性を思量している。また南辺に遺存する小穴(P7・8)は、出入口を構成する支柱穴跡と推量しているが、何れも概断の域を出ない。床面中央附近から中央ピットと考えられる土坑状遺構を検出している。遺構からは被熱残滓等の検出は殆ど認められず「炉」(燃烧施設)を意図した可能性は低いと考えられ、その用途は不明であるが埋土中から砥石(950)を出土している。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片約19,520点を埋存しているが、埋土は遺構廃絶後堆積層(覆土)と考えられるため、累重する出土遺物の全てを積極的に存続期間と同一視的な時間軸として帰属させることは示せない。埋土は3層に分層され、1層(暗褐色シルト)からは同土器片約6,980点、礫石器14点を出土し、図化し得た遺物の割合は埋存遺物の41%を占める。2層(黒褐色シルト)からは同土器片約6,950点、礫石器11点を出土し、図化し得た遺物の割合は37%である。3層(褐色シルト)からは同土器片約4,680点、礫石器14点を出土し、図化し得た遺物の割合は22%であるが、各層位の出土遺物に時期差は看取



ST 1

1: 暗褐色シルト 遺物・10～20cm大の礫を包含 2: 黒褐色シルト(黒ボク土) 遺物・5～10cm大の礫を包含
 3: 褐色シルト 遺物・1～3cm大の小礫を包含



第18図 ST 1 遺構平面図・土層断面図 (S=1/50)

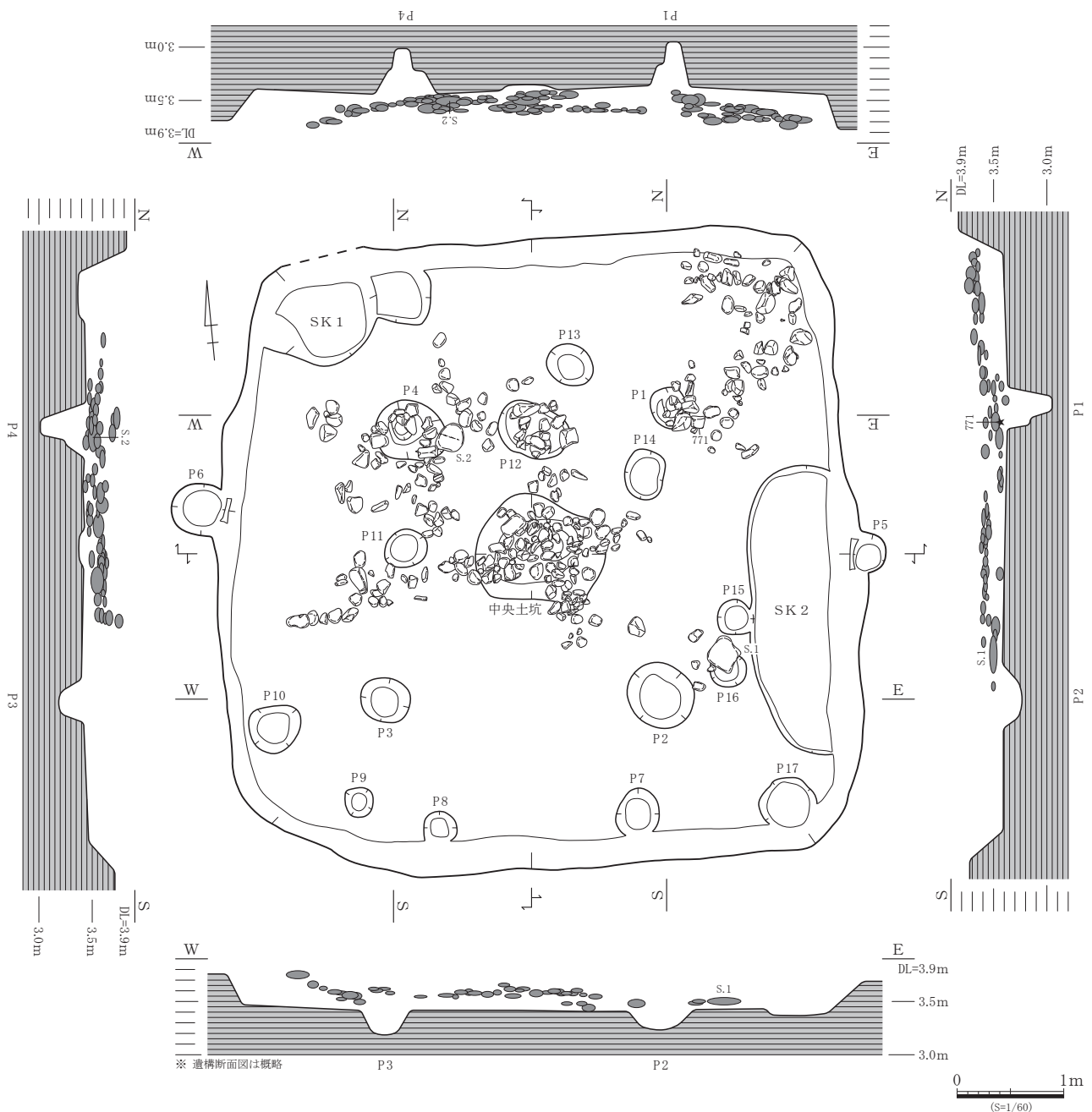
遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	出土遺物 (破片点数)	図版番号	備考
		長径	短径	深さ					
ST 1 P 1	垂円形状	40	33	43	3.369	黒褐色シルト	—	—	支柱穴
ST 1 P 2	垂円形状	65	58	19	3.414	褐色シルト	弥生土器 440点	961・962・963	支柱穴
ST 1 P 3	垂円形状	47	41	21	3.411	黒褐色シルト	礫石器(叩石) 1点	—	支柱穴
ST 1 P 4	垂円形状	68	59	43	3.435	黒褐色シルト	弥生土器 255点 礫石器 1点	964・965・966・967・968 969	支柱穴
ST 1 P 5	垂円形状	37	30	28	3.747	褐色シルト	—	—	(棟持柱状)
ST 1 P 6	円形状	50	48	25	3.802	褐色シルト	—	—	(棟持柱状)
ST 1 P 7	垂円形状	47	40	10	3.420	黒褐色シルト	弥生土器(摩耗) 9点	—	支柱(出入口)
ST 1 P 8	円形状	34	32	7	3.425	黒褐色シルト	—	—	支柱(出入口)

第5表 ST 1 主要ピット状遺構 計測表

できず、ほぼヒビノキⅢ式(古式土師器Ⅰ期併行)の範疇に纏まっている。遺物は半存個体を主体として多くは床面から遊離するなど二次廃物(廃棄資料)の可能性を含んでいるが、一括性を把握できる遺棄資料も覆土中から出土しており、有意的な埋置が行われた可能性を示唆している。

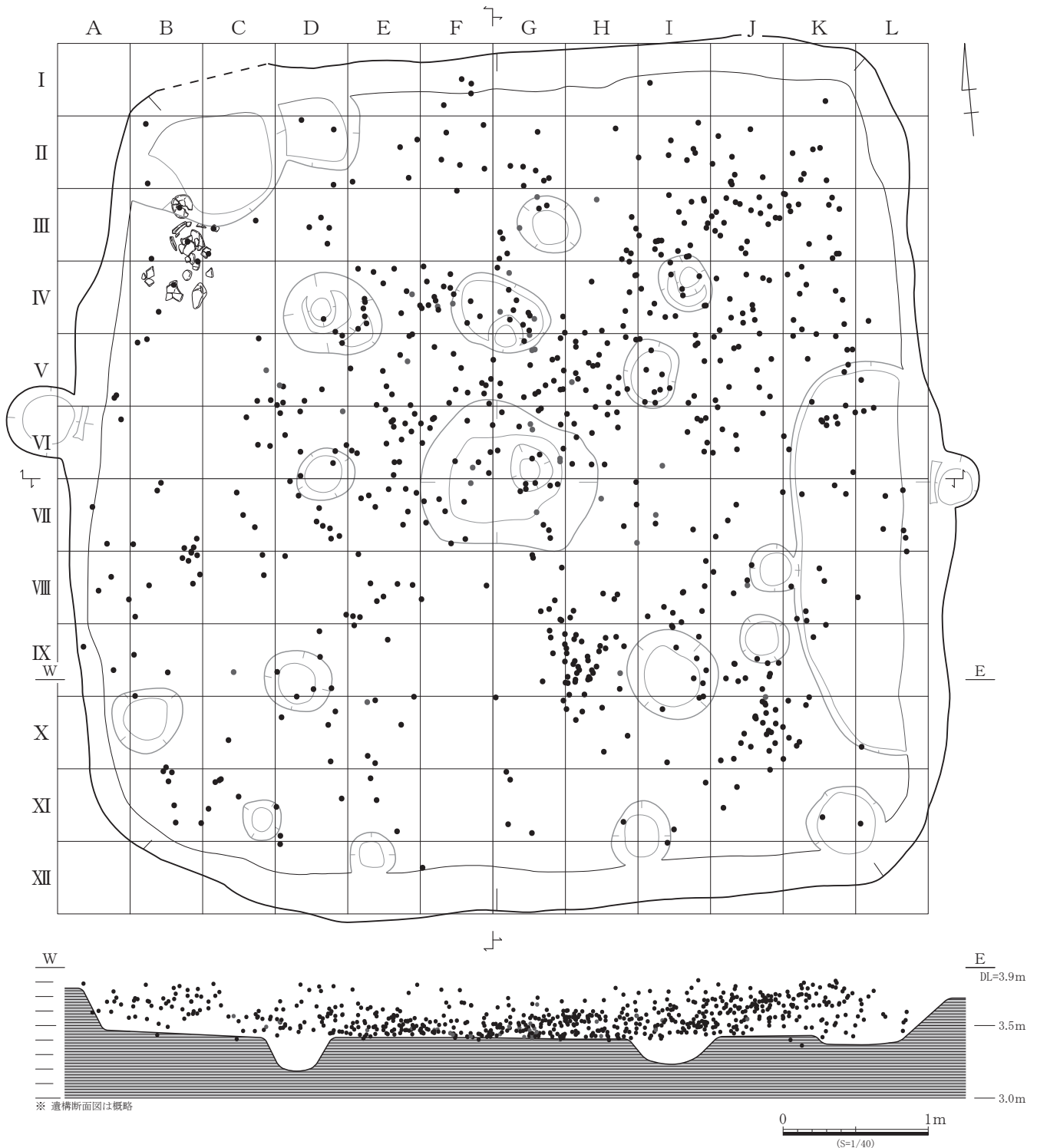
埋土中から粒径5～30cm大の粗細粒砂岩を主体とする円礫～垂円礫約300個を検出した。竪穴遺構の北半を中心に偏在している状況が看取できる。礫群はほぼ1層乃至2層にかけて定高性を有して散在しており、遺構廃絶に伴って意図的に投棄された可能性が推察される。また多くの土器片(個体)の混在(埋置)がみられなど、埋積過程での儀礼的行為の一端とも見て取れる。

本書図版において遺物等の出土位置を示した垂直分布図は、空間的上下関係を重複的に模式図化したものであり、主に遺構断面図などに掲載している。また模式図化に対応した礫等は便宜上実物とは異なる色調で着色し、垂直縮尺は全厚2/3程度に縮尺して表示している。



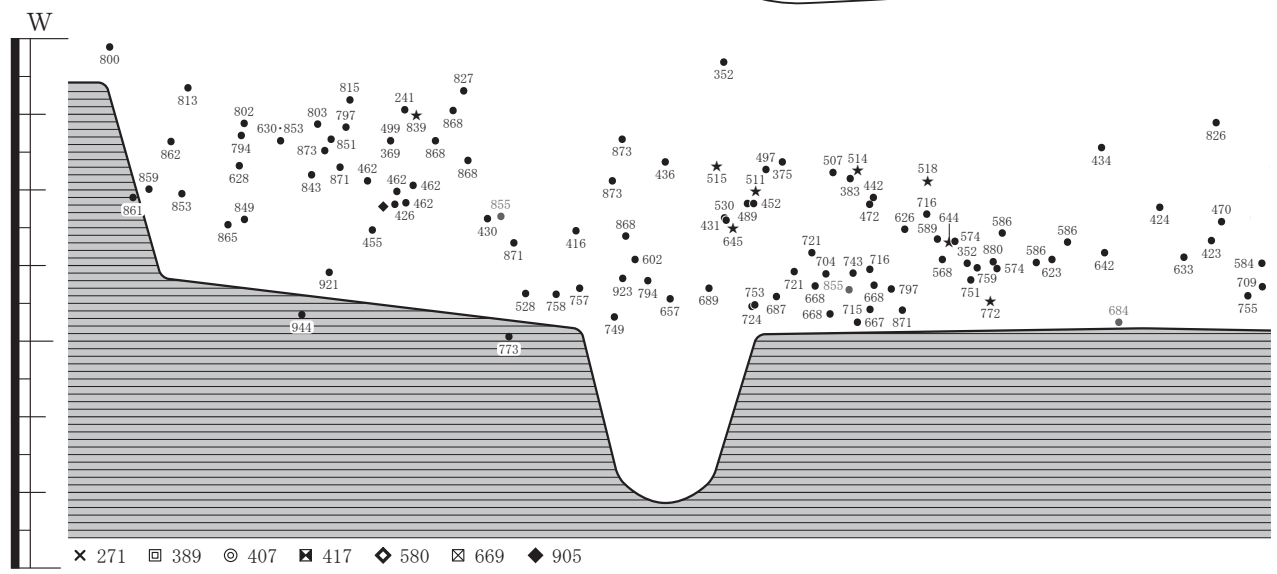
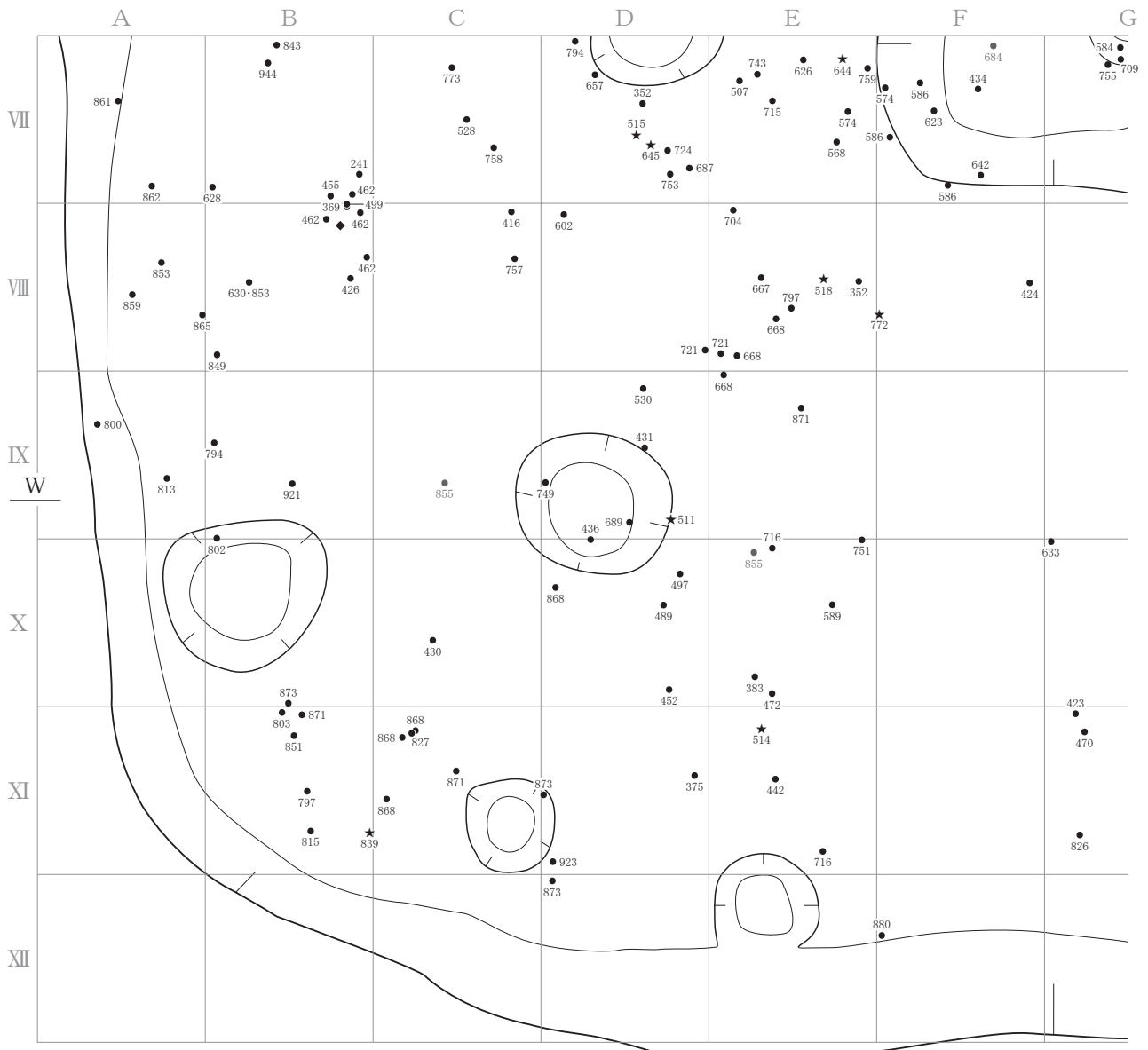
第19図 ST 1 礫群検出状態図・断面図 (S=1/60)

本調査では出土した遺物片約 1,240 点について出土地点の計測を記録し、図化し得た約 480 点を水平・垂直分布図で図示している。便宜的に一辺 50 cm のグリッドを任意に設定し、番号を附して表示することで出土地点や接合関係(同一個体)の把握を容易にすると共に、遺物の粗密を看取できるようにした。尚、第 21 ~ 24 図については水平分布図の縮尺は 1/20 であるが、垂直分布図は重複を緩和する目的で 1/10 としたため、断面図に図示している分布図は水平・垂直方向で縮尺が異なっている点を留意して頂きたい。また一部の遺物については記号化して表示し、濃度の薄い点は未接合資料を表現している。

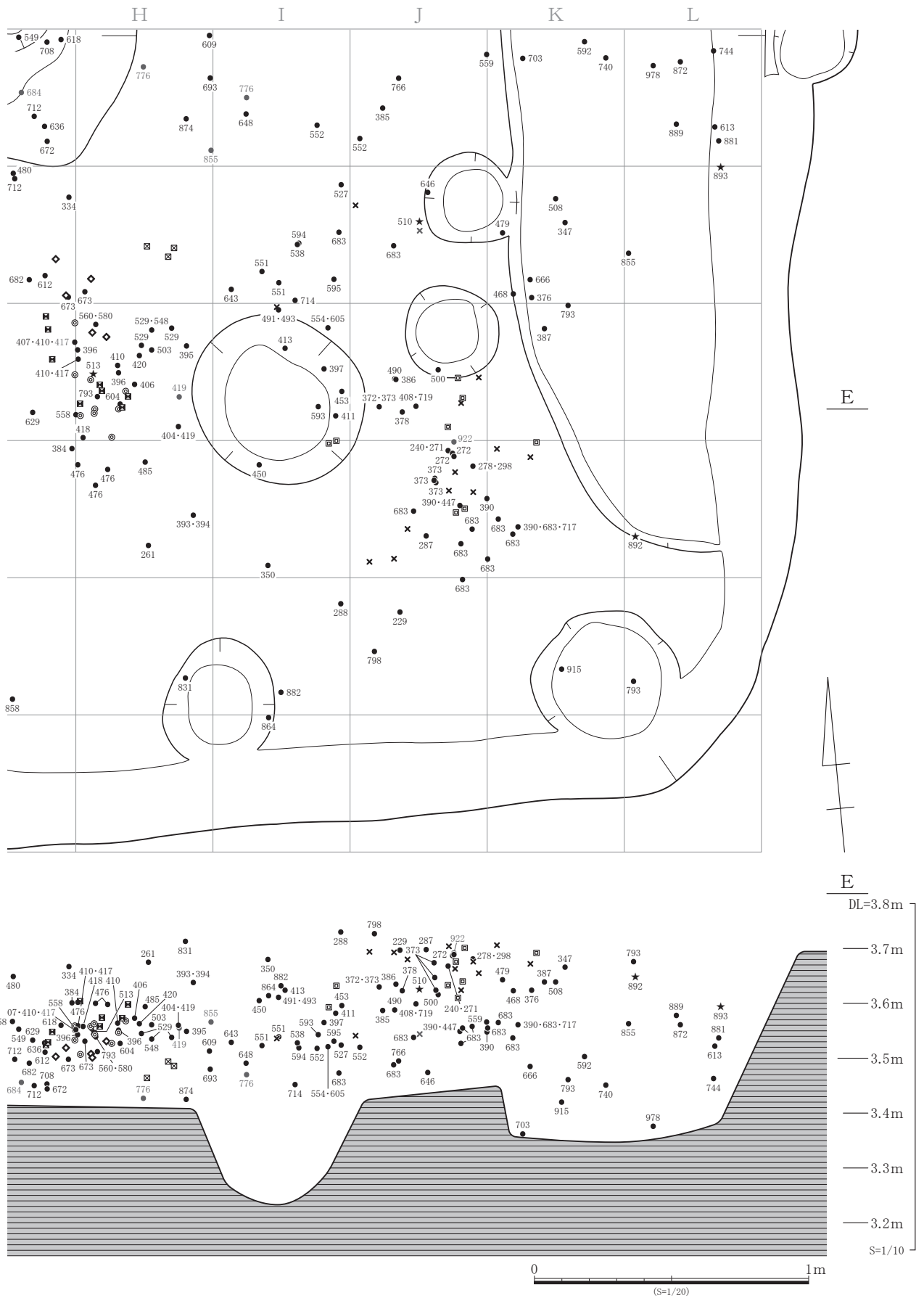


第 20 図 ST 1 出土遺物分布図 (S=1/40)

第三章 調査の成果

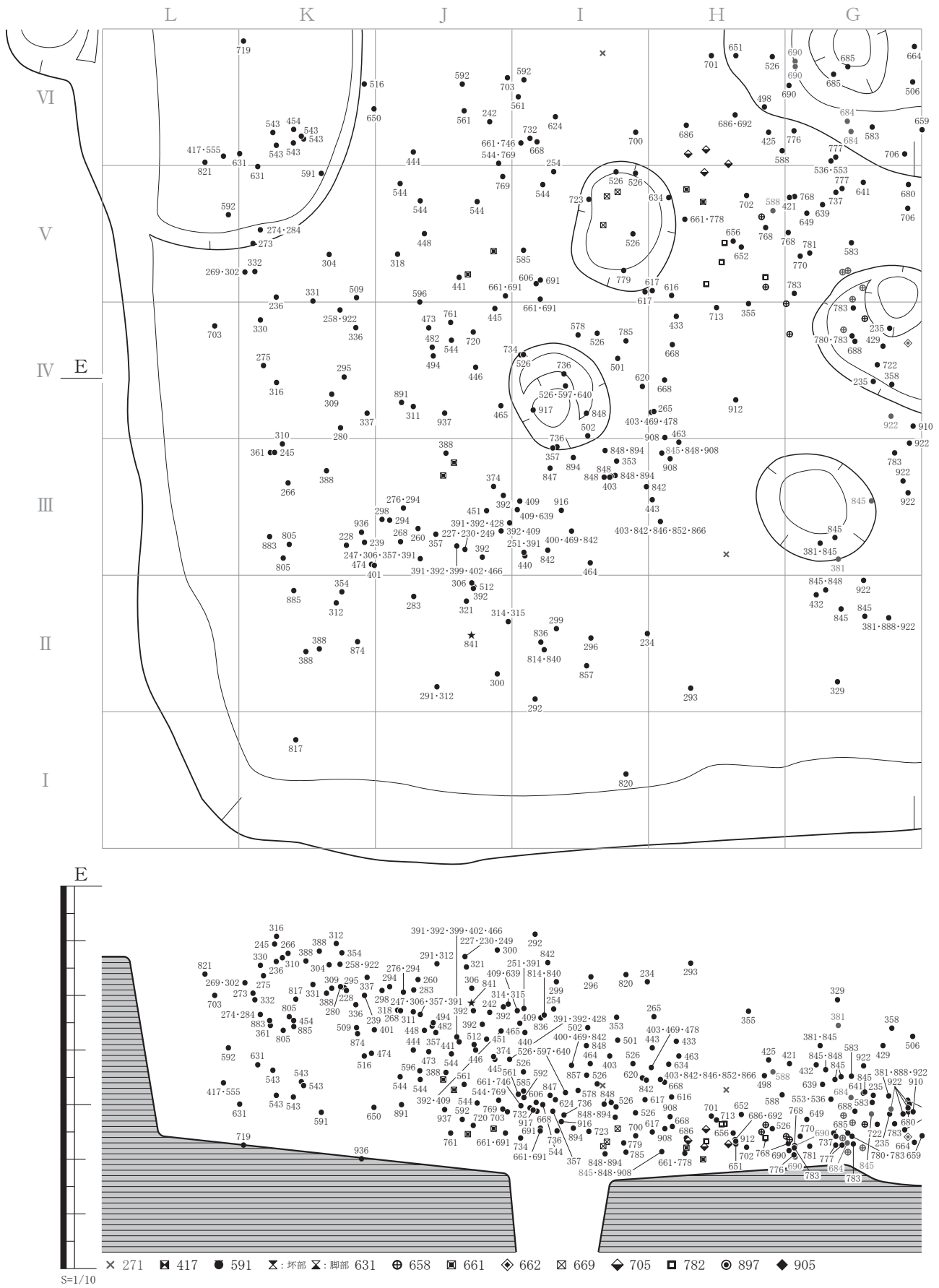


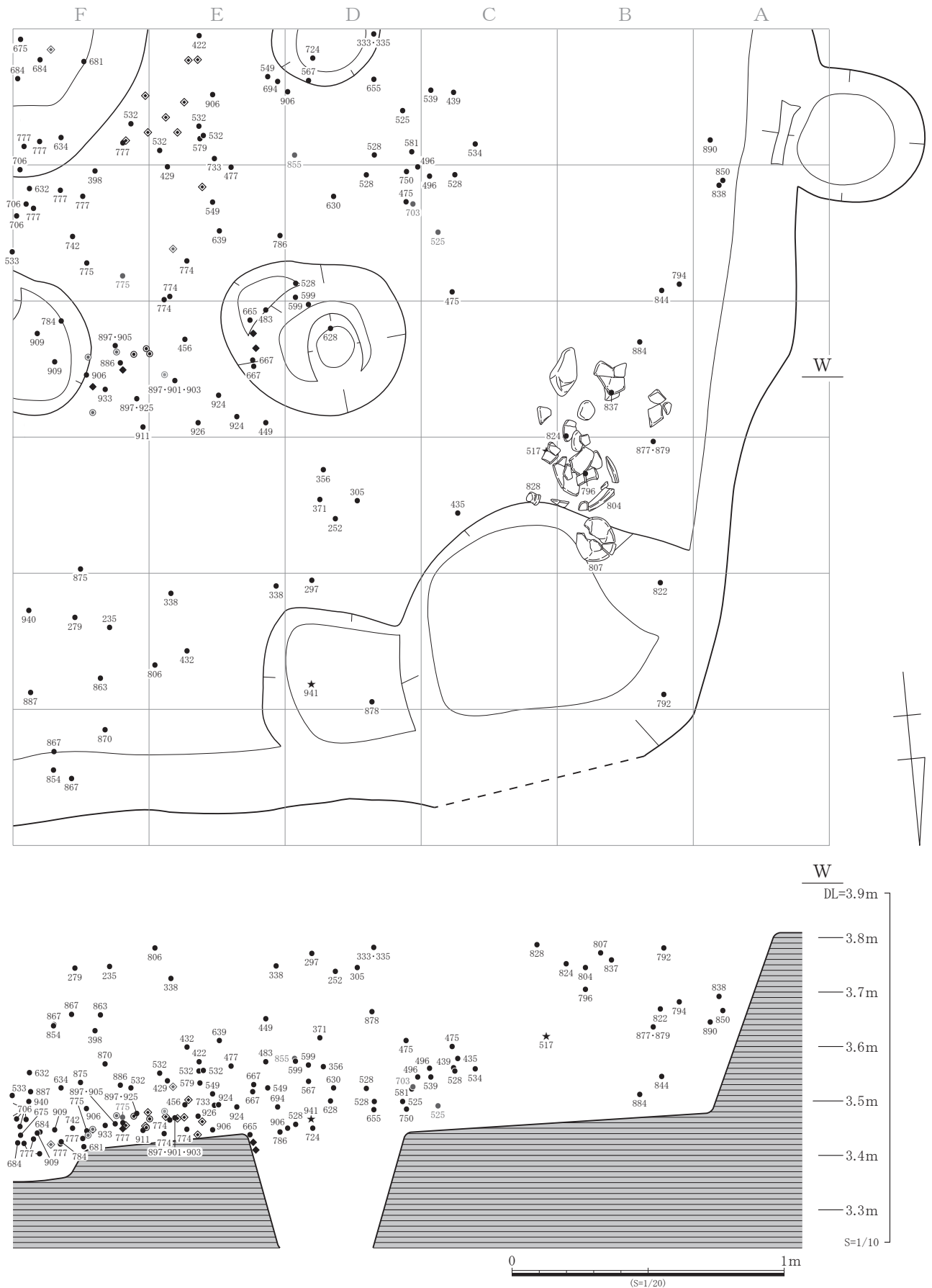
S=1/10



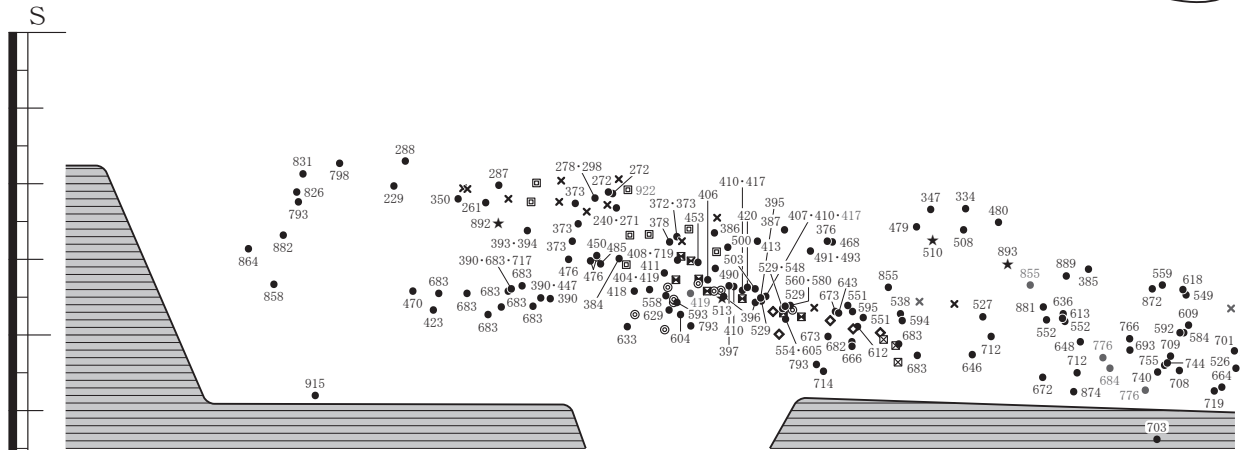
第 21 図 ST 1 出土遺物分布図：南半 (S=1/10・20)

第三章 調査の成果





第 22 図 ST 1 出土遺物分布図：北半 (S=1/10・20)



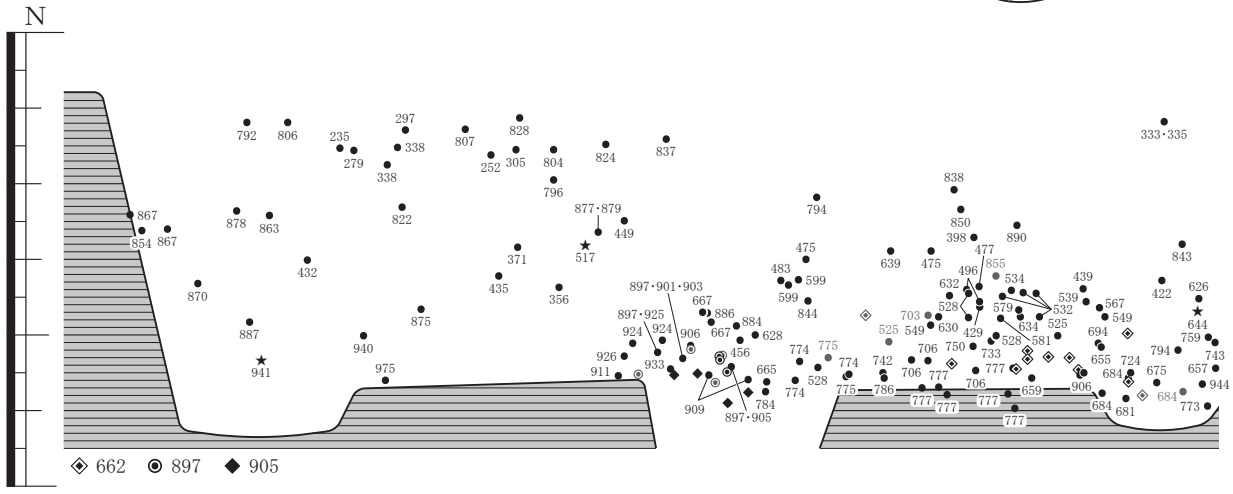
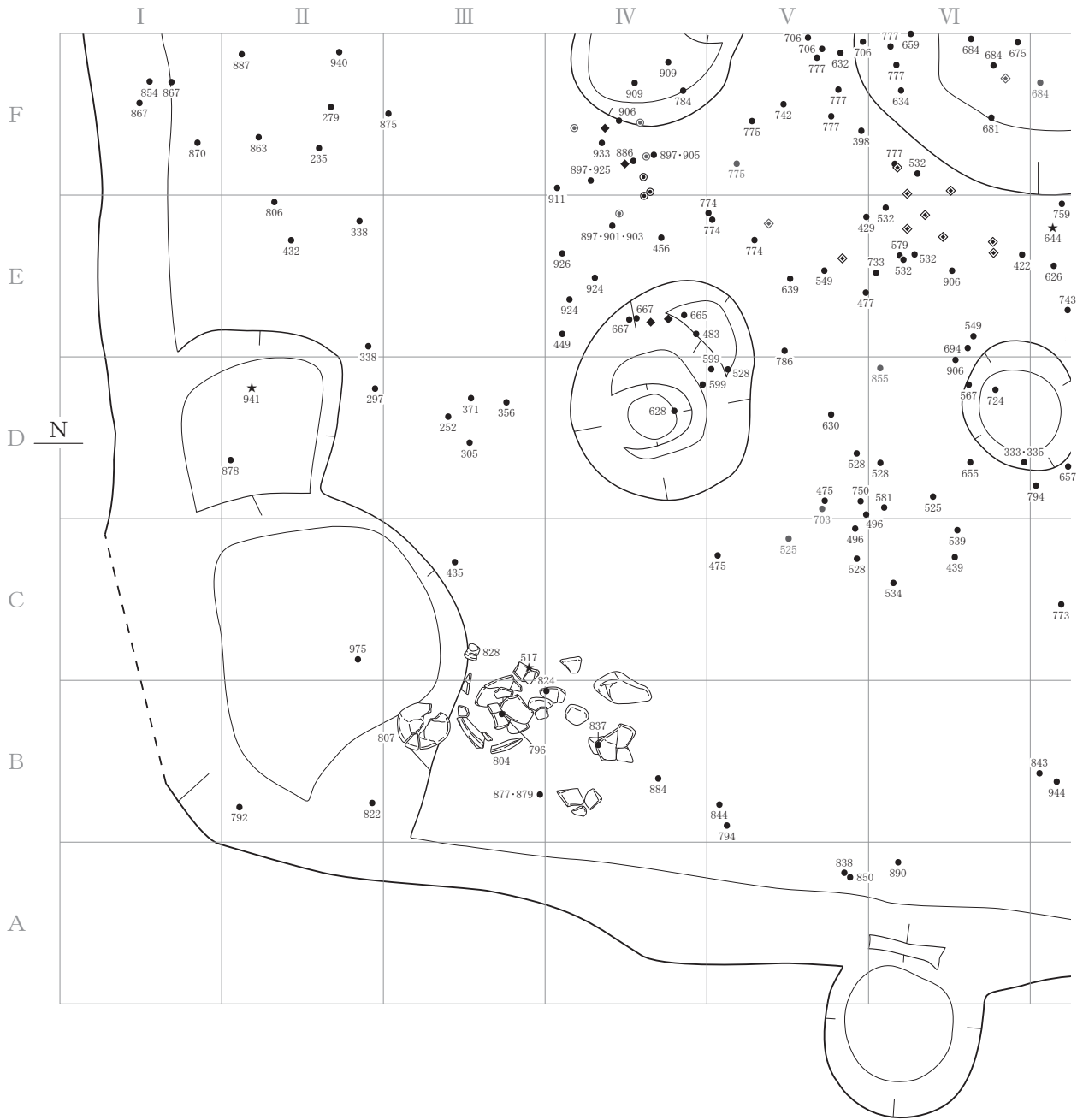
x 271 □ 389 ○ 407 □ 417 ◇ 580 ● 591 x 壊部 x 脚部 ○ 631 ○ 658 □ 661 ◇ 662 □ 669 ◇ 705 □ 782

S=1/10



第23図 ST 1 出土遺物分布図：東半 (S=1/10・20)

第三章 調査の成果



弥生土器

ST 1 から出土した当該期資料群の主要な器種構成は壺、甕、鉢、高坏、土製支脚などである。可及的に図化し得た遺物は、第 25 ～ 68 図に出土した層位を基準に図示しており、組成比率については各々の実測遺物数を概算の算定資料としたが、可能性を有する遺物も含まれている。

壺：当該遺構における壺形土器の割合は 14% を占める。図化は可能性を含めて 97 点を数え、該期に特徴的な小型丸底壺は 6 点を出土している。口縁部は広口壺を呈した形状が多く、直口壺や複合口縁壺とされる遺物も出土している。356 は東阿波型土器を模倣した在地産と考えられ⁽¹⁾、小型丸底壺(371)と伴出している。完形資料は 2 点(842・962)と僅少なながら何れも胴部形態は球形状で底部は丸底状を呈している。出土層位はピット状遺構(支柱穴)や 3 層であるなど古層からの出土である。一方で小型丸底壺の多くは 1 層(新層)からの出土であり、若干の差異を看取できる。

甕：当該遺構における甕形土器の割合は 38% を占める。図化は可能性を含めて 270 点を数え、搬入品と考えられる東阿波型土器は 3 点を出土している。口縁部が「く」字形に外反する形状が多いが、頸部からの屈曲が緩やかな遺物もみられる。胴部形態は最大径が中位乃至中上位に位置する長胴形で、楕円形状を呈する個体も出土している。また胴部が丸みを帯びる形状も存在する(388・662・846)。器面の叩目の刷毛による調整範囲は下胴部にほぼ限定され狭小となる傾向を示し、底部は丸底化を指向している。

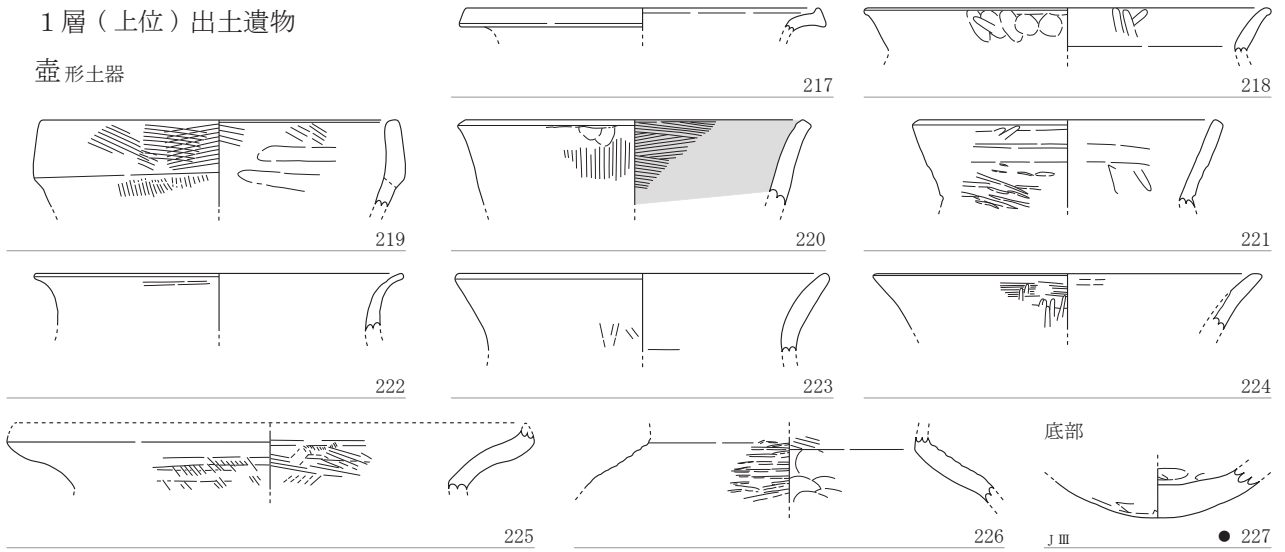
鉢：当該遺構における鉢形土器の割合は 35% を占め、図化は可能性を含めて 244 点を数える。器形は多様化の様相を見せ、従来の鉢状形態に加え碗状を呈したものと手捏ね成形を主体として形状に歪みを生じた小皿状の遺物の他、半球体形状の体部から口縁部が屈曲して外傾し、底部が丸底状を成す新相の器形も出土している。また平底状の角を潰して丸底化を指向した坏状の形態も存在する。杯状を呈した小形の手捏ね成形土器もみられ、314 と 315 は入れ子状態で埋存していた。他に脚付鉢と考えられる遺物も 11 点出土している。尚、923 は器台(脚部)の可能性を含んでいるとの指摘もある⁽²⁾。

高坏：当該遺構における高坏形土器の割合は 9% を占める。図化は可能性を含めて 64 点を数えるが、完存個体は 631 のみである。筒状(中空)又は円柱状(中実)の脚部から「ハ」字形に有孔の裾部を有するものや、低脚状を呈する遺物がみられるが、出土遺物の残存率が小片であるため観察の範囲は限定的である。坏部は有稜状を成すものや碗状を呈する形状などがあり、628 は有稜で坏部が斜め上方に直線的に立上っているなど該期に特徴的な高坏形土器であるとされている。

支脚：当該遺構における支脚形土器の割合は 4% を占める。残存率は低く、脚底部等を主体として図化し得た個体数は可能性を含めて 30 点を数えるが、破片資料だけでなく概形が判別できる個体も少量ながら出土している。主な遺物は器高が高く、脚底部は「ハ」字形で体部が中空乃至上げ底状を呈し、上部に二又の指状部(角状突起)を有して受け部とする形態が多い。508 は燃焼が比較的堅緻であり、体部に穿孔痕(未貫通)を有しているなど、山陰系の所産の可能性が指摘されている⁽³⁾。他に 770 は上面が環状(凹面)を呈して受け部とする形態であり、940 は円柱形(低脚)の土製支脚である。尚、836 の脚部上端は変色(溶解)し、またその形状などから転用羽口の可能性を含んでいると思われる。

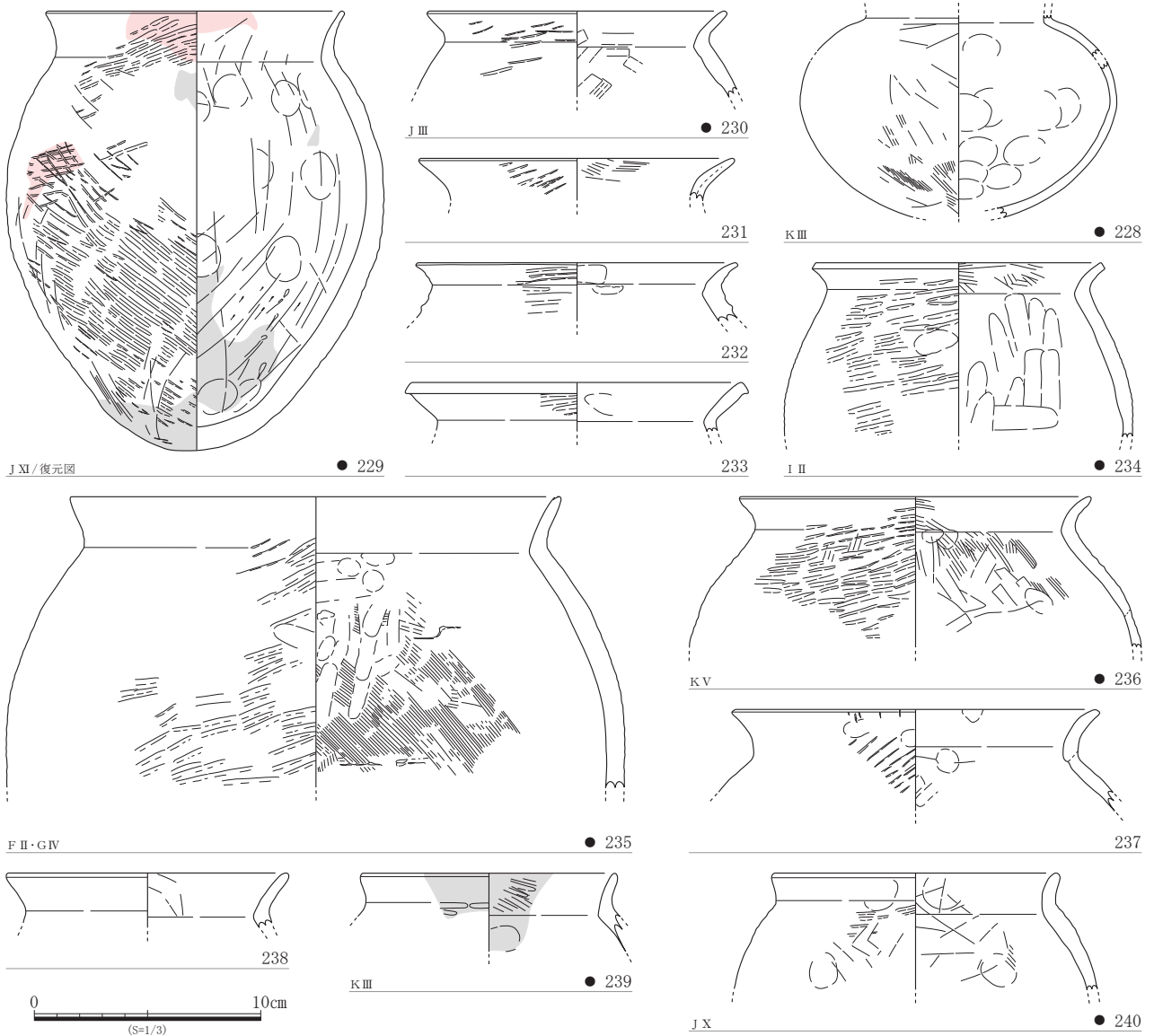
1層(上位)出土遺物

壺形土器

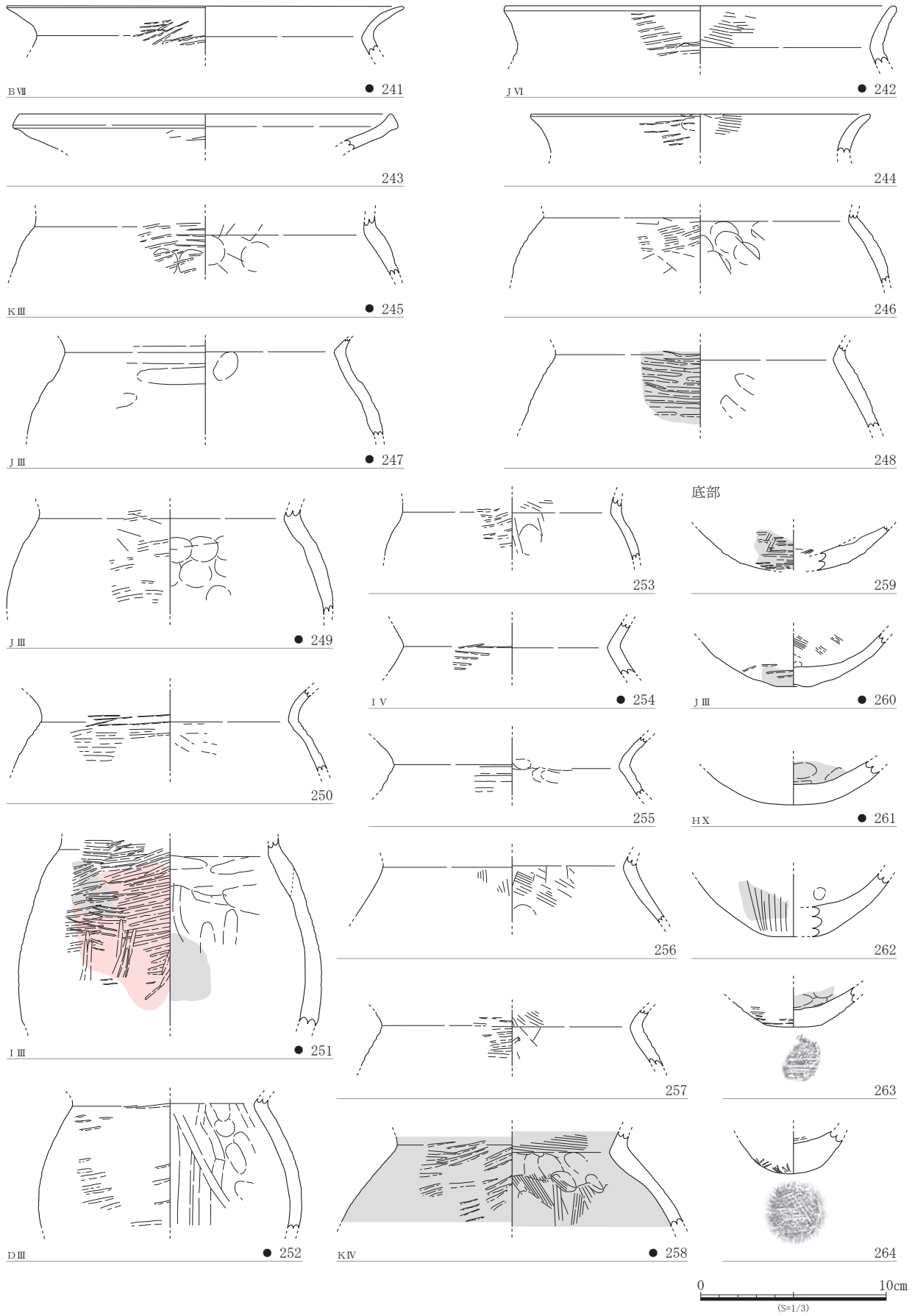


甕形土器

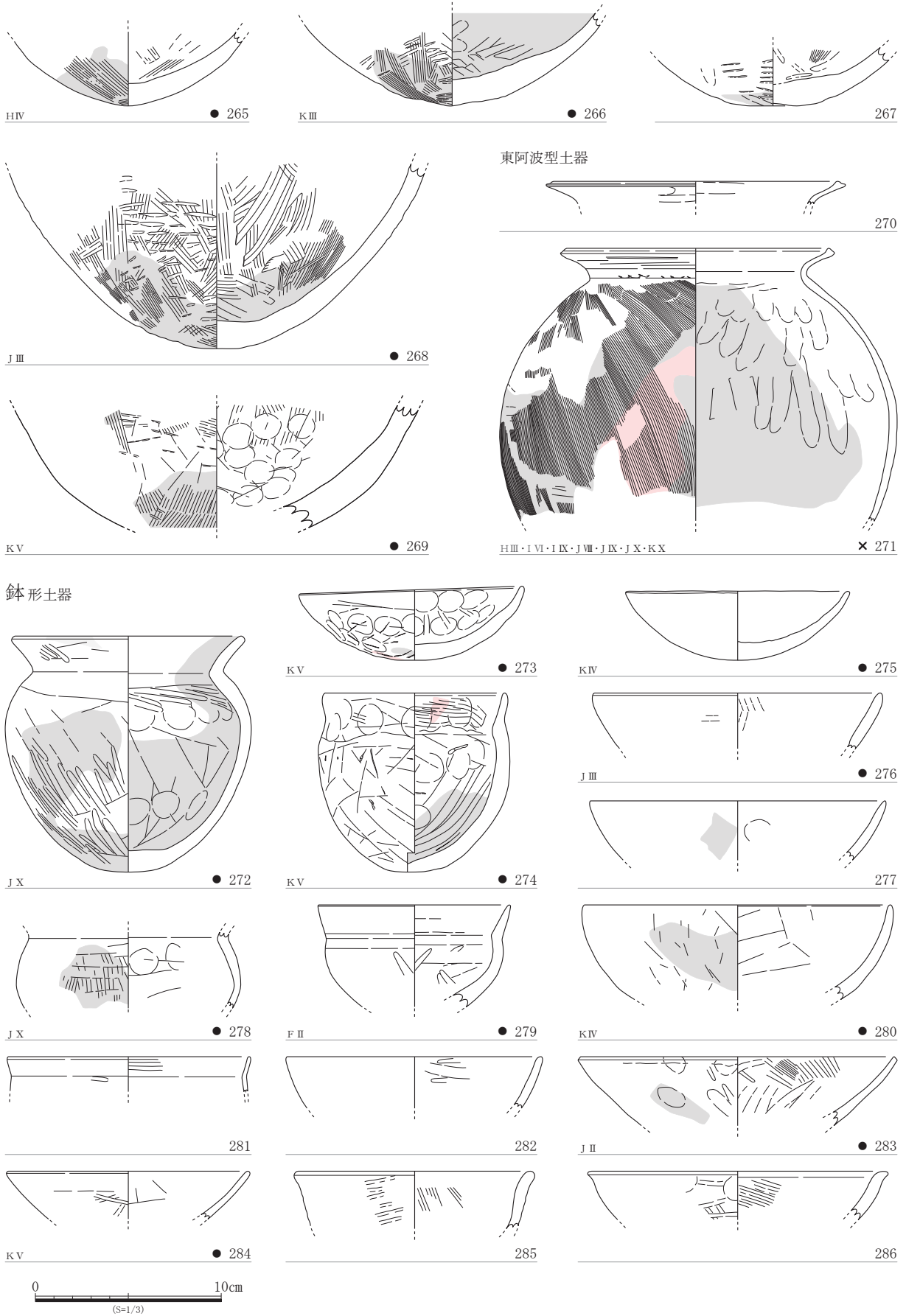
小型丸底壺



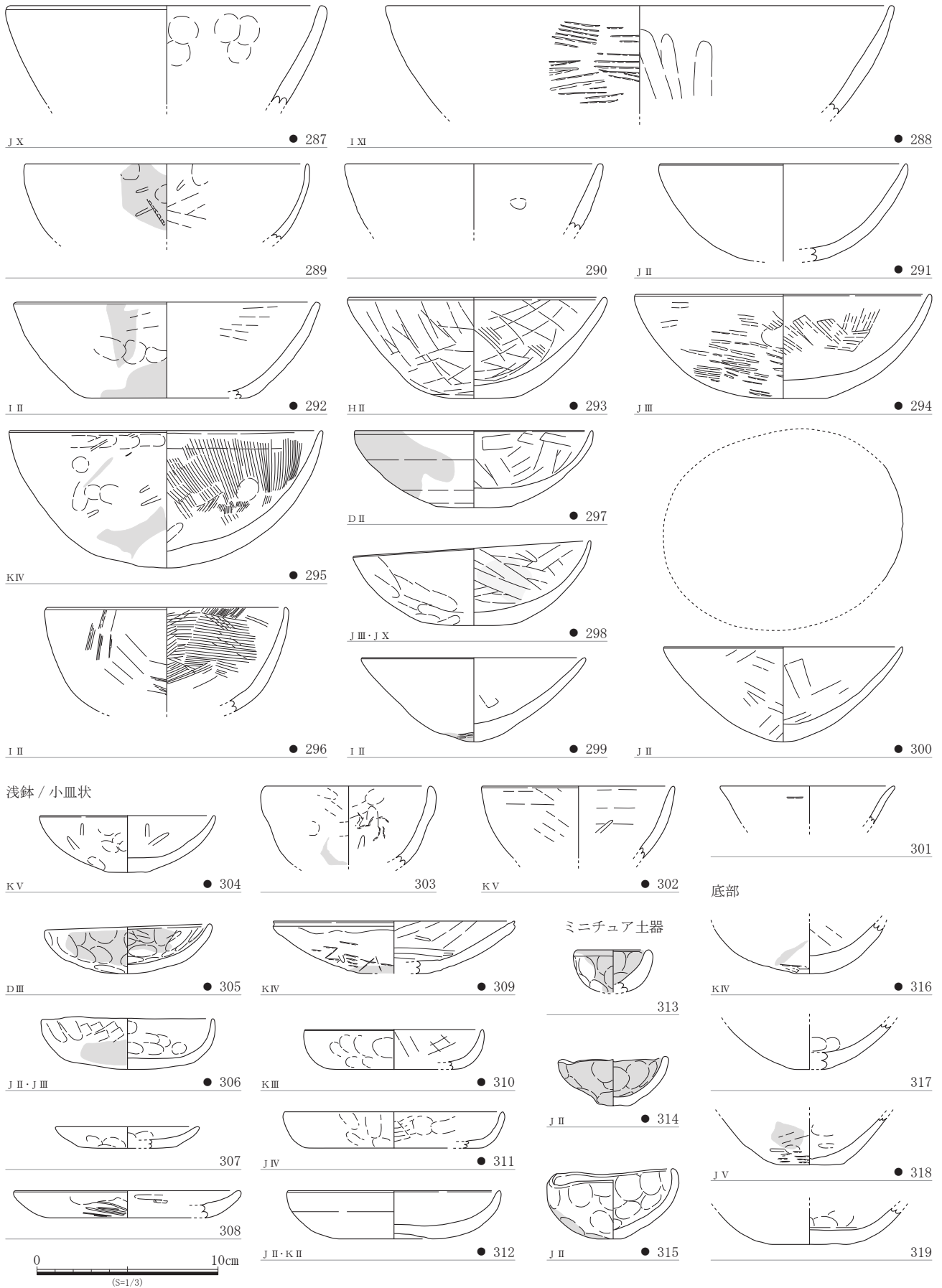
第25図 ST 1 出土遺物実測図1 (S=1/3)



第26図 ST 1 出土遺物実測図2 (S=1/3)

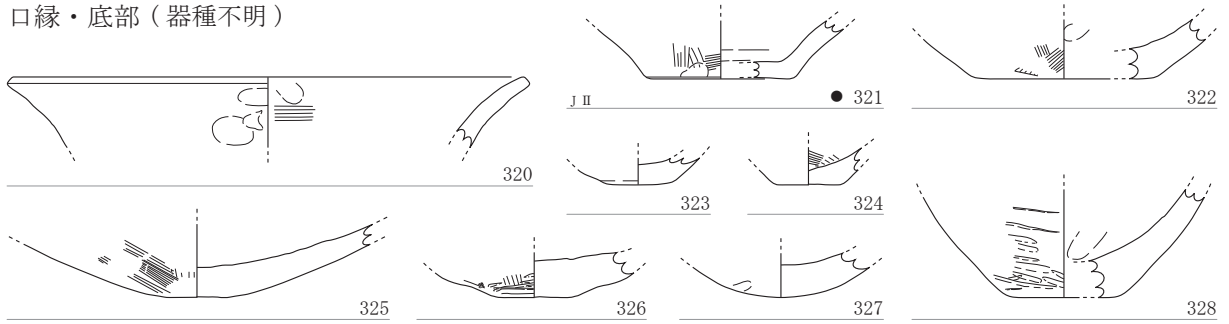


第27図 ST1 出土遺物実測図3 (S=1/3)

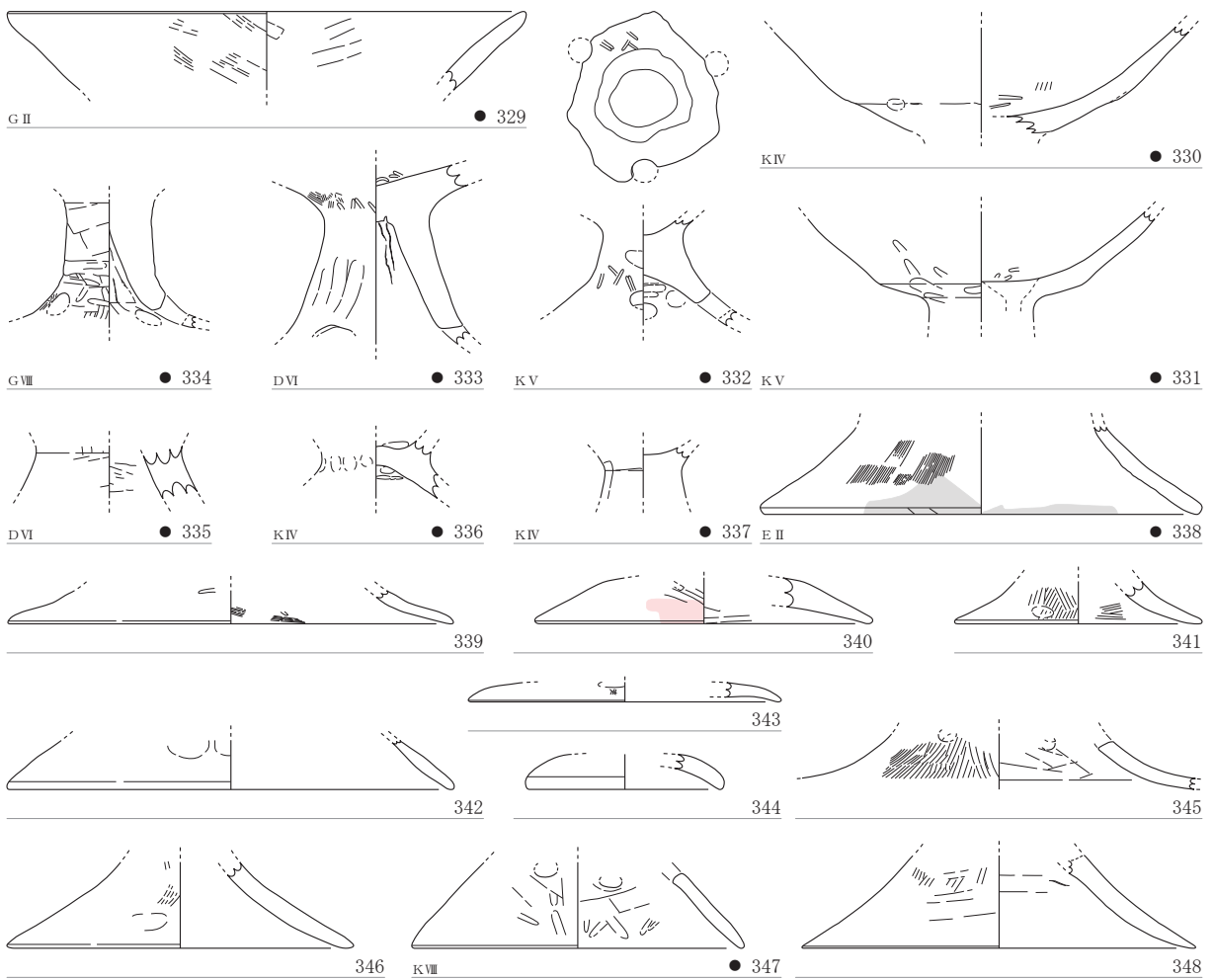


第28図 ST 1 出土遺物実測図4 (S=1/3)

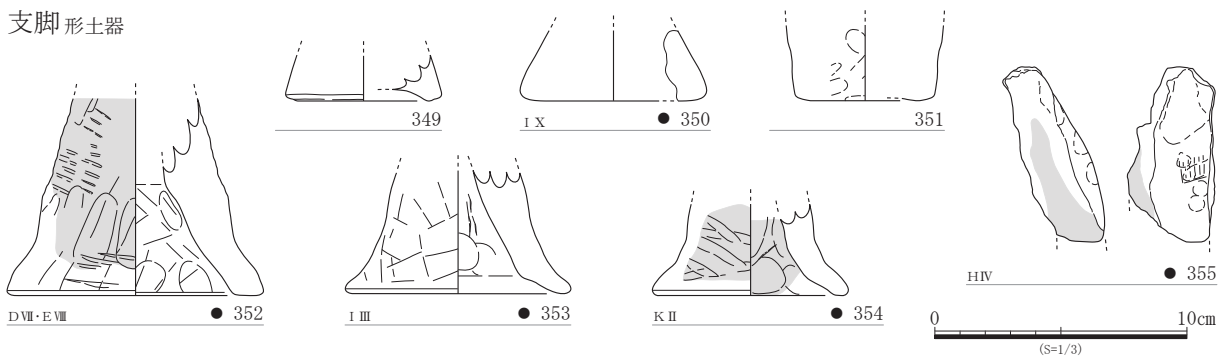
口縁・底部（器種不明）



高坏形土器



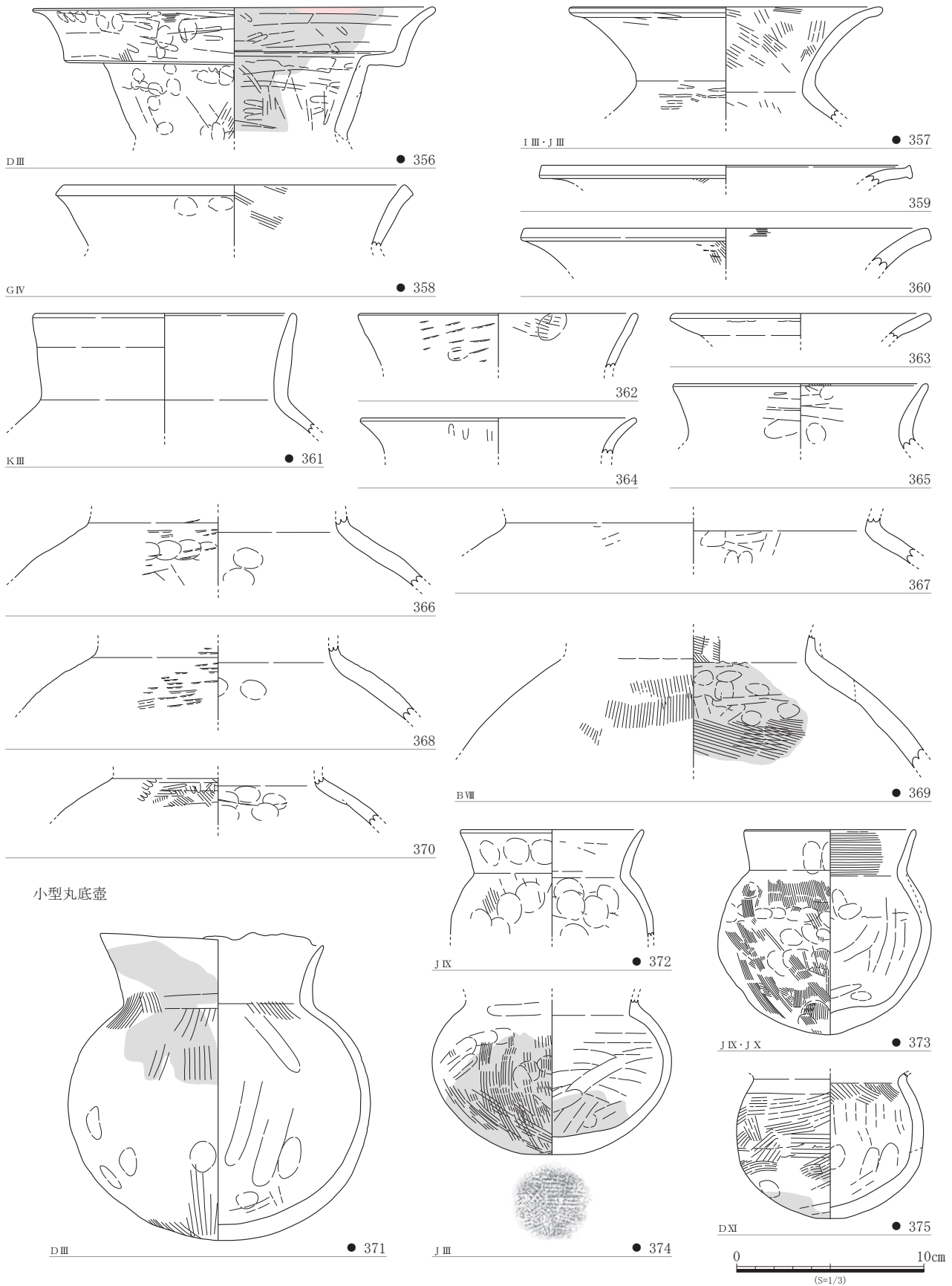
支脚形土器



第29図 ST1 出土遺物実測図5 (S=1/3)

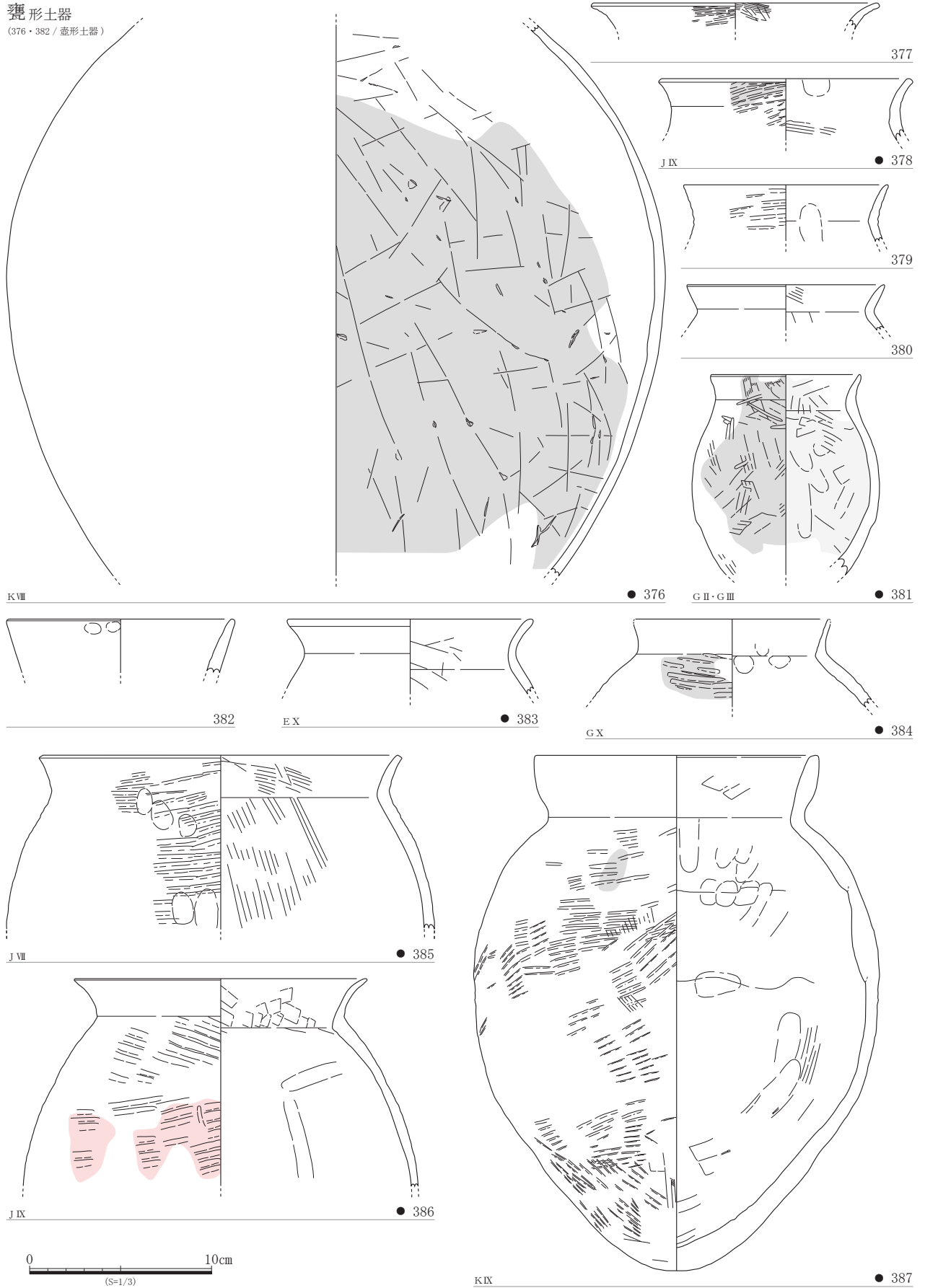
1層（下位）出土遺物

壺形土器

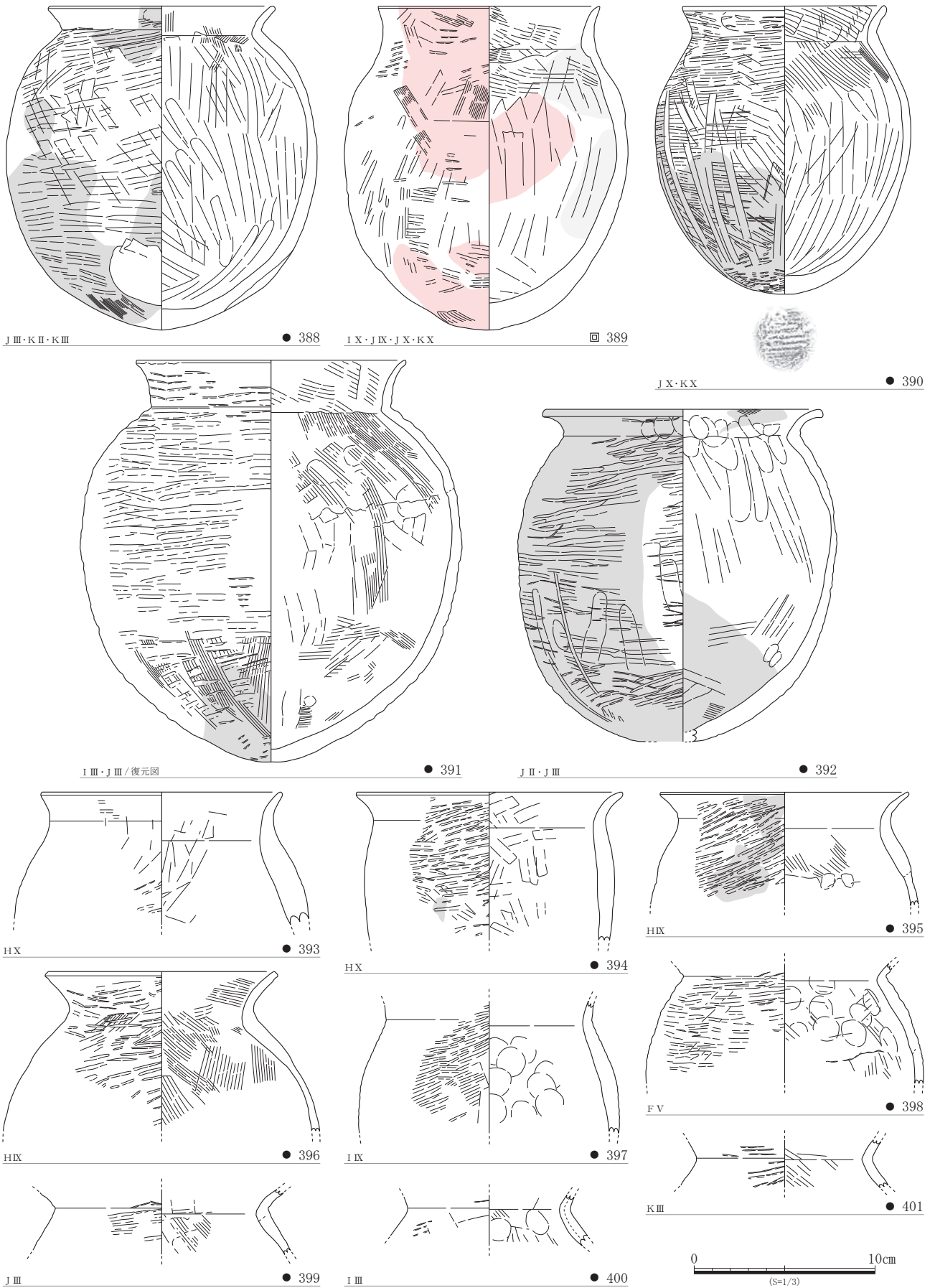


第30図 ST 1 出土遺物実測図6 (S=1/3)

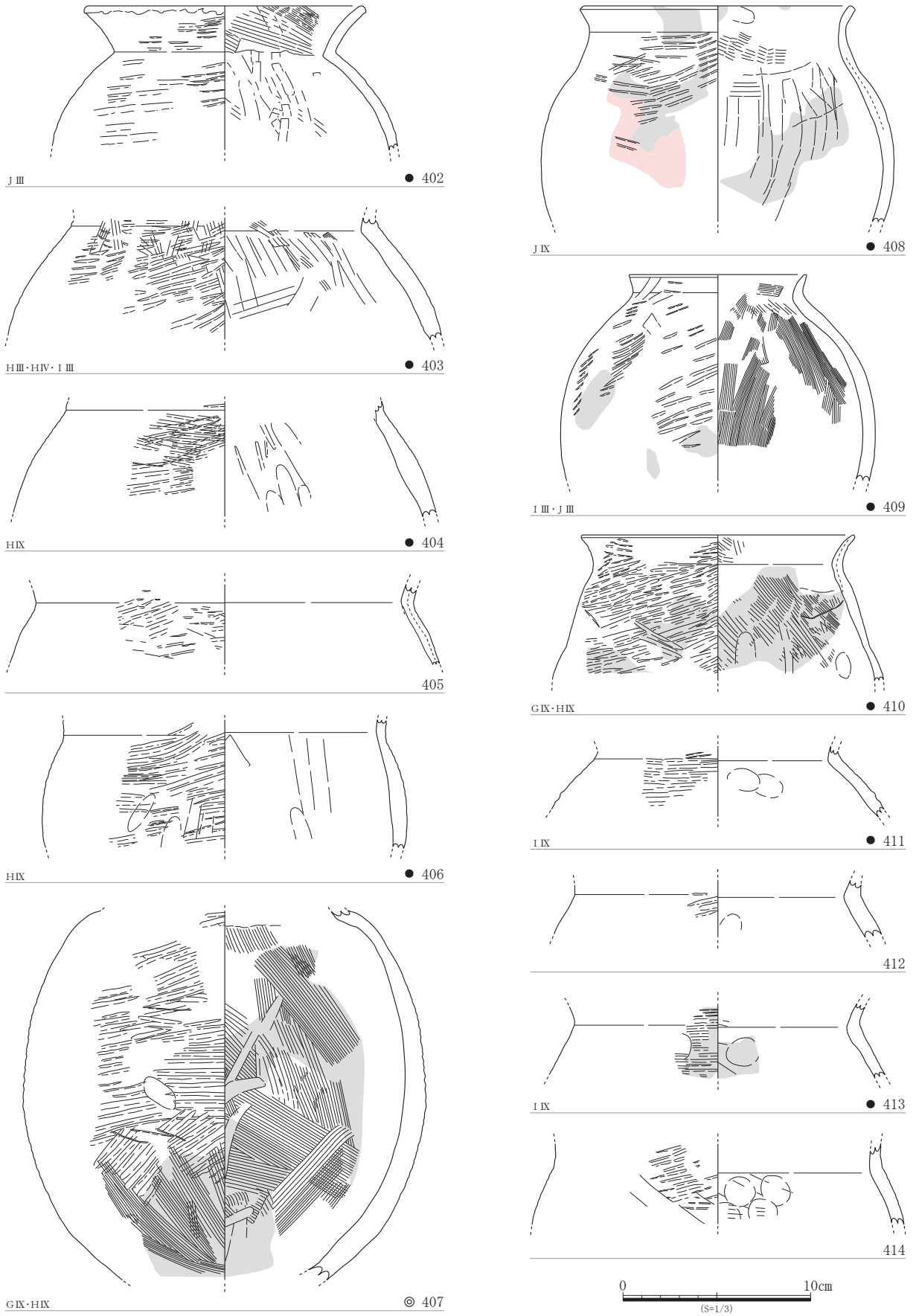
甕形土器
(376・382 / 壺形土器)



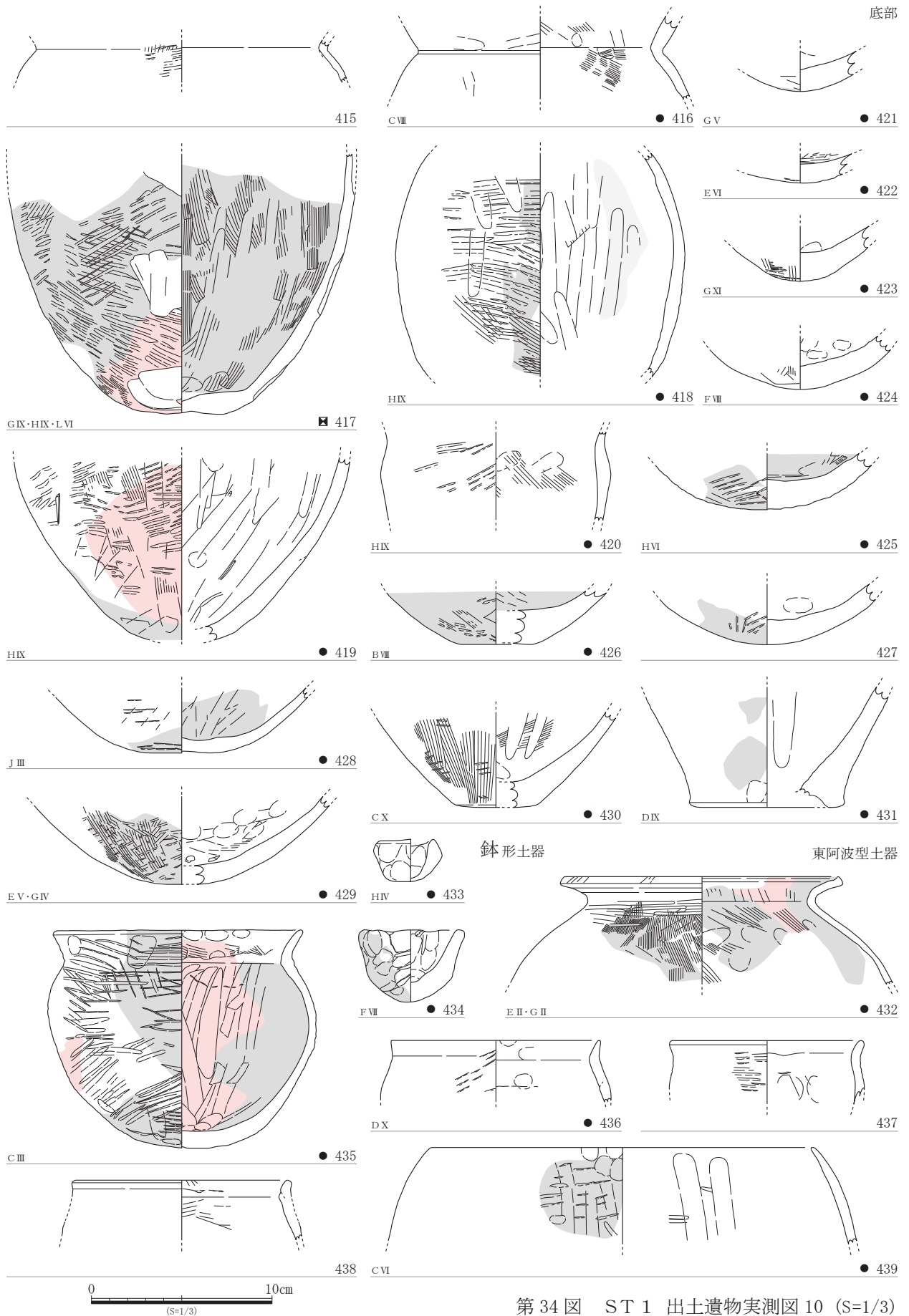
第31図 ST 1 出土遺物実測図7 (S=1/3)



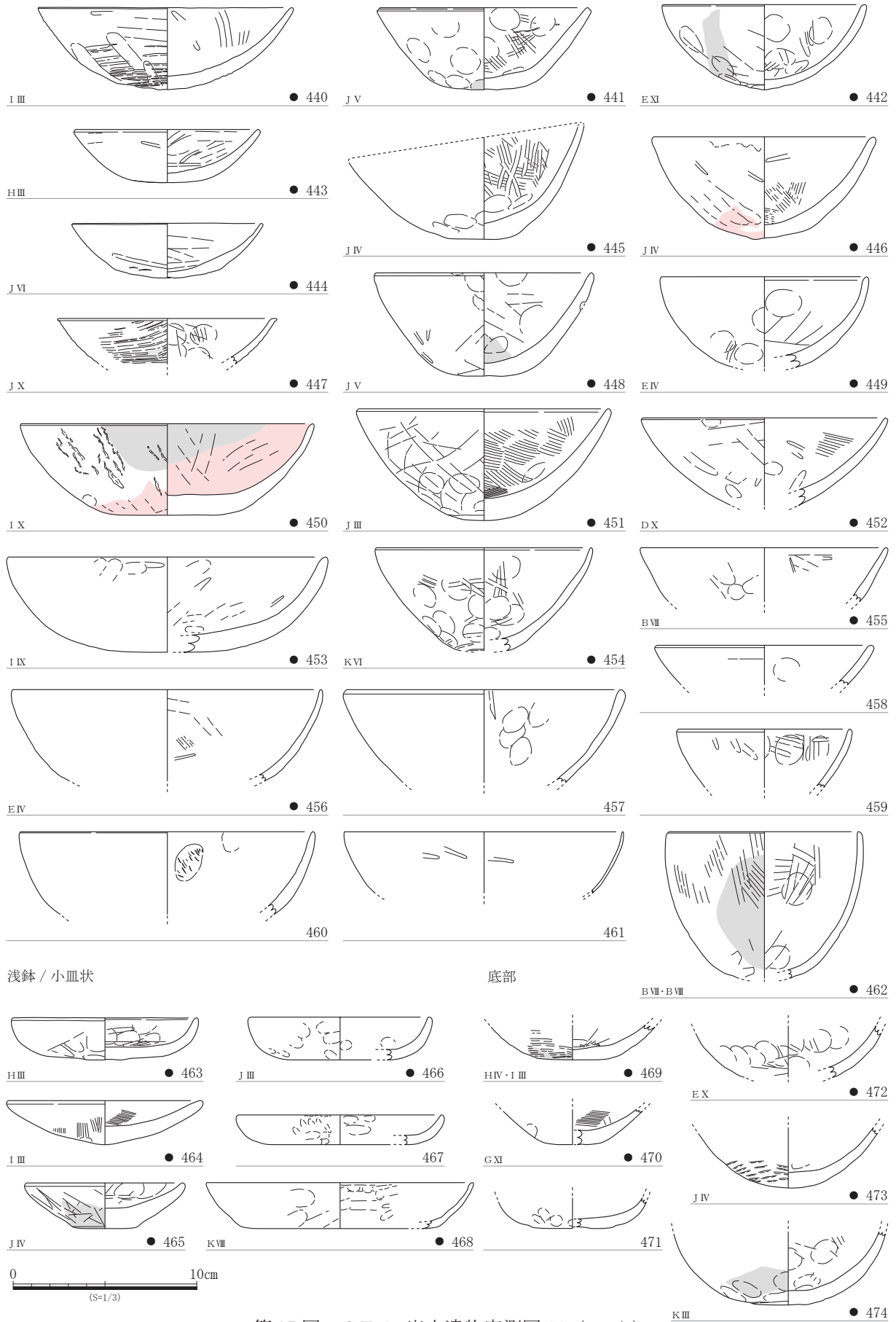
第32図 ST 1 出土遺物実測図 8 (S=1/3)



第33図 ST 1 出土遺物実測図9 (S=1/3)

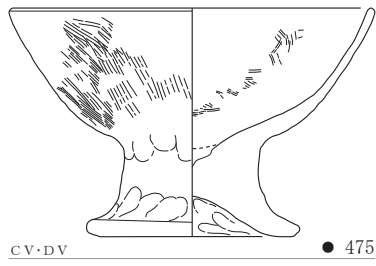


第 34 図 ST 1 出土遺物実測図 10 (S=1/3)

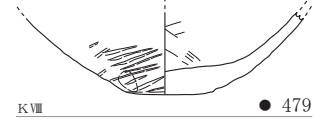
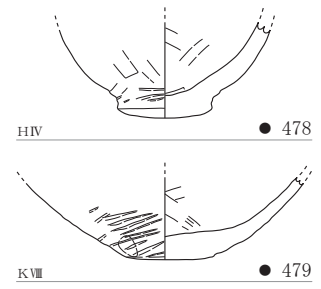
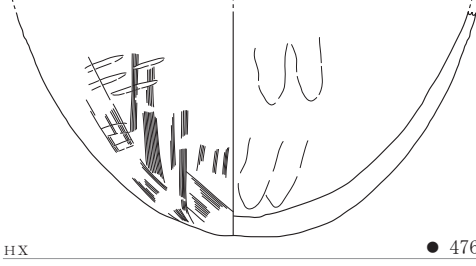


第35図 ST 1 出土遺物実測図 11 (S=1/3)

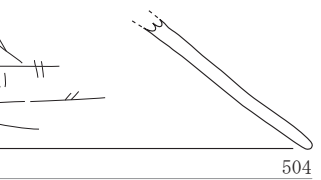
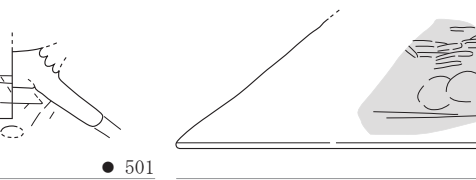
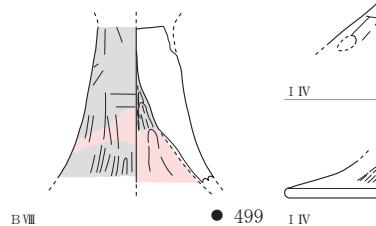
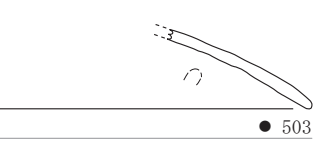
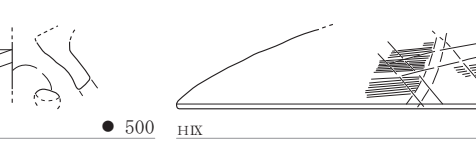
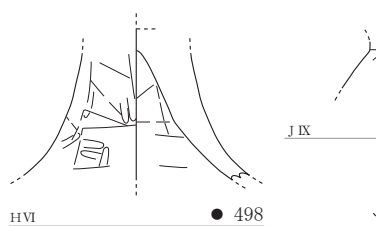
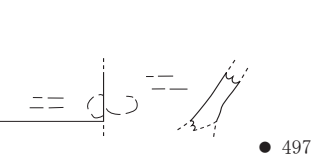
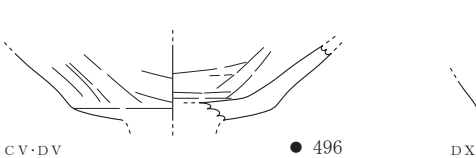
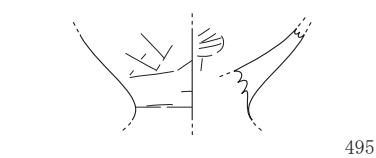
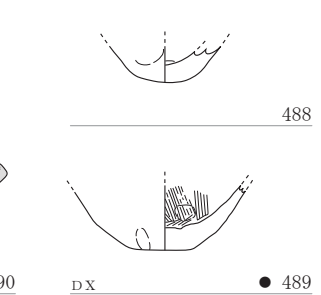
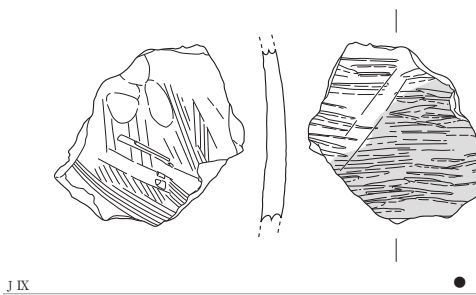
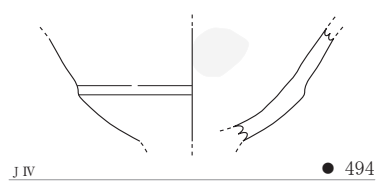
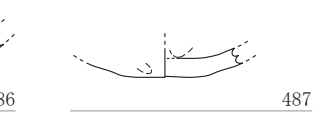
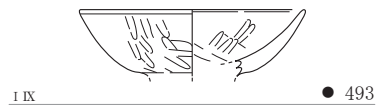
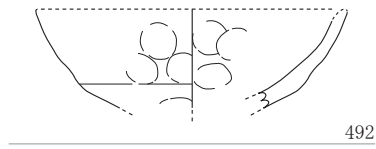
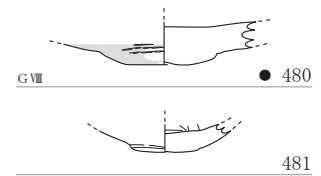
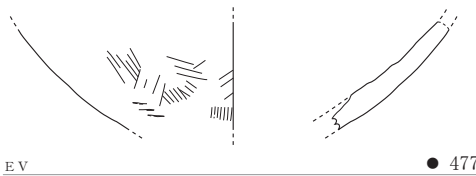
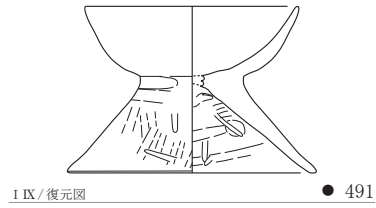
脚付鉢



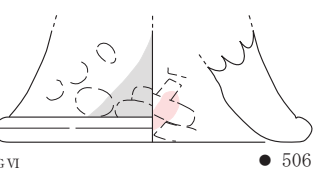
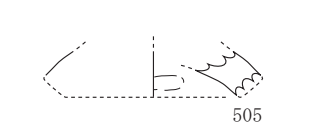
底部・他（器種不明）



高坏形土器

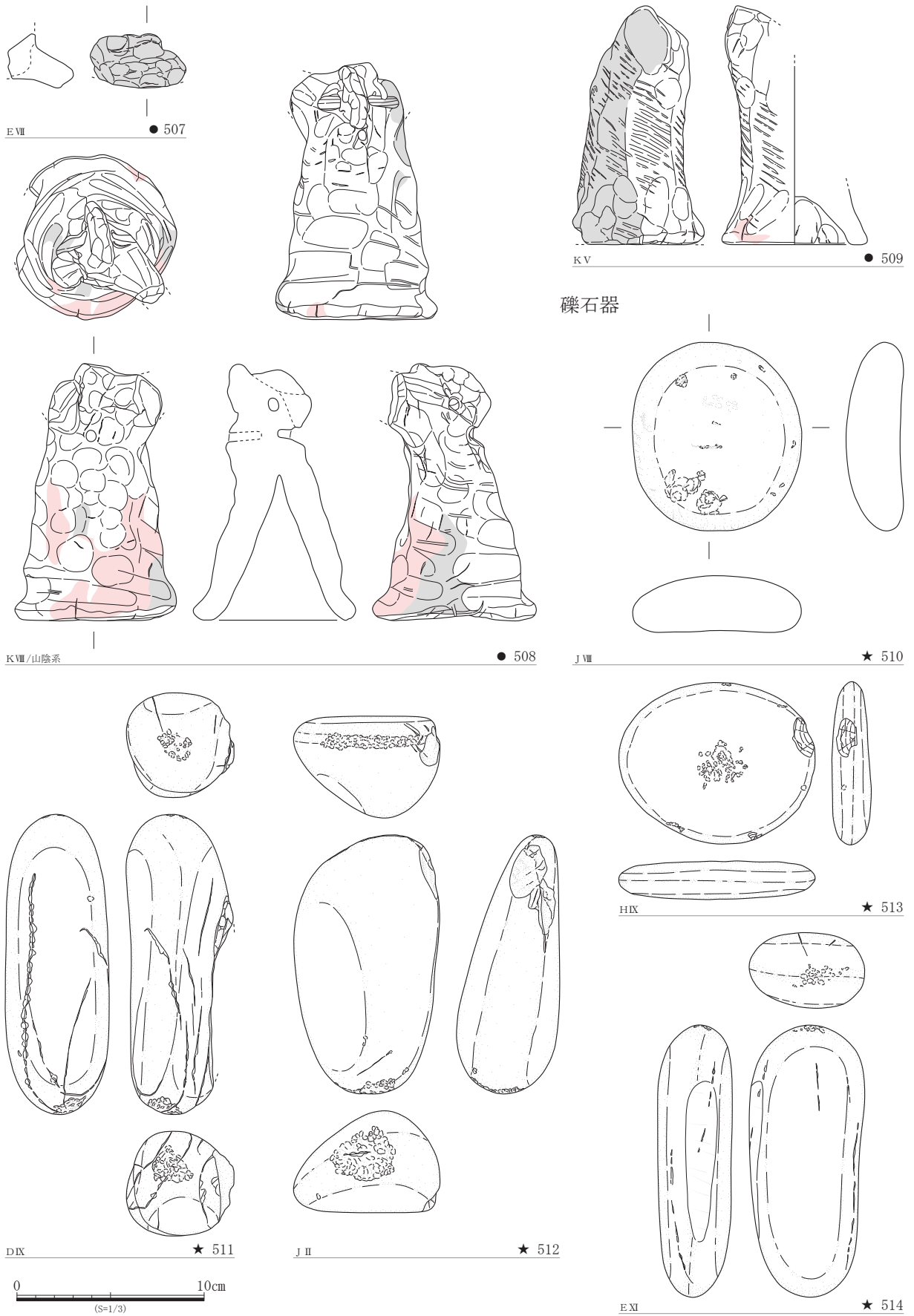


支脚形土器



0 10cm (S=1/3)

第36図 ST 1 出土遺物実測図 12 (S=1/3)



第37図 ST 1 出土遺物実測図 13 (S=1/3)

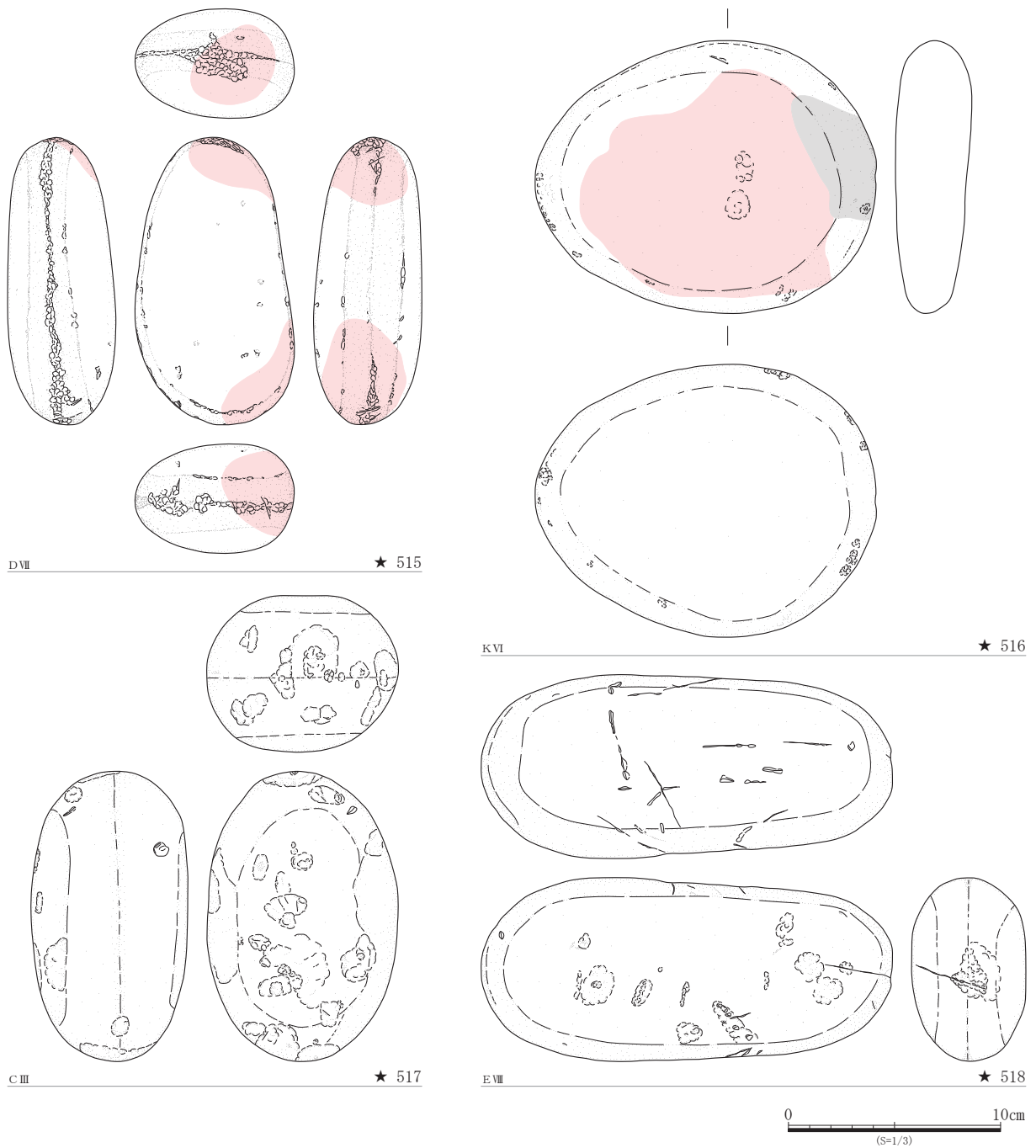
石器

当該遺構では砥石や叩石などの石器類(礫石器)数十点を出土している。石材は物部川に産出される砂質を母岩とする円～超円礫であり、色相は概して灰色系を呈している。大部分は自然礫(素材)の状態であり、使用・加工等による大きな剥落(欠損)等は無く、出土した礫石器はほぼ完形を保っている。

尚、一部の礫石器には被熱や煤けなどの痕跡が認められており、火焼に起因すると推測されるものの祭祀(儀礼)関連行為の可能性を含めて判然としておらず、検討を要すると思われる。

【註】

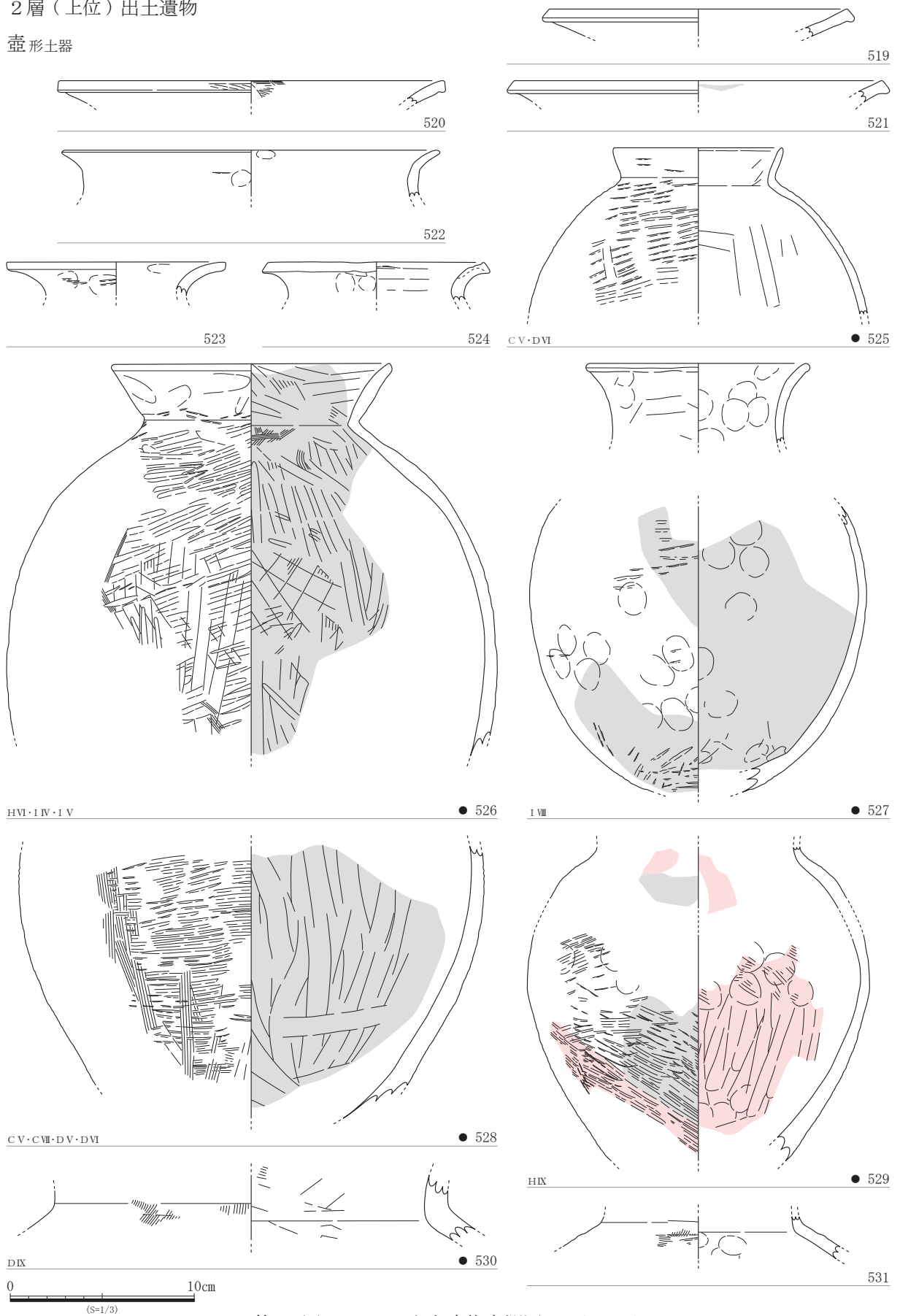
- (1) (2) 松村信博氏の御教示による。 (3) 久家隆芳氏の御教示による。



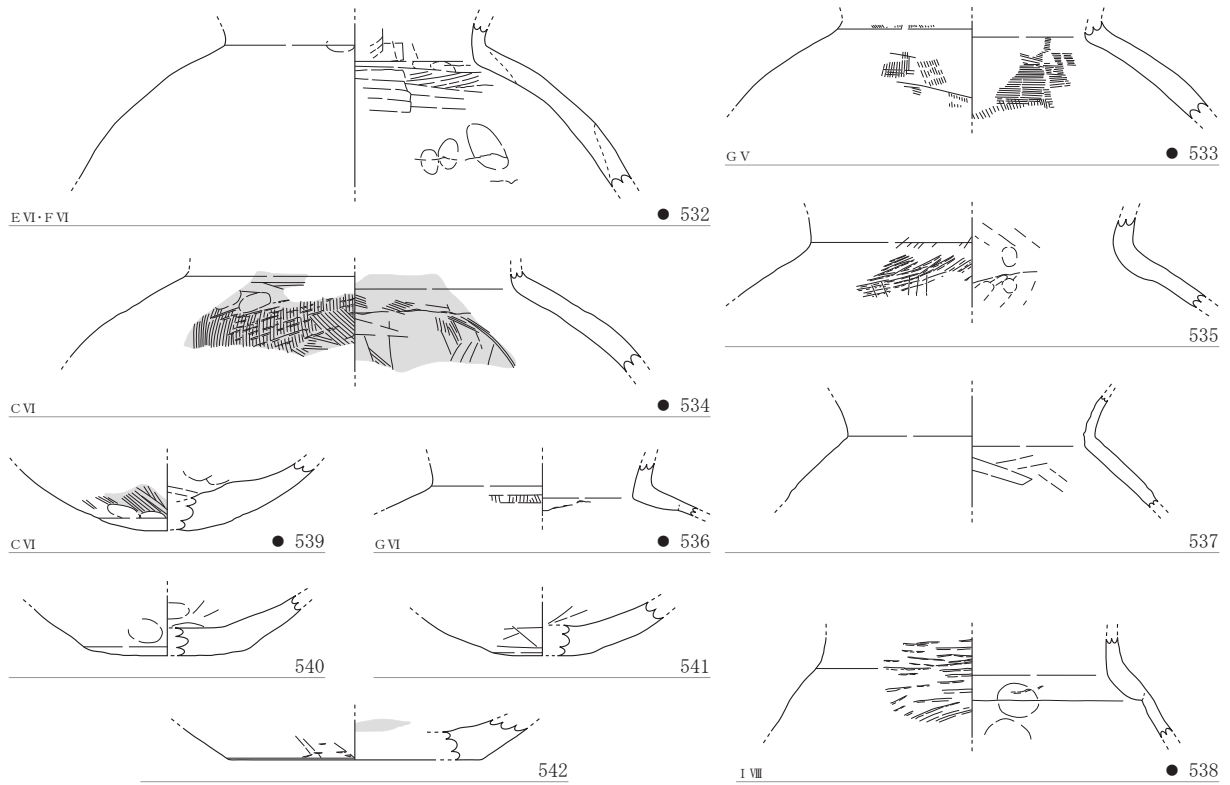
第38図 ST 1 出土遺物実測図 14 (S=1/3)

2層（上位）出土遺物

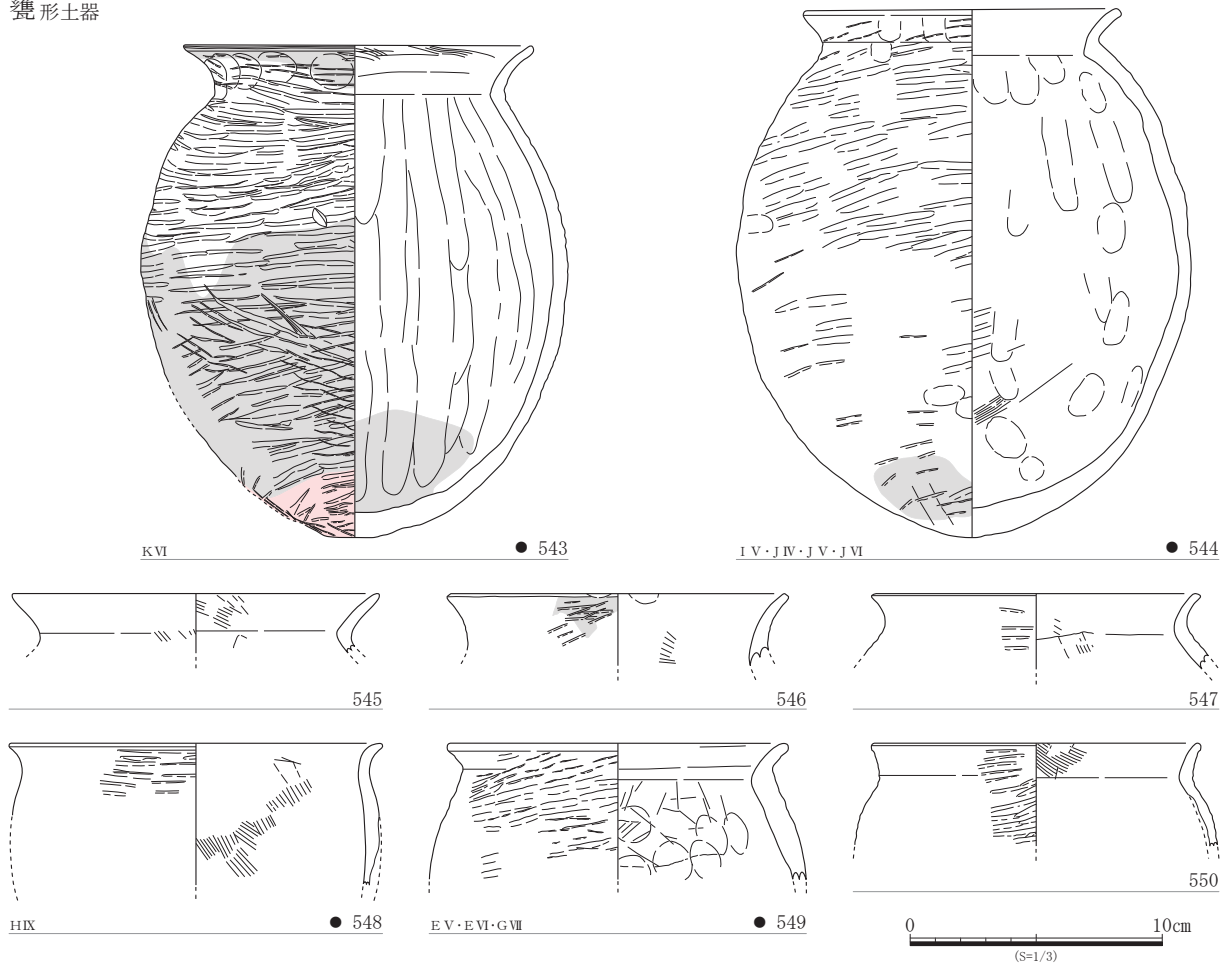
壺形土器



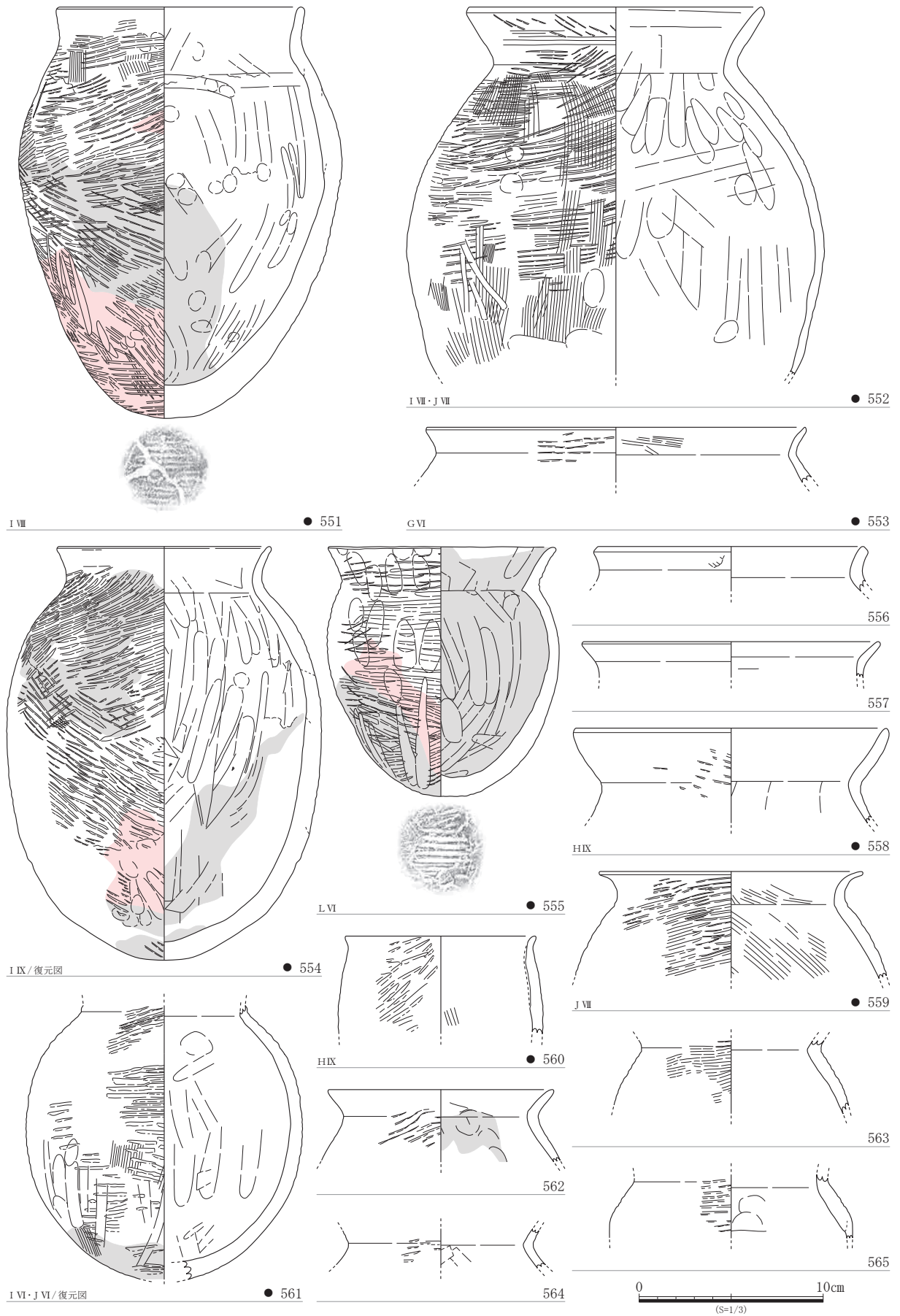
第39図 ST 1 出土遺物実測図 15 (S=1/3)



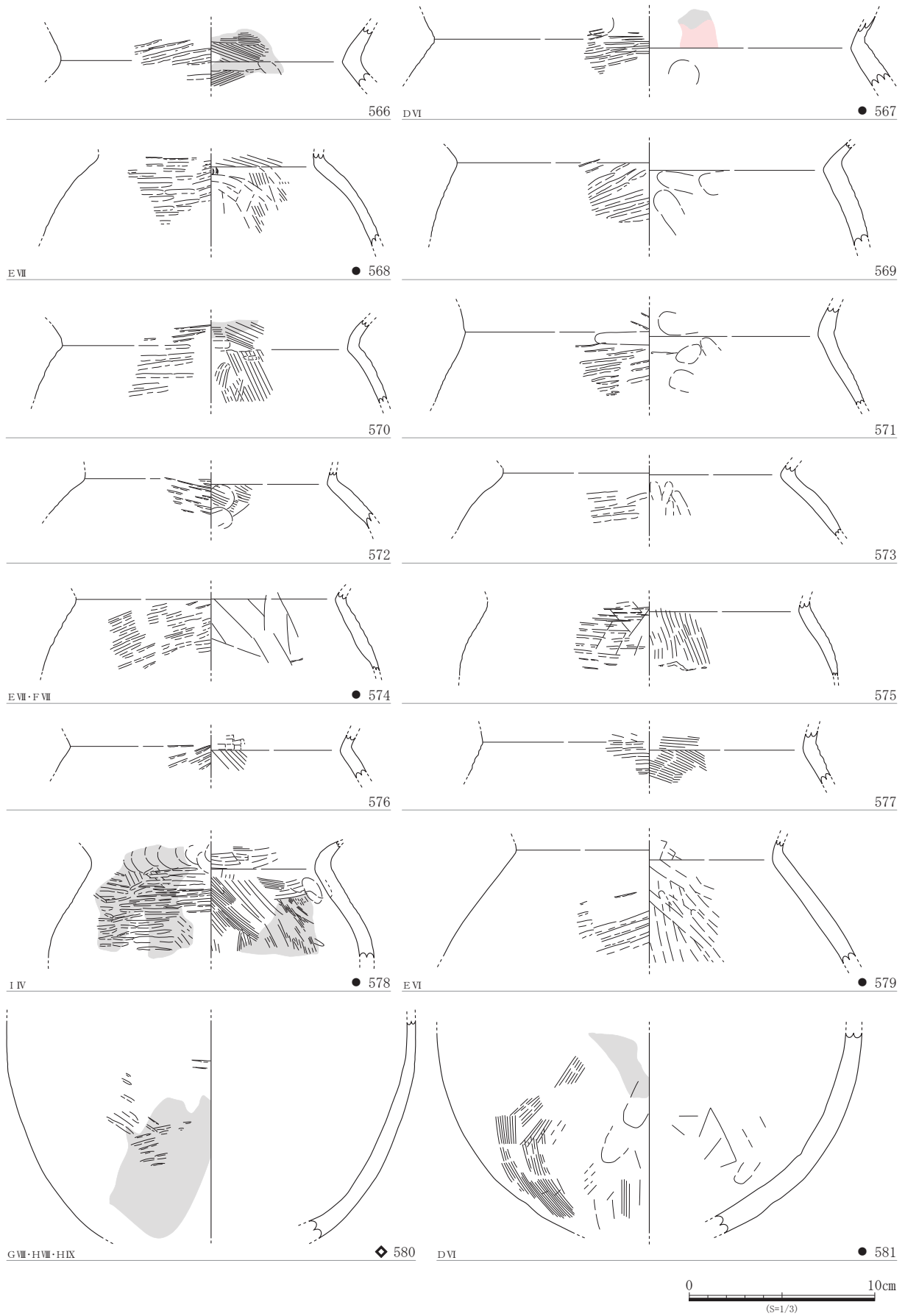
甕形土器



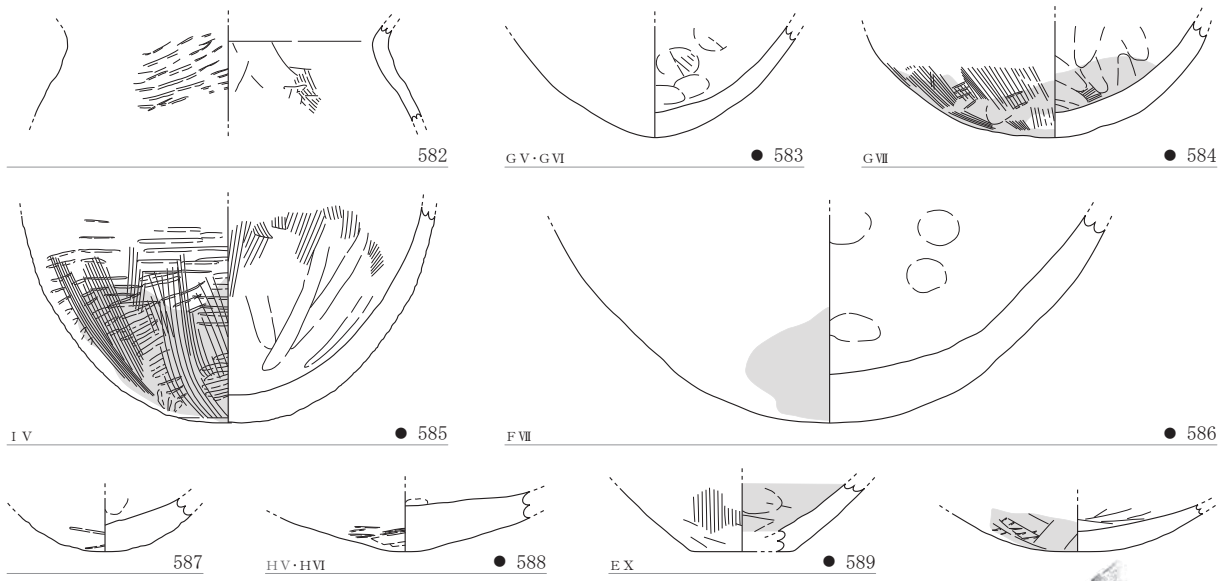
第40図 ST 1 出土遺物実測図 16 (S=1/3)



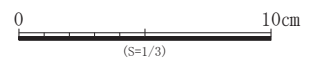
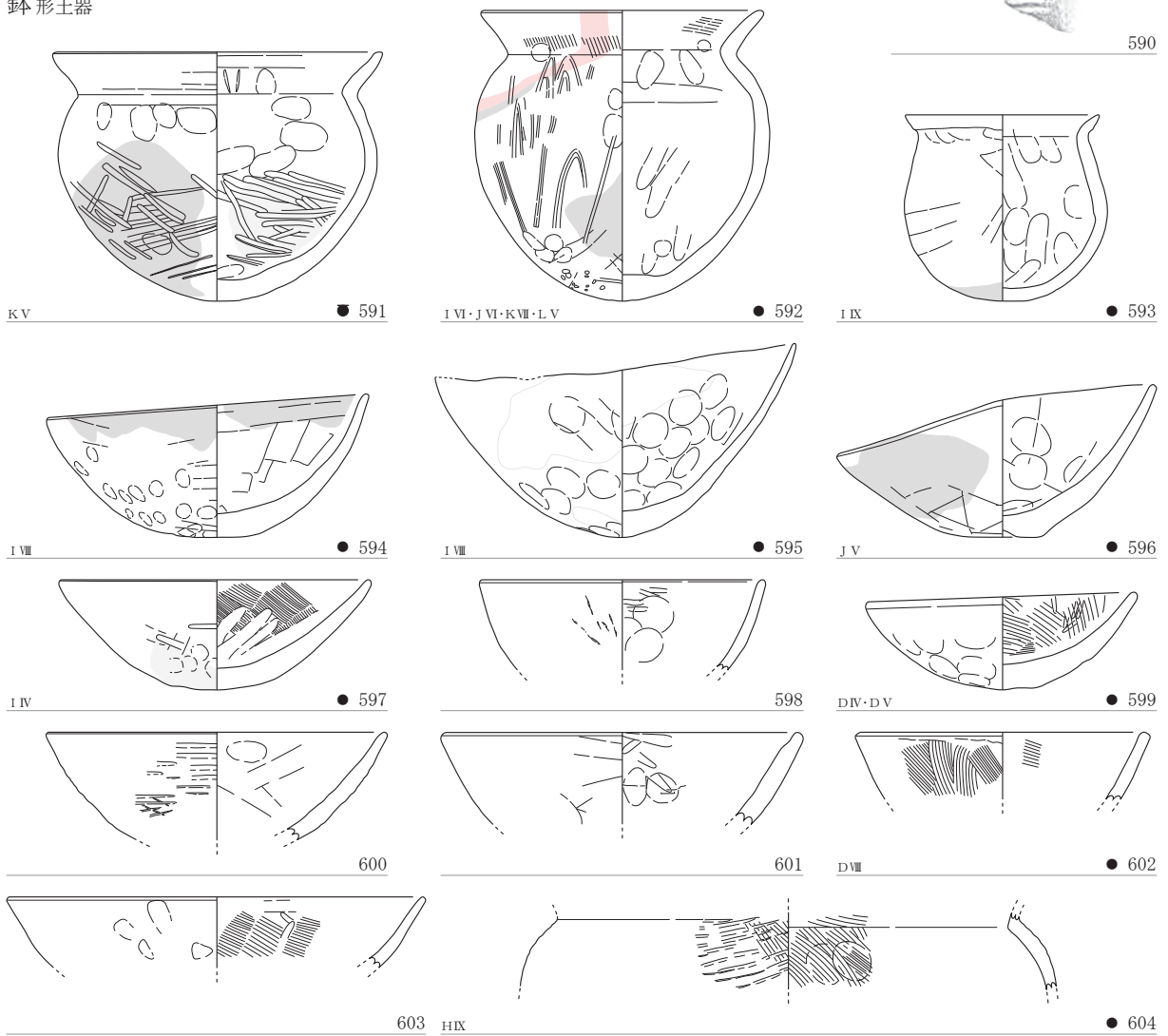
第41図 ST 1 出土遺物実測図 17 (S=1/3)



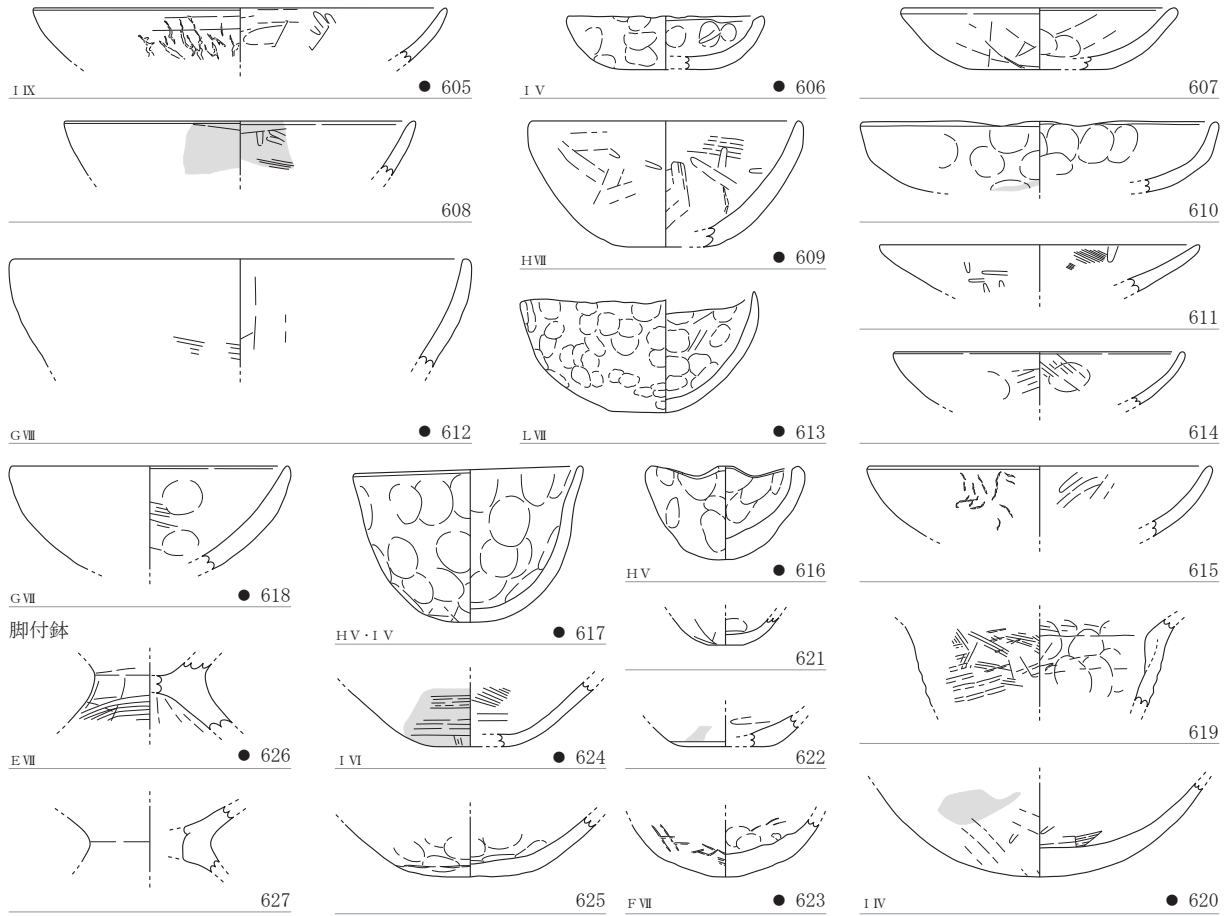
第42図 ST 1 出土遺物実測図 18 (S=1/3)



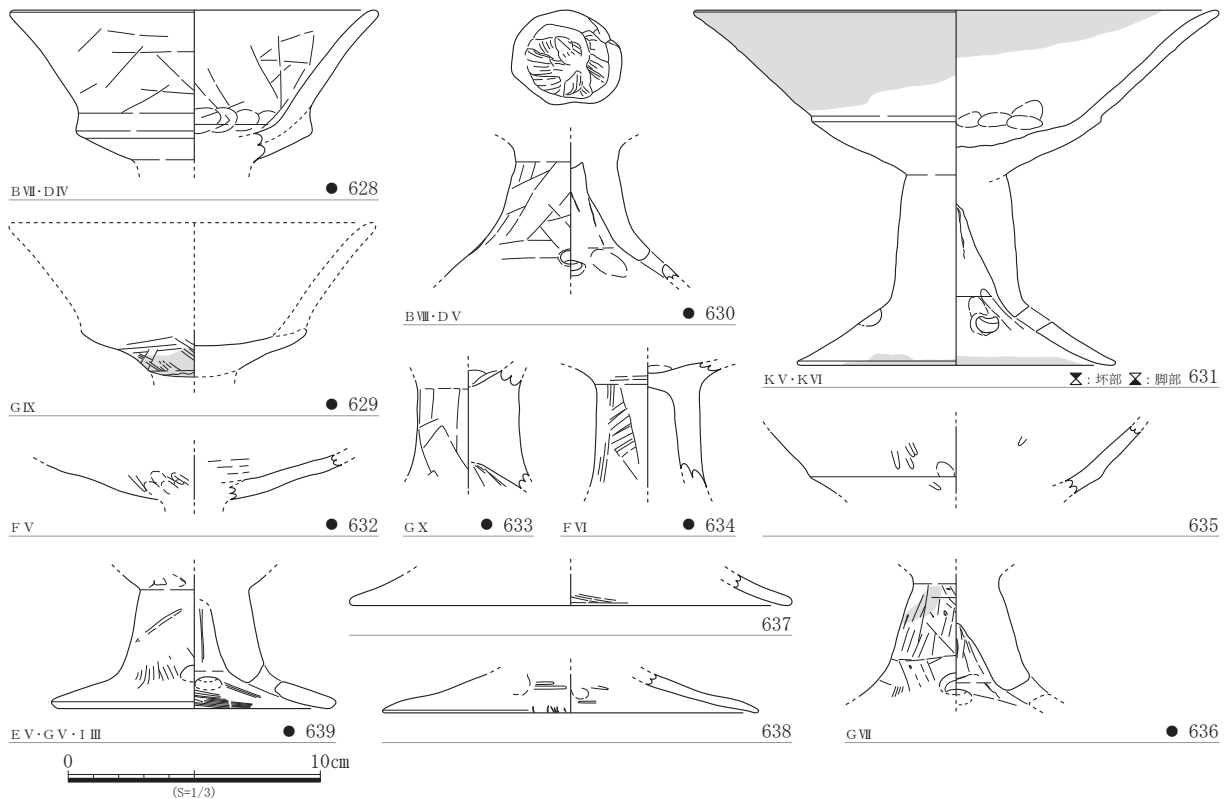
鉢形土器



第43図 ST 1 出土遺物実測図 19 (S=1/3)

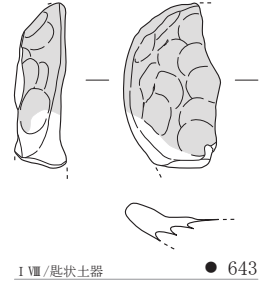
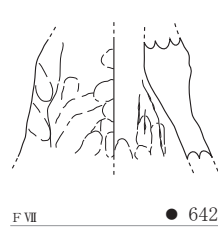
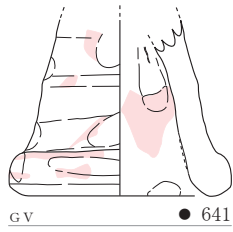
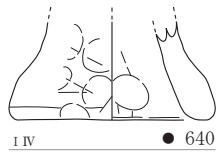


高坏形土器

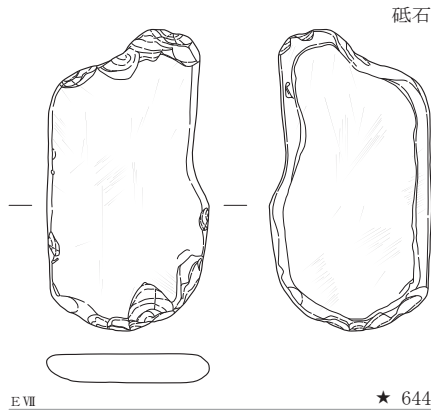


第44図 ST 1 出土遺物実測図 20 (S=1/3)

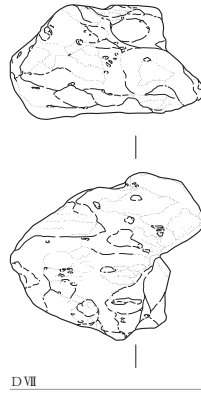
支脚形土器



礫石器



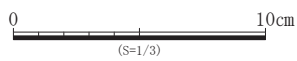
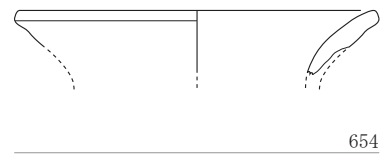
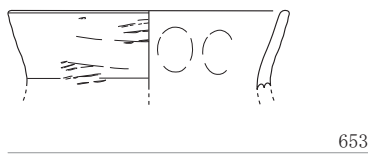
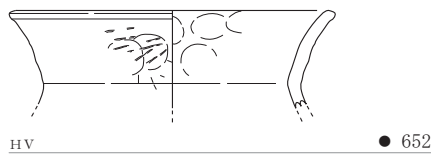
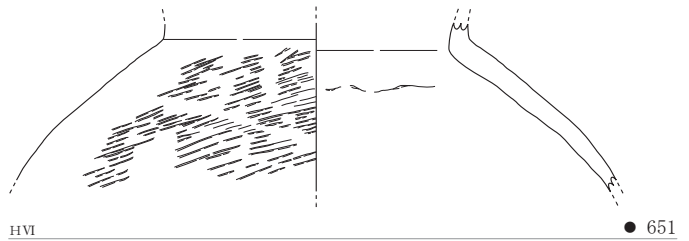
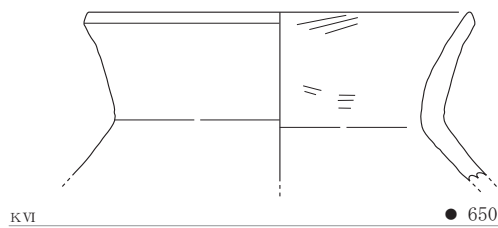
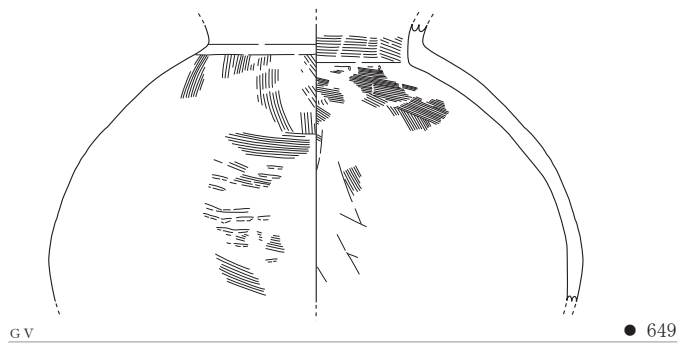
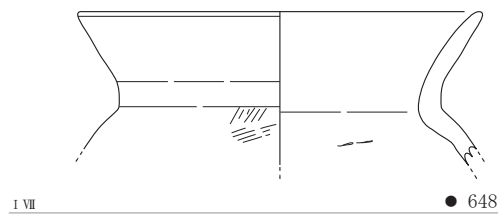
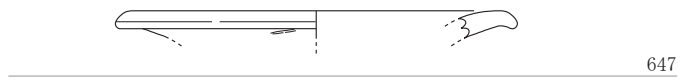
砥石



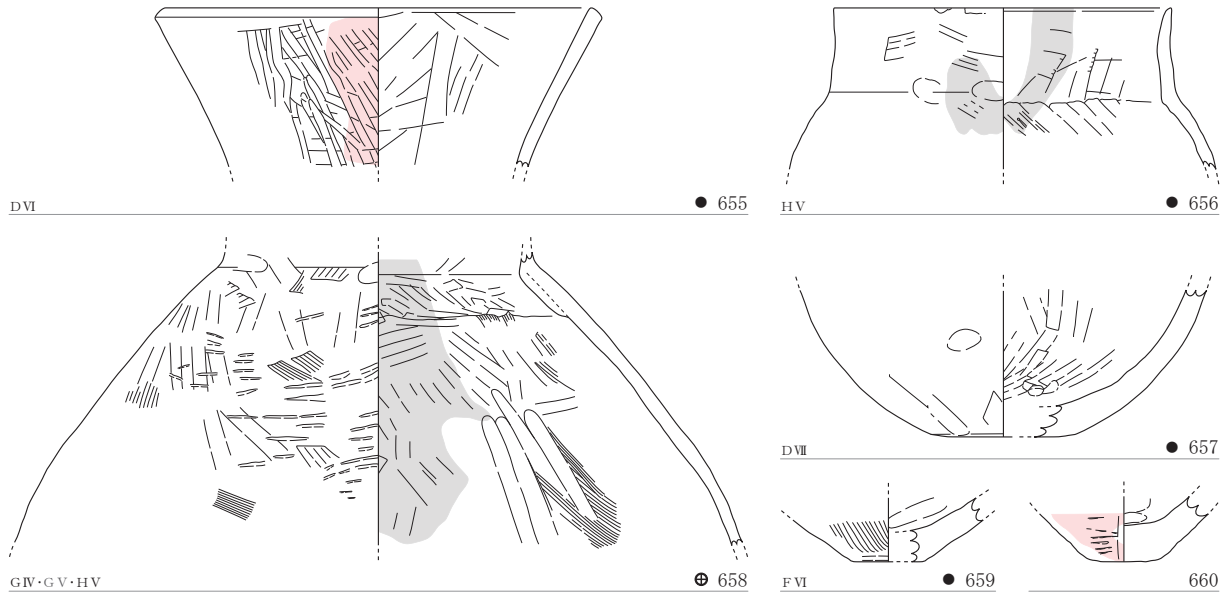
軽石

2層（下位）出土遺物

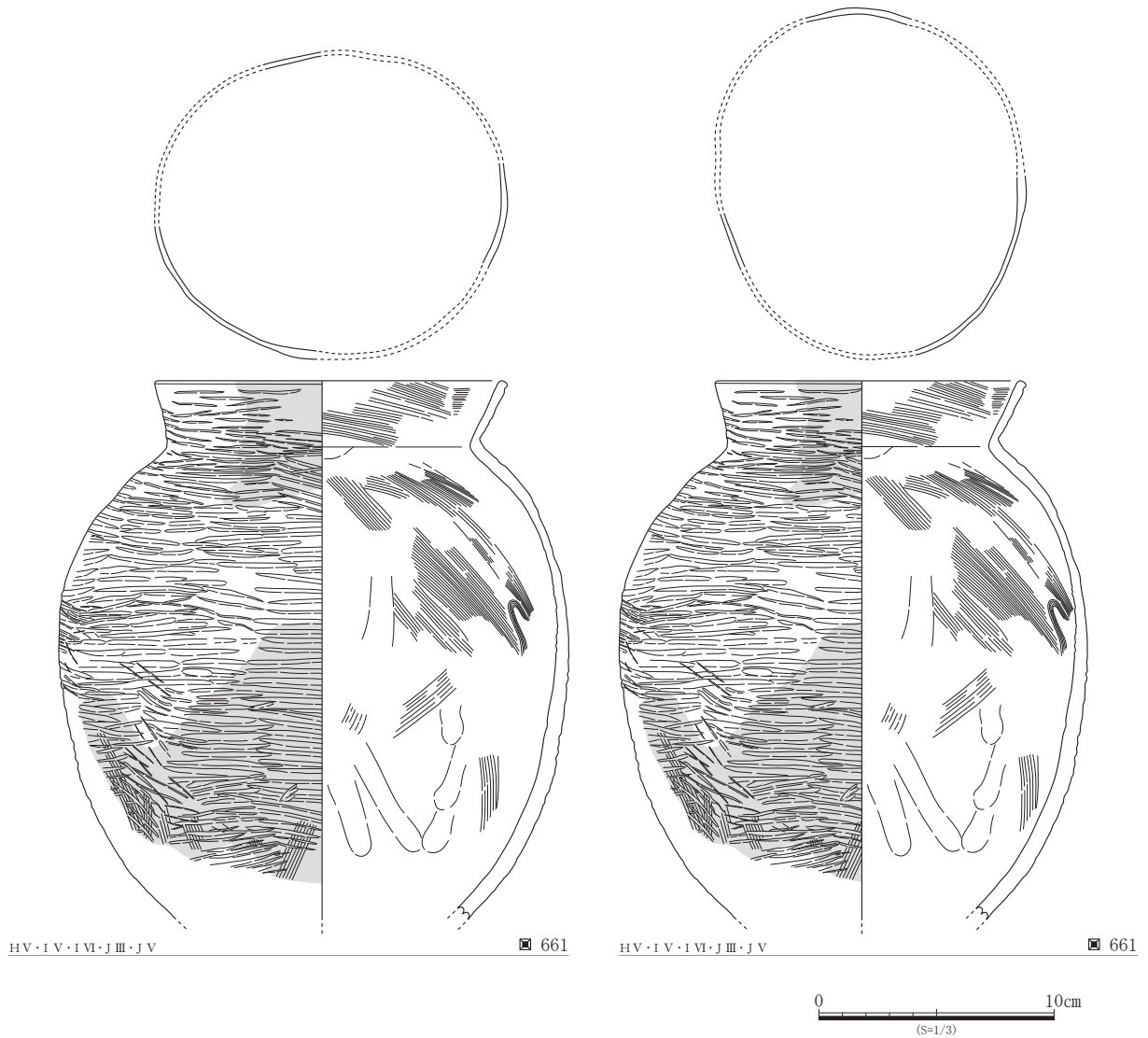
壺形土器



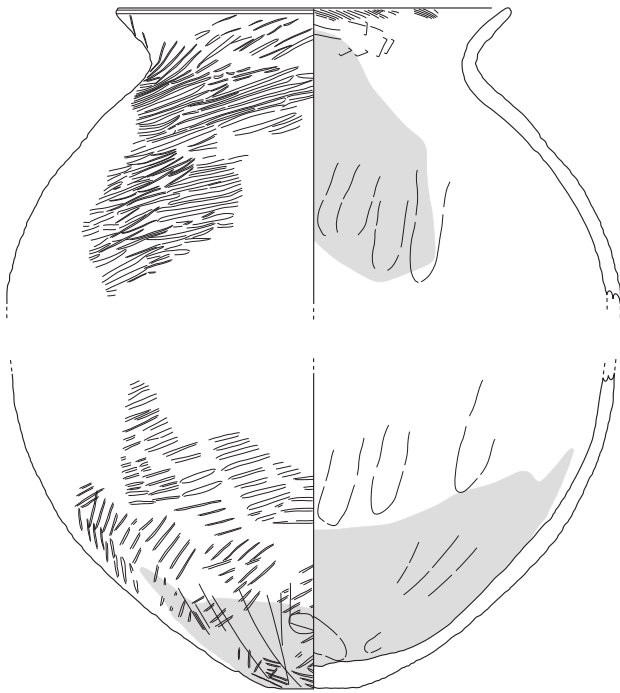
第 45 図 ST 1 出土遺物実測図 21 (S=1/3)



甕形土器
(694 / 甕形土器)

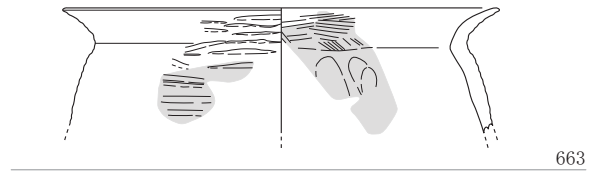


第46図 ST 1 出土遺物実測図 22 (S=1/3)

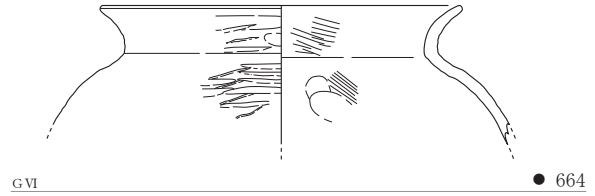


E V・E VI・F VI・G VI

◆ 662

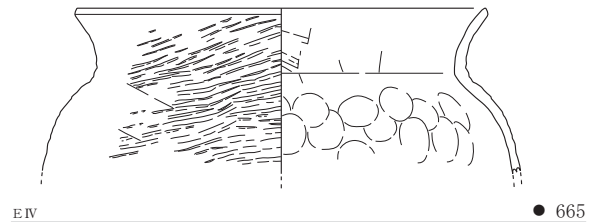


663



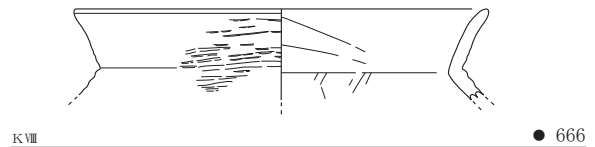
G VI

● 664



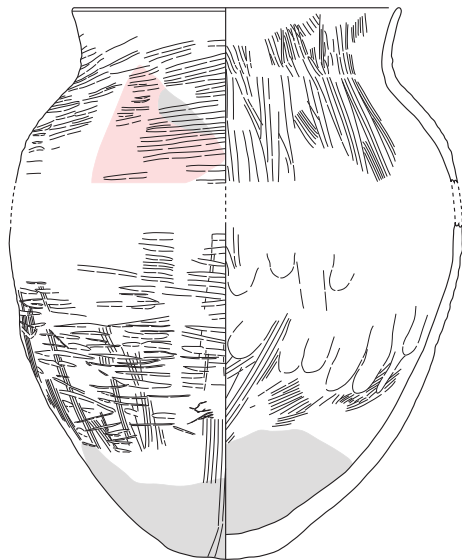
E IV

● 665



K VIII

● 666

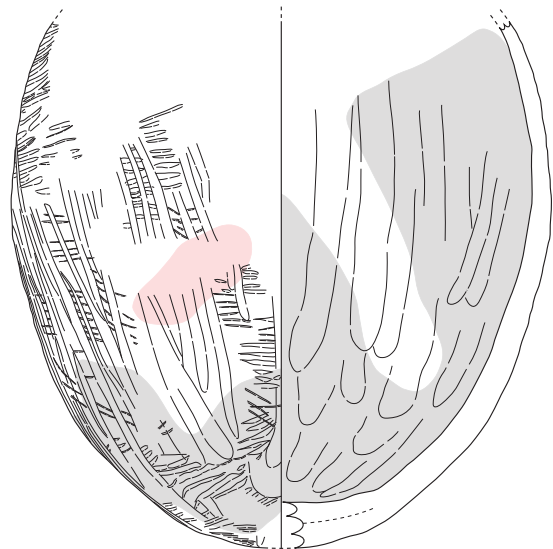


667

668

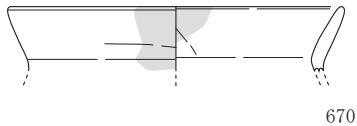
E IV・E VII : 667 / E VII・E IX・H IV・I VI : 668

● 667・668

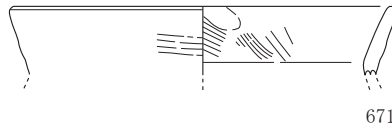


H VIII・I V

☒ 669



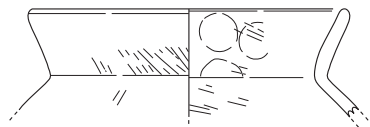
670



671

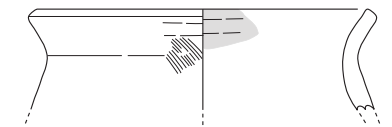
G VII

● 672



G VII・H VII

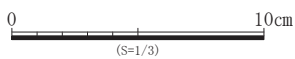
● 673



674

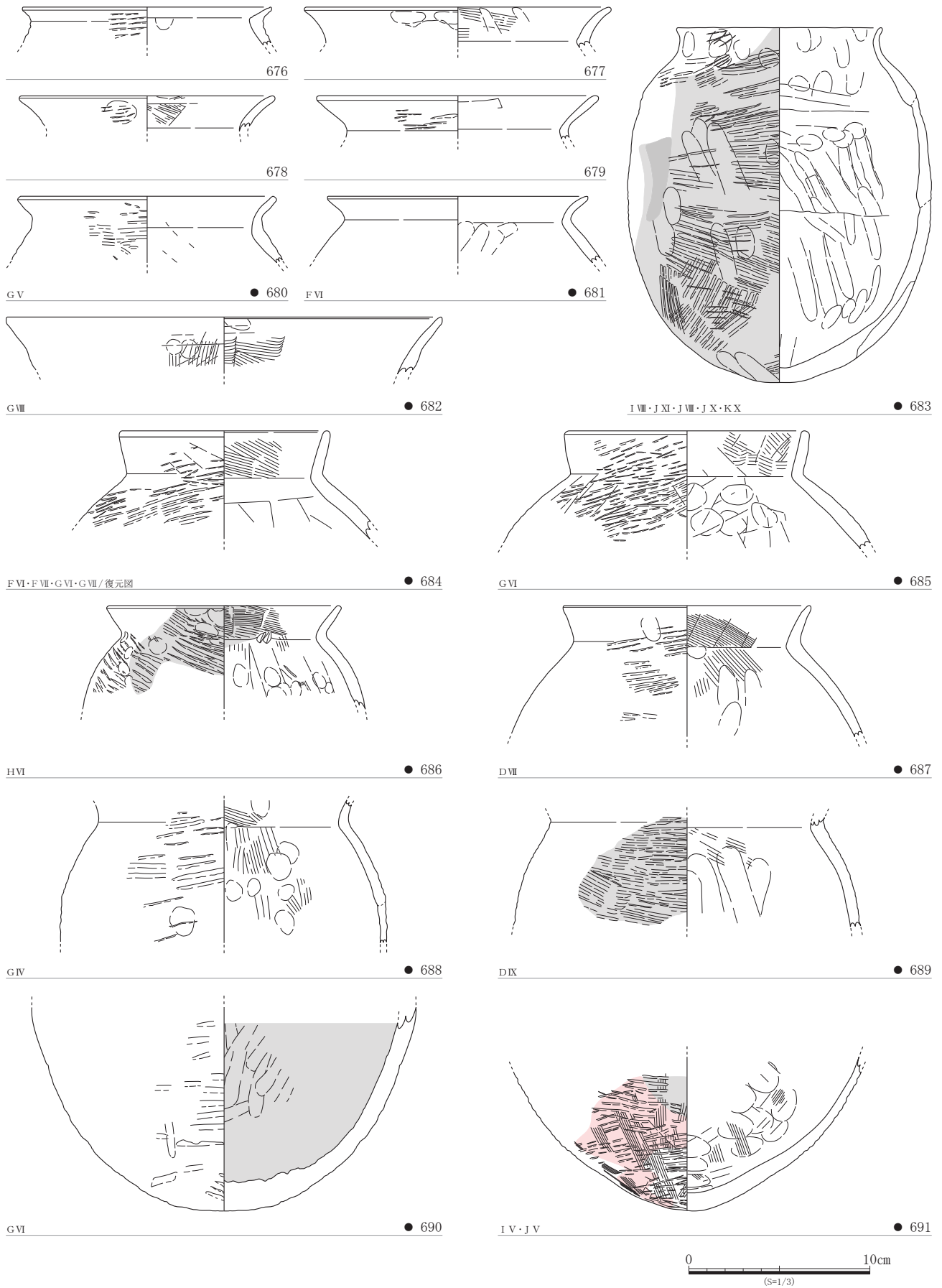
F VI

● 675

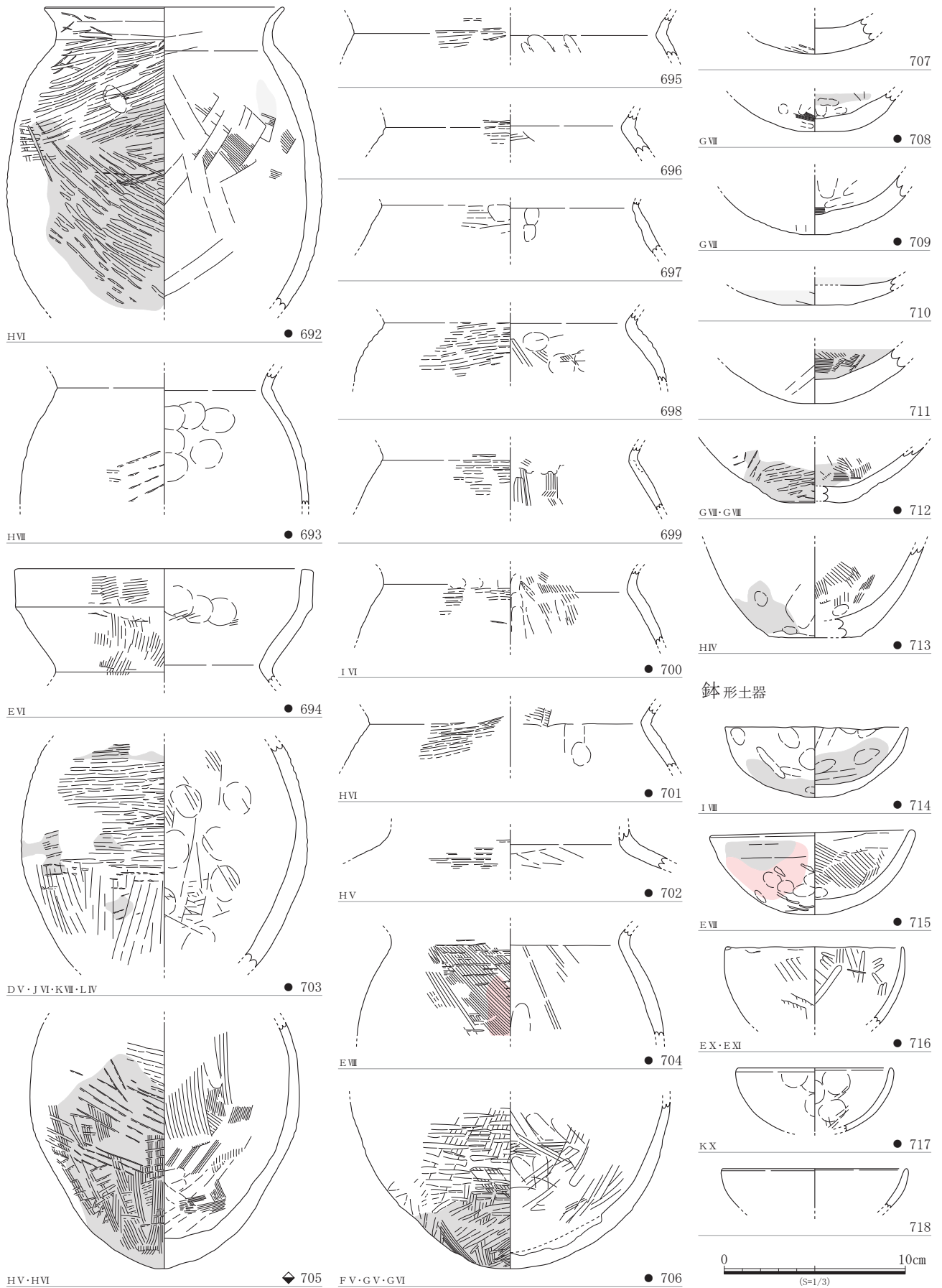


(S=1/3)

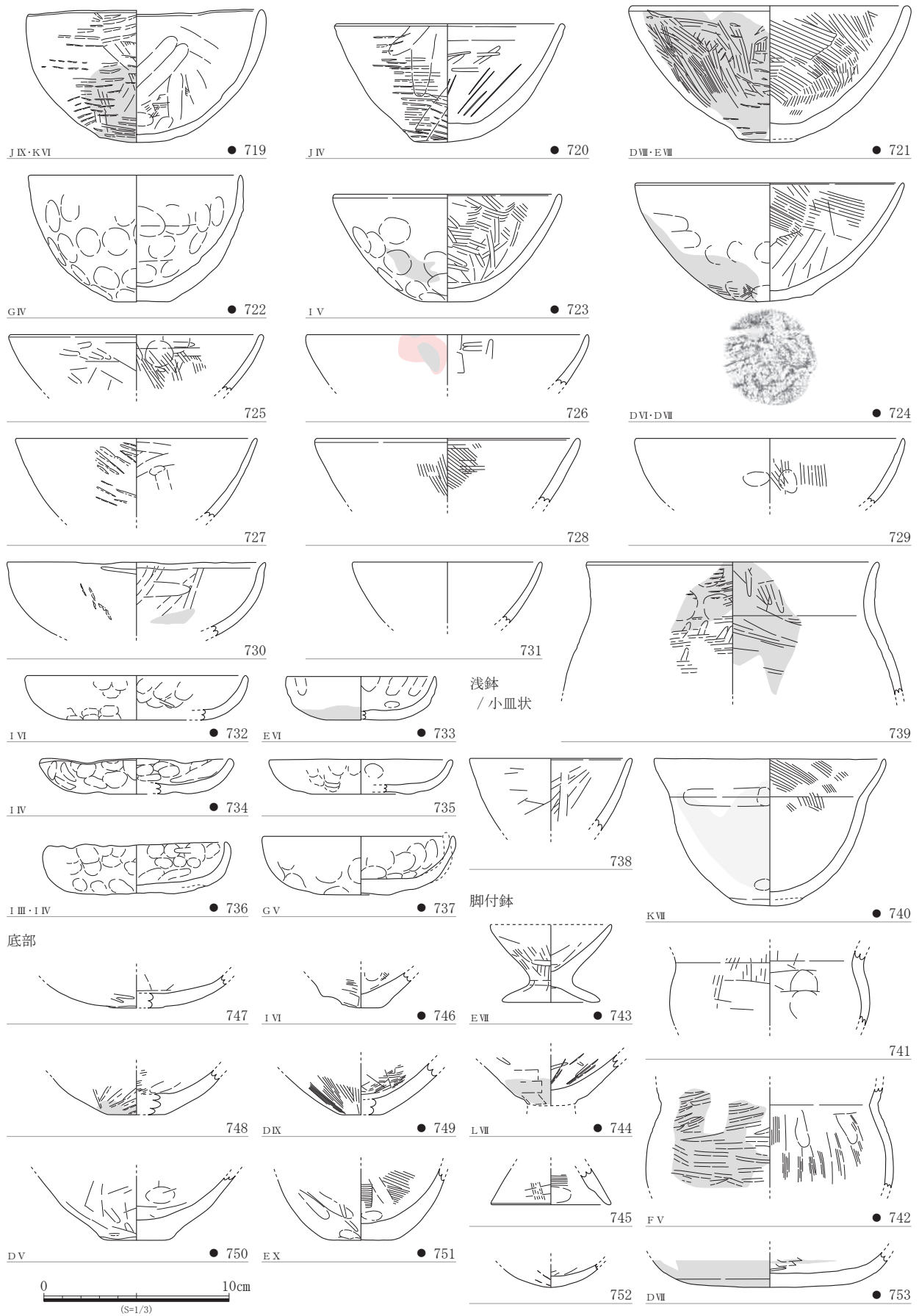
第 47 図 ST 1 出土遺物実測図 23 (S=1/3)



第 48 図 ST 1 出土遺物実測図 24 (S=1/3)

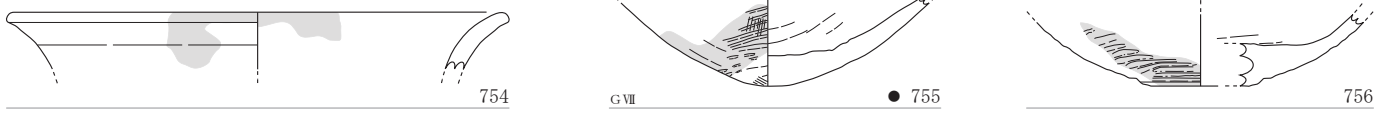


第 49 図 ST 1 出土遺物実測図 25 (S=1/3)

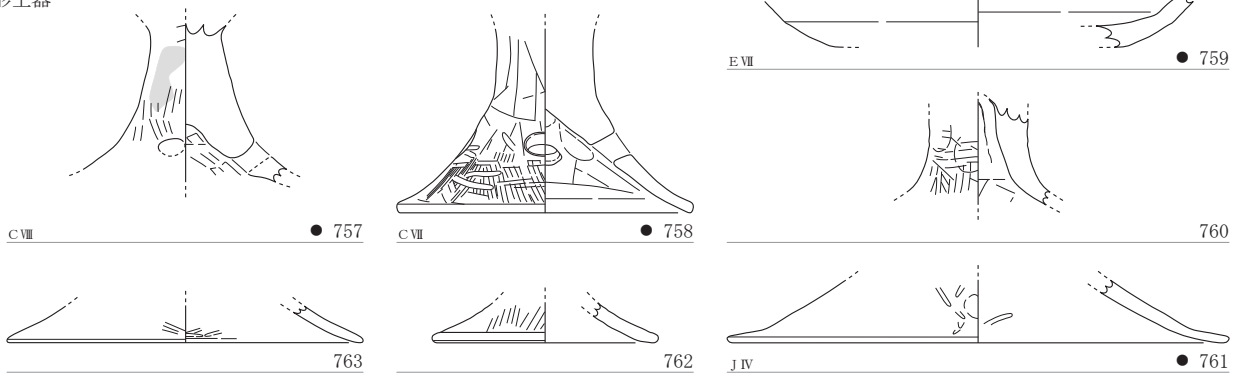


第50図 ST 1 出土遺物実測図 26 (S=1/3)

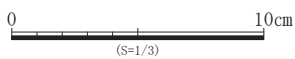
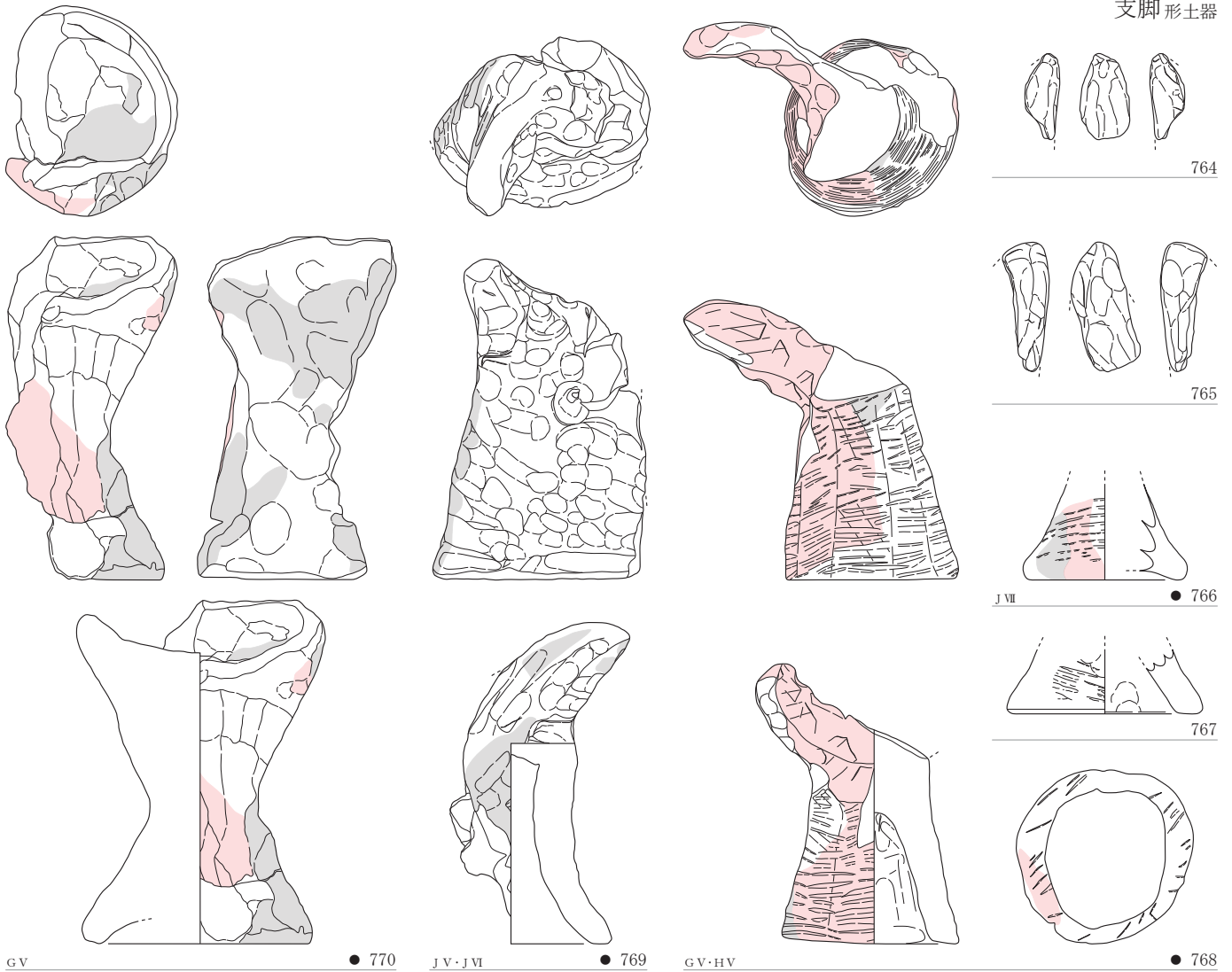
口縁・底部（器種不明）



高坏形土器

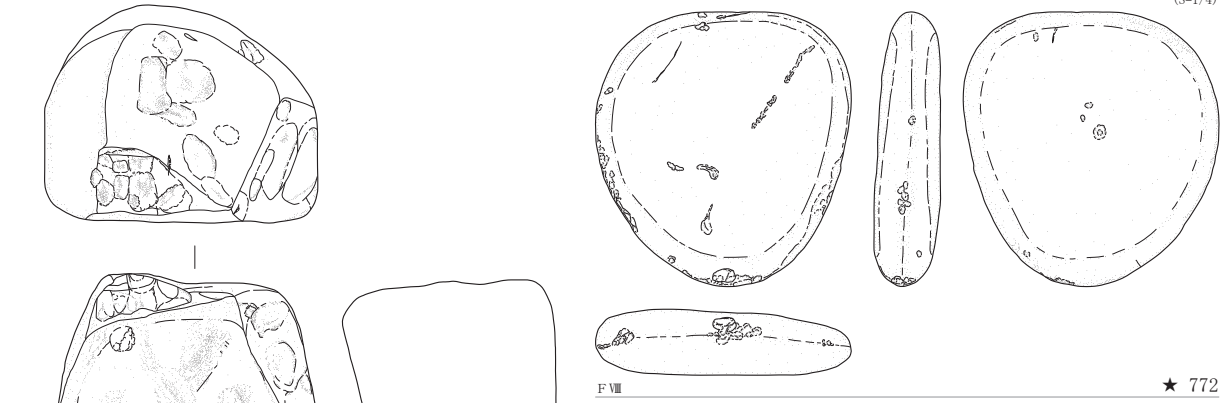


支脚形土器



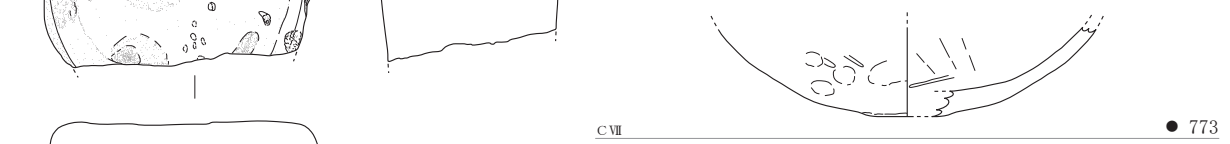
第51図 ST 1 出土遺物実測図 27 (S=1/3)

礫石器
(S=1/4)

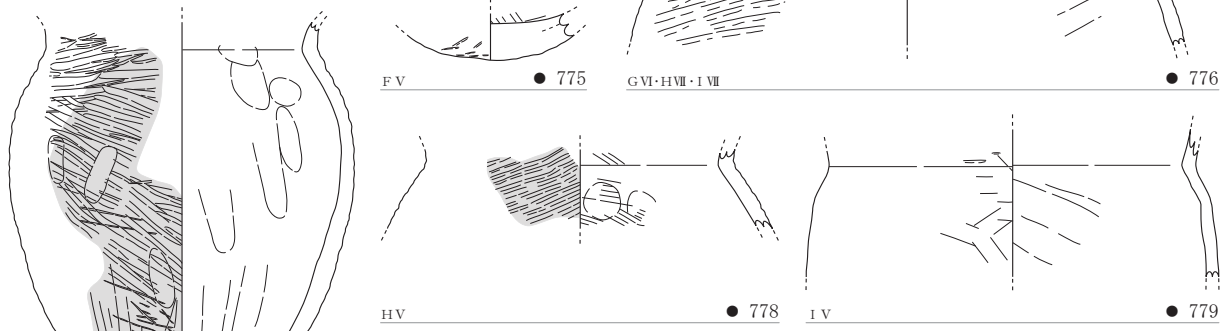
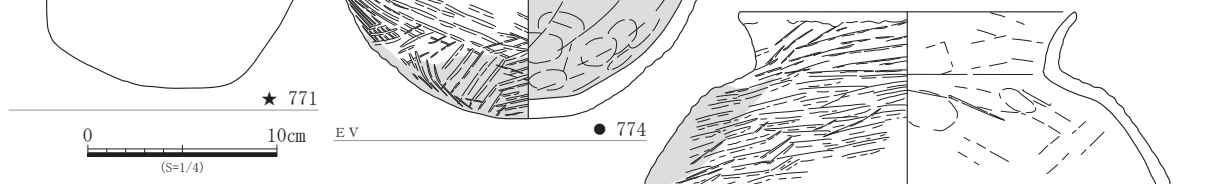


2層（最下位）出土遺物

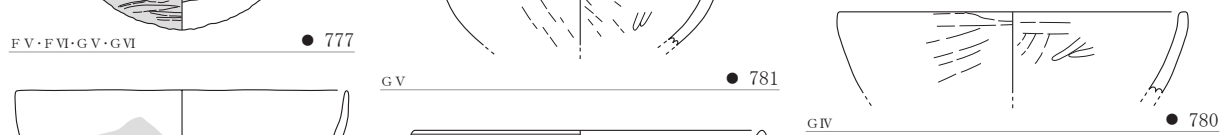
壺形土器



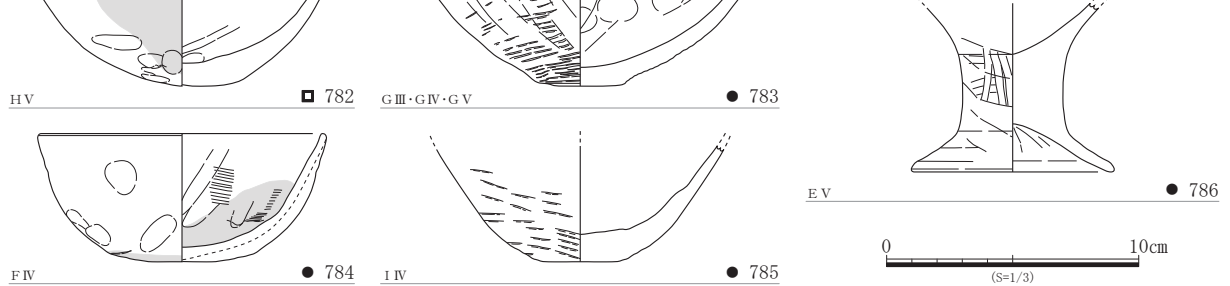
甕形土器



鉢形土器



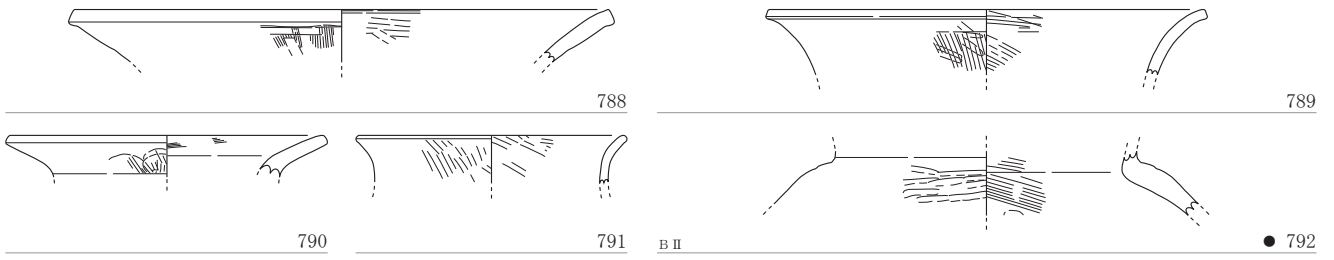
脚付鉢



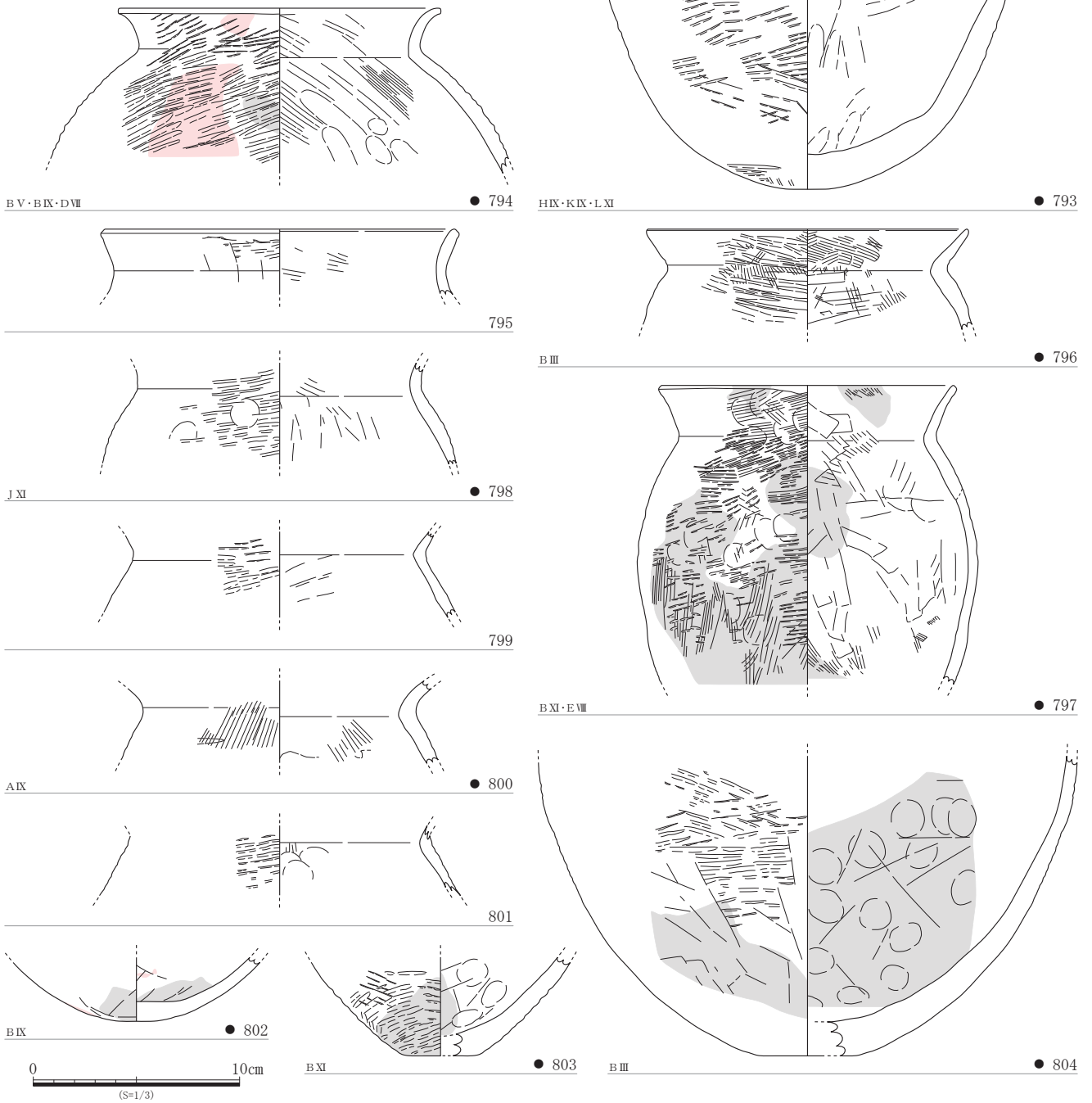
第52図 ST 1 出土遺物実測図 28 (S=1/3・1/4)

3層（上位）出土遺物

壺形土器

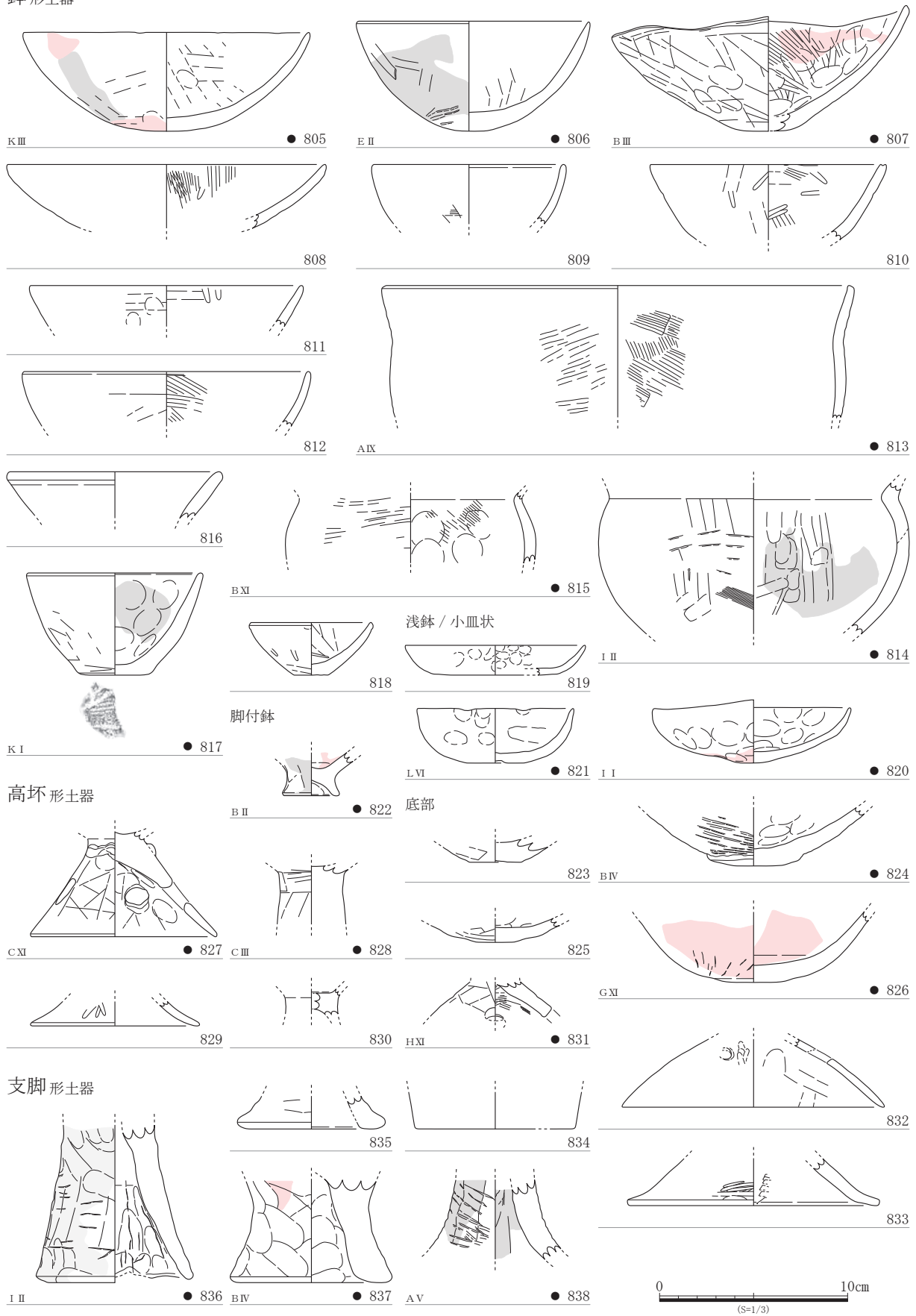


甕形土器



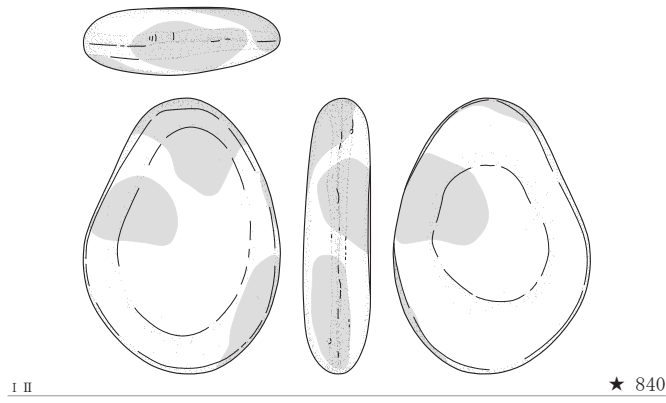
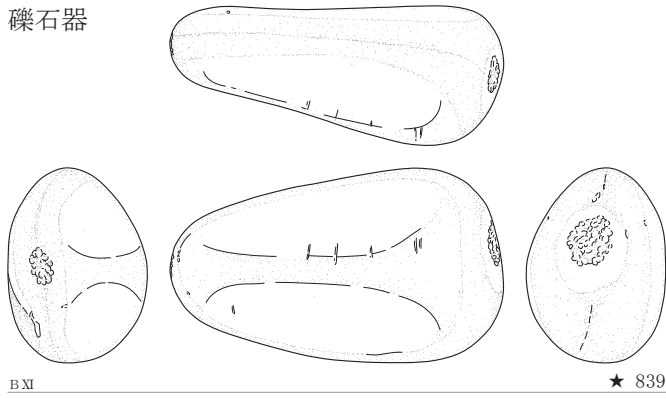
第53図 ST 1 出土遺物実測図 29 (S=1/3)

鉢形土器



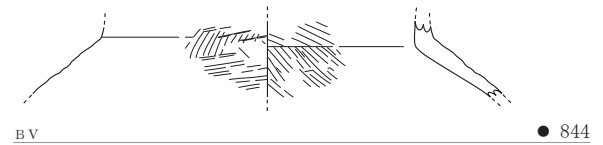
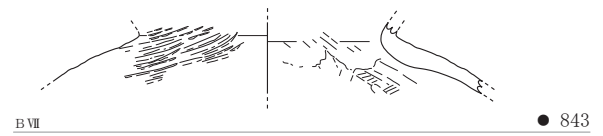
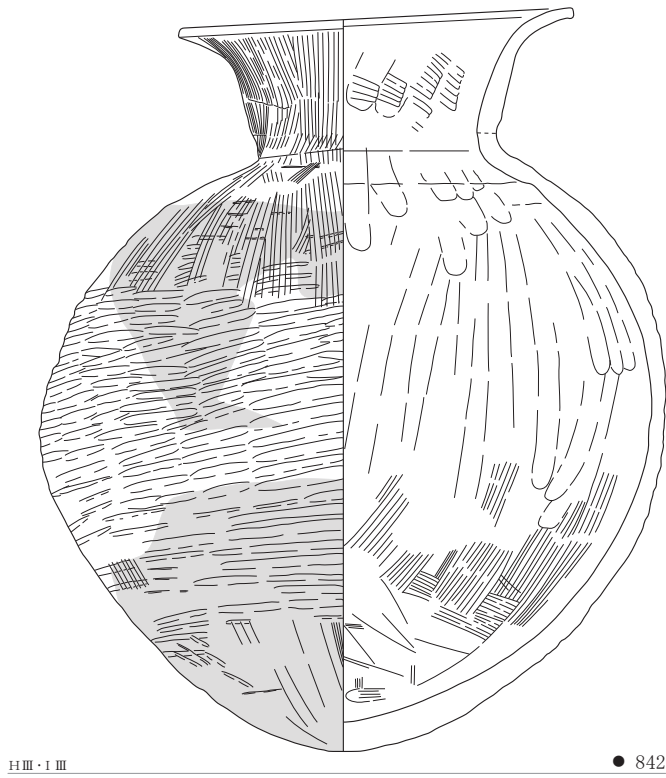
第54図 ST 1 出土遺物実測図 30 (S=1/3)

礫石器

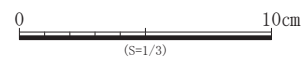
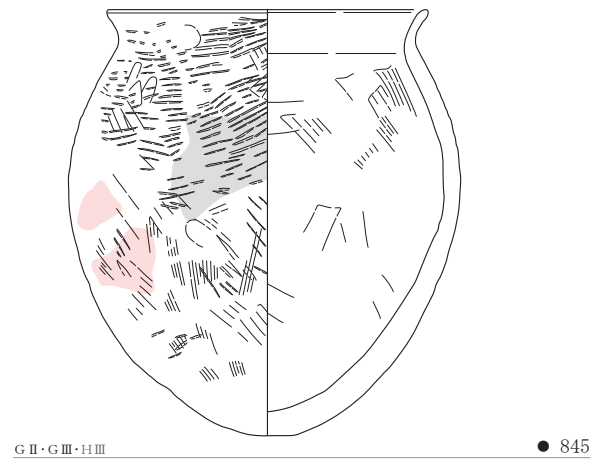


3層（中位）出土遺物

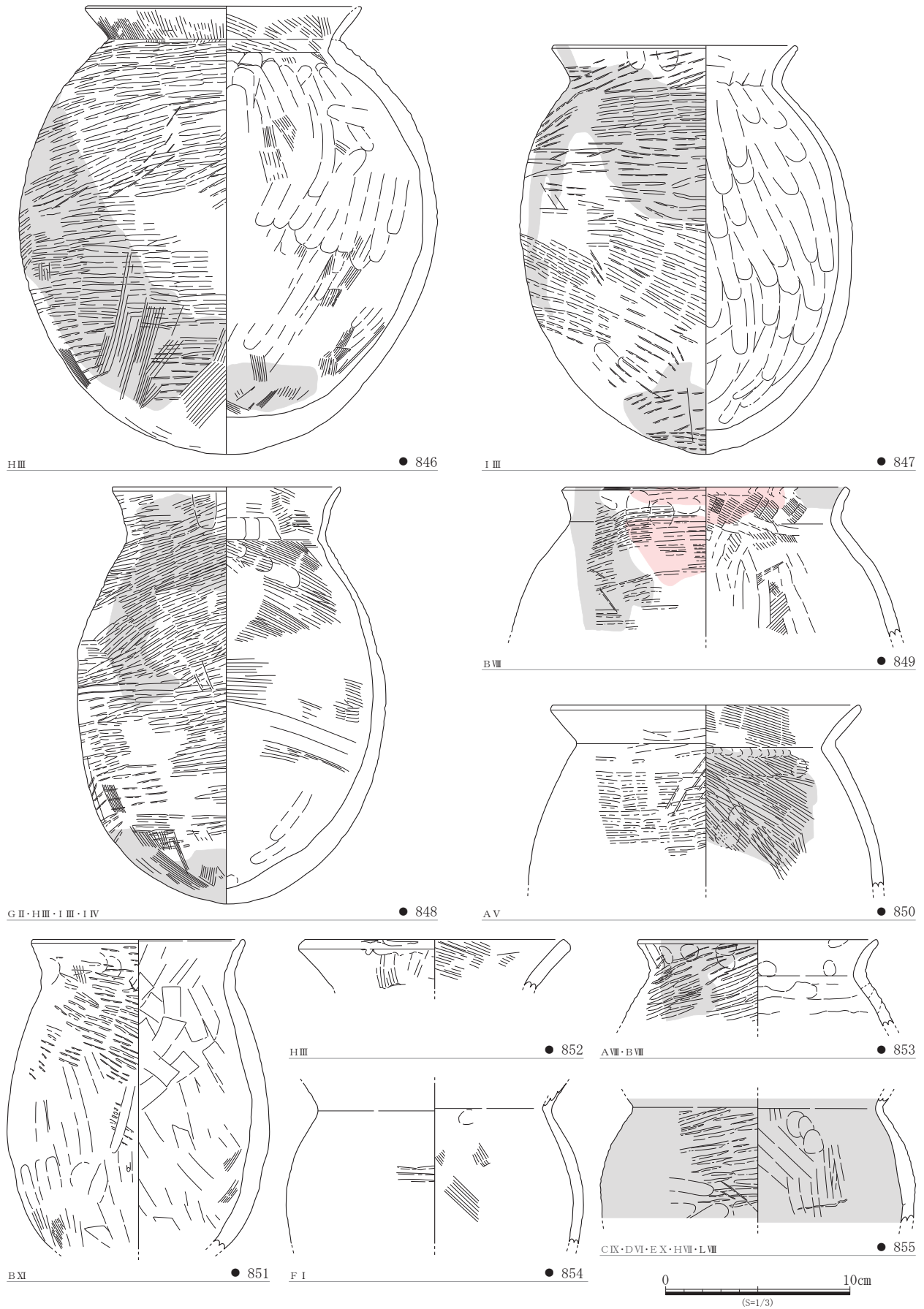
壺形土器



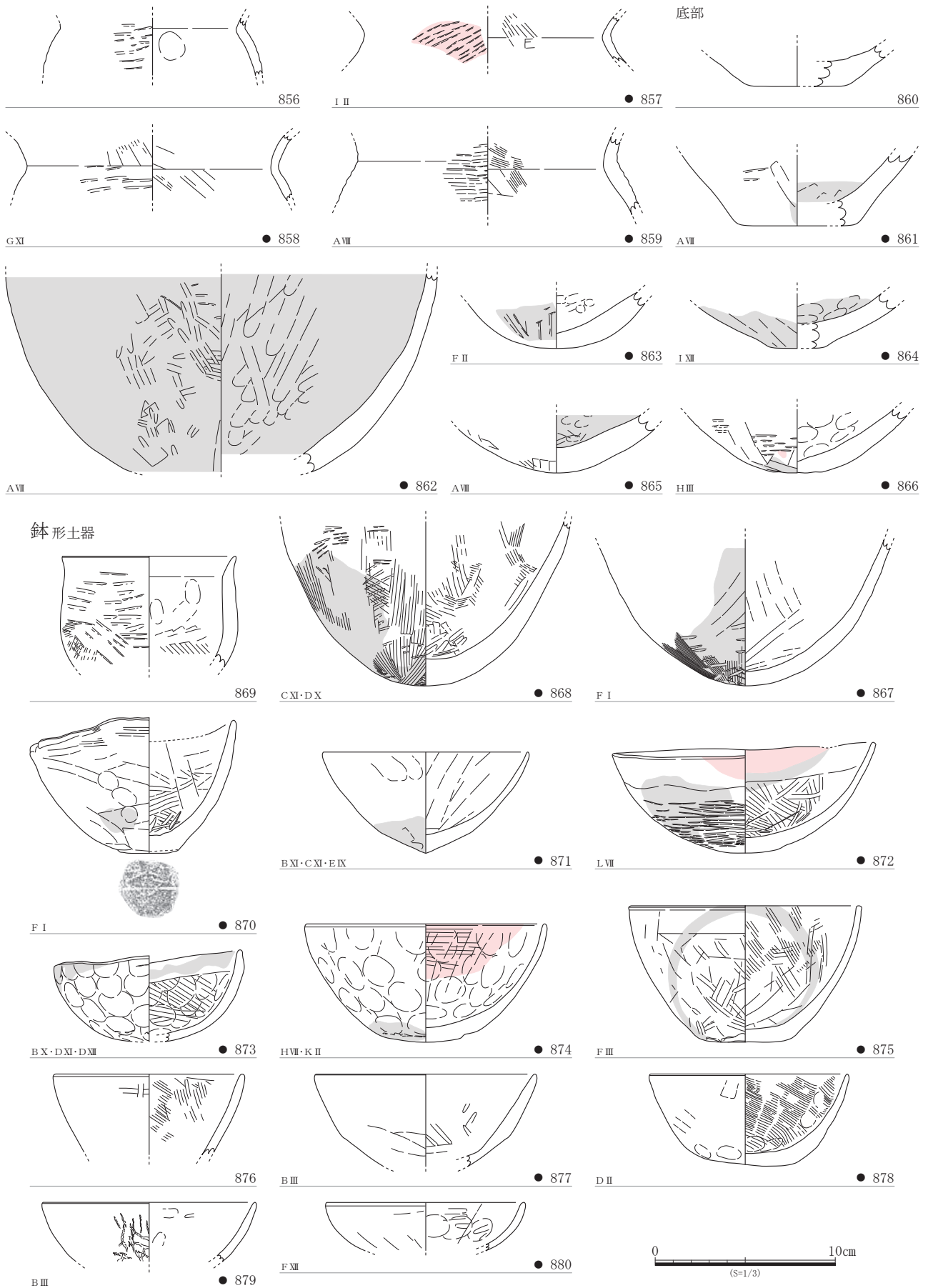
甕形土器



第55図 ST 1 出土遺物実測図 31 (S=1/3)

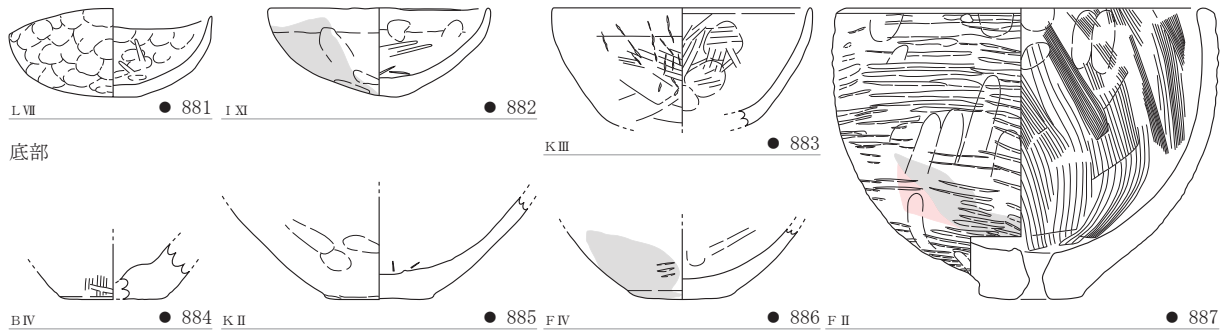


第56図 ST 1 出土遺物実測図 32 (S=1/3)



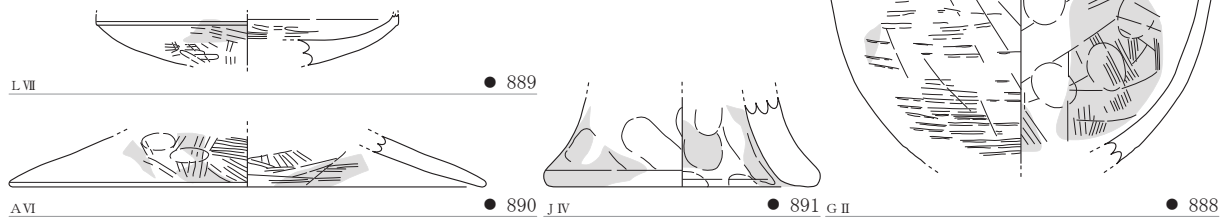
第 57 図 ST 1 出土遺物実測図 33 (S=1/3)

甌

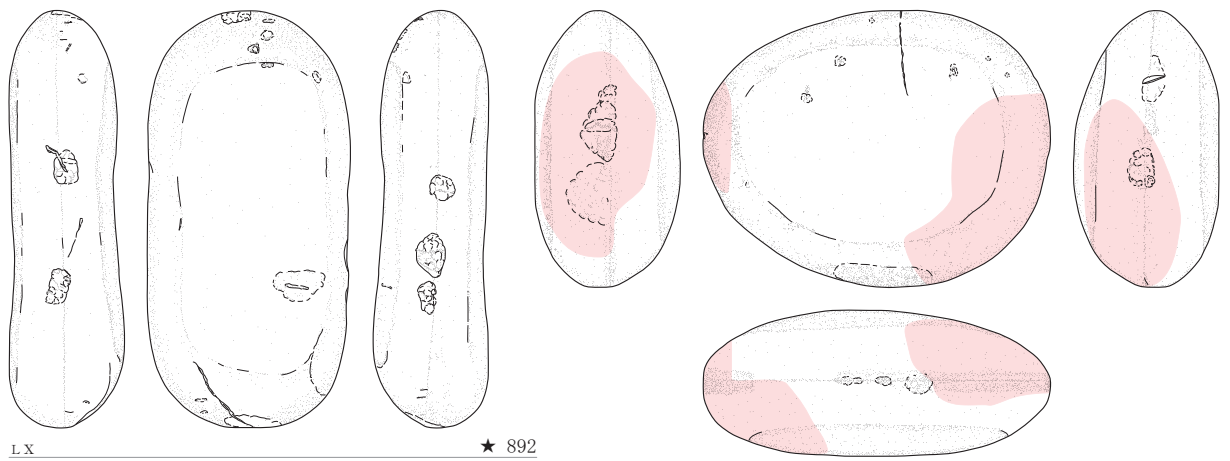


高坏形土器

支脚形土器

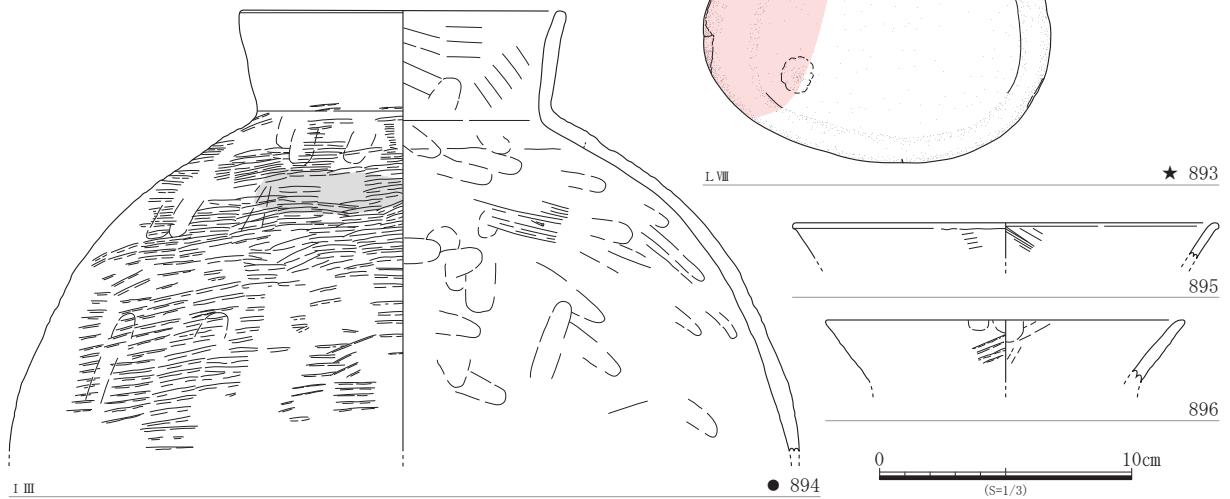


礫石器

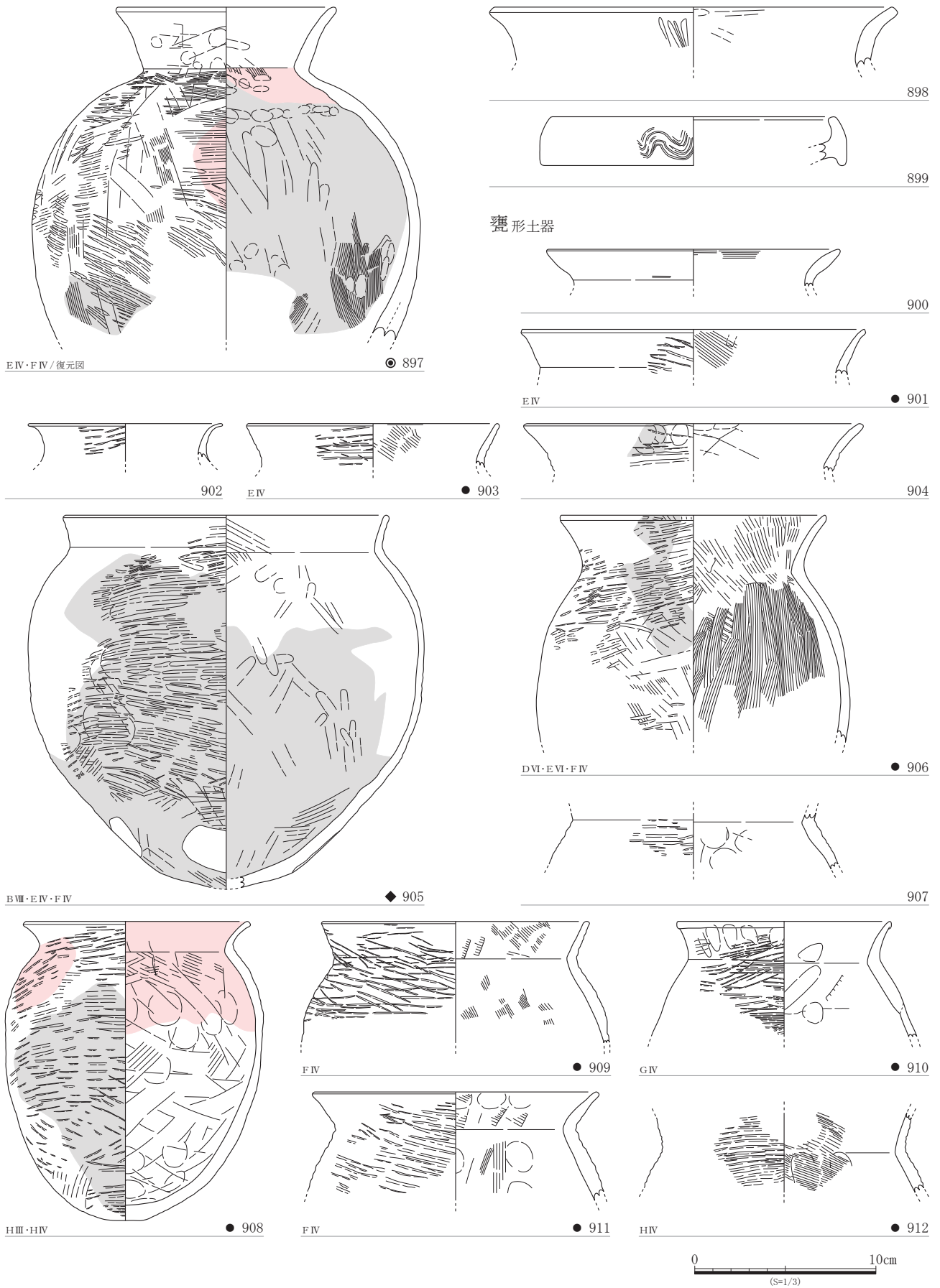


3層（下位）出土遺物

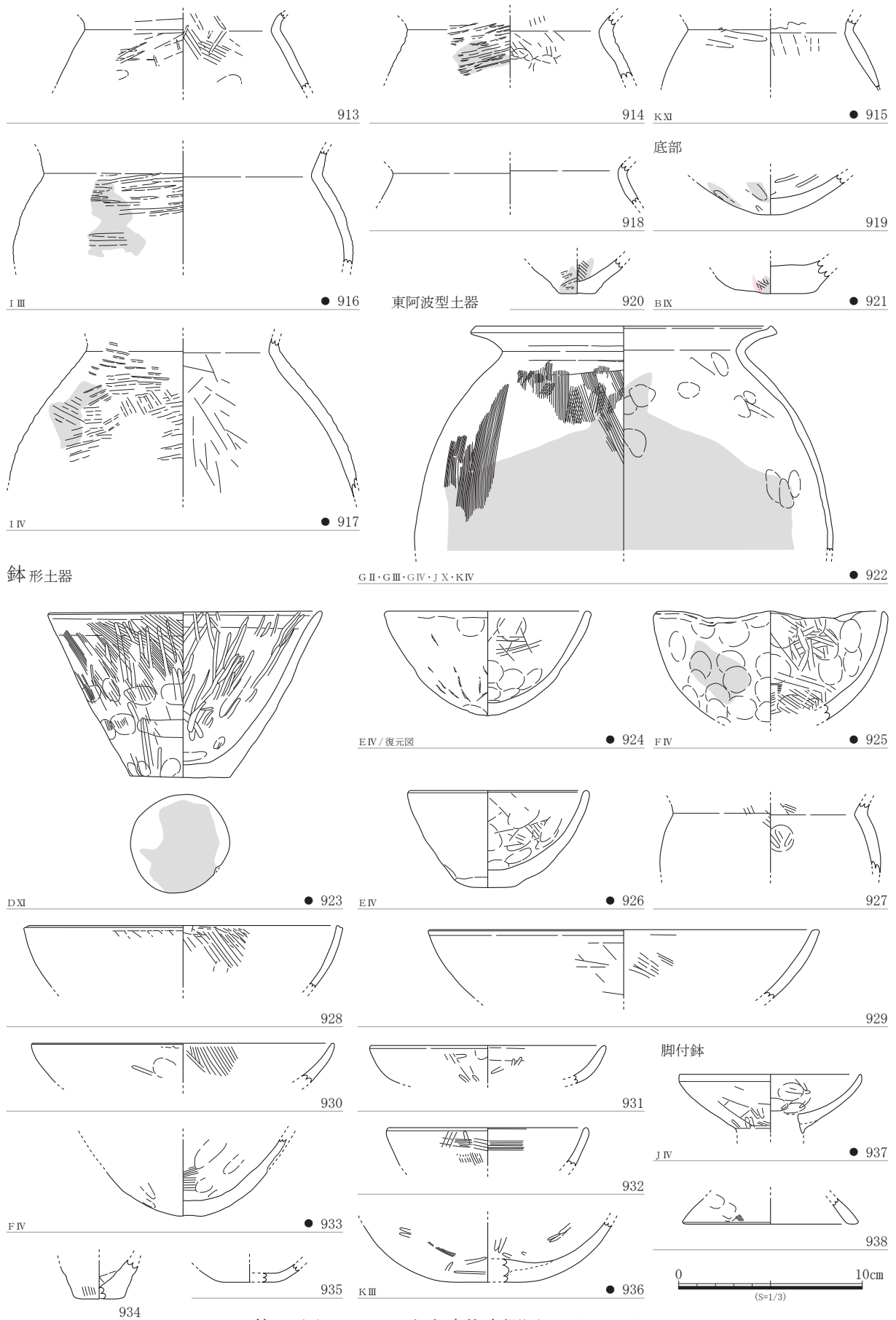
壺形土器



第58図 ST 1 出土遺物実測図 34 (S=1/3)

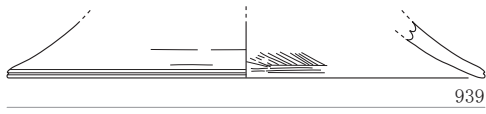


第59図 ST 1 出土遺物実測図 35 (S=1/3)



第60図 ST 1 出土遺物実測図 36 (S=1/3)

高坏形土器



礫石器



支脚形土器



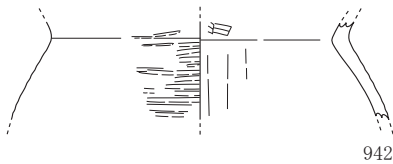
F II

● 940 D II

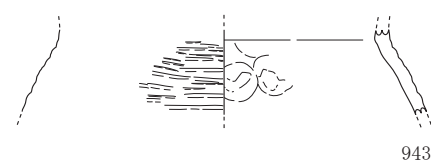
★ 941

3層（最下位）出土遺物

甕形土器



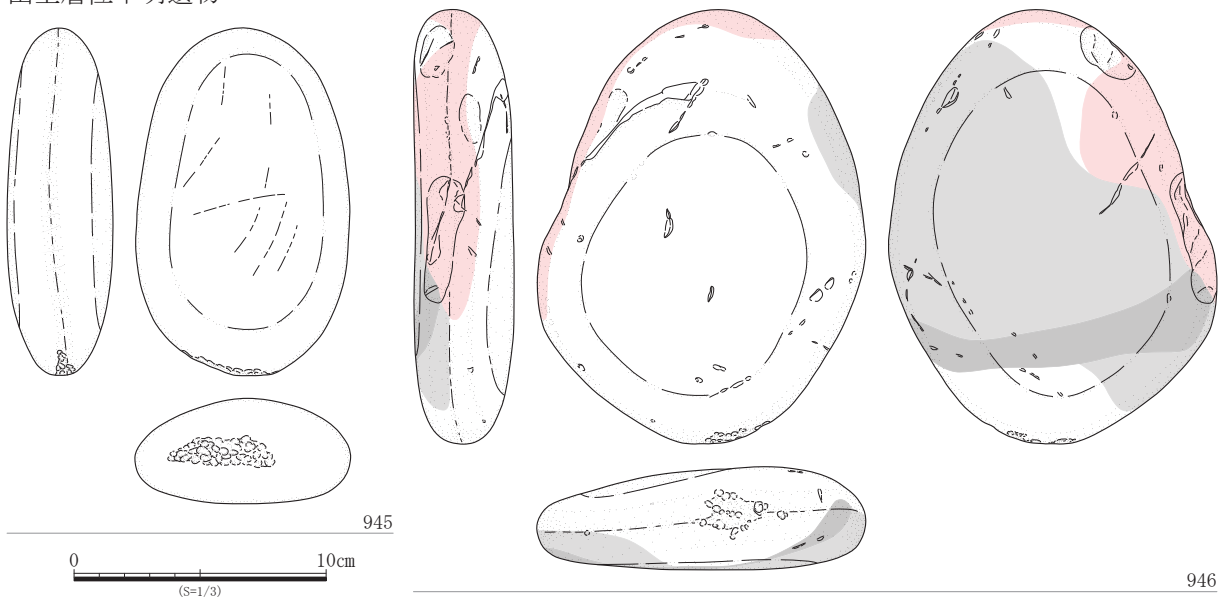
鉢形土器



B VII

● 944

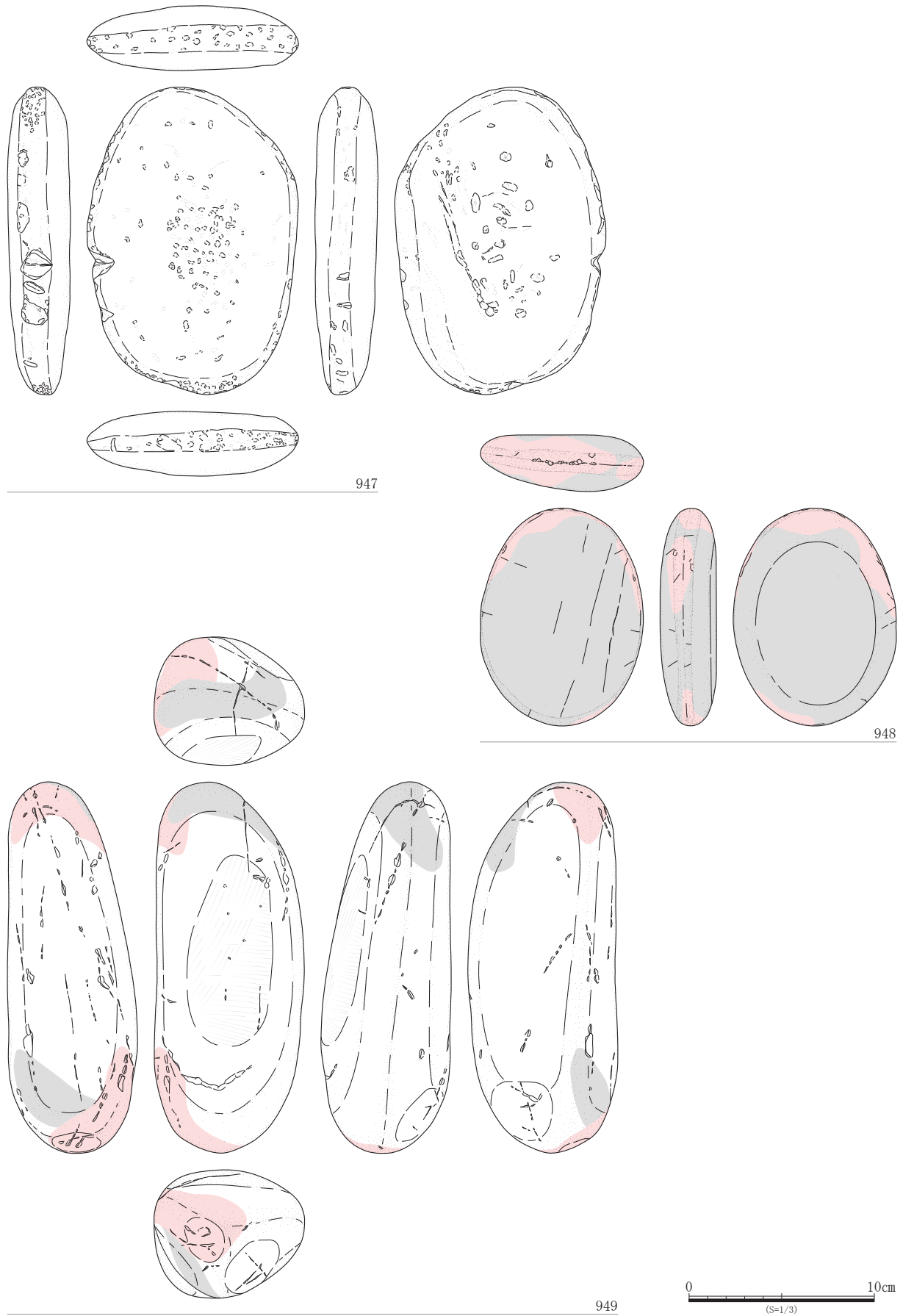
出土層位不明遺物



0 10cm
(S=1/3)

946

第 61 図 ST 1 出土遺物実測図 37 (S=1/3)

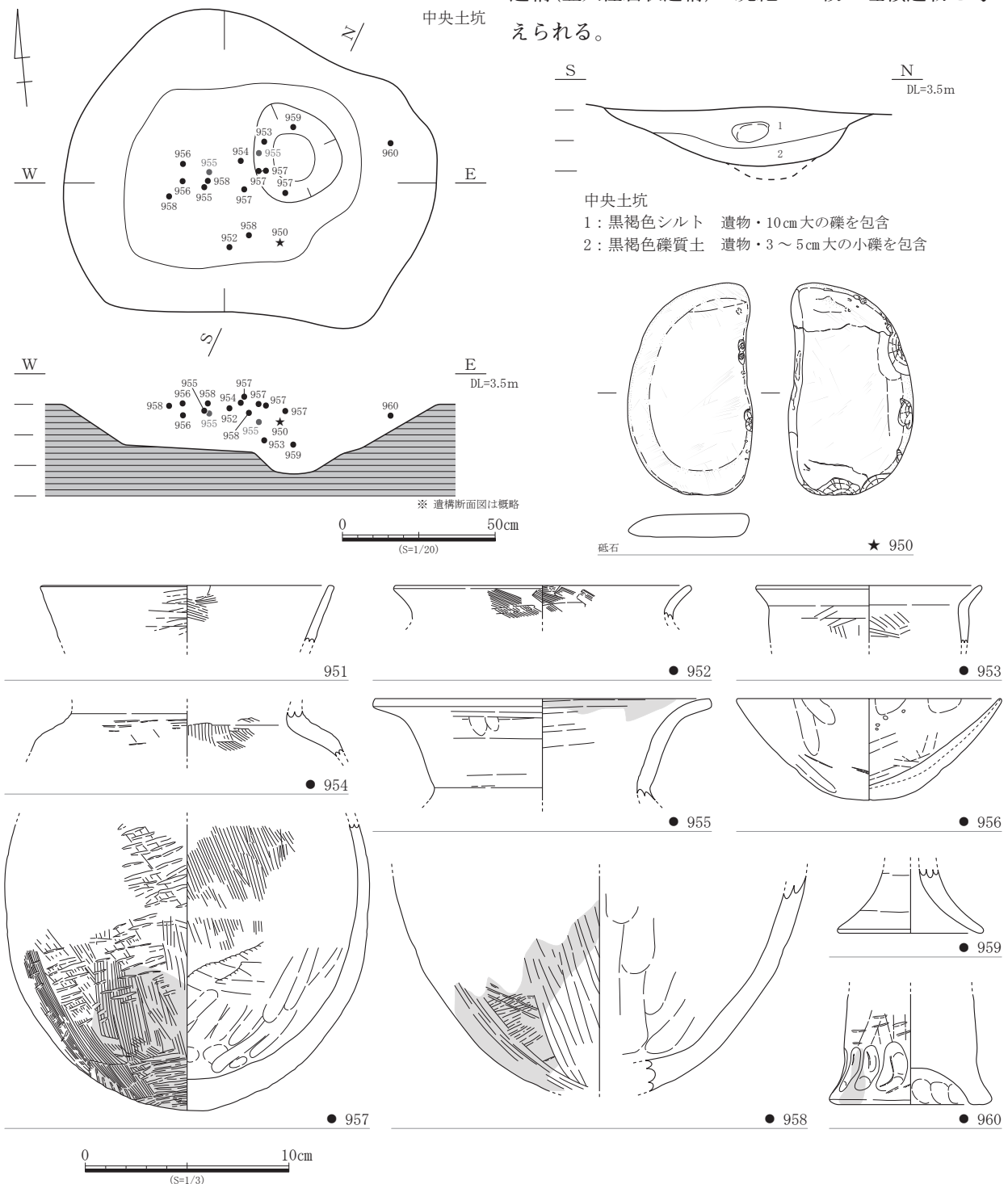


第 62 図 ST 1 出土遺物実測図 38 (S=1/3)

中央土坑

本遺構の中央附近に位置する。検出高は3.40mを測る。平面形状は歪な長方形を呈し、長軸約1.2m、短軸約0.8～1.0mを測る。長軸方向はN-84.5°-Wを示す。断面形態は凹状を成し、深さは18cmを遺存している。底面に長径33cm、短径28cm、深さ10cmを測る小穴を有している。埋土は黒褐色シルトを基調とするが、被熱残滓等の検出は認められなかった。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片232点(951～960)と砥石(950)を1点出土している。何れも帰属遺構(竪穴住居状遺構)が廃絶した後の埋積遺物と考えられる。

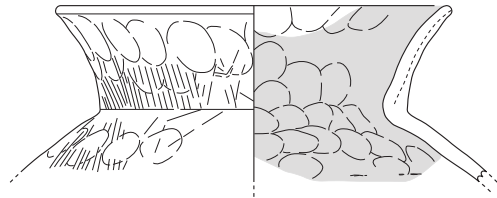


第63図 ST 1 中央土坑 遺構平面図・他 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)

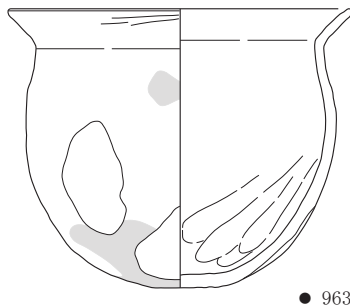
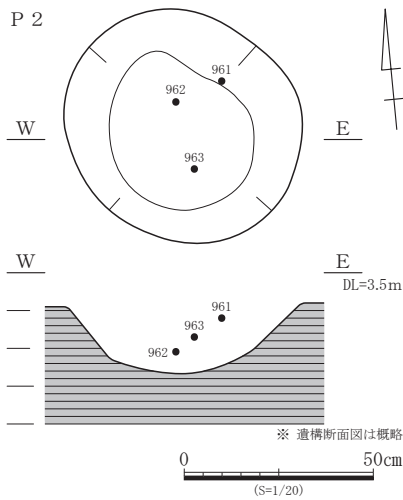
ST 1 P 2

本遺構の南東に位置する。検出高は3.41mを測る。平面形態は垂円形状を呈し、長径65cm、短径58cmを測る。竪穴住居状遺構を構成する支柱穴の1つと考えられ、断面形態は凹状を成して深さは19cmを遺存している。埋土は褐色シルトを基調とする。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片440点(961~963)を出土している。遺物の埋存状況等から帰属遺構(竪穴住居状遺構)廃絶後の意図的な遺棄(埋納)の可能性が考慮される。



● 961



● 963



● 962

0 10cm (S=1/3)

第64図 ST 1 P 2 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)



ST 1 P 2 遺物出土状態：961・962・963

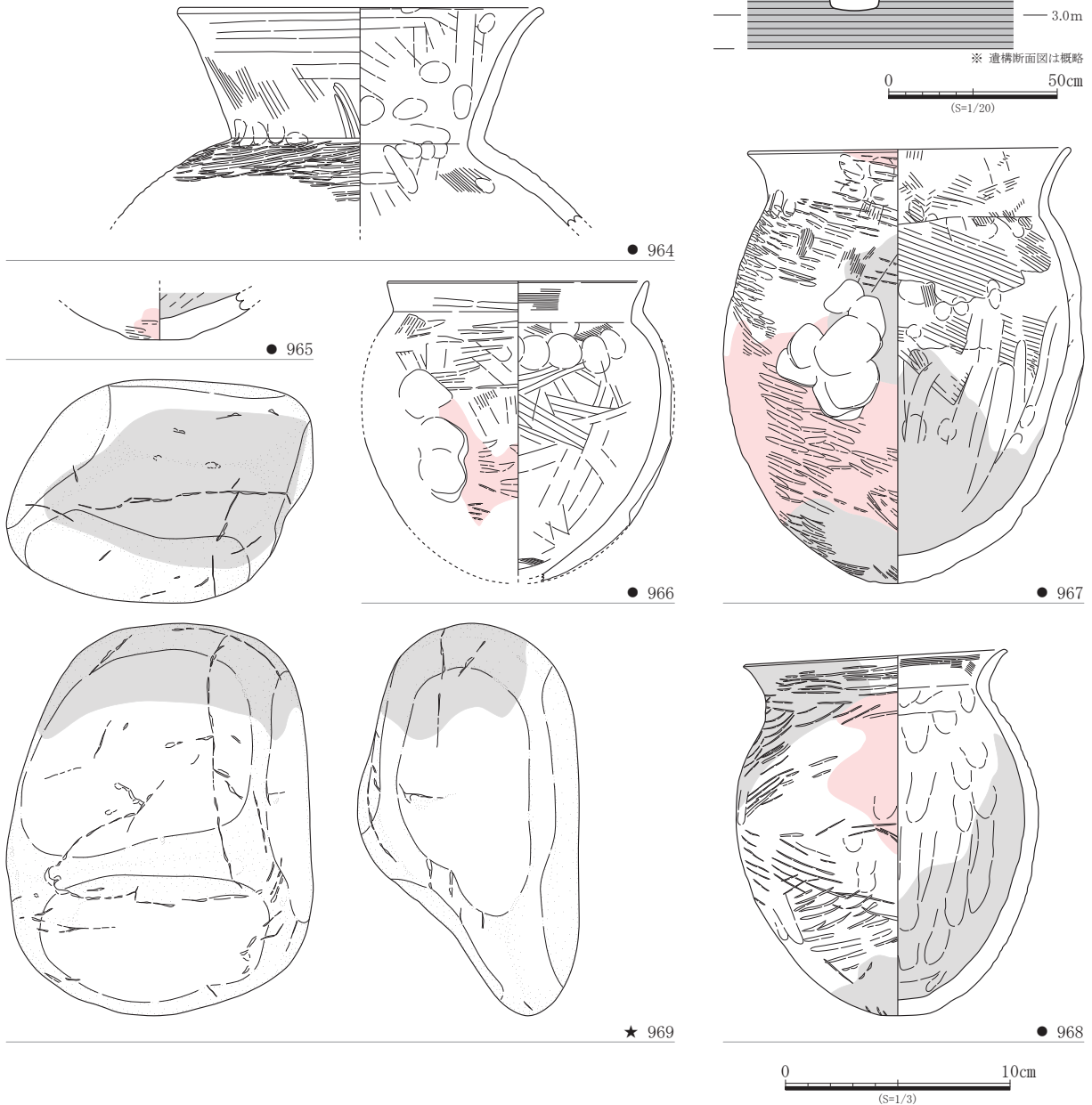
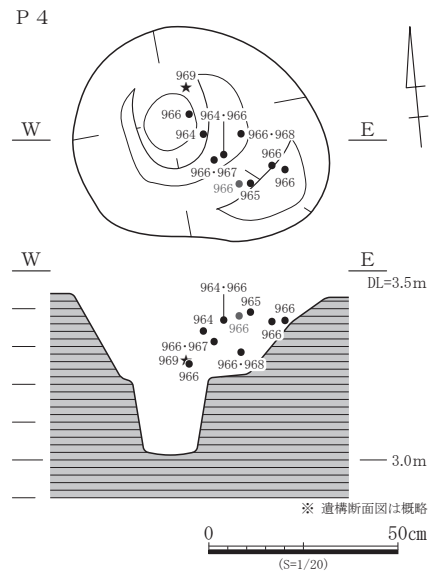


ST 1 P 4 遺物出土状態：967・968

ST 1 P 4

本遺構の北西に位置する。検出高は3.44mを測る。平面形態は歪な垂円形状を呈し、長径68cm、短径59cmを測る。竪穴住居状遺構を構成する支柱穴の1つと考えられ、断面形態は漏斗状を成して深さは43cmを遺存するなど、立柱に適した形状を有している。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片255点(964～968)を出土している。遺物の埋存状況等から帰属遺構(竪穴住居状遺構)廃絶後の意図的な遺棄(埋納：一次廃物)の可能性が考慮され、出土した礫(969)には煤が認められる。

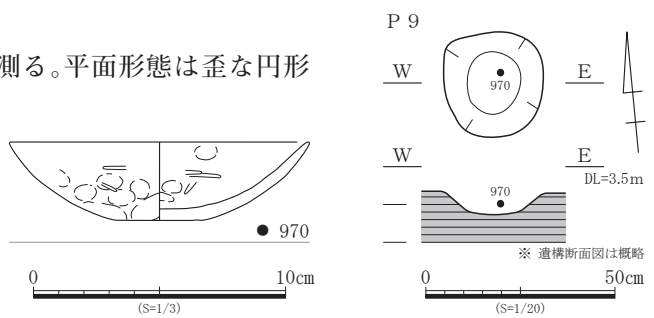


第65図 ST 1 P 4 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)

ST 1 P 9

本遺構の南西に位置する。検出高は3.43mを測る。平面形態は歪な円形状を呈し、長・短径共に29cmを測る。断面形態は凹状を成して深さは7cmを遺存している。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

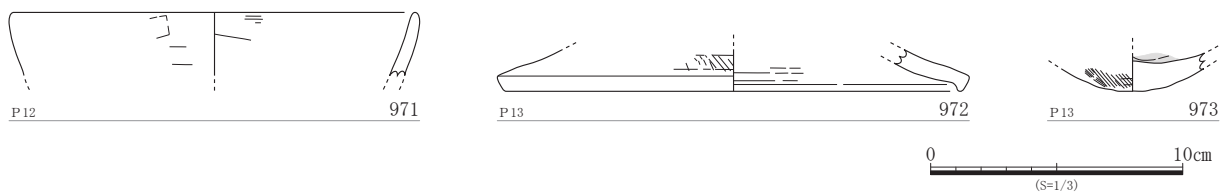
遺物は弥生後期後葉を示唆する土器片9点(970)を出土している。



第 66 図 ST 1 P 9 遺構平面図・断面図 (S=1/20) 出土遺物実測図 (S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版 番号
		長径	短径	深さ						
ST 1 P 10	歪円形状	51	45	9	3.470	褐色シルト	—	GIX-4	弥生土器(摩耗) 3点	
ST 1 P 11	歪円形状	42	34	6	3.419	黒褐色シルト	—	HVIII-9・13	弥生土器(摩耗) 1点	
ST 1 P 12	楕円形状	68	50	13	3.401	黒褐色シルト	—	HVIII-6・7・10・11	弥生土器(摩耗) 8点	971
ST 1 P 13	歪円形状	45	38	16	3.394	黒褐色シルト	—	HVIII-7	弥生土器 2点	972 973
ST 1 P 14	楕円形状	46	37	9	3.382	黒褐色シルト	—	HVIII-12	弥生土器(摩耗) 5点	
ST 1 P 15	円形状	34	33	9	3.442	褐色シルト	ST 1 SK 2	HVIII-16 / HIX-4	弥生土器(摩耗) 10点	
ST 1 P 16	円形状	36	34	15	3.432	黒褐色シルト	—	HIX-4	弥生土器(摩耗) 2点	
ST 1 P 17	円形状	52	51	10	3.402	黒褐色シルト	—	IX-5	弥生土器(摩耗) 3点	

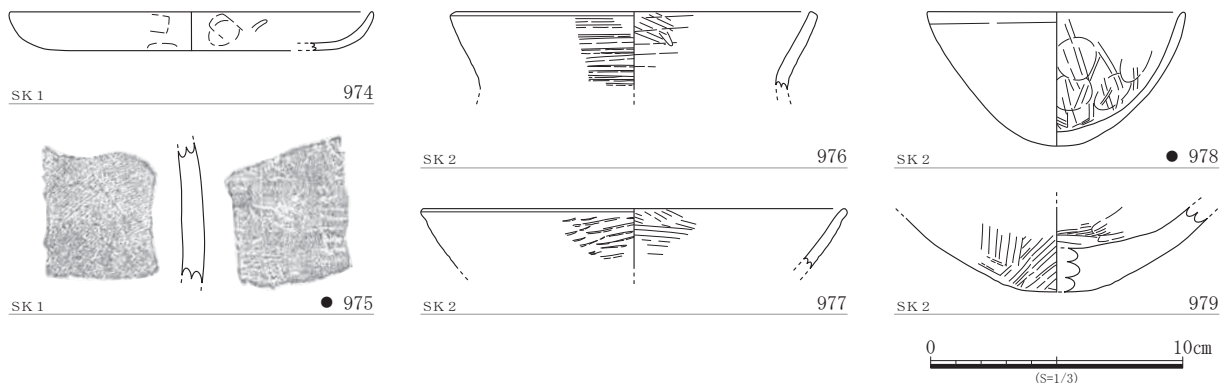
第 6 表 ST 1 ピット状遺構 計測表



第 67 図 ST 1 Pit状遺構 出土遺物実測図 (S=1/3)

遺構番号	平面形状 (概形)	規模 (m/cm)			検出高 (m)	埋土 (土色・土性)	重複関係	遺構位置 (グリッド)	出土遺物 (破片点数)	図版番号
		長径	短径	深さ						
ST 1 SK 1	歪円形状	1.20	0.82	15	3.449	黒褐色シルト	Pit 状遺構	GVIII-4・8 HVIII-1・5	弥生土器 11点	974・975
ST 1 SK 2	楕円形状	2.70	0.96	10	3.425	褐色シルト	ST 1 P 15	IVIII-9・13 IX-1・5	弥生土器(摩耗) 39点	976・977 978・979

第 7 表 ST 1 土坑状遺構 計測表



第 68 図 ST 1 土坑状遺構 出土遺物実測図 (S=1/3)

第3節 小括

弥生後期後葉に還元する竪穴住居状遺構などを検出した当遺跡は、物部川下流域東岸に形成される野市台地縁辺部(扇端部)に展開する弥生後期末～古墳初頭にかけての遺跡群(野口遺跡・射場屋敷遺跡等)との連関に蓋然性を求められる。当期は県内でも遺跡数が増加する時期に該当し、香長平野における遠因には拠点的集落となる田村遺跡群の衰滅(後期中葉頃)を一因とする周辺地域への分布が指摘されている。

本試掘調査での成果は限定的で、具体的な空間配置や同時併存遺構の抽出等の遺跡形成に関わる集落構造の把握は能わなかったが、近接する当該期遺跡群との歴年代的な併行関係や可視関係を勘案すれば、周辺に集落跡が遺存している可能性が推測され、埋蔵文化財包蔵地範囲の再検討が用務となる。

土器型式での相対編年区分は概してヒビノキⅢ式の範疇に帰属し、主要な器種別の組成比率は当該期の一般的な傾向とほぼ一致していると推定される。また本調査において検出した竪穴住居状遺構は出土遺物の帰属時期から弥生後期後葉に位置付けられる。平面形態は隅丸方形状を基調とし、床面中央附近に土坑状の中央ピットが設けられている配置も当該期の竪穴建物跡に報告例があるとされている。4本主柱による上部構造(上屋)を想定でき、床面積が約36㎡を測る中型の住居跡と考えられるが、棟持柱を有していた可能性を含め、中央土坑の火処(燃烧施設)としての機能の是非や多量の遺棄資料の出土等からST1の性格については今後検討を要する課題と思われる。該期を当遺跡の興起として捉え得るが、以降の継続的な考古資料は確認できず、弥生終末～古墳初頭には廃滅した集落跡と考察される。背景として古環境の不安定化や移行期における社会考古学的な再編などの可能性を推論する。また仁淀川河口域東岸の砂堆上に立地する仁ノ遺跡⁽¹⁾(高知市春野町)と出土遺物が類似するなど、関連性にも留意したい。

物部川下流域周辺は、調査事例の蓄積により当該期の土器編年や集落研究における変遷等の分析が近年整いつつある。その中に在って、低平な沖積扇状地の旧河道地形に挟まれた自然堤防上に立地する集落跡を検出した本遺跡は、定見となる段丘縁辺部に占地する高所偏重型の遺跡分布に一考を思量する例証としてその評価が課題となる。然るに本試掘調査においては、精査に要する期間などから十分な成果を整理し所収することは困難を伴い、実用に供する資料の提示には不備を否めず意を尽くして得ていない。本書では調査対象地における事実報告を概要するに留め、後事に期したい。

【註】

(1) 松村信博・徳平 晶『仁ノ遺跡 発掘調

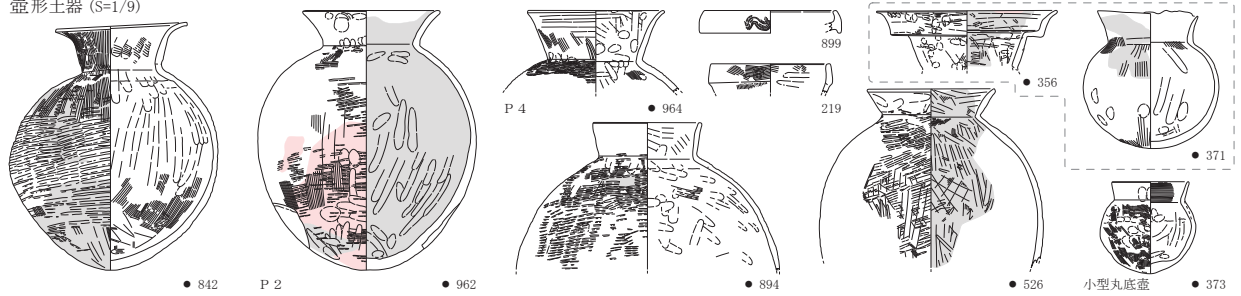
査報告書』春野町教育委員会 2003年



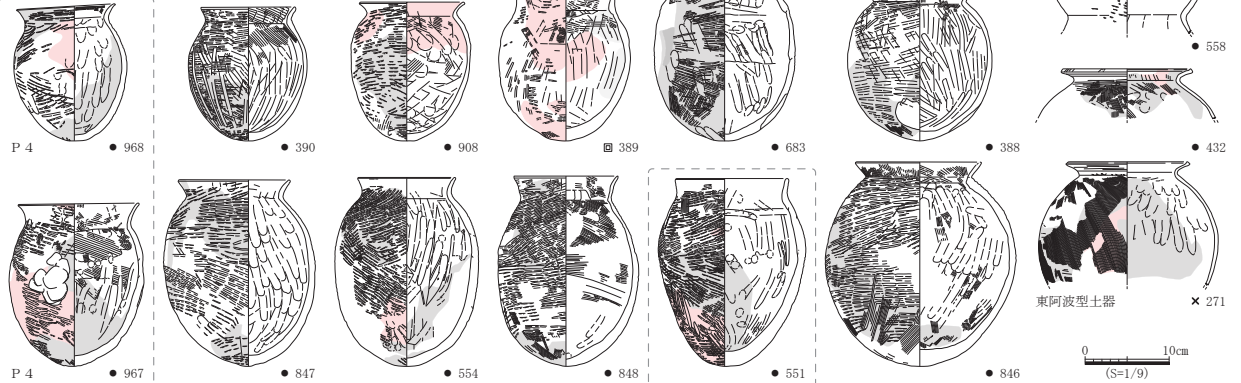
ST 1 遺物出土状態：543・555(甕)・591・592(鉢)・631(高坏)

第69図 ST 1 出土遺物一括資料 (S=1/6)

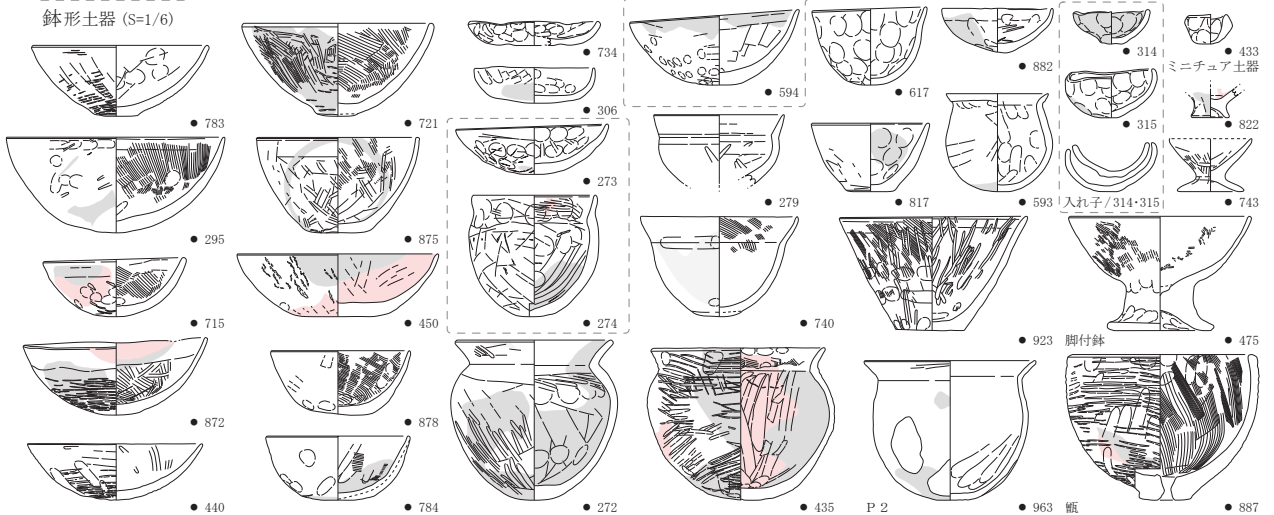
壺形土器 (S=1/9)



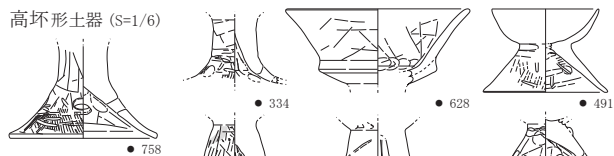
甕形土器 (S=1/9)



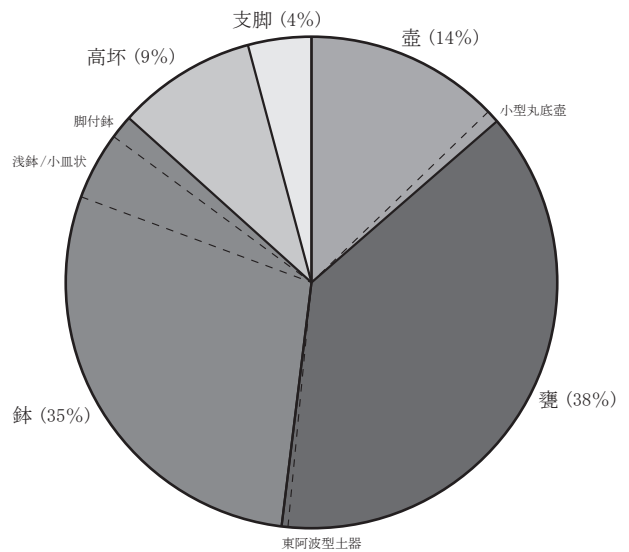
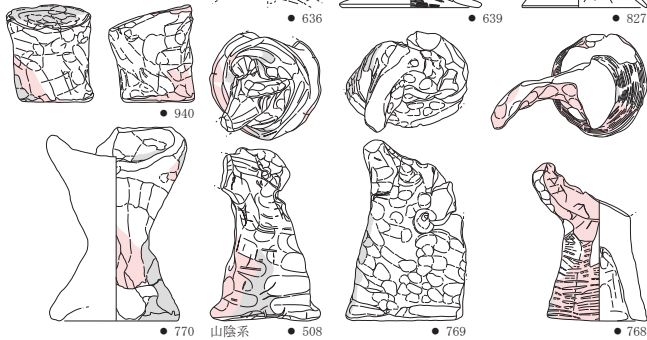
鉢形土器 (S=1/6)



高环形土器 (S=1/6)



支脚形土器 (S=1/6)



第70図 ST 1 出土遺物資料 (S=1/6・1/9) 組成比率 (壺・甕・鉢・高环・支脚形土器)

遺物觀察表

遺物観察表

遺物観察表凡例

1. 法量の（ ）は残存値、[] は復元値である。単位はcm。

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色 調	特 徴	備 考
			口径	器高	底径			
1 (第13図)	TR 6 (検出面)	須恵器 坏身	[12.3]	2.9	[7.5]	内) 黄灰 外) 灰白	精選された胎土。回転ナデ調整。体部は低く開き気味に立上り、強いナデにより外面に凹状の段を成す。受け部は外方に伸び、端部は丸く収める。立上りはやや内傾し、端部は丸く尖らせる。	
189 (第12図)	TR 5 SX 3	弥生土器 脚坏鉢	—	(2.0)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。分割成形。	全体的に摩耗
190 (第12図)	TR 5 SX 3	弥生土器 甕	—	(1.7)	[1.4]	内) 灰白 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向する。	底部外面に煤け 全体的に摩耗
191 (第12図)	TR 5 SX 3	須恵器 (胴部)	—	(3.4)	—	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。外面の平行叩目をハケ状原体で調製。内面に同心円状の当具痕。	全体的に摩耗
192 (第12図)	TR 5 SX 3	土師質土器 碗	[13.8]	(4.8)	6.7	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。体部は緩やかに立上り、口縁端部は丸く収める。内面はハケ状原体による調製。内底面端部は凹(落込み)状を成す。円盤状高台。底部回転糸切痕。	平高台碗 10C後半～11C前半 全体的に摩耗
193 (第12図)	TR 5 SK14	弥生土器 甕	—	(11.1)	—	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に煤け・被熱痕 全体的に若干摩耗
194 (第12図)	TR 5 SK14	弥生土器 甕	—	(1.8)	[2.0]	内) 黒 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向する。	内面に煤け
195 (第12図)	TR 5 SK14	弥生土器 (底部)	—	(2.1)	[2.8]	内) 灰黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	外面に煤け 全体的に摩耗
196 (第12図)	TR 5 SD 2	須恵器 (胴部)	—	(3.8)	—	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。外面の平行叩目をハケ状原体で調製。内面に同心円状の当具痕。	全体的に摩耗
197 (第13図)	TR 6 (検出面)	須恵器 (胴部)	—	(4.0)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。外面の平行叩目をハケ状原体で調製。内面に同心円状の当具痕・自然釉。断面は赤灰色。	全く摩耗なし
198 (第13図)	TR 6 SD 1	弥生土器 壺	[17.6]	(1.2)	—	内) 褐灰 外) にぶい褐	精選された胎土。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取る。	内外面に煤け
199 (第13図)	TR 6 SD 1	弥生土器 鉢	[14.4]	(4.0)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ・ヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
200 (第13図)	TR 6 SD 1	弥生土器 (底部)	—	(1.9)	[3.3]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。底部は平底状(粘土盤を貼付した可能性)。	
201 (第13図)	TR 6 SD 1	弥生土器 (底部)	—	(1.5)	[2.8]	内) にぶい橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
202 (第13図)	TR 6 SD 1	土師質土器 坏	—	(1.8)	[6.0]	内) 橙 外) 橙	精選された胎土。円盤状高台。	全体的に若干摩耗
203 (第14図)	TR 6 SD 1	須恵器 (胴部)	—	(10.7)	—	内) 黄灰 外) 灰白	精選された胎土。外面の叩目をハケ状原体で調整。内面に同心円状の当具痕。外面に自然釉。	全く摩耗なし
204 (第15図)	TR 6 P211	弥生土器 壺	[18.8]	(0.9)	—	内) 灰黄 外) 灰黄	雲母片等を含む精選された胎土。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取る。口縁端部に粘土帯を貼付。	
205 (第15図)	TR 6 P211	弥生土器 支脚	—	(2.0)	[6.6]	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。脚部は上げ底状の可能性を有し、端部は丸く収める。手握ね成形。	全体的に若干摩耗
206 (第16図)	ST 1 (上面)	須恵器 (口縁部)	[11.2]	(1.2)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。回転ナデ調製。口縁部はラップ状に開き、端部は丸状に面を取る。	
207 (第16図)	ST 1 (上面)	須恵器 坏	[10.6]	(1.1)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。回転ナデ調製。口縁端部は丸く収める。	
208 (第16図)	ST 1 (上面)	土師質土器 (底部)	—	(1.5)	[4.8]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部の円盤状高台は形骸化し、断面に粘土帯接合痕(貼付)。	全体的に摩耗
209 (第16図)	ST 1 (上面)	土師質土器 (底部)	—	(0.9)	[3.9]	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	精選された胎土。輪高台状。	全体的に摩耗
210 (第16図)	ST 1 (上面)	土師質土器 坏/小皿	—	(0.9)	[5.4]	内) 橙 外) 橙	精選された胎土。内底面に凹状のロクロ目痕を有するが、摩耗により不明瞭。底部回転糸切痕。	全体的に摩耗
211 (第16図)	ST 1 (上面)	土師質土器 坏	—	(1.0)	[8.8]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。	全体的に摩耗
212 (第17図)	ST 1 (上面)	須恵器 高坏	—	(8.3)	—	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。回転ナデ調整。脚部外面にハケ状原体による条痕(文様化)。	
213 (第17図)	ST 1 (上面)	須恵器 皿	[12.4]	(1.9)	—	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。回転ナデ調整。口縁端部は丸く収める。	
214 (第17図)	ST 1 (上面)	須恵器 坏	[12.0]	3.0	[5.6]	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。回転ナデ調整(ロクロ目痕)。	
215 (第17図)	ST 1 (上面)	須恵器 (胴部)	—	(6.0)	—	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。外面の格子目状痕をハケ状原体で調製。内面は同心円状の当具痕をナデで消す。断面は赤灰色。	
216 (第17図)	ST 1 (上面)	須恵器 (底部)	—	(0.6)	—	内) 青灰 外) 暗青灰	精選された胎土。回転ナデ調整。底部回転糸切痕。断面は赤灰色。	
217 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[14.0]	(0.9)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は上下に拡張し面を取る。	外面に煤け
218 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[15.9]	(1.8)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	
219 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[14.0]	(3.5)	—	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。粘土帯接合部を縦ハケで消す。口縁部は受け口状でやや内傾気味に立上る粘土帯を付加し、端部は丸状に面を取る	二次口縁

第8表 遺物観察表 1

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色 調	特 徴	備 考
			口径	器高	底径			
220 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[13.4]	(3.4)	—	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。口縁部は外傾して立上り、端部は面を取る。	内面に煤け
221 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[11.7]	(3.5)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内外面にヘラミガキ。口縁部は外傾し、端部は丸状に面を取る。	
222 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[14.6]	(2.3)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に外反し、端部は僅かに面を取る。	
223 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[12.4]	(3.1)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	
224 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	[14.8]	(2.3)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。	
225 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	—	(2.3)	—	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。口縁部はラップ状に屈曲し、端部は若干摘み上がる。	
226 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	—	(2.6)	—	内) にぶい黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ。	
227 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	—	(2.0)	[1.0]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。底部は丸底状を成す。	
228 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 壺	—	(9.0)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細粒砂を含む精選された胎土。外面はハケ調製。胴部は楕円形状を呈する。	小型丸底蓋 全体的に摩耗
229 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[12.8]	[19.5]	2.4	内) 灰黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラケズリ。口縁部は緩やかに外反し、端部は小さく丸める。胴部中に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け・被熱痕 未接合資料/復元図
230 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[13.1]	(3.8)	—	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
231 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[14.0]	(1.9)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
232 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[14.0]	(2.6)	—	内) 灰黄褐 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、丸状に面を取る。	
233 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[14.6]	(2.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	
234 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[12.6]	(7.7)	—	内) 黄灰 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は面を取る。	
235 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[21.6]	(12.9)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面のハケをナデで消す。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	粘土帯接合部で破損
236 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[15.4]	(6.7)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面の縦ハケをナデで消す。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	
237 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[16.0]	(4.5)	—	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は粘土帯を貼付して外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
238 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[12.4]	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
239 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗/鉢	[11.2]	(3.5)	—	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	内外面に煤け 鉢形土器の可能性
240 (第25図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[12.5]	(5.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
241 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[21.4]	(2.6)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部はラップ状に開き、端部は小さく丸める。	全体的に摩耗
242 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[21.0]	(3.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
243 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[20.0]	(1.9)	—	内) 浅黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は僅かに上下に拡張し、面を取る。	
244 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	[18.4]	(2.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は僅かに面を取る。	
245 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(3.2)	—	内) 灰白 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	
246 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(3.7)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ。	
247 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(5.2)	—	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。頸部は有稜を成す。	器表の荒れが激しい
248 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(4.5)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に煤け
249 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(5.7)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
250 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(4.4)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外反。	全体的に摩耗
251 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(10.1)	—	内) 灰白 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。	外面に煤け・被熱痕
252 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甗	—	(7.0)	—	内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。	全体的に若干摩耗

第9表 遺物観察表 2

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量 (cm)			色 調	特 徴	備 考
			口径	器高	底径			
253 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(3.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
254 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.8)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反。	
255 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に若干摩耗
256 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(3.6)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。	全体的に摩耗
257 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
258 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(5.1)	—	内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。頸部粘土帯接合部にユビオサエ。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
259 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
260 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.9)	[2.0]	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け 全体的に摩耗
261 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.4)	[1.6]	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビオサエ。底部は丸底状。	内面に煤け 全体的に摩耗
262 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(3.4)	[2.8]	内) 灰白 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は平底状。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
263 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.2)	[2.9]	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。外底面に叩目状圧痕。底部は平底状を成す。	内面に煤け
264 (第26図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(2.3)	[2.5]	内) 黒褐 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。外底面にハケ状原体による圧痕(調製)。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け
265 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(4.0)	[1.0]	内) 淡黄 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面は縦ハケ調製。底部は丸底(尖底)。	外面に煤け
266 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(5.0)	5.4	内) 黄灰 外) 淡黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をハケで消す。底部は丸底状。	内外面に煤け
267 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(3.2)	[2.8]	内) 灰 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底化を指向する。	全体的に摩耗
268 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(10.0)	2.4	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をハケで消す。内面は縦ハケ調製。底部は丸底状。	底部内外面に煤け
269 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	—	(6.7)	—	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をハケで消す。内面は縦ハケ調製・ユビオサエ。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
270 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	[15.2]	(1.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	精選された胎土。口縁部はラッパ状に屈曲し、端部は上方へ摘み上げる。	東阿波型土器 全体的に若干摩耗
271 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	14.2	(14.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	精選された胎土。外面は縦ハケ調製。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は上方へ摘み上げる。胴部は球形状を呈する。	外面に煤け・被熱痕 東阿波型土器
272 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[12.2]	12.8	1.0	内) 黄灰 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。内面にユビオサエ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。体部は球形状を呈し、底部は丸底状を成す。	胴部内外面に煤け 全体的に若干摩耗
273 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	12.1	4.0	3.4	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	275と伴出性が高い
274 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.6]	9.7	3.0	内) 灰黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の調整をナデで消す。口縁部内面は横ハケ調製・ユビオサエ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。底部は丸底化を指向した平底状を成す。	内面に煤け・被熱痕 274と伴出性が高い
275 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[11.9]	(3.8)	[1.0]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
276 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[15.4]	(3.0)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
277 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[15.9]	(3.2)	—	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	外面に煤け
278 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	—	(4.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の縦ハケをナデで消す。体部は球形状を呈する。	外面に煤け
279 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[10.3]	(5.5)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面に横ナデ・ヘラミガキ。丸みを帯びた体部から口縁部が緩やかに外反し、端部は丸く収める。	
280 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[16.5]	(5.1)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	外面に煤け 全体的に摩耗
281 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.0]	(1.9)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
282 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.7]	(2.8)	—	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
283 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[16.9]	(3.7)	—	内) 橙 外) 明赤褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調製。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は面を取る。	外面に煤け
284 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.0]	(2.6)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	

第10表 遺物観察表 3

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量 (cm)			色 調	特 徴	備 考
			口径	器高	底径			
285 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[12.6]	(3.1)	—	内) 灰黄褐 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
286 (第27図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[15.8]	(2.6)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面は横ハケ調製。口縁端部は端反り気味に外反し、端部は丸く尖らせる。	
287 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[17.4]	(5.5)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
288 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[27.8]	(6.0)	—	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
289 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[15.6]	(4.2)	—	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	外面に煤け
290 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.8]	(3.7)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
291 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.6]	(5.4)	—	内) 淡黄 外) 淡黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状。	全体的に摩耗
292 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[16.6]	5.3	[9.0]	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。底部は平底状。	外面に煤け 全体的に摩耗
293 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[14.1]	5.6	5.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。底部は平底状を成す。	
294 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[16.2]	5.8	4.9	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	全体的に摩耗
295 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[17.3]	7.6	2.0	内) にぶい黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け
296 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.2]	(5.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
297 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.1]	4.3	[4.2]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成す。	外面に煤け
298 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	13.1	4.7	5.3	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	内面に薄い煤け
299 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[12.2]	4.7	0.6	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化(尖底状)を指向する。	底部外面に煤け 全体的に若干摩耗
300 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.2]	5.3	1.6	内) 淡黄 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化(尖底状)を指向する。	全体的に若干摩耗
301 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.4]	(2.1)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は端反り気味に外反し、端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
302 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[10.6]	(4.0)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	
303 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.2]	(4.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ・罅状痕。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。手捏ね成形。	外面に煤け
304 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.6]	(3.2)	[2.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	
305 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.1]	2.8	2.7	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状。手捏ね成形。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
306 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.4]	2.9	7.0	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	外面に煤け
307 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[7.8]	1.2	[5.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	全体的に摩耗
308 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[12.2]	1.5	—	内) 灰黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は皿状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。底部は平底状。	
309 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[13.4]	(2.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は僅かに凹状を成す。	底部外面に煤け
310 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[9.8]	2.2	[7.4]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。手捏ね成形。	全体的に摩耗
311 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[12.1]	2.0	[9.6]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。手捏ね成形。	
312 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[11.7]	2.7	6.2	内) 淡黄 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成し、中央が凹んでいる。	全体的に若干摩耗
313 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	[4.0]	(2.4)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状。手捏ね成形。	内外面に煤け ミニチュア土器
314 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	5.8	2.8	1.2	内) 黄灰 外) 暗灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。手捏ね成形。	内外面に煤け 315と入れ子状態
315 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	6.7	3.9	1.4	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を指向する。手捏ね成形。	外面に煤け 314と入れ子状態
316 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.8)	1.0	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を指向する。	外面に煤け

第11表 遺物観察表 4

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
317 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.5)	[2.2]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向した平底状。	全体的に若干摩耗
318 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.6)	3.7	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。底部は平底状を成す。	外面に煤け
319 (第28図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.0)	[4.8]	内) にぶい橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	
320 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (口縁部)	[20.4]	(2.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
321 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(2.3)	[6.0]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は平底状を成す。	古相 全体的に摩耗
322 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(2.4)	[7.3]	内) 灰 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は平底状。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
323 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(1.1)	3.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は薄い粘土帯を貼付し、平底状を成す。	全体的に若干摩耗
324 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(1.5)	[2.6]	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。底部は平底状を成す。	
325 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(2.9)	[2.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は丸底化を指向した平底状。	全体的に若干摩耗
326 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(1.8)	[3.6]	内) にぶい黄橙 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
327 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(1.7)	[1.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底を成す。	全体的に摩耗
328 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 (底部)	—	(4.3)	[4.2]	内) 灰白 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状。	全体的に摩耗
329 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	[20.8]	(3.1)	—	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坏部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
330 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(4.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。坏部に粘土帯を貼付し、有稜を成す。	全体的に摩耗
331 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(4.5)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坏部は有稜を成す。	全体的に若干摩耗
332 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(4.2)	—	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。脚部は「ハ」字形に開き、3箇所孔径1.1cmの穿孔を有す。	低脚高坏
333 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(7.2)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部外面及び坏部内面にヘラミガキ。内面に絞り目痕。脚部は緩やかに開き、穿孔を有す。	
334 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(5.2)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面に絞り目痕。脚部は筒状を呈し、「ハ」字形に開く裾部の3箇所孔径1.3cmの穿孔を有す。	全体的に若干摩耗
335 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.1)	—	内) 橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。	
336 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.3)	—	内) にぶい黄褐 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。坏部内面は凸状を成す。	全体的に摩耗
337 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.0)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。	全体的に摩耗
338 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(3.5)	[17.8]	内) 橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。裾部は「ハ」字形に開き、端部は面を取る。	脚端部に煤け 全体的に摩耗
339 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.3)	[18.0]	内) 灰白 外) 淡黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部は低平に開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
340 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.9)	[13.3]	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部はラップ状に開き、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
341 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.7)	[10.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。裾部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
342 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.0)	[17.9]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
343 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(0.8)	[12.6]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部は低平に開き、端部は丸く収める。	
344 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.4)	[7.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部は低平に開き、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
345 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。裾部はラップ状に開き、穿孔を有す。	全体的に若干摩耗
346 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(3.5)	[14.0]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。裾部は「ハ」字形に開き、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗

第12表 遺物観察表 5

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
347 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(3.0)	[13.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部は「ハ」字形に開き、孔径1.0cmの穿孔を有す。	
348 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 高坏	—	(3.7)	[15.9]	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。裾部は「ハ」字形に開き、端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
349 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	—	(1.8)	[6.2]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は上げ底状。	
350 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	—	(2.8)	[7.4]	内) 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。	全体的に若干摩耗
351 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	—	(3.0)	[5.4]	内) 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。脚部は円柱状を呈し、僅かに外反する。手捏ね成形。	
352 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	—	(7.8)	[9.6]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内外面に指頭圧痕。脚部は緩やかに外反し、底面は平坦を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
353 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	—	(4.9)	[9.0]	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に絞り目痕。脚部は緩やかに外反し、端部は端反り気味に開く。	全体的に摩耗
354 (第29図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	—	(3.6)	[7.5]	内) 灰 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。脚部は緩やかに外反し、端部は端反り気味に開いて底面は平坦を成す。	内外面に煤け
356 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	21.4	(7.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。口縁部内面に粘土帯を貼付。外傾する頸部から口縁部は屈曲外反し、端部は丸く収める。	内面に煤け・被熱痕 複合(二重)口縁壺 371と伴出性が高い
357 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[16.4]	(6.1)	—	内) 明黄褐 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部はラッパ状に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
358 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[18.2]	(3.3)	—	内) 明黄褐 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。口縁部は外傾して立上り、端部は面を取る。	全体的に摩耗
359 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[19.7]	(1.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。口縁部はラッパ状に開き、端部は上下に拡張して面を取る。	
360 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[21.4]	(2.2)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は横ハケ調製。口縁部はラッパ状に外反し、端部は面を取る。	全体的に摩耗
361 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[13.8]	(6.4)	—	内) 明黄褐 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は外傾気味に立上り、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
362 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[14.4]	(2.8)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に横ハケ調製。口縁部は外傾して立上り、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
363 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[13.6]	(1.4)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。ラッパ状に開き、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
364 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[14.6]	(1.9)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。口縁部はラッパ状に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
365 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[13.6]	(3.5)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
366 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(3.8)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
367 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(2.5)	—	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。	全体的に摩耗
368 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(3.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
369 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(7.2)	—	内) 灰 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。粘土帯接合痕にユビオサエ。	内面に煤け
370 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(2.6)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製・ヘラミガキ。内面の粘土帯接合痕にユビオサエ。	全体的に摩耗
371 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	11.9	16.4	1.0	内) にぶい黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面にユビナデ。外底面にハケ状原体による調整。球形の胴部から口縁部が緩やかに外反し、端部は丸く尖らせる。底部は丸底状を成す。	外面に煤け 小型丸底壺 356と伴出性が高い
372 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[9.6]	(5.7)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面の粘土帯接合痕にユビオサエ。丸みを帯びた体部から口縁部が外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗 小型丸底壺
373 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[9.0]	11.0	1.1	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。口縁部内面は横ハケ調製。粘土帯接合痕をナデで消す。丸みを帯びた胴部から口縁部が外傾し、端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	小型丸底壺
374 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(8.3)	[3.4]	内) 灰 外) 浅黄橙	チャート等の細粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面にユビナデ。外底面にハケ状原体による調整。胴部は丸みを帯びた楕円形状を呈し、底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け 小型丸底壺
375 (第30図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	—	(7.8)	[3.2]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は横ハケ調整。内面は縦ハケ調製/粘土帯接合痕にユビオサエ。胴部は丸みを帯びて底部は丸底化を指向する。	底部外面に煤け 小型丸底壺
376 (第31図)	ST 1 (上面)	弥生土器 壺	—	(30.4)	—	内) 明黄褐 外) 橙	チャート等の細粒砂を含む。胴部の最大径は36.2cm(復元値)を測る。	内面に薄い煤け 全体的に摩耗
377 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[15.6]	(1.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に横ハケ調製。口縁部はラッパ状に開き、端部は丸状に面を取る。	
378 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[13.5]	(3.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に横ハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸状に面を取る。	外面に煤け

第13表 遺物観察表 6

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
379 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[11.3]	(3.0)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外傾し、端部は丸く収める。	
380 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[10.8]	(2.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
381 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[8.2]	(11.0)	—	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面にユビナデ/粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。	外面に煤け
382 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[12.2]	(3.0)	—	内) 黄灰 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は外傾して立上り、丸状に面を取る。	全体的に摩耗
383 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[13.0]	(4.1)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
384 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[10.7]	(4.8)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外傾し、端部は丸く尖らせる。	外面に煤け 全体的に摩耗
385 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 壺	[19.6]	(9.6)	—	内) 浅黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ・胴部は縦ハケ調整。口縁部は外傾し、端部は面を取る。	
386 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[16.0]	(11.4)	—	内) 暗灰黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。	外面に被熱痕 全体的に摩耗
387 (第31図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[15.5]	28.5	1.3	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ・ヘラミガキ。粘土帯接合痕にユビオサエ。口縁部は僅かに肥厚して外傾気味に立上り、端部は丸状に面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
388 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[12.3]	18.0	[0.4]	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。胴部は球形形状を呈し、中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に煤け
389 (第32図)	ST 1 (1層上位)	弥生土器 甕	[12.2]	17.9	1.1	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ・調整ユビナデ。口縁部は粘土帯を接合して緩やかに外反し、端部は丸く尖らせる。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に被熱痕 全体的に若干摩耗
390 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	11.2	16.0	1.0	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。口縁部内面は横ハケ・胴部内面は縦ハケ調整・ユビナデ。外底面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底を成す。	外面に薄い煤け
391 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[14.8]	22.3	[1.1]	内) 灰白 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。下胴部の叩目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ・胴部内面は縦ハケ調整/粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、丸く尖らせる。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	底部外面に煤け 未接合資料/復元図
392 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[15.2]	(18.4)	—	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調整。胴部内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に広く外反し、端部は丸状に面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底状。	内外面に煤け
393 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[13.2]	(7.4)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
394 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[14.7]	(8.2)	—	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
395 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[13.7]	(6.2)	—	内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。肩部は粘土帯接合により肥厚する。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
396 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[12.6]	(8.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ・胴部内面は縦ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。肩部は粘土帯接合により肥厚する。	全体的に若干摩耗
397 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(7.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
398 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(6.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	全体的に若干摩耗
399 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.6)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反。肩部は若干肥厚する。	
400 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(2.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。肩部に粘土帯接合痕。	
401 (第32図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内部はハケ調整。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に若干摩耗
402 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[14.6]	(7.7)	—	内) 淡黄 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調整。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
403 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(6.5)	—	内) 黄灰 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。	全体的に若干摩耗
404 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(6.2)	—	内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調整。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
405 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(4.2)	—	内) 浅黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。肩部に粘土帯接合痕。	全体的に若干摩耗
406 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(6.9)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
407 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(19.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。下胴部の叩目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調整/粘土帯接合痕。	内外面に煤け

第14表 遺物観察表 7

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
408 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[14.2]	(11.5)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製・ユビナデ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸状に面を取る。	外面に煤け・被熱痕 全体的に若干摩耗
409 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[9.4]	(11.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラケズリ。口縁部は短く緩やかに外反し、端部は丸く収める。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
410 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[14.5]	(7.8)	—	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。口縁部は粘土帯を貼付して外反し、端部は面を取る。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
411 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.8)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に被熱痕
412 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
413 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(4.0)	—	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	内外面に煤け
414 (第33図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(4.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調整。	全体的に摩耗
415 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
416 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(4.6)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。口縁部は肥厚して「く」字形に外反。頸部に1条の凹状線。	全体的に摩耗
417 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(14.5)	5.0	内) 灰黄褐 外) 灰褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面の縦ハケをナデで消す。内底面に指頭圧痕。底部は平底状を成す。	内外面に煤け 外面に被熱痕
418 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(12.5)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。下胴部の叩目をハケで消す。内面にユビナデ。胴部中位に最大径。	外面に薄い煤け
419 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(10.1)	—	内) 褐灰 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラケズリ。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け・被熱痕
420 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(4.9)	—	内) にぶい橙 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調整。肩部は肥厚する。	全体的に摩耗
421 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(2.3)	[1.5]	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	外底面に煤け 全体的に若干摩耗
422 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(1.6)	1.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外底面に叩目痕。内底面にヘラケズリ。底部は丸底状を成す。	外底面に煤け 全体的に若干摩耗
423 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	[3.1]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。外底面に叩目痕。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
424 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.0)	[2.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
425 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	1.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
426 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.0)	[4.2]	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。底部は平底状。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
427 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.3)	[2.0]	内) にぶい黄橙 外) 褐灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底状を成す。	外底面に煤け
428 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(3.6)	[5.4]	内) 暗灰 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。底部は平底状を成す。	内外面に煤け
429 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(4.9)	[2.0]	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。	外面に煤け
430 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(5.3)	[4.4]	内) 褐灰 外) 褐灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面のハケ調製をナデで消す。外底面に叩目痕。底部は平底状。	
431 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	—	(6.7)	[8.6]	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は上げ底状を呈し、底面は平坦状を成す。	外面に薄い煤け 全体的に摩耗
432 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 甕	[15.2]	(6.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	精選された胎土。外面は縦ハケ調製・頸部にヘラミガキ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は上方へ積み上げる。	内外面に煤け 東阿波型土器
433 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[3.0]	2.4	0.9	内) にぶい黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手捏ね成形。	ミニチュア土器
434 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	5.2	4.0	0.6	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状。手捏ね成形。	外面に煤け
435 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	13.7	12.1	5.4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。丸みを帯びた体部から口縁部は「く」字形に外反し、端部は部分的に凹状を成す。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け・被熱痕
436 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.6]	(3.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
437 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[10.6]	(3.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
438 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.7]	(3.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	
439 (第34図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[21.0]	(5.4)	—	内) 灰白 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。口縁部は緩やかに内傾し、端部は丸く収める。	外面に煤け

第15表 遺物観察表 8

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
440 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	13.8	4.5	2.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	
441 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.4]	4.5	[3.4]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は坏状を呈し、口縁端部は僅かに凹状を成す。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
442 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.1]	4.7	1.6	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。内底面にヘラ状原体による調製痕。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に煤け
443 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[10.0]	2.9	[2.9]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。底部は丸底化を指向する。	
444 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[10.2]	3.0	5.8	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は平底状を成す。	
445 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(6.3)	3.9	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面の縦ハケをヘラミガキで消す。底部は平底状を成す。	外面に煤け
446 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[12.0]	5.6	2.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	外面に被熱痕
447 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.8]	(2.5)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は端反り状に外反。	外面に煤け
448 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.8]	5.7	[2.4]	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は坏状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成す。	
449 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.2]	(5.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	
450 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[16.0]	5.0	5.8	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成す。	内外面に煤け・被熱痕
451 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[13.6]	6.1	3.6	内) にぶい黄橙 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	
452 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[13.2]	(4.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	
453 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[17.2]	5.2	[4.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
454 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.7]	(5.6)	[3.3]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。外底面の叩目をナデで消す。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	
455 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[13.4]	(2.9)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
456 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[16.8]	(5.0)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
457 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[15.0]	(5.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。内面にユビオサエ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	
458 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.7]	(2.2)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
459 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[9.3]	(3.2)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	
460 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[16.0]	(4.5)	—	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビオサエ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
461 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[15.2]	(3.4)	—	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	
462 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[10.3]	(8.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラミガキ。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。	外面に煤け
463 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[10.0]	2.3	[6.7]	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
464 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[10.6]	2.4	[0.8]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は横ハケ調製。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。底部は丸底(尖底)状を成す。	全体的に摩耗
465 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[8.5]	2.5	3.6	内) にぶい黄橙 外) 淡黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は薄い粘土盤を貼付して平底状を成す。	
466 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[9.7]	2.3	[5.2]	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
467 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[11.0]	1.6	[8.0]	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
468 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[14.4]	2.5	[10.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は玉縁状に肥厚する。底部は平底状。	
469 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.9)	3.8	内) にぶい黄橙 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラミガキ。底部は平底状を成す。	外底面に煤け
470 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.9)	[1.8]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に横ハケ調製。底部は平底状。	
471 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.7)	[4.0]	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。外面に指頭圧痕。底部は平底状を成す。手捏ね成形。	

第16表 遺物観察表 9

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
472 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。	
473 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(3.3)	3.8	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底状を指向する。	全体的に摩耗
474 (第35図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	—	(4.0)	3.8	内) にぶい黄橙 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビナデ。底部は薄い粘土盤を貼付して平底状を成す。	
475 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 鉢	[14.3]	9.1	8.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。坏部外面は縦ハケ調製。脚部内外面に指頭圧痕。坏部は塊状を呈し、端部は丸状に面を取る。低柱状の脚部は上げ底状を成し、裾端部は丸く収める。	脚付鉢
476 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(9.0)	3.3	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。底部は丸底化を指向する。	全体的に摩耗
477 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (下胴部)	—	(4.3)	—	内) 明黄褐 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面はハケ調整。	全体的に摩耗
478 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(3.8)	[3.8]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体的に若干摩耗
479 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(3.3)	3.1	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体的に摩耗
480 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.7)	[2.5]	内) 橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。外底面にヘラ状原体による棒状圧痕。	外底面に煤け 全体的に摩耗
481 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.1)	2.7	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	
482 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.7)	0.6	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底(尖底)状を成す。	全体的に若干摩耗
483 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.5)	[0.7]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
484 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.0)	[4.5]	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状。	全体的に若干摩耗
485 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(2.4)	[4.2]	内) 灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	内面に煤け
486 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.9)	[4.4]	内) 灰 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向した平底状。	内面に煤け
487 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.2)	[3.6]	内) にぶい黄橙 外) 灰黄	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。底部は平底状。	外底面に煤け 全体的に若干摩耗
488 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(1.5)	0.9	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。底部は丸底状を指向する。手捏ね成形。	
489 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (底部)	—	(2.6)	2.4	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調製・ユビオサエ。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
490 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 (胴部)	—	(7.0)	—	内) 灰黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製・ヘラケズリ。	外面に煤け
491 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	[9.8]	[6.5]	[9.5]	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坏部は塊状を呈し、脚部は「ハ」字形に開く。分割成形。	未接合資料/復元図
492 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(3.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。坏部は有稜を成す。	全体的に摩耗
493 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	[8.9]	(2.7)	—	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坏部は塊状を呈し、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
494 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(4.5)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。坏部は有稜を成す。	全体的に摩耗
495 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(3.7)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。	全体的に若干摩耗
496 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(3.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。坏部は有稜を成す。	全体的に摩耗
497 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。坏部は有稜を成す。	全体的に摩耗
498 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(5.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。脚部は筒状を呈し、裾部は「ハ」字形に開いて内面に有稜を成す。分割成形。	全体的に若干摩耗
499 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(6.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面に絞り痕。脚部は筒状を呈し、裾部は「ハ」字形に開く。	内外面に煤け・被熱痕
500 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(2.6)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部は「ハ」字形に開き、孔径1.0cmの穿孔を有す。分割成形。	全体的に若干摩耗
501 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(3.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面頂部に粘土盤を充填。脚部は「ハ」字形に開き、孔径0.9cmの穿孔を有す。分割成形。	全体的に摩耗
502 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(1.5)	[11.1]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。裾部はラップ状に開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
503 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(3.2)	[25.0]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細粒砂を含む。外面は横ハケ調整。裾部は大きく開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
504 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(6.2)	[24.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	外面に煤け

第17表 遺物観察表 10

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
505 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(1.7)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は上げ底状。	全体的に若干摩耗
506 (第36図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 高坏	—	(4.4)	[12.0]	内) 明黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。脚部は「ハ」字形に外傾し、端部は端反り気味に開く。手捏ね成形。	外面に煤け
507 (第37図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 支脚	—	(2.9)	—	内) 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。断面に粘土帯接合痕。脚部は上げ底状。手捏ね成形。	外面に煤け
508 (第37図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 支脚	—	(13.8)	8.6	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面に指頭圧痕・ユビナデ。外面にハケ状原体による調製痕、内面に絞り目痕。体部は約3/4中空。体部に穿孔痕(未貫通)。脚部は「ハ」字形に開く。	外面に煤け・被熱痕 焼成堅緻 山陰系の可能性
509 (第37図)	ST 1 (1層下位)	弥生土器 支脚	—	(12.8)	[7.0]	内) 灰黄 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕・指頭圧痕。内面に絞り目痕。体部は中実で、脚部は上げ底状。指状受け部は欠損。	外面に煤け 脚端部に被熱痕
519 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[16.2]	(1.5)	—	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	
520 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[20.8]	(1.3)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	
521 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[20.0]	(1.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	内面に煤け
522 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[20.2]	(2.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
523 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[12.0]	(1.8)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部はラップ状に外反し、端部は面を取る。	
524 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[11.7]	(2.0)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にユビオサエ。口縁部はラップ状に外反し、端部は僅かに上下に拡張し面を取る。	
525 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[9.1]	(9.0)	—	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外傾し、端部は丸く収める。	内面に薄い煤け 全体的に若干摩耗
526 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[15.0]	(21.4)	—	内) 暗灰 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	内面に煤け
527 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[11.7]	[25.9]	—	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。	内外面に煤け
528 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(14.8)	—	内) 黄灰 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面にユビナデ。	内面に煤け
529 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	[17.2]	—	内) 灰白 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。	外面に煤け 内外面に被熱痕
530 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(3.6)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。	全体的に摩耗
531 (第39図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(2.3)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は叩目を縦ハケで消す。	全体的に若干摩耗
532 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(6.5)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。肩部に粘土帯接合痕。	全体的に摩耗
533 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(3.9)	—	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。	全体的に若干摩耗
534 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(4.0)	—	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面に粘土帯接合痕。	内外面に煤け
535 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(3.6)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面に粘土帯接合痕。	全体的に摩耗
536 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(2.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面に粘土帯接合痕。	全体的に若干摩耗
537 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(4.4)	—	内) 灰 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に若干摩耗
538 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(4.0)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細粒砂を含む。外面に叩目痕。肩部は粘土帯を貼付し肥厚する。	全体的に摩耗
539 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(2.7)	[5.4]	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面にユビオサエ。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
540 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(2.4)	[6.6]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
541 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(2.1)	[4.0]	内) にぶい黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
542 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	—	(1.6)	[10.0]	内) 暗灰 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。外底面に叩目状圧痕。底部は平底状。	内面に煤け
543 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	13.8	19.6	2.1	内) にぶい橙 外) 明褐灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け 555・591・592・631と一括性が高い
544 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	12.3	21.0	0.8	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底(尖底)状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
545 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[14.6]	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗

第18表 遺物観察表 11

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
546 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[13.2]	(2.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁端部は丸状に面を取る。	
547 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[12.6]	(3.0)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	
548 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[14.8]	(5.7)	—	内) 橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。口縁部は如意状に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
549 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[13.3]	(5.4)	—	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
550 (第40図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 壺	[12.8]	(4.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
551 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[13.2]	22.4	4.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。肩部の粘土帯接合部に凹線状。外底面に叩目状圧痕。口縁部は緩やかに外反。胴部中上位に最大径。底部は丸底化を指向する。	全体的に若干摩耗 594・595と伴出性が高い
552 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[15.8]	(20.0)	—	内) 浅黄 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面にユビナデ・ヘラケズリ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
553 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[20.6]	(3.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
554 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[11.5]	22.5	[2.8]	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け 外面に被熱痕 未接合資料/復元図
555 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	12.1	13.6	4.1	内) オリーブ黒 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をユビナデで消す。内面にユビナデ。外底面に叩目状圧痕(調製)。口縁部は外傾し、端部は丸く収める。胴部中上位に最大径。底部は丸底化を成す。	内外面に煤け 543・591・592・631と 一括性が高い/完存
556 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[14.4]	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
557 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[16.1]	(1.9)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は外傾し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
558 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[17.0]	(5.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は内傾し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
559 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[14.3]	(5.8)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部はラッパ状に外反し、端部は丸く収める。	
560 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[10.4]	(5.3)	—	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に縦ハケ調製。口縁部は如意状に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
561 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	[15.7]	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面にユビナデ。胴部は球形状を呈する。底部は丸底状。	底部外面に煤け 未接合資料/復元図
562 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	[12.2]	(4.0)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
563 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(4.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	
564 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(2.2)	—	内) 明黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に摩耗
565 (第41図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(3.5)	—	内) 灰黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。	全体的に若干摩耗
566 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	—	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
567 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(3.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。頸部は「く」字形に外反。	
568 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(5.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。	全体的に摩耗
569 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(5.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
570 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(4.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ・胴部内面は縦ハケ調製。	内面に薄い煤け
571 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(5.3)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
572 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	—	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。	全体的に若干摩耗
573 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(3.9)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
574 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(4.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
575 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(4.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製・粘土帯接合痕。	
576 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(2.3)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。	
577 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(2.9)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。	

第19表 遺物観察表 12

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
578 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(6.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製・粘土帯接合痕。	全体的に摩耗
579 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(6.6)	—	内) 灰黄褐 外) 灰黄褐	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。	全体的に若干摩耗
580 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(11.8)	—	内) にぶい黄褐 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に煤け 全体的に摩耗
581 (第42図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(10.8)	—	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
582 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(3.8)	—	内) 灰黄 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製・粘土帯接合痕。	全体的に摩耗
583 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(4.5)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は尖底状を成す。	全体的に摩耗
584 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(4.6)	—	内) にぶい橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。底部は丸底状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
585 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(8.6)	[4.0]	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調製。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け
586 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(8.3)	[2.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	外面に煤け 全体的に摩耗
587 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(2.1)	[2.8]	内) 浅黄 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底化を指向する。	外底面に煤け 全体的に若干摩耗
588 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 甕	—	(2.4)	[1.4]	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底化を指向する。	全体的に摩耗
589 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.7)	[4.0]	内) 灰 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。外底部に叩目状圧痕(調製)。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
590 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(1.9)	[3.6]	内) 灰黄 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外底面に叩目状圧痕。底部は丸底化を指向する。	全体的に若干摩耗
591 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	13.2	10.4	2.4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。丸みを帯びた体部から口縁部は僅かに内傾気味に立上り、端部は丸状に面を取る。底部は丸底状を成す。	外面に煤け 543・555・592・631と 伴出性が高い
592 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[11.4]	12.2	[4.1]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にハケ状原体による調製痕。内面にユビナデ。丸みを帯びた体部から口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に煤け・被熱痕 543・555・591・631と 伴出性が高い
593 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[8.0]	7.8	2.1	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビオサエ。中下位に最大径を有する丸みを帯びた体部から口縁部は短く外傾し、端部は丸く尖らせる。底部は丸底状を成す。	全体的に若干摩耗 外底面に煤け
594 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	13.3	6.0	3.4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面に板状原体による調製・ヘラケズリ。外底面に薄い粘土盤を貼付する。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	内外面に煤け 551・595と伴出性が高い
595 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	15.1	8.1	1.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は丸底(尖底)状を成す。	551・594と伴出性が高い
596 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	13.4	6.4	3.3	内) 浅黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は歪み鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向した平底状。	外面に煤け
597 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[12.8]	4.7	2.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。体部は丸底化を指向する。	外面に薄い煤け
598 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[11.8]	(3.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
599 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	11.2	4.1	1.5	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	全体的に若干摩耗
600 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[14.0]	(4.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
601 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[14.6]	(3.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ・粘土帯接合痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は面を取る。	
602 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[11.9]	(2.8)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
603 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[17.3]	(3.0)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は端反り気味に丸状に面を取る。	全体的に摩耗
604 (第43図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(3.2)	—	内) 灰黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ調製・内面は縦ハケ調製。	
605 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[16.4]	(2.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	
606 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[7.7]	2.1	[3.8]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
607 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[10.8]	2.5	[6.0]	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。	全体的に摩耗
608 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[13.9]	(2.2)	—	内) 暗灰 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に横ハケ調製・ヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	内外面に煤け
609 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[10.6]	5.0	[4.4]	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。内面は横ハケ調製。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗

第20表 遺物観察表 13

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
610 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[14.1]	(2.8)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	全体的に摩耗
611 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[12.8]	(1.9)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
612 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[17.9]	(4.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
613 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	9.3	4.8	1.9	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、底部は丸底化を指向する。手捏ね成形。	
614 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[11.4]	(2.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
615 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[13.6]	(2.8)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
616 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	5.9	3.7	2.3	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状。	
617 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	8.9	6.2	2.1	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は杯状を呈し、口縁端部は僅かに外反して丸く収める。底部は丸底状を成す。手捏ね成形。	全体的に摩耗
618 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	[11.0]	(4.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
619 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(3.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をハケで消す。肩部は粘土帯を貼付し、肥厚する。	全体的に若干摩耗
620 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(3.7)	[2.0]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	外面に煤け
621 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(1.1)	[1.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状を成す。	ミニチュア土器
622 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(1.3)	[4.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状。	外面に煤け 全体的に摩耗
623 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.3)	[1.6]	内) 淡黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底状を成す。	全体的に若干摩耗
624 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.6)	[3.0]	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にハケ調製。	外面に煤け 全体的に摩耗
625 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.4)	[5.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外底面に薄い粘土盤を貼付。底部は平底状を成す。	
626 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.7)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。坏底部に粘土盤を充填。脚部は「ハ」字形に開く。	全体的に摩耗
627 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.6)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は「ハ」字形に開く。	全体的に若干摩耗
628 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	[14.4]	(6.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。坏部は有稜を成して逆「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。分割成形。	全体的に若干摩耗
629 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.9)	—	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラケズリ。有稜を成す坏底部。分割成形。	外面に煤け
630 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(5.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に絞り目痕。脚上部の粘土盤をナデ潰す。脚部は筒状を呈し、「ハ」字形に開く裾部の4箇所に孔径0.8cmの穿孔を有す。	全体的に若干摩耗
631 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	20.6	14.2	12.6	内) 橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。坏部は有稜を成して逆「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。脚部内面に絞り目痕。脚部は筒状を呈し、ラッパ状に開く裾部の3箇所に孔径1.1cmの穿孔を有す。分割成形。	坏部内外面に煤け 全体的に若干摩耗 543・555・591・592と 伴出性が高い
632 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.8)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。分割成形。	全体的に摩耗
633 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(4.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラ状原体による調製痕。脚部は円柱状(中実)を呈す。	全体的に若干摩耗 脚付鉢の可能性
634 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(5.0)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。	全体的に若干摩耗
635 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.7)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坏部は有稜を成す。	全体的に摩耗
636 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(5.2)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ・ヘラケズリ。内面に絞り目痕。粘土盤を充填。脚部は筒状を呈し、「ハ」字形に開く裾部の2箇所に孔径0.9cmの穿孔が残存する。	外面に薄い煤け
637 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.3)	[17.6]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。裾部は低平に開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
638 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.5)	[15.0]	内) 灰黄褐 外) にぶい黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部は低平に開き、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
639 (第44図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 高坏	—	(5.3)	[10.7]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。脚部は筒状を呈し、ラッパ状に開く裾部の4箇所に孔径1.1cmの穿孔を有す。	全体的に若干摩耗
640 (第45図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 支脚	—	(3.9)	[7.6]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。脚部は「ハ」字形に開き、底面は丸みを帯びた平坦状を成す。手捏ね成形。	全体的に摩耗

第21表 遺物観察表 14

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
641 (第45図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 支脚	—	(7.0)	[7.2]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面はナデ調整により突帯状を成す。脚部は「ハ」字形に開き、端部は玉縁状に肥厚する。	内外面に被熱痕 全体的に若干摩耗
642 (第45図)	ST 1 (2層上位)	弥生土器 支脚	—	(4.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。内面にすり目痕。脚部は「ハ」字形に開く。	全体的に摩耗
646 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[17.2]	(6.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面の縦ハケをナデで消す。肩部外面の叩目を縦ハケで消す。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗
647 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[15.0]	(1.1)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラッパ状に開き、端部は端反り気味に丸く取める。	全体的に摩耗
648 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[16.0]	(6.1)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は横ナデによる直口状から外傾し、端部は丸く取める。	全体的に摩耗
649 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	—	(11.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。肩部外面は縦ハケ調製。外面の叩目を横ハケで消す。内面は横ハケ調製。胴部は丸みを帯びる。	外底部に煤け 全体的に摩耗
650 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[15.2]	(6.7)	—	内) 黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は外傾し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
651 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	—	(6.7)	—	内) にぶい黄褐 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。	全体的に摩耗
652 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[12.4]	(3.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内外面にユビオサエ。口縁部は外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
653 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[10.9]	(3.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、端部は丸状に面を取る。	
654 (第45図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[14.2]	(2.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
655 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[16.9]	(6.3)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	外面に被熱痕 全体的に若干摩耗
656 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[13.4]	(6.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部内面にハケ状原体による圧痕。内面にユビナデ。口縁部は直口気味に立上り、端部は丸状に尖らせる。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
657 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	—	(5.9)	[5.8]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビナデ。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
658 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	—	(11.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面の縦ハケをユビナデで消す。肩部内面に粘土帯接合痕。	全体的に摩耗
659 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	—	(2.6)	[3.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に縦ハケ調製。内面にユビナデ。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
660 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	—	(2.6)	[2.5]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
661 (第46図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[12.8] [14.6]	(23.0)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。口縁部は「く」字形又は緩やかに外傾し、端部は面を取る。胴部中位に最大径。	外面に煤け・被熱痕
662 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[15.4]	[27.0]	3.6	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。外底面に叩目状圧痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は凹線状を成す。胴部中位に最大径。底部は丸底化を指向した平底状。	内外面に煤け
663 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[17.1]	(5.0)	—	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部はラッパ状に開き、端部は丸く尖らせる。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
664 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[14.2]	(5.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。口縁部はラッパ状に開き、端部は丸く取める。	全体的に摩耗
665 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[16.2]	(6.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く取める。	全体的に若干摩耗
666 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[16.4]	(3.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。	
667 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.6]	(7.2)	—	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に縦ハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く取める。	外面に煤け・被熱痕 668と同一個体
668 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(13.4)	4.4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面の縦ハケ調製をユビナデで消す。ヘラケズリ。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け 667と同一個体
669 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(20.9)	[1.0]	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をユビナデで消す。内面にユビナデ。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け
670 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.2]	(2.6)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、端部は丸く取める。	内外面に煤け 全体的に摩耗
671 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[15.0]	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は外傾し、端部は丸く面を取る。	全体的に若干摩耗
672 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[12.4]	(2.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	全体的に摩耗
673 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[12.4]	(4.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、端部は丸く取める。	全体的に摩耗
674 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.1]	(4.0)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は緩やかに外反し、端部は面を取る。	内面に煤け 全体的に若干摩耗

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
675 (第47図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[11.8]	(4.4)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
676 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.7]	(2.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に短く開き、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
677 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	16.8	(2.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む精選された胎土。内面は横ハケ調製。口縁部はラッパ状に外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
678 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[14.0]	(2.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	
679 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[15.0]	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
680 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[14.0]	(3.7)	—	内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	
681 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[14.4]	(3.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
682 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[24.0]	(3.1)	—	内) 浅黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
683 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[11.4]	19.7	1.6	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ・粘土帯接合痕。口縁部は短く緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に煤け
684 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[11.2]	(6.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗 未接合資料/復元図
685 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.1]	(6.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製・粘土帯接合痕にユビオサエ。口縁部は僅かに内傾気味に立上り、端部は面を取る。	全体的に摩耗
686 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[12.6]	(5.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	外面に煤け
687 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.6]	(7.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面は縦ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
688 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(7.9)	—	内) 明褐灰 外) 明褐灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面に横ハケ調製。胴部内面に縦ハケ調製。肩部は若干肥厚する。	全体的に若干摩耗
689 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(6.0)	—	内) にぶい黄橙 外) 黒	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にハケ調製・ユビナデ。	外面に煤け
690 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(11.3)	[1.2]	内) 黄灰 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をユビナデで消す。内面にユビナデ。底部は丸底状。	外面に煤け 全体的に摩耗
691 (第48図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(8.6)	1.6	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。底部は丸底(尖底)状を成す。	外面に煤け・被熱痕 全体的に若干摩耗
692 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	[13.1]	(16.8)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラケズリ。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	外面に煤け
693 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(7.3)	—	内) 浅黄橙 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
694 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 壺	[15.2]	(6.4)	—	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面上位は横ハケ・下位は縦ハケ調製。口縁部は受け口状から直口し、端部は面を取る。	二次口縁 全体的に摩耗
695 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(2.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
696 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(2.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。	全体的に若干摩耗
697 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(2.8)	—	内) 黄灰 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
698 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(3.8)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
699 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(3.4)	—	内) 明黄褐 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
700 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(4.1)	—	内) 灰黄褐 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に縦ハケ調製。	
701 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(3.3)	—	内) にぶい黄橙 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ調製。内面にユビオサエ。	全体的に摩耗
702 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(2.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
703 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(12.3)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調製・ユビオサエ。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
704 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(5.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面にヘラケズリ。	外面に被熱痕 全体的に若干摩耗
705 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(13.6)	1.0	内) 浅黄 外) 暗灰/灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調製。底部は丸底(尖底)状を成す。	外面に煤け
706 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(9.2)	1.4	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面はハケ調製。底部は丸底状を成す。	外面に煤け

第23表 遺物観察表 16

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
707 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(1.9)	[1.0]	内) 褐灰 外) 灰黄褐	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状。	
708 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(2.1)	2.2	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面にユビオサエ。底部は丸底化を指向した平底状。	全体的に若干摩耗
709 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(3.3)	[1.0]	内) 浅黄 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
710 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(1.5)	[3.6]	内) にぶい黄橙 外) 黄灰	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状。	
711 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(3.0)	[2.6]	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。底部は丸底化を指向する。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
712 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	[4.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。底部は平底状。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
713 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 甕	—	(5.1)	[5.1]	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。底部は平底状。	外面に煤け 全体的に摩耗
714 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[10.0]	3.9	—	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は丸底状。手捏ね成形。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
715 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	11.0	4.7	1.2	内) にぶい橙 外) 明褐灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に煤け・被熱痕
716 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[9.8]	(4.3)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	
717 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[8.5]	(3.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
718 (第49図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[10.2]	(2.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
719 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	12.6	7.2	4.1	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕・罅状痕。体部は塊状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	外面に薄い煤け
720 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[12.3]	6.4	3.5	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にヘラミガキ・ヘラケズリ。体部は坏状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
721 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[14.9]	7.4	3.1	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面はハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
722 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	11.4	6.9	3.1	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
723 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[12.2]	5.9	[2.7]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にユビオサエ。内面はハケ調製・ヘラミガキ。体部は坏状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸みを帯びた平底状を成す。	
724 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	14.5	6.5	4.7	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製・ユビナデ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部はユビナデで成形し平底状を成す。	外面に煤け
725 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[13.6]	(3.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。内面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	
726 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[15.2]	(2.7)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	外面に煤け・被熱痕 全体的に摩耗
727 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[13.0]	(4.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
728 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[14.2]	(3.5)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面はハケ調整。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
729 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[14.4]	(3.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
730 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[14.0]	(4.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。口縁端部は端反り気味に外反し、端部は丸く尖らせる。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
731 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[10.1]	(3.3)	—	内) 橙 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
732 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[11.8]	2.4	[7.6]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
733 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[8.0]	2.4	[5.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	外底面に煤け
734 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[10.0]	1.9	[6.0]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。	
735 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[9.8]	1.9	[11.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
736 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[9.7]	2.9	8.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。外底面に粘土盤を貼付。体部は小皿状を呈し、口縁端部は僅かに内傾気味に立上る。底部は平底状を成す。手捏ね成形。	
737 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	10.3	3.2	3.6	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。体部は小皿状を呈し、口縁端部は僅かに内傾気味に立上る。底部は平底状を成す。手捏ね成形。	

第24表 遺物観察表 17

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
738 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[8.7]	(3.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
739 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[15.7]	(7.2)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕・ユビオサエ。内外面にヘラミガキ。丸みを帯びた体部から口縁部が緩やかに外反し、端部は丸く尖らせる。	内外面に薄い煤け
740 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	12.4	8.0	4.0	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部内面はハケ調製。体部は杯状の体部から口縁部が内傾気味に立上り、端部は丸く尖らせる。底部は粘土盤を貼付し、丸みを帯びた平底状を成す。	全体的に若干摩耗
741 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(4.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は丸みを帯びる。	全体的に摩耗
742 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(5.4)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。体部は丸みを帯びる。	外面に煤け
743 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	[6.5]	(4.2)	[4.4]	内) にぶい黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。坏部は逆「ハ」字形を呈し、内傾気味に立上る。脚部は上げ底状の低脚。	脚付鉢 全体的に摩耗
744 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.8)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。内面にヘラ状原体による調製痕。	外面に煤け
745 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.0)	[6.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。脚部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
746 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.9)	2.2	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
747 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.8)	[3.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
748 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.4)	[3.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製・ユビオサエ。底部は平底状。	外部に煤け 全体的に若干摩耗
749 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.8)	[2.2]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に縦ハケ調製。内面はハケ調製。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
750 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(3.5)	[4.0]	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面にユビオサエ。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
751 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(3.9)	[3.7]	内) にぶい橙 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面はハケ調製。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
752 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.3)	0.5	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラズリ。底部は丸底状。	全体的に若干摩耗
753 (第50図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.0)	[10.1]	内) にぶい黄橙 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラズリ・ヘラミガキ。底部は平底状を成す。	内外面に煤け
754 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 (口縁部)	[19.4]	(2.3)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰黄	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。口縁部は逆「ハ」字形に開き、丸く収める。	全体的に若干摩耗
755 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 (底部)	—	(3.6)	0.7	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。底部は丸底(尖底)状を成す。	外面に煤け 全体的に摩耗
756 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 (底部)	—	(2.8)	[4.8]	内) にぶい黄橙 外) 暗灰	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
757 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(6.3)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は円柱状を呈し、「ハ」字形に開く裾部の箇所に孔径1.0cmの穿孔が残存する。分割成形。	外面に被熱痕 全体的に摩耗
758 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(7.3)	[11.6]	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部外面にユビナデ。裾部外面は縦ハケ調製・ヘラミガキ。内面に搾り目痕。脚部は円柱状(中実)を呈し、「ハ」字形に開く裾部の4箇所に孔径1.1cmの穿孔を有す。	
759 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(2.2)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。坏部は有稜を成す。	全体的に摩耗
760 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(4.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部外面は縦ハケ調製。内面に搾り目痕。脚部は筒状を呈し、裾部は「ハ」字形に開く。	全体的に若干摩耗
761 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(2.5)	[19.6]	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部はラッパ状に開き、端反り状の端部は丸く収める。	
762 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(1.6)	[8.6]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。裾部外面は縦ハケ調製。裾部はラッパ状に開き、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
763 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 高坏	—	(1.5)	[14.1]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部はラッパ状に開き、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
766 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	—	(4.3)	[6.6]	内) 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は中実で、脚部は上げ底状を成す。	外面に煤け・被熱痕 全体的に若干摩耗
767 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	—	(2.9)	[8.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内外面にユビオサエ。脚部は「ハ」字形に開き、端部は平坦で底面に叩目状圧痕。	
768 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	—	12.6	7.8	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。体部は偏平状を呈し、約3/4中空。脚部は「ハ」字形に開き、端部は平坦で底面に棒状圧痕。指状の受け部は手捏ね成形で半損。	外面に煤け・被熱痕
769 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	—	(14.5)	9.7 (全幅)	内) 灰黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。内面にユビナデ。体部は偏平状を呈し、約3/4中空。脚部は「ハ」字形に開き、端部は平坦で底面に棒状圧痕。指状受け部は半損。体部に穿孔痕の可能性。手捏ね成形。	外面に煤け・被熱痕
770 (第51図)	ST 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	—	15.4	(7.7) (全幅)	内) 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。体部は中実で、脚部は上げ底状を成す。上部は環状(凹面)を呈し、受け部とする。手捏ね成形。	外面に煤け・被熱痕

第25表 遺物観察表 18

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
773 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 壺	—	(3.5)	[3.2]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部は薄い粘土盤を貼付し、丸底化を指向した平底状。	全体的に若干摩耗
774 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	—	(5.6)	3.5	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け
775 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	—	(1.9)	0.6	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製・粘土帯貼付。底部は丸底状。	全体的に摩耗
776 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	[13.4]	(8.8)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラケズリ。張出し気味の肩部から口縁部は緩やかに外反し、端部は粘土帯を貼付して玉縁状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
777 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	—	(16.1)	[4.6]	内) にぶい黄橙 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。胴部中上位に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け
778 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	—	(3.2)	—	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。	外面に煤け
779 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	—	(5.9)	—	内) 黄灰 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に横ナデ。	
780 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 甗	[13.2]	(3.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。口縁部内外面に強い横ナデ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は面を取る。	全体的に若干摩耗
781 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 鉢	[10.9]	(3.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	
782 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 鉢	[13.2]	7.3	5.1	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に鱗状痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
783 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 鉢	[13.8]	5.7	3.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部外面は強い横ナデにより凹線状を成す。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は薄い粘土帯を貼付し、平底状を成す。	全体的に若干摩耗
784 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 鉢	[11.2]	5.1	[5.7]	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製・ユビナデ。外面に粘土帯を貼付。外底面に靱状圧痕。体部は坏状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸みを帯びた平底状を成す。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
785 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 鉢	—	(4.6)	3.8	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
786 (第52図)	ST 1 (2層最下)	弥生土器 鉢	—	(6.7)	(8.0)	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面にヘラ状原体による圧痕。裾部内面に横ナデ。脚部は円柱状(中実)を呈し、「ハ」字形に開く裾部は上げ底状を成す。	
787 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	[20.4]	(1.5)	—	内) 灰黄 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	内外面に薄い煤け
788 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	[21.2]	(2.1)	—	内) 浅黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。口縁部内外面に強い横ナデ。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取って僅かに下方へ肥厚する。	全体的に摩耗
789 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	[17.4]	(2.6)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は横ハケ調整。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	全体的に若干摩耗
790 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	[12.4]	(1.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は横ハケ調整。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取る。	全体的に若干摩耗
791 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	[10.4]	(1.9)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面は横ハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
792 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	—	(2.5)	—	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調整。肩部は若干肥厚する。	
793 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 壺	—	(10.7)	(3.0)	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。底部は丸底状。	全体的に摩耗
794 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	[15.6]	(8.0)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸状に面を取る。	外面に煤け・被熱痕
795 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	[17.0]	(3.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
796 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	[15.5]	(4.9)	—	内) 浅黄 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。頸部に縦ハケ・口縁部内面は横ハケ調整。口縁部は内傾気味に立上がる。	全体的に若干摩耗
797 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	[14.2]	(14.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目痕を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調整・粘土帯接合痕にユビオサエ。口縁部は緩やかに外傾し、端部は玉縁状に若干肥厚する。	内外面に薄い煤け
798 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	—	(4.9)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
799 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	—	(4.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
800 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	—	(4.0)	—	内) 浅黄橙 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調整。	全体的に摩耗
801 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	—	(3.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調整。	全体的に若干摩耗
802 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	—	(3.1)	[3.4]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラケズリ。底部は丸底状。	内外面に煤け 全体的に摩耗
803 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甗	—	(4.8)	[4.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状を成す。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗

第26表 遺物観察表 19

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
804 (第53図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 甕	—	(14.6)	[4.8]	内) 灰 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
805 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[15.2]	5.3	[2.0]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に鱗状痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	外面に煤け・被熱痕 全体的に摩耗
806 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	12.3	5.9	1.9	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	全体的に摩耗
807 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	15.8	6.7	2.5	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は僅かに凹状を成す。底部は丸底化を指向する。	内面に被熱痕 全体的に若干摩耗
808 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[17.0]	(3.4)	—	内) にぶい橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦はハケ調製。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。	全体的に摩耗
809 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[10.0]	(3.2)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は碗状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に摩耗
810 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[12.0]	(4.0)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は凹状を成す。	全体的に摩耗
811 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[14.4]	(2.2)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
812 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[15.2]	(2.9)	—	内) 橙 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。体部は碗状を呈し、口縁端部は丸く収める。	
813 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[24.6]	(7.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。丸みを帯びた体部から口縁部が緩やかに外傾し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
814 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(8.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。体部は丸みを帯びた楕円形状を呈する。	全体的に若干摩耗
815 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(3.8)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。体部は丸みを帯びる。	
816 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[11.2]	(2.5)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面に強い横ナデ。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
817 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[9.2]	5.5	[3.8]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラケズリ。外底面に叩目状圧痕。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状を成す。	内面に薄い煤け 全体的に摩耗
818 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[6.4]	2.8	[1.8]	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に鱗状痕。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。底部は平底状。	全体的に摩耗
819 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[9.6]	1.6	[6.8]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は平底状。	
820 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	10.4	3.4	0.9	内) 明黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は丸底化を指向した平底状。手捏ね成形。	全体的に摩耗
821 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	[8.2]	(2.9)	[3.0]	内) 灰白 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は小皿状を呈し、底部は平底状を成す。手捏ね成形。	
822 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(2.3)	2.9	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。脚部は「ハ」字形に開き、端部は丸く収める。手捏ね成形。	外面に煤け 内面に被熱痕
823 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(1.2)	[2.8]	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状。	
824 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(3.1)	4.7	内) にぶい橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は粘土盤を貼付した平底状を成す。	全体的に摩耗
825 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(1.3)	[2.3]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底化を指向する。	全体的に摩耗
826 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 鉢	—	(3.8)	4.2	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に鱗状痕。底部は薄い粘土盤を貼付し、丸底化を指向した平底状。	内外面も被熱痕 全体的に摩耗
827 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(5.6)	[9.8]	内) 灰白 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に搾り目痕。坏部境に粘土帯を貼付。脚部は「ハ」字形に開き、裾部の3箇所孔径1.3cmの穿孔を有す。分割成形。	全体的に若干摩耗
828 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(3.1)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は円柱状(中実)を呈する。	全体的に若干摩耗
829 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.3)	[9.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。裾部はラップ状に開き、裾端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
830 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(1.3)	—	内) にぶい褐 外) にぶい褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。	
831 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.1)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面はハケ調製。脚部は「ハ」字形に開き、2箇所に穿孔を残存する。	
832 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(3.6)	[13.8]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。裾部は大きく開き、1箇所に孔径1.0cmの穿孔を残存する。	全体的に若干摩耗
833 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 高坏	—	(2.5)	[13.2]	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。裾部はラップ状に開き、端反り状の端部は面を取る。	
834 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 支脚	—	(2.0)	[8.4]	内) — 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚底面は平底状。	全体的に若干摩耗
835 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 支脚	—	(1.8)	[6.8]	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面はナデ調整により突帯状を成す。脚部は「ハ」字形に外傾し、端部は端反り気味に開く。	

第27表 遺物観察表 20

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
836 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 支脚	—	(8.4)	[8.4]	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。輪羽口状(中空)の脚部は「ハ」字形に開き、端部は平刃乃至丸く収める。脚部上端は変色(溶解・付着物)。	外面に薄い煤け 転用羽口の可能性
837 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 支脚	—	(5.5)	[8.4]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。残存部は中空、上端部より中実。脚部は「ハ」字形に開く。手握ね成形。	外面に被熱痕
838 (第54図)	ST 1 (3層上位)	弥生土器 支脚	—	(4.3)	—	内) 黄灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にすり目痕。脚部は「ハ」字形に開く。	内外面に煤け
842 (第55図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 壺	15.5	29.6	1.4	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面は縦ハケ調製。胴部外面に叩目痕。肩部外面の叩目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面の縦ハケをナデで消す。口縁部はラップ状に開き、端部は丸状に面を取る。胴部は球形状を呈し、中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗 847と伴出性が高い
843 (第55図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 壺	—	(2.8)	—	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。肩部は若干肥厚する。	全体的に摩耗
844 (第55図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 壺	—	(3.0)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁・頸部境は縦ハケ調整。胴部外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。	全体的に摩耗
845 (第55図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[12.7]	17.0	1.6	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に煤け・被熱痕 全体的に摩耗
846 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	14.8	24.4	1.0	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面は縦ハケ調製。胴部外面の叩目を縦ハケで消す。口縁部内面は横ハケ調製。胴部内面の縦ハケをナデで消す。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。胴部は球形状を呈し、中位に最大径。底部は丸底状。	内外面に煤け
847 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	13.2	22.2	2.2	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は面を取る。胴部中位に最大径。底部は粘土盤を貼付し、臍状を呈して丸底状を成す。	外面に煤け
848 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[12.3]	22.7	0.7	内) 褐灰 外) 灰褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面は横ハケ調製。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部は楕円形状。底部は丸底状を成す。	外面に煤け
849 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[15.2]	(8.1)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面のハケ調製をナデで消す。口縁部は緩やかに外反し、端部は面を取る。	内外面に煤け・被熱痕
850 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[16.6]	(9.9)	—	内) 褐灰 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調整。頸部内面にユビオサエ。口縁部は「く」字形に外反。	内面に薄い煤け 全体的に若干摩耗
851 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[11.5]	(16.8)	—	内) 明黄褐 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。胴部中下位に最大径。	全体的に摩耗
852 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[14.1]	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。口縁部は「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	全体的に摩耗
853 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	[13.0]	(4.7)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面の粘土帯接合痕をナデで消す。口縁部は外反し、端部は丸く収める。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
854 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(8.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部は「く」字形に外反。	全体的に摩耗
855 (第56図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(6.7)	—	内) 灰 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面の粘土帯接合痕をナデで消す。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
856 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(3.2)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
857 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(2.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に被熱痕 全体的に摩耗
858 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(3.6)	—	内) にぶい橙 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に若干摩耗
859 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(4.4)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面に横ハケ調製。内面に縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
860 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(2.3)	[4.8]	内) 灰黄褐 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
861 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(4.0)	[6.6]	内) 黄灰 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
862 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(11.0)	—	内) 黒褐 外) 黒褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
863 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	[2.8]	内) 灰黄褐 外) 暗灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。底部は丸底状。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
864 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	[3.2]	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸みを帯びた平底状。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
865 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(3.3)	1.2	内) 灰 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビナデ。底部は丸底状を成す。	内面に煤け 全体的に若干摩耗
866 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(3.6)	[2.8]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。底部は丸底化を指向する。	外面に煤け 全体的に摩耗
867 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(8.2)	1.6	内) 黄灰 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。底部は丸底状を成す。	外面に煤け
868 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甕	—	(9.1)	3.8	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面は縦ハケ調製。底部は丸底状を成す。	外面に煤け S K 8 遺物と接合

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
869 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[9.6]	(6.2)	—	内) 明黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面の粘土帯接合痕をナデで消す。口縁部は緩やかに外反。	全体的に摩耗
870 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	11.3	7.6	3.3	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面にハケ状原体による調製。内面にヘラミガキ。内底面に板状原体による圧痕。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状を成す。	外面に煤け
871 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[11.3]	5.6	0.2	内) 浅黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビナデ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は尖底状。	外面に煤け
872 (第57図)	ST 1 (2層中位)	弥生土器 鉢	14.3	6.2	2.9	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にヘラミガキ・ヘラ状原体による同心円状の圧痕。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	内外面に煤け・被熱痕 ほぼ完存
873 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	10.2	5.2	3.2	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。口縁部内外面に強い横ナデ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け
874 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[13.3]	6.6	4.1	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は薄い粘土盤を貼付し、丸みを帯びた平底状を成す。	外面に薄い煤け 内面に被熱痕
875 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[12.6]	7.6	4.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製・ヘラケズリ。口縁部内外面に強い横ナデ。体部は杯状を呈し、口縁部は玉縁状に若干厚して丸状に面を取る。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状を成す。	内外面に火樺状の 薄い煤け
876 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[10.4]	(4.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にヘラミガキ。内面はハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
877 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢/高坏	[12.2]	(5.2)	—	内) 灰黄 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は有稜の坏状を呈し、口縁部は丸く収める。	高坏の可能性
878 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[10.9]	5.2	4.6	内) 橙 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面に横ハケ調製。内底面にヘラ状原体による同心円状の圧痕。体部は坏状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は平底状を成す。	全体的に摩耗
879 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[11.8]	(3.3)	—	内) 橙 外) 黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
880 (第57図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[11.0]	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビオサエ・ヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁部は丸く収める。	
881 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	8.1	3.5	1.5	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。内面にヘラミガキ。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。手捏ね成形。	
882 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	8.7	3.6	0.2	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。内面にヘラミガキ。内底面にヘラ状原体による圧痕。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く収める。底部は丸底(尖底)状を成す。手捏ね成形。	外面に煤け
883 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	[10.2]	(4.7)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に罅状痕。内面にヘラミガキ。体部は杯状を呈し、口縁部は丸く尖らせる。	
884 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	—	(2.2)	[4.3]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は平底状を成す。	全体的に若干摩耗
885 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	—	(4.1)	[4.4]	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は薄い粘土盤を貼付し、平底状を成す。	
886 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢	—	(2.8)	[4.3]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。底部は粘土盤を貼付し、平底状を成す。	全体的に若干摩耗
887 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 甔	[14.3]	11.6	4.1	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。体部は碗状を呈し、口縁部は丸状に面を取る。底部は粘土盤を貼付して高台状を成し、焼成前穿孔を有する。	外面に煤け・被熱痕 全体的に若干摩耗
888 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 鉢/甔	[14.8]	(8.7)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。体部は碗状を呈し、口縁部は丸く収める。	内外面に煤け 内面に被熱痕
889 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 高坏	—	(2.0)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。坏部は有稜を成す。	外面に煤け
890 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 高坏	—	(2.0)	[18.8]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。裾部は低平に開き、端部は丸く収める。	
891 (第58図)	ST 1 (3層中位)	弥生土器 支脚	—	(3.6)	[10.4]	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。脚部は「ハ」字形に外傾し、端部は端反り気味に開く。手捏ね成形。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
894 (第58図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 壺	12.7	(17.5)	—	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は外傾気味に直口し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
895 (第58図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 壺	[16.8]	(1.4)	—	内) 明黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に開き、端部は僅かに下方へ張出す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
896 (第58図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 壺	[13.7]	(2.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外傾し、端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
897 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 壺	[12.1]	(18.4)	—	内) 褐灰 外) にぶい褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製・ユビナデ。肩部の粘土帯接合痕をユビオサエで消し、凹状を成す。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸く収める。	内外面に煤け・被熱痕 未接合資料/復元図
898 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 壺	[22.0]	(3.3)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に縦ハケ調製。口縁部は外反し、端部は面を取る。	全体的に摩耗
899 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 壺	[15.6]	(2.7)	—	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に櫛描波状文。口縁部は上下に拡張し、丸状に面を取る。	全体的に摩耗

第29表 遺物観察表 22

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
900 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[16.2]	(2.0)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は横ハケ調製。口縁部は僅かに肥厚して逆「ハ」字形に外傾し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
901 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[19.0]	(2.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外傾し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
902 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[10.6]	(2.1)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く尖らせる。	全体的に若干摩耗
903 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[13.8]	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部は逆「ハ」字形に外傾し、端部は丸く収める。	全体的に摩耗
904 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[18.4]	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外傾し、端部は丸く収める。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
905 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[17.8]	(20.7)	[1.6]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製・ユビナデ。口縁部は緩やかに外傾し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け 全体的に若干摩耗
906 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[14.6]	(12.5)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目痕をナデで消す。内面のハケ調製をナデで消す。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く尖らせる。	外面に薄い煤け 全体的に若干摩耗
907 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(3.1)	—	内) 灰黄 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	全体的に摩耗
908 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[12.2]	16.6	1.6	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面のハケ調製をナデで消す。口縁部は「く」字形に外反し、端部は小さく面を取る。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に煤け 内外面に被熱痕 全体的に若干摩耗
909 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[14.6]	(6.7)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。口縁部は外傾し、端部は丸く収める。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	全体的に摩耗
910 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[11.8]	(6.3)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部外面にユビオサエ。口縁部は緩やかに外反し、端部は玉縁状を成す。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	全体的に若干摩耗
911 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[15.6]	(6.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部内面は横ハケ・内面に縦ハケ調製。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
912 (第59図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(4.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。	全体的に若干摩耗
913 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(4.3)	—	内) 灰黄 外) 褐灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
914 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(3.5)	—	内) 橙 外) 明黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。肩部は粘土帯接合により若干肥厚する。	外面に煤け 全体的に摩耗
915 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(3.8)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。	
916 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(6.2)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。体部は丸みを帯びる。	外面に煤け 全体的に摩耗
917 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(8.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	外面に煤け 全体的に摩耗
918 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(2.3)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。	全体的に若干摩耗
919 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(2.2)	[1.0]	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。底部は丸底(尖底)状。	外面に煤け 全体的に摩耗
920 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(1.9)	[2.0]	内) 暗灰 外) 灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面はハケ調製。底部は平底状を成す。	内外面に煤け
921 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	—	(1.8)	[5.0]	内) 浅黄橙 外) 暗灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。	外面に煤け・被熱痕 全体的に摩耗
922 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 甕	[16.1]	(12.3)	—	内) にぶい橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面にユビオサエ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は上方へ摘み上げる。	内外面に薄い煤け 東阿波型土器
923 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	14.8	9.1	5.4	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の縦ハケをヘラミガキで消す。内面にヘラミガキ。口縁部内外面に横ナデ。体部は逆「ハ」字形に開き、口縁端部は丸く収める。底部は平底を成す。	ほぼ完存 外底面に煤け
924 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[10.8]	[5.7]	[1.2]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に鱗状痕。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部はナデ潰した丸底(尖底)状を成す。	未接合資料/復元図
925 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[12.3]	(6.0)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。内面はハケ調製・ヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	外面に煤け 全体的に摩耗
926 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[9.6]	5.3	3.4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は杯状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は粘土盤を貼付し、丸みを帯びた平底状を成す。	全体的に摩耗
927 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	—	(3.8)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は丸みを帯びる。	全体的に摩耗
928 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[16.8]	(3.4)	—	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は凹状を成す。	
929 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[21.2]	(3.8)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製・ヘラミガキ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	全体的に若干摩耗

第30表 遺物観察表 23

遺物観察表

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
930 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[16.4]	(2.2)	—	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面は縦ハケ調製。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く取める。	全体的に摩耗
931 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[12.8]	(2.1)	—	内) 浅黄 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く取める。	
932 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[10.8]	(2.1)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。内面は横ハケ調製。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。	
933 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	—	(4.2)	1.5	内) 橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。底部は丸底化を指向する。	
934 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	—	(2.2)	[2.7]	内) 暗灰黄 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は平底状。	全体的に若干摩耗
935 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.0)	[3.2]	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細粒砂を含む。底部は平底状。	
936 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	—	(3.3)	[4.4]	内) にぶい褐 外) にぶい橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。底部が丸底化を指向する。	
937 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	[9.8]	(3.2)	—	内) 灰白 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にヘラミガキ。分割成形。	脚付鉢
938 (第60図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 鉢	—	(1.4)	[9.6]	内) 浅黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は「ハ」字形に開き、端部は平坦上を成す。	全体的に若干摩耗
939 (第61図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 高坏	—	(2.2)	19.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面はハケ調製。裾端部は僅かに凹状を成す。	全体的に摩耗
940 (第61図)	ST 1 (3層下位)	弥生土器 支脚	—	7.8	5.6	内) 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。体部は円柱状(中実)を呈する。上端は内傾し、僅かに凹状を呈して受け部と成す。手捏ね成形。	外面に煤け・被熱痕 低脚土製支脚
942 (第61図)	ST 1 (3層最下)	弥生土器 甕	—	(3.9)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。	
943 (第61図)	ST 1 (3層最下)	弥生土器 甕	—	(3.4)	—	内) 黄灰 外) 浅黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面に粘土帯接合痕。	全体的に若干摩耗
944 (第61図)	ST 1 (3層最下)	弥生土器 鉢	[13.0]	(3.3)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く取める。	全体的に若干摩耗
951 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 壺	[14.0]	(2.7)	—	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。口縁部は外傾し、端部は面を取る。	全体的に若干摩耗
952 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 甕	[14.6]	(1.7)	—	内) にぶい黄橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にハケ調製。口縁部は外反し、端部は丸状に面を取る。	
953 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 鉢	[11.0]	(2.8)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く取める。	全体的に若干摩耗
954 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 壺	—	(2.3)	—	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製。	
955 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 壺	[16.4]	(5.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。口縁部はラップ状に開き、端部は面を取る。	内面に煤け
956 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 鉢	[13.0]	5.0	[4.6]	内) にぶい黄橙 外) 灰白	チャート等の細・粗粒砂を含む。粘土帯を貼付した体部は鉢状を呈し、底部は丸底化を指向した平底状を成す。	
957 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 甕	—	(14.1)	3.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面上部は縦ハケ調製。下部はユビナデ・指頭圧痕。底部は丸底状。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
958 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 甕	—	(10.6)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。内面にユビナデ。	外面に煤け
959 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 鉢	—	(3.2)	[7.0]	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。脚部は「ハ」字形に開き、端部は丸状に面を取る。	全体的に摩耗
960 (第63図)	ST 1 中央土坑	弥生土器 支脚	—	(5.5)	[8.0]	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目をナデで消す。脚部に列状の指頭圧痕。体部は中実で、脚部は上げ底状。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
961 (第64図)	ST 1 P2	弥生土器 壺	[15.5]	(7.0)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調整。内面にユビオサエ。口縁部内面に粘土帯を貼付。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は丸状に面を取る。	内面に煤け
962 (第64図)	ST 1 P2	弥生土器 壺	[15.7]	31.0	2.5	内) 灰 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。口縁部は逆「ハ」字形に開き、端部は丸く取める。胴部は球形状を呈し、中位に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け 外面に被熱痕
963 (第64図)	ST 1 P2	弥生土器 鉢	[13.4]	11.1	3.1	内) 灰黄 外) 灰黄	チャート等の細・粗粒砂を含む。内面にユビナデ。丸みを帯びた体部から口縁部は「く」字形に外反し、底部は丸底状を成す。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
964 (第65図)	ST 1 P4	弥生土器 壺	16.0	(9.8)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。口縁部外面は縦ハケ調製。外面に叩目痕。内面は縦ハケ調製・ユビオサエ。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は端反り気味に丸く取める。	全体的に若干摩耗
965 (第65図)	ST 1 P4 (底部)	弥生土器 (底部)	—	(2.1)	[2.5]	内) 暗灰 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビナデ。内底面に粘土帯を貼付。外底面に叩目状圧痕。底部は平底状。	外面に被熱痕 内面に煤け
966 (第65図)	ST 1 P4	弥生土器 鉢	[11.6]	(13.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面にユビオサエ。口縁部内面に横ナデ。丸みを帯びた体部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く取める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	外面に被熱痕。 全体的に摩耗
967 (第65図)	ST 1 P4	弥生土器 甕	14.3	19.4	1.4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製・ユビナデ・粘土帯接合痕。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く取める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け 全体的に摩耗

第31表 遺物観察表 24

図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量			色調	特徴	備考
			口径	器高	底径			
968 (第65図)	ST 1 P 4	弥生土器 甕	[11.4]	16.4	2.5	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕・ヘラケズリ。内面にユビオサエ。口縁部は「く」字形に外反し、端部は丸く収める。胴部中位に最大径。底部は丸底状を成す。	内外面に煤け 外面に被熱痕
970 (第66図)	ST 1 P 9	弥生土器 鉢	[11.9]	3.2	[4.2]	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面にユビオサエ。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く尖らせる。底部は平底状。	
971 (第67図)	ST 1 P 12	弥生土器 鉢	[16.0]	(2.5)	—	内) 橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
972 (第67図)	ST 1 P 13	弥生土器 高坏	—	(1.2)	[18.2]	内) 浅黄 外) 浅黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面に横ナデ。裾端部は面を取って僅かに下方へ張出す。	
973 (第67図)	ST 1 P 13	弥生土器 (底部)	—	(1.5)	1.1	内) にぶい橙 外) 橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面は縦ハケ調製。底部は丸底状。	全体的に若干摩耗
974 (第68図)	ST 1 S K 1	弥生土器 鉢	[14.4]	1.6	[10.8]	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面にユビオサエ。内面にヘラミガキ。体部は小皿状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は平底状。手捏ね成形。	
975 (第68図)	ST 1 S K 1	弥生土器 (胴部)	—	(5.6)	—	内) 暗灰 外) にぶい橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面の叩目を縦ハケで消す。内面はハケ調製。	
976 (第68図)	ST 1 S K 2	弥生土器 甕	[14.0]	(3.1)	—	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。口縁部は逆「ハ」字形に外反し、端部は面を取る。	
977 (第68図)	ST 1 S K 2	弥生土器 鉢	[16.8]	(2.4)	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。外面に叩目痕。内面は横ハケ調製。体部は浅鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。	全体的に若干摩耗
978 (第68図)	ST 1 S K 2	弥生土器 鉢	10.2	5.4	1.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャート等の細粒砂を含む。口縁部内外面に横ナデ。内面にヘラミガキ。体部は鉢状を呈し、口縁端部は丸く収める。底部は丸底化を指向する。	
979 (第68図)	ST 1 S K 2	弥生土器 (底部)	—	(3.4)	[3.0]	内) 灰黄 外) にぶい黄橙	チャート・雲母片等の細・粗粒砂を含む。内外面は縦ハケ調製。	全体的に若干摩耗
980 (第7図)	表採	石製品	[13.9]	(4.4)	—	内) 灰 外) 灰	砂岩。内面に線条痕。	
981 (第7図)	表採	石製品	[5.7] 上端	4.3	[6.2] 下端	内) 灰 外) 灰	砂岩。上端が僅かに凹状を成す。(譬えるなら円柱状を呈する低脚石製支脚であるが、ほぼ違う時期・用途の製品と思われる。)	

第32表 遺物観察表 25

遺物観察表

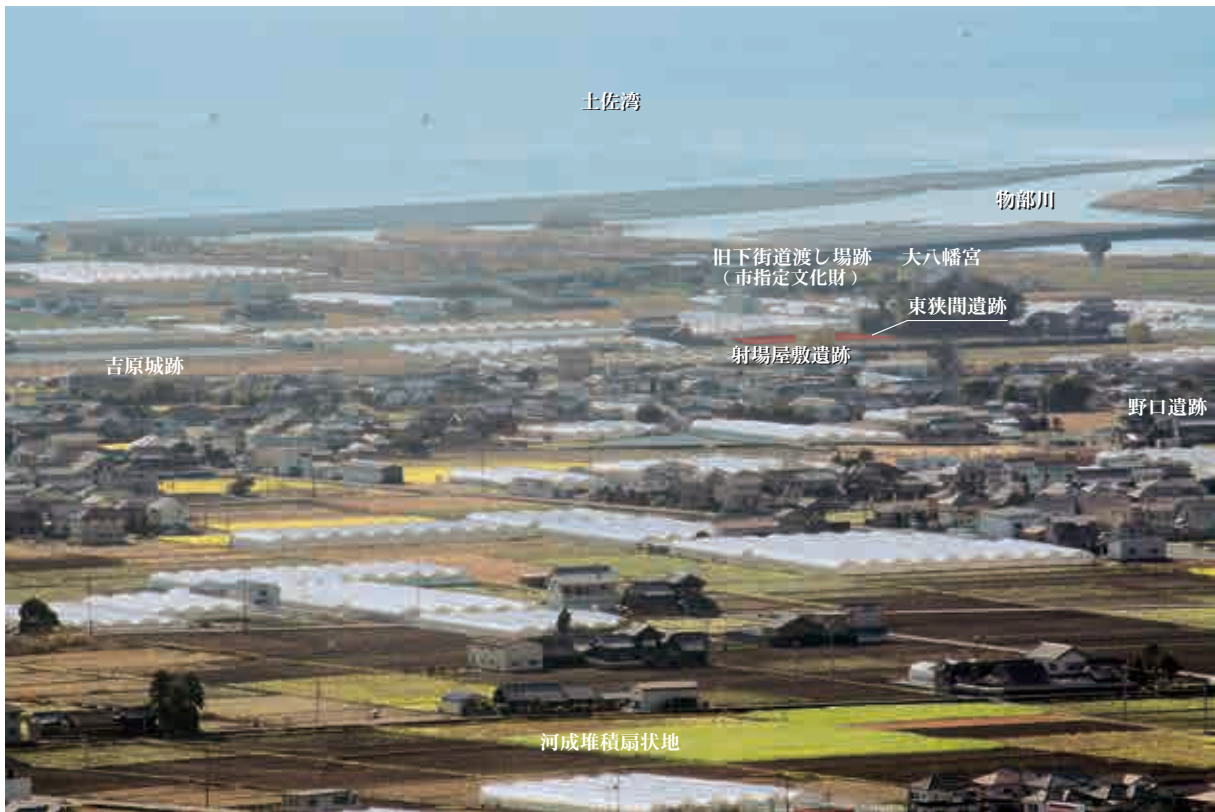
図版 番号	出土遺構 (層位)	器種 器形	法量 (cm)				色調	特徴	備考
			全長	全幅	全厚	重量			
188 (第8図)	T R 1 S B 2 P 5	礫石器	19.3	13.5	5.3	1,727g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。平坦面及び周縁部に敲打痕。	若干風化
355 (第29図)	S T 1 (1層上位)	弥生土器 支脚	7.0	3.5	—	—	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。外面に指頭圧痕。手捏ね成形。	外面に煤け・被熱痕 指状の受け部
510 (第37図)	S T 1 (1層下位)	礫石器	10.1	9.1	3.1	419g	内) 外)	細粒砂岩。御餅状円礫。	
511 (第37図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	16.1	(5.8)	5.6	705g	内) 外)	細・粗粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	
512 (第37図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	13.9	7.9	5.5	773g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	
513 (第37図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	10.5	8.7	2.1	288g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。平坦面に敲打痕。端部に打割痕。	
514 (第37図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	14.6	6.2	4.1	545g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	
515 (第38図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	13.6	7.6	5.2	709g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	被熱痕 若干風化
516 (第38図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	16.1	12.9	3.6	1,088g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。端部に敲打痕。	煤け・被熱痕
517 (第38図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	13.7	9.1	7.4	1,376g	内) 外)	緑色岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	
518 (第38図)	S T 1 (1層下位)	礫石器 叩石	19.5	8.7	5.4	1,491g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	
643 (第45図)	S T 1 (2層上位)	弥生土器 土製品	(6.6)	(3.9)	(2.1)	—	内) 橙 外) 橙	チャート・雲母片等の細粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。上部は環状の凹面を成し、匙状を呈する。手捏ね成形。	外面に煤け 匙状土器の可能性
644 (第45図)	S T 1 (2層上位)	礫石器 砥石	12.0	6.5	1.2	168g	内) 外)	頁岩(堆積岩系)。扁平状亜円礫。平坦面が研磨(使用痕)され、条線状の擦痕を認める。	
645 (第45図)	S T 1 (2層上位)	軽石	(7.7)	(6.7)	(4.3)	3.4g	内) 外)		
764 (第51図)	S T 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	(3.9)	(2.3)	(1.6)	—	内) 外) にぶい黄橙	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。手捏ね成形。	指状の受け部 全体的に摩耗
765 (第51図)	S T 1 (2層下位)	弥生土器 支脚	(5.8)	(3.1)	(2.0)	—	内) 外) 黄灰	チャート等の細・粗粒砂を含む。内外面に指頭圧痕。手捏ね成形。	外面に煤け 全体的に若干摩耗
771 (第52図)	S T 1 (2層下位)	礫石器 台石	(16.7)	14.5	11.4	4,200g	内) 外)	細粒砂岩。主上面は僅かに平滑。	欠損
772 (第52図)	S T 1 (2層下位)	礫石器 叩石	14.5	13.5	3.5	1,035g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。端部に敲打痕。	
839 (第55図)	S T 1 (3層上位)	礫石器 叩石	13.3	7.8	5.6	685g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	
840 (第55図)	S T 1 (3層上位)	礫石器	11.0	7.9	2.7	323g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。	煤け
841 (第55図)	S T 1 (3層上位)	石材	19.6	10.8	8.4	1,718g	内) 外)	チャート	
892 (第58図)	S T 1 (3層中位)	礫石器 叩石	16.6	8.1	4.6	968g	内) 外)	細粒砂岩。小判状円礫。周縁部に敲打痕。	
893 (第58図)	S T 1 (3層中位)	礫石器 叩石	13.8	11.0	5.8	1,222g	内) 外)	細粒砂岩。御餅状円礫。端部に敲打痕。	被熱痕
941 (第61図)	S T 1 (3層下位)	礫石器 叩石	16.3	8.1	5.8	1,023g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。端部に敲打痕。	若干風化
945 (第61図)	S T 1 (不明)	礫石器 叩石	13.8	8.6	4.2	701g	内) 外)	細粒砂岩。小判状円礫。端部に敲打痕。	
946 (第61図)	S T 1 (不明)	礫石器 叩石	17.3	13.1	4.1	1,279g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。	煤け・被熱痕
947 (第62図)	S T 1 (不明)	礫石器 叩石	16.6	11.4	3.5	906g	内) 外)	細粒砂岩。扁平(大判)状円礫。両平坦面及び周縁部に敲打痕。側方に挟り状痕。	若干風化
948 (第62図)	S T 1 (不明)	礫石器	11.8	8.9	3.1	450g	内) 外)	細粒砂岩。扁平状円礫。	煤け・被熱痕
949 (第62図)	S T 1 (不明)	礫石器	20.1	8.1	7.0	1,609g	内) 外)	細粒砂岩。棒状円礫。	煤け・被熱痕
950 (第63図)	S T 1 (中央土坑)	礫石器 砥石	10.4	6.2	1.2	126g	内) 外)	頁岩(堆積岩系)。扁平状円礫。平坦面が平滑(使用痕)。	
969 (第65図)	S T 1 P 4	礫石器	17.6	13.7	9.9	3,077g	内) 外)	細粒砂岩。	煤け

第33表 遺物観察表 26

写真図版



図版 1
調査対象地



東狭間遺跡 遠景 (■: 調査対象地)

※『射場屋敷遺跡』香南市教育委員会 2016年 所収写真を加工修整



大八幡宮 (2017. 3. 16)



調査対象地: 西 (2017. 3. 16)



調査対象地: 北 (2017. 3. 16)



調査対象地: 東 (2017. 3. 17)

TR 1



試掘坑設定状況



試掘坑北壁 土層断面状況



遺構検出状態



完掘状態

TR 2



試掘坑設定状況



試掘坑西壁 土層断面状況

TR 3



試掘坑設定状況



試掘坑西壁 土層断面状況

図版 3
TR 4



試掘坑設定状況



P 169 土層断面状況



SD 2 土層断面状況



P 175 土層断面状況



完掘状態

TR 5



試掘坑設定状況



試掘坑北壁 土層断面状況



SX 3 遺物出土状態：192



SD 2 土層断面状況



完掘状態

図版 5
TR 6



試掘坑設定状況



試掘坑南壁 土層断面状況



遺構検出状態



包含層 遺物出土状態：1



完掘状態



SD 1 土層断面状況



SB 5 P1 土層断面状況



SD 1 遺物出土状態：203



P211 土層断面状況

TR 7



試掘坑設定状況（当初）



遺構検出（拡張部分）



遺構検出状態



遺構検出状態



ST 1 遺構検出状態



P217 遺構検出状態



P219 遺構検出状態



集石遺構 4 礫群検出状態



ST 1 上面 遺物出土状態 : 212



ST 1 礫群検出状態



ST 1 礫群検出状態



ST 1 上層剝除状態



ST 1 礫群検出状態



ST 1 十字畦（バンク）設定状態



ST 1 床面 遺構検出状態



ST 1 完掘状態

壺形土器



ST 1 遺物出土状態：356・371(小型丸底壺)



ST 1 遺物出土状態：373(小型丸底壺)



ST 1 遺物出土状態：526



ST 1 遺物出土状態：527



ST 1 遺物出土状態：842



ST 1 遺物出土状態：894



ST 1 中央土坑 遺物出土状態：955・他

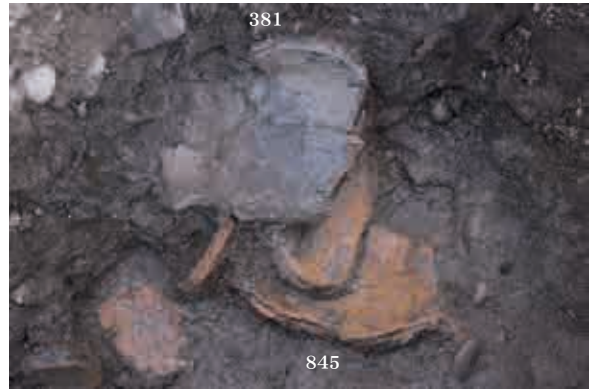


ST 1 P4 遺物出土状態：964/967(甕)

図版 11
甕形土器



ST 1 遺物出土状態: 271(東阿波型土器)・他



ST 1 遺物出土状態: 381・845



ST 1 遺物出土状態: 386



ST 1 遺物出土状態: 387



ST 1 遺物出土状態: 388



ST 1 遺物出土状態: 390



ST 1 遺物出土状態: 432(東阿波型土器)



ST 1 遺物出土状態: 543・555/631(高坏)・他



ST 1 遺物出土状態 : 544



ST 1 遺物出土状態 : 551/594・595(鉢)・他



ST 1 遺物出土状態 : 552



ST 1 遺物出土状態 : 554



ST 1 遺物出土状態 : 661



ST 1 遺物出土状態 : 847/842(壺)



ST 1 遺物出土状態 : 906

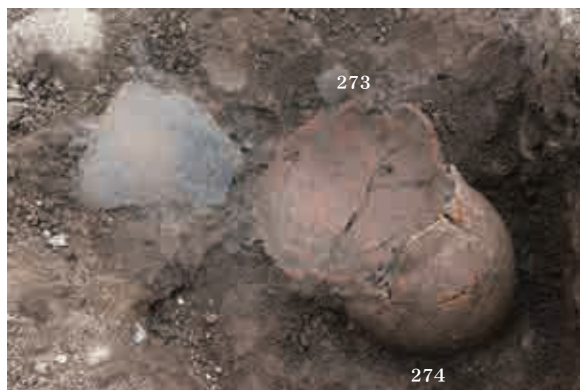


ST 1 遺物出土状態 : 908

図版 13
鉢形土器



ST 1 遺物出土状態 : 272



ST 1 遺物出土状態 : 273・274



ST 1 遺物出土状態 : 279



ST 1 遺物出土状態 : 293



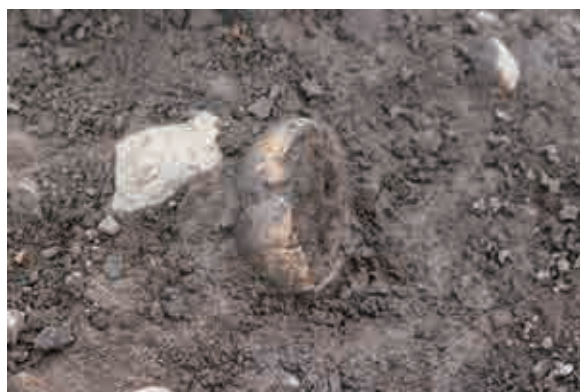
ST 1 遺物出土状態 : 295



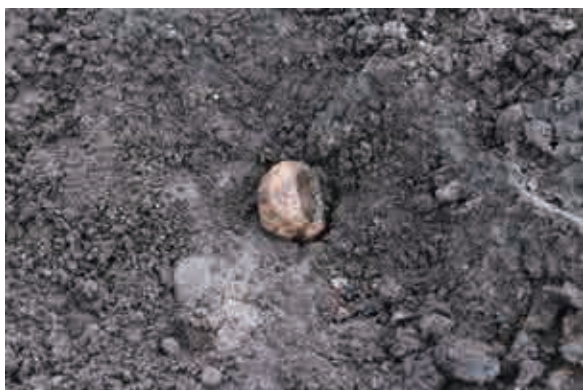
ST 1 遺物出土状態 : 305



ST 1 遺物出土状態 : 306



ST 1 遺物出土状態 : 315



ST 1 遺物出土状態 : 433(ミニチュア土器)



ST 1 遺物出土状態 : 434



ST 1 遺物出土状態 : 435



ST 1 遺物出土状態 : 440



ST 1 遺物出土状態 : 441



ST 1 遺物出土状態 : 442



ST 1 遺物出土状態 : 444



ST 1 遺物出土状態 : 446



ST 1 遺物出土狀態：450



ST 1 遺物出土狀態：451



ST 1 遺物出土狀態：474



ST 1 遺物出土狀態：591



ST 1 遺物出土狀態：592



ST 1 遺物出土狀態：593



ST 1 遺物出土狀態：594・595



ST 1 遺物出土狀態：596



ST 1 遺物出土状態 : 613



ST 1 遺物出土状態 : 617



ST 1 遺物出土状態 : 715



ST 1 遺物出土状態 : 720



ST 1 遺物出土状態 : 723/609 (甕)



ST 1 遺物出土状態 : 724



ST 1 遺物出土状態 : 734



ST 1 遺物出土状態 : 740



ST 1 遺物出土状態：743(脚付鉢)



ST 1 遺物出土状態：744(脚付鉢)



ST 1 遺物出土状態：786(脚付鉢)



ST 1 遺物出土状態：807



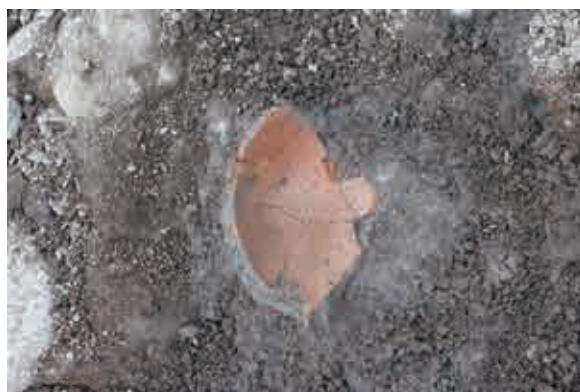
ST 1 遺物出土状態：870



ST 1 遺物出土状態：872



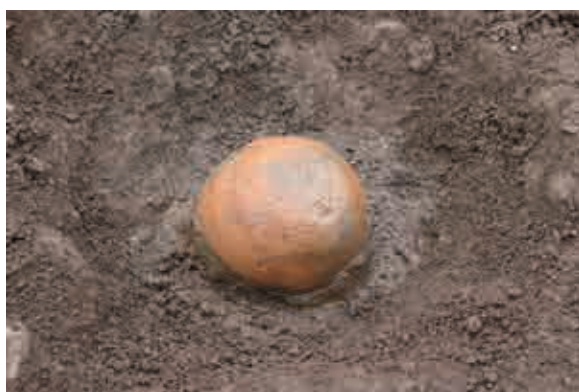
ST 1 遺物出土状態：873



ST 1 遺物出土状態：874



ST 1 遺物出土状態 : 875



ST 1 遺物出土状態 : 878



ST 1 遺物出土状態 : 881



ST 1 遺物出土状態 : 882



ST 1 遺物出土状態 : 886



ST 1 遺物出土状態 : 887 (甗)



ST 1 遺物出土状態 : 923



ST 1 P2 遺物出土状態 : 963

图版 19
高环形土器



ST 1 遺物出土狀態：332



ST 1 遺物出土狀態：333



ST 1 遺物出土狀態：628



ST 1 遺物出土狀態：630



ST 1 遺物出土狀態：631(坏部)



ST 1 遺物出土狀態：631(脚部)/543・555(甕)・他



ST 1 遺物出土狀態：639



ST 1 遺物出土狀態：758

支脚形土器



ST 1 遺物出土状態 : 352



ST 1 遺物出土状態 : 508



ST 1 遺物出土状態 : 509



ST 1 遺物出土状態 : 768



ST 1 遺物出土状態 : 769



ST 1 遺物出土状態 : 770



ST 1 遺物出土状態 : 836

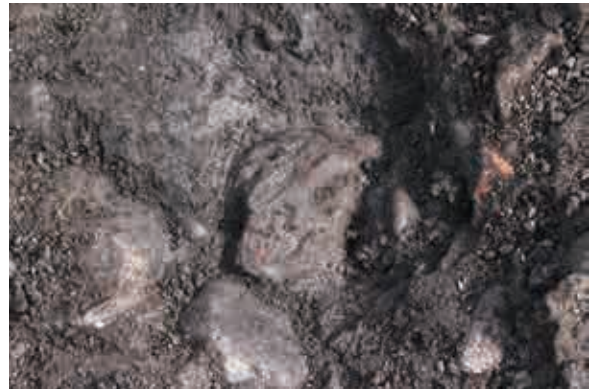


ST 1 遺物出土状態 : 940

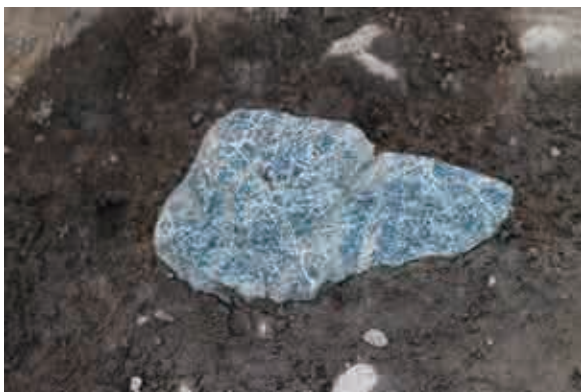
図版 21
礫石器



ST 1 遺物出土状態：644(砥石)



ST 1 遺物出土状態：645(軽石)



ST 1 遺物出土状態：841(チャート)



ST 1 遺物出土状態：893(叩石)

津波避難タワー



(2018. 12. 12)

— 調査日誌抄 —



図版 22

3月17日(金)1日目 TR 1 遺構検出作業・遺構掘削作業 / 他



重機・仮設トイレ搬入



TR 1 重機掘削作業

3月22日(水)2日目 TR 2 遺構検出作業・遺構掘削作業 / TR 3 遺構検出作業・遺構掘削作業 / 他



TR 2 重機掘削作業



TR 3 重機掘削作業

3月23日(木)3日目 TR 4 遺構検出作業・遺構掘削作業 / 他



TR 4 重機掘削作業



TR 4 遺構掘削作業

3月24日(金)4日目 TR 4 遺構掘削作業 / TR 5 重機掘削作業 / TR 6 重機掘削作業 / 他



TR 5 重機掘削作業



TR 6 重機掘削作業

3月27日(月)5日目 TR4 遺構掘削作業/TR5 遺構検出作業/他



TR4 遺構掘削作業



TR5 遺構検出作業

3月28日(火)6日目 TR6 遺構検出作業/他



TR6 遺構検出作業



TR6 遺物出土状態:1

3月29日(水)7日目 TR5 遺構掘削作業/TR6 遺構検出作業/他



TR5 遺構掘削作業



TR6 遺構検出作業

3月30日(木)8日目 TR6 遺構掘削作業/他



TR6 遺構掘削作業



TR6 SD1 遺物出土状態:200

図版 24

4月3日(月)9日目 TR5 遺構掘削作業/TR6 遺構掘削作業/香南市文化財センター職員視察/他



TR5 遺構掘削作業



TR6 遺構掘削作業

4月4日(火)10日目 TR5 遺構掘削作業/TR6 遺構掘削作業/他



TR5 遺構掘削作業



TR6 遺構掘削作業

4月5日(水)11日目 TR5 遺構掘削作業/県埋蔵文化財センター職員視察/他



TR5 遺構掘削作業



作業遠景

4月12日(水)12日目 TR5 遺構掘削作業/他



TR5 遺構掘削作業

4月13日(木)13日目 県文化財課職員視察/他



県文化財課職員視察

4月14日(金) 14日目 TR 7 遺構検出作業 / 他



TR 7 重機掘削作業

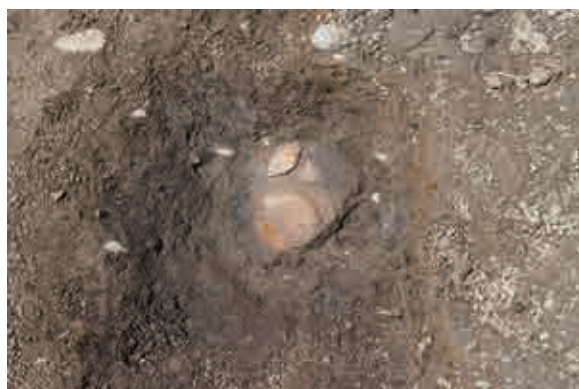


TR 7 遺構検出作業

4月19日(水) 15日目 TR 7 遺構検出作業 / 他



TR 7 遺構検出作業



TR 7 ST 1 遺物出土状態 : 297

4月20日(木) 16日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 P144 土層断面状況

4月21日(金) 17日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 ST 1 遺物出土状態 : 271・272・他

図版 26

4月24日(月) 18日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 集石遺構 4 礫群検出状態

4月25日(火) 19日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 ST 1 遺物出土状態 : 391・451・他

4月27日(木) 20日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 ST 1 遺物出土状態 : 315・374・409・440・841・842

4月28日(金) 21日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 ST 1 遺物出土状態 : 376・387・479・508

5月1日(月) 22日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



TR 7 ST 1 遺物出土状態 : 804・807・828

5月2日(火) 23日目 TR 7 遺構掘削作業 / 他



TR 7 ST 1 遺構掘削作業



おつかれさまでした

現場写真1



図版 28
現場写真 2



報告書抄録

ふりがな	ひがしはざまいせき							
書名	東狭間遺跡							
副書名	緊急避難塔整備に伴う試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	宮地啓介							
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）							
所在地	〒781-5453 高知県香南市香我美町山北 1553-1 TEL 0887-54-2296							
発行年月日	2021年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° / ′ / ″	° / ′ / ″			
ひがしはざまいせき 東狭間遺跡	こうちけんこうなんし 高知県香南市 よしかわちょうよしわら 吉川町吉原	39211	230009	33° 32′ 37″	133° 41′ 26″	平成29年 3月17日 ～ 5月2日	約170m ²	緊急避難塔 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東狭間遺跡	集落跡	弥生後期 古代 / 中世	竪穴住居状遺構 掘立柱建物跡 土坑状遺構 溝状遺構 性格不明遺構 ピット状遺構	弥生土器 須恵器 土師質土器 石器 / 土製品				

高知県香南市発掘調査報告書第 18 集

東狭間遺跡

緊急避難塔整備に伴う試掘調査報告書

2021年3月

発行 高知県香南市教育委員会

香南市文化財センター

〒781-5453 高知県香南市香我美町山北1553-1

TEL 0887-54-2296

印刷 高知県香南市野市町西野 45

半田印刷